本書の見方

このたびは、マツダ車をお買いあげいただき、ありがとうございます。

本書は、安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、お車の正しい取り扱いや簡単なお手入れ方法について説明しています。ご使用前に必ずお読みください。

発行元　**マツダ株式会社**
〒 730–8670　広島県安芸郡府中町新地 3–1

・お車をゆずられるときは、次のオーナーのために、本書をお車につけておいてください。
・お車の仕様変更などにより、本書の内容の一部がお車と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

・グレードの仕様により異なる装備については「グレード/仕様別装備」をつけています。
・マツダ販売店で取り付けられた装備品は、付属の取扱説明書をご覧ください。
・お車の保証および点検、整備要領については、別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。
・本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管してください。

©2020 マツダ株式会社
印刷 2020 年 12 月 (1 版)

本書の見方

安全にお車を使用していただくために守っていただきたいことを、次の表示で区分して記載しています。これらは重要ですので、必ず読んでお守りください。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う可能性のあるもの

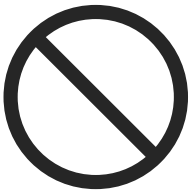
⚠ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負ったりお車の損傷につながったりする可能性のあるもの

知識

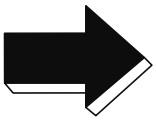
・知っておいていただきたいこと
・知っておくと便利なこと

イラストで表現している内容の禁止を意味しています。

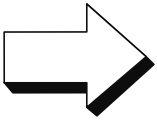


イラスト内の矢印は、次の意味を示しています。

・1 番目の操作を示しています。



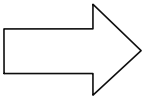
・2 番目の操作を示しています。



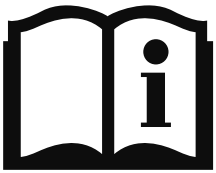
・部品の位置を示しています。



・状態の移り変わりを示しています。



お車に表示されている次のマークは「詳しい説明を本書に記載しています。」を示しています。必ず本書の説明を読んでご使用ください。



MEMO

目次

イラスト目次 1
車の内装、外観、各部分について

安全にお使いいただくための装備 2
安全にお使いいただくための装備や取り扱い

運転する前に 3
運転する前に必要な操作と取り扱い

運転のアドバイス 4
安全なドライブのための運転のアドバイス

運転するときに 5
運転するときに必要な操作と取り扱い

快適装備の使いかた 6
ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

お手入れのしかた 7
手入れの方法、真冬の取り扱いなど

トラブルが起きたら 8
車が故障したとき、事故にあったときの処置

カスタマーインフォメーション 9
車に関する情報について

車両スペック 10

さくいん 11

詳細目次

1 イラスト目次

イラスト目次 1-2

ハンドルまわり 1-2
運転席まわり 1-4
室内 (前) 1-5
室内 (後) 1-6
ラゲッジルーム 1-7
外観 1-8

2 安全にお使いいただくための装備

シート 2-2

シート使用上の注意 2-2
フロントシート 2-3
リアシートの操作 2-10
ヘッドレストの使いかた 2-12

シートヒーター/ステアリングヒーター 2-14

シートヒーターの使いかた 2-14
ステアリングヒーターの使いかた 2-15

シートベルト 2-17

シートベルトについて 2-17
シートベルトの正しい着用のしかた 2-19
シートベルト警告システム 2-20
プリテンショナー/ロードリミッター機構 2-21

お子さまの安全 2-22

お子さま専用シートについて 2-22
シート位置別お子さま専用シート選択の目安表 2-25
チャイルドシートを固定するとき 2-28

SRS エアバッグシステム 2-30

SRS エアバッグシステムについて 2-30
エアバッグの種類 2-30
エアバッグの注意点 2-31
エアバッグの作動条件について 2-34

3 運転する前に

キー 3-2

キーについて 3-2
キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 3-5

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム 3-6

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム 3-6

ドア 3-8

ドアの開閉 3-8

リアゲート 3-15

リアゲートの開閉 3-15

パワーリアゲートの開閉..... 3-17

トノカバー 3-22

トノカバーの使いかた.....3-22

燃料補給口 3-23

給油するとき..... 3-23

ミラー 3-26

ミラーの操作..... 3-26

ウインドー 3-29

窓ガラスの開閉.....3-29

電動スライドガラスサンルーフの操作 3-31

盗難防止システム 3-33

イモビライザーシステム..... 3-33

4 運転のアドバイス

安全なドライブのために 4-2

お出かけ前に..... 4-2

運転するとき..... 4-2

こんなことにも注意..... 4-3

駐停車するとき..... 4-5

お子さまを乗せるとき.....4-6

安全に運転をしていただくために 4-7

積雪、寒冷時の取り扱い.....4-7

さまざまな状況での運転のときは 4-8

悪天候での運転..... 4-8

環境保護のために 4-10

経済的な運転..... 4-10

5 運転するときに

エンジンの始動と停止 5-4

電源ポジション (エンジンスイッチ)..... 5-4

エンジンの始動..... 5-5

エンジンの停止..... 5-8

i-stop について.....5-9

メーター、警告灯、表示灯の見方 5-15

メーター、表示..... 5-15

メーター..... 5-15

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....5-32

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 5-34

M ハイブリッドについて 5-36

M ハイブリッドとは..... 5-36

マニュアルトランスミッションの使いかた 5-40

マニュアルトランスミッション..... 5-40

オートマチックトランスミッションの使いかた 5-42

オートマチック車の特性..... 5-42

各位置の働き..... 5-42

セレクトレバーの操作.....5-43

シフトロック装置.....5-44

マニュアルモード.....5-44

ダイレクトモード.....5-48
オートマチック車を運転するときに.....5-48

スイッチの使いかた 5-51
ヘッドランプスイッチ.....5-51
リアフォグランプスイッチ.....5-55
方向指示器.....5-55
フロントワイパー/ウォッシャースイッチ.....5-56
リアワイパー/ウォッシャースイッチ.....5-59
ヘッドランプウォッシャースイッチ.....5-60
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....5-60
ホーン.....5-62
非常点滅灯スイッチ.....5-62

ブレーキ 5-63
ブレーキの操作.....5-63
オートホールド.....5-66
エマージェンシーシグナルシステム (ESS).....5-70
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) とは.....5-70

ABS/TCS/DSC/オフロード・トラクション・アシストについて 5-72
ABS とは.....5-72
TCS とは.....5-73
DSC とは.....5-74
オフロード・トラクション・アシストとは (AWD 車).....5-75

ドライブセレクションについて 5-77
ドライブセレクションとは.....5-77

i-ACTIV AWD 5-79
i-ACTIV AWD.....5-79

i-ACTIVSENSE について 5-80
i-ACTIVSENSE とは.....5-80
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) とは.....5-84
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは.....5-85
車線逸脱警報システムとは.....5-87
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは.....5-90
交通標識認識システム (TSR) とは.....5-94
ディスタンス & スピード・アラート (DSA) とは.....5-100
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは.....5-101
ドライバー・モニタリングとは.....5-102
前側方接近車両検知 (FCTA) とは...5-104
後側方接近車両検知 (RCTA) とは 5-106
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは (マニュアル車).....5-109
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは (オートマチック車).....5-116
クルージング& トラフィック・サポート (CTS) とは.....5-125
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) とは.....5-138

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは.....5-141
スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R) とは.....5-143
スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) とは.... 5-146
AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは 5-149
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは 5-153
360° ビュー・モニターとは..... 5-155
フォワードセンシングカメラ (FSC) について.....5-183
フロントレーダーセンサーについて 5-186
フロントサイドレーダーセンサーについて.....5-188
リアサイドレーダーセンサーについて 5-189
フロント超音波センサーについて 5-190
リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーについて.....5-190
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ..... 5-191
ドライバー・モニタリングカメラ...5-191

クルーズコントロールについて 5-192

クルーズコントロールとは.....5-192

ガソリンパティキュレートフィルターについて 5-195

ガソリンパティキュレートフィルターとは (SKYACTIV-X 2.0)..... 5-195

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について 5-196

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは (SKYACTIV-D 1.8).....5-196

バックガイドモニターについて 5-197

バックガイドモニターとは..... 5-197

駐車支援システムについて 5-205

駐車支援システムとは.....5-205

6 快適装備の使いかた

空調 6-2

エアコンの上手な使いかた..... 6-2
吹き出し口.....6-3
フルオートエアコン..... 6-5

マツダコネクト 6-9

マツダコネクトとは?.....6-9
マツダコネクトの基本操作..... 6-13

室内装備 6-26

サンバイザー..... 6-26
室内照明..... 6-27
電源ソケット..... 6-29
アジャスター機能付カップホルダー 6-30
ボトルホルダー..... 6-31
アシストグリップ..... 6-32
リアコートフック.....6-32
収納..... 6-33

7 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 7-2

必ず守る..... 7-2
お車に触れるときはけがに注意する 7-3

点検、整備 7-4

点検整備について..... 7-4
定期点検..... 7-5
ボンネット..... 7-5
日常点検..... 7-7
エンジンオイルの点検、補充..... 7-15
ウォッシャー液の補充..... 7-16
ワイパーブレードの交換..... 7-17
バッテリーの点検..... 7-20
キーの電池を交換するときは..... 7-21
タイヤの点検..... 7-22

ヒューズ切れ、電球切れのとき 7-25

ヒューズの受け持つ装置..... 7-25
ランプ類、電気装置が作動しないとき 7-31

車の手入れ 7-33

外装の手入れ..... 7-33
内装の手入れ..... 7-35

季節の準備 7-37

冬に備えて..... 7-37
夏に備えて..... 7-38

環境保護のために 7-39

環境保護のために..... 7-39

8 トラブルが起きたら

マツダエマージェンシーコール 8-2

マツダエマージェンシーコール..... 8-2

故障したとき 8-3

路上で動けなくなったとき..... 8-3
スタックしたとき..... 8-4
踏切内で動けなくなったとき..... 8-4
パンクやバースト (破裂) したとき 8-5

緊急用具の取り扱い 8-6

発炎筒..... 8-6
工具、ジャッキの格納場所..... 8-6
ジャッキの取り扱い..... 8-7

パンクしたとき 8-11

タイヤパンク応急修理キット..... 8-11

バッテリーがあがったとき 8-17

バッテリーあがりについて..... 8-17

エンジンが始動しないとき 8-20

燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 1.8)..... 8-20

オーバーヒートしたとき 8-21

オーバーヒートについて..... 8-21

キーが作動しないとき 8-22

キー一時停止機能..... 8-22

けん引について 8-23

けん引してもらうとき.....8-23
故障車をけん引するとき.....8-24

警告灯/表示灯、警報チャイム 8-26

警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは.....8-26
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは.....8-34
チャイムがなったときは.....8-38

リアゲート 8-42

リアゲートが開けられなくなったとき.....8-42

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 8-43

アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき.....8-43

フロントワイパーが高速作動するとき 8-44

フロントワイパーが高速作動するとき.....8-44

万一事故が起きたとき 8-45

万一事故が起きたときは.....8-45

9 カスタマーインフォメーション

カスタマーインフォメーション 9-2

お車の点検について.....9-2
携帯電話の使用について.....9-2
EDR (イベントデータレコーダー)について.....9-3
車両データの記録について.....9-3

10 車両スペック

車両スペック 10-2

車両スペック.....10-2
各部の点検値、交換時期.....10-11

1 イラスト目次

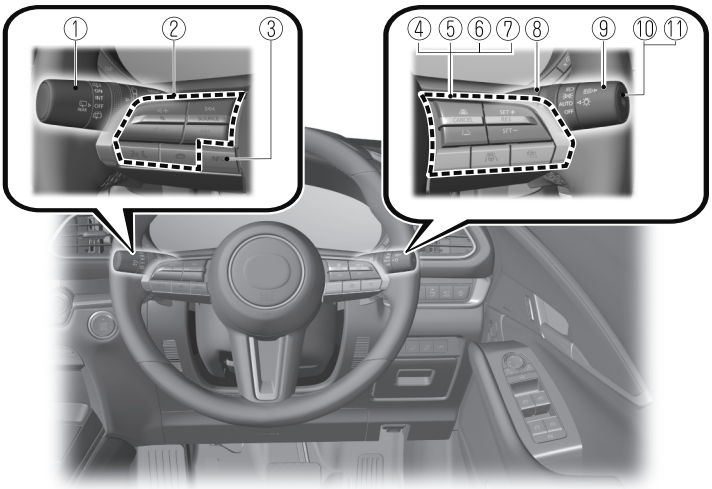
車の内装、外観、各部分について

イラスト目次.....1-2
ハンドルまわり.....1-2
運転席まわり.....1-4
室内 (前).....1-5
室内 (後).....1-6
ラゲッジルーム.....1-7
外観.....1-8

イラスト目次

ハンドルまわり

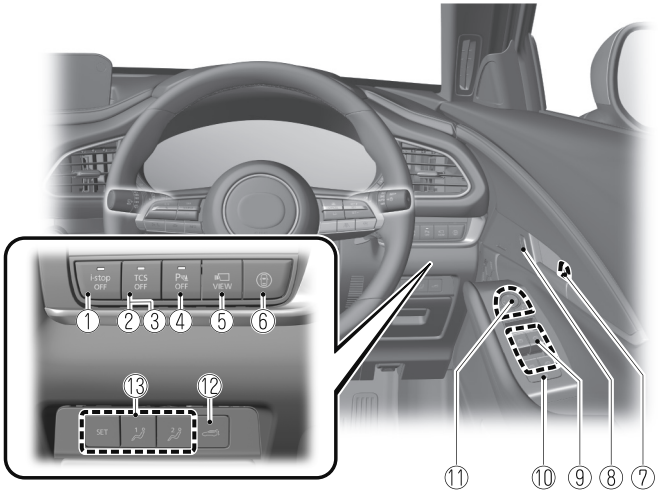
▼ ハンドルまわり A



① ワイパー/ウォッシャースイッチ.....5-56 ページ
② オーディオリモートコントロールスイッチ.....6-16 ページ
③ INFO スイッチ.....5-17 ページ
④ マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)スイッチ.....5-112 ページ
⑤ マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))スイッチ.....5-120 ページ
⑥ クルージング&トラフィック・サポート (CTS)スイッチ.....5-130 ページ
⑦ クルーズコントロールスイッチ.....5-192 ページ
⑧ 方向指示器.....5-55 ページ
⑨ ランプスイッチ.....5-51 ページ
⑩ ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)スイッチ.....5-85 ページ
⑪ アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) スイッチ.....5-87 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

▼ ハンドルまわり B

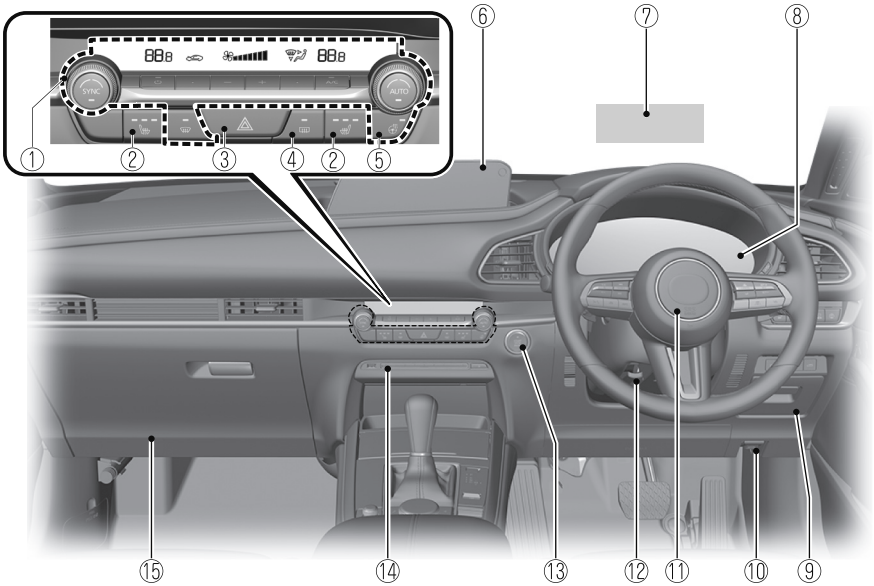


① i-stop OFF スイッチ.....5-13 ページ
② TCS OFF スイッチ.....5-73 ページ
③ オフロード･トラクション･アシストスイッチ..... 5-76 ページ
④ パーキングセンサー OFF スイッチ..... 5-205 ページ
⑤ 360°ビュー･モニター･スイッチ.....5-161 ページ
⑥ i-ACTIVSENSE スイッチ.....5-83 ページ
⑦ ドアロックノブ..... 3-13 ページ
⑧ ドアロックスイッチ.....3-12 ページ
⑨ パワーウインドースイッチ..... 3-29 ページ
⑩ パワーウインドーロックスイッチ..... 3-29 ページ
⑪ ドアミラースイッチ.....3-26 ページ
⑫ パワーリアゲートスイッチ.....3-17 ページ
⑬ ポジションメモリースイッチ.....2-7 ページ

イラスト目次

運転席まわり

▼ 運転席まわり

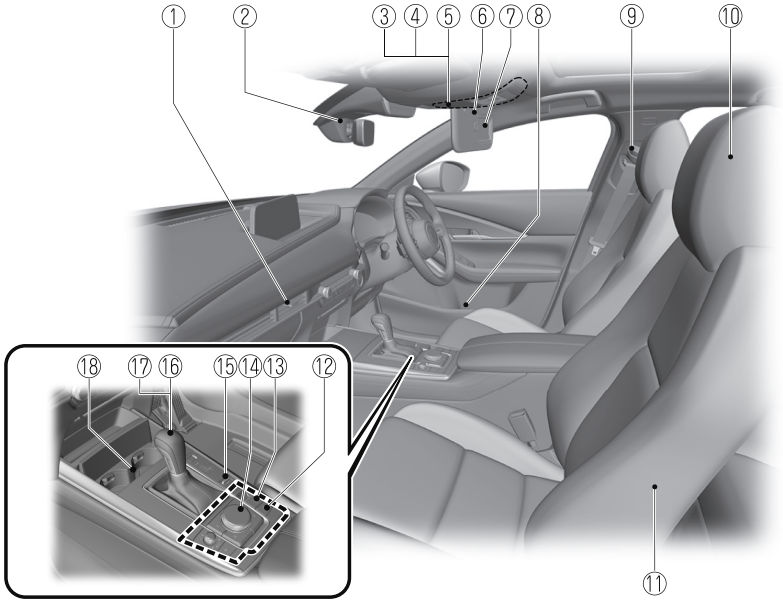


① エアコン.....6-2 ページ
② シートヒータースイッチ.....2-14 ページ
③ 非常点滅灯スイッチ.....5-62 ページ
④ リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....5-60 ページ
⑤ ステアリングヒータースイッチ.....2-15 ページ
⑥ マツダコネクト.....6-9 ページ
⑦ アクティブ･ドライビング･ディスプレイ.....5-34 ページ
⑧ メーター.....5-15 ページ
⑨ コインボックス.....6-33 ページ
⑩ ボンネットオープナー..... 7-5 ページ
⑪ ホーン.....5-62 ページ
⑫ ハンドル調節レバー.....2-3 ページ
⑬ プッシュボタンスタート.....5-4 ページ
⑭ CD/DVD プレーヤー..... 6-9 ページ
⑮ グローブボックス.....6-33 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

室内 (前)

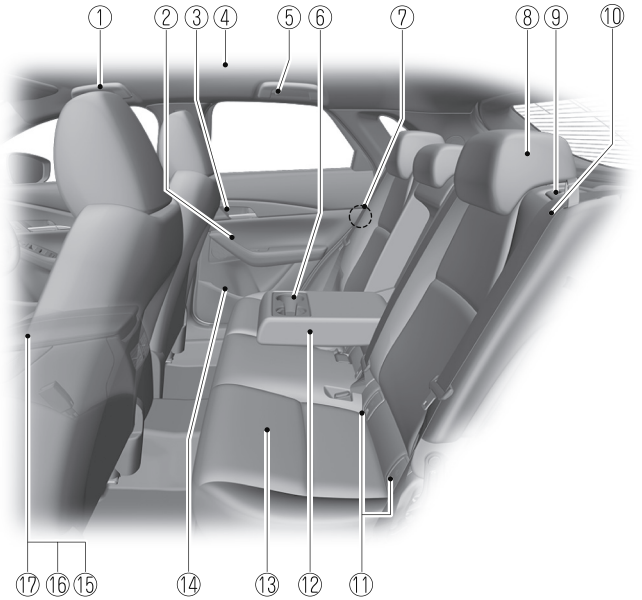
▼ 室内 (前)



① 吹き出し口 ..... 6-3 ページ
② ルームミラー ..... 3-27 ページ
③ ルームランプ ..... 6-27 ページ
④ オーバーヘッドコンソール ..... 6-33 ページ
⑤ 電動スライドガラスサンルーフスイッチ ..... 3-31 ページ
⑥ サンバイザー ..... 6-26 ページ
⑦ バニティミラー ..... 6-26 ページ
⑧ ボトルホルダー ..... 6-31 ページ
⑨ シートベルト ..... 2-17 ページ
⑩ ヘッドレスト ..... 2-12 ページ
⑪ フロントシート ..... 2-3 ページ
⑫ オートホールドスイッチ ..... 5-68 ページ
⑬ 電動パーキングブレーキ (EPB) ..... 5-63 ページ
⑭ コマンダースイッチ ..... 6-13 ページ
⑮ ドライブセレクションスイッチ ..... 5-77 ページ
⑯ チェンジレバー ..... 5-40 ページ
⑰ セレクトレバー ..... 5-42 ページ
⑱ アジャスター機能付カップホルダー ..... 6-30 ページ

室内 (後)

▼ 室内 (後)

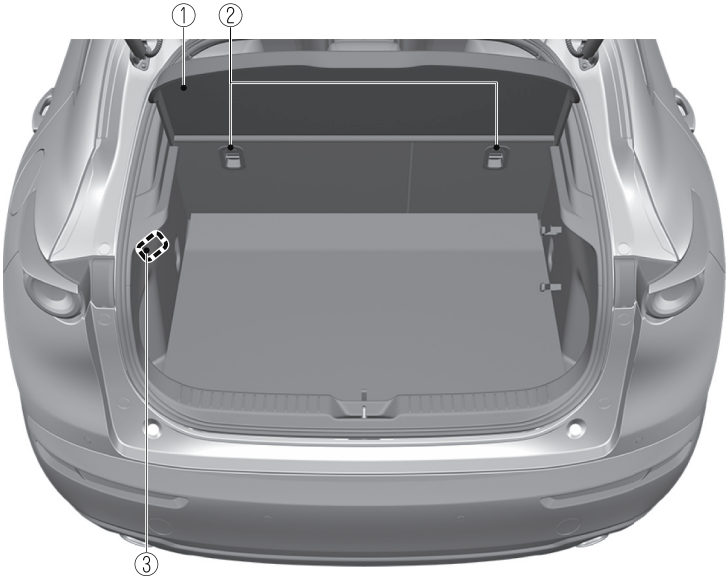


① アシストグリップ.....6-32 ページ
② パワーウインドースイッチ.....3-29 ページ
③ ドアロックノブ.....3-13 ページ
④ リアルームランプ.....6-27 ページ
⑤ リアコートフック.....6-32 ページ
⑥ アジャスター機能付カップホルダー.....6-30 ページ
⑦ チャイルドプルーフ.....3-14 ページ
⑧ ヘッドレスト.....2-12 ページ
⑨ プッシュノブ.....2-10 ページ
⑩ シートベルト.....2-17 ページ
⑪ ロアアンカレッジ.....2-28 ページ
⑫ アームレスト.....2-12 ページ
⑬ リアシート.....2-10 ページ
⑭ ボトルホルダー.....6-31 ページ
⑮ 大型コンソールボックス.....6-33 ページ
⑯ 電源ソケット.....6-29 ページ
⑰ 外部入力端子.....6-9 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

ラゲッジルーム

▼ ラゲッジルーム

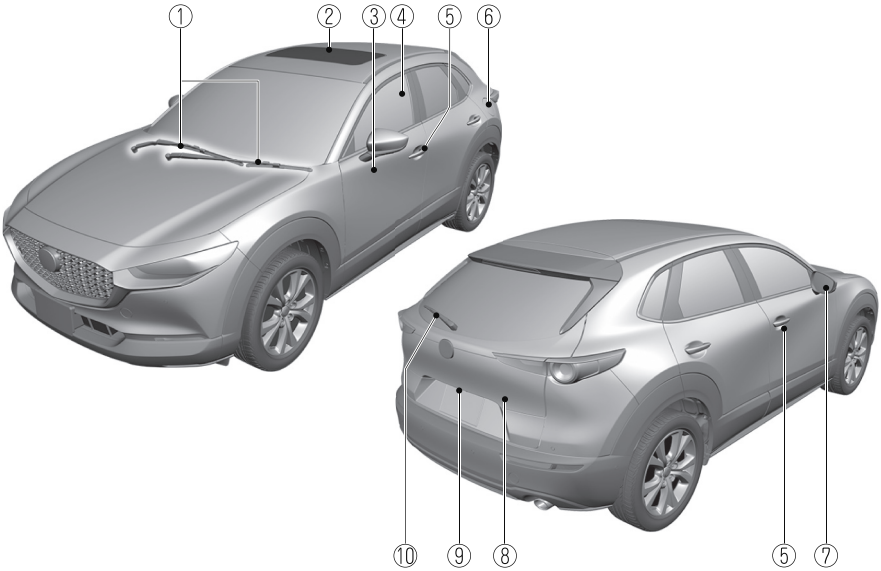


① トノカバー..... 3-22 ページ
② トップテザーアンカレッジ..... 2-28 ページ
③ ラゲッジルームランプ.....6-27 ページ

イラスト目次

外観

▼ 外観



① フロントワイパー..... 7-17 ページ
② 電動スライドガラスサンルーフ..... 3-31 ページ
③ ドア..... 3-8 ページ
④ ウインドー..... 3-29 ページ
⑤ タッチセンサー..... 3-9 ページ
⑥ 燃料補給口..... 3-24 ページ
⑦ ドアミラー..... 3-26 ページ
⑧ リアゲート..... 3-15 ページ
⑨ 電磁式リアゲートオープナー..... 3-15 ページ
⑩ リアワイパー..... 7-19 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

2 安全にお使いいただくための装備

安全にお使いいただくための装備や取り扱い

シート.....2-2
シート使用上の注意.....2-2
フロントシート.....2-3
リアシートの操作.....2-10
ヘッドレストの使いかた.....2-12

シートヒーター/ステアリングヒーター..... 2-14
シートヒーターの使いかた*..... 2-14
ステアリングヒーターの使いかた*..... 2-15

シートベルト.....2-17
シートベルトについて..... 2-17
シートベルトの正しい着用のしかた.....2-19
シートベルト警告システム 2-20
プリテンショナー/ロードリミッター機構.....2-21

お子さまの安全.....2-22
お子さま専用シートについて 2-22
シート位置別お子さま専用シート選択の目安表.....2-25
チャイルドシートを固定するとき.....2-28

SRS エアバッグシステム..... 2-30
SRS エアバッグシステムについて 2-30
エアバッグの種類.....2-30
エアバッグの注意点.....2-31
エアバッグの作動条件について 2-34

シート使用上の注意

▼ シート使用上の注意

⚠ 警告

シート各部の調節は、必ず走行前に行なう。
走行中に行なうと、必要以上にシートが動いて姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートが損傷した場合は必ずマツダ販売店で点検を受ける。
エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシート内部のエアバッグシステムの部品が本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。衝突後やシートクッションが破れたり、ウレタンまで達するほどの損傷の場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

背もたれは倒しすぎない。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

操作後は確実にロックされていることを確認する。
走行中シートが不意に動くと姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを操作するときは、シートの動く部品周辺やサイドトリムなどに手や指を置かないでください。手や指を置いているとけがをするおそれがあります。
- **(マニュアルシート)**
  シートを前後に動かすときや、後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、シートが急に動き、けがをするおそれがあります。
- 車室内を清掃したり、シートの下に落としたものを拾ったりするためにシートの下に手を入れるときは、けがをしないように注意してください。シートレールやシートフレーム、シート下周辺の可動部、および周辺部品にあたり、けがをするおそれがあります。

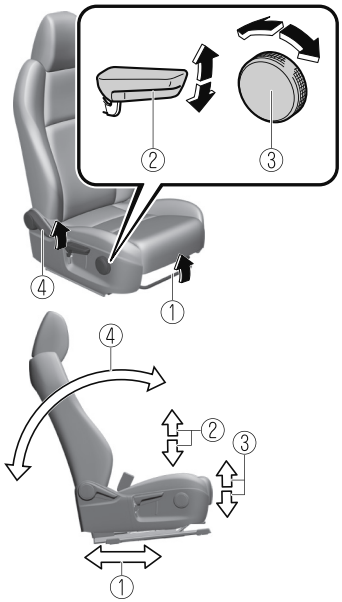
フロントシート

▼ 運転席の操作

マツダが推奨するドライビングポジションにすることで、リラックスした姿勢を保ち、ドライバーが長時間の運転でも疲れにくく、自然に素早い操作をすることができます。
また、前方の視野を確保し、安全で楽しく運転することができます。
マツダが推奨するドライビングポジションにするには、次の手順で調節します。

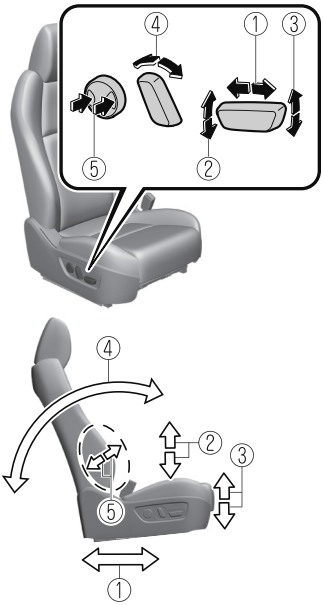
1. ハンドルとシートを初期位置へ移動する。
2. シートの背もたれの角度を調節する。
3. シートの前後位置を調節する。
4. シートの高さを調節する。
5. シート前端の高さを調節する。
6. ハンドルの位置を調節する。
7. ヘッドレストの位置を調節する。

マニュアルシート



1. 前後調節 (スライディング)
2. シート全体高さ調節
3. シート前端高さ調節
4. 角度調節 (リクライニング)

パワーシート



1. 前後調節 (スライディング)
2. シート全体高さ調節
3. シート前端高さ調節
4. 角度調節 (リクライニング)
5. 張り出し調節 (ランバーサポート)

マツダが推奨するドライビングポジションに調節する前に

調節する前にハンドル、シートを初期位置へ移動させます。

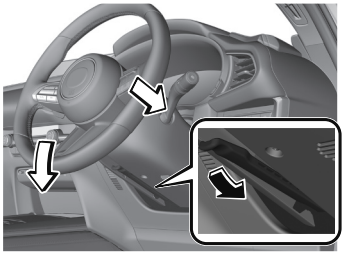
ハンドル初期位置への移動のしかた

⚠ 警告

調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。
走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

レバーを下げて、ハンドルの高さをいちばん下の位置にし、奥まで押し下げます。



シート初期位置への移動のしかた

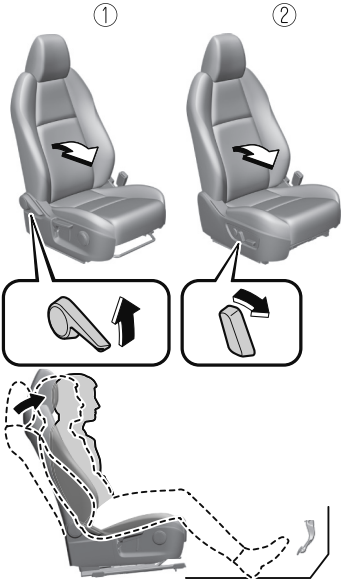
1. シートをいちばん後ろに下げます。
2. シートの高さをいちばん下まで下げます。
3. シート前端の高さをいちばん下まで下げます。
4. シートに深く腰かけて、背もたれと背中を密着させます。

マツダが推奨するドライビングポジションへの調節手順

シートの背もたれの角度を調節する (リクライニング)

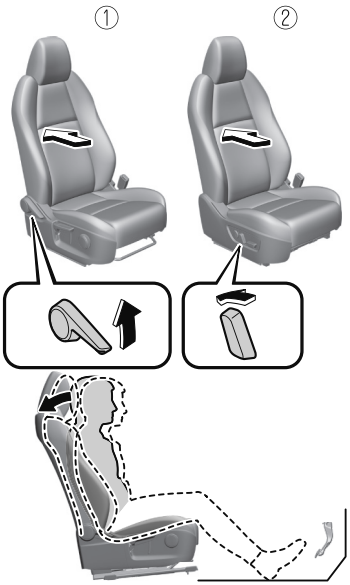
楽な姿勢で座れる角度にシートの背もたれを調節します。

1. 少し前かがみの姿勢で、お腹まわりが窮屈と感じる角度まで背もたれを起こします。



1. マニュアルシート
2. パワーシート

2. お腹まわりに窮屈な感じがなく、楽に座れる姿勢まで背もたれを倒します。



1. マニュアルシート
2. パワーシート

シートの前後位置を調節する (スライディング)

ペダルが操作しやすい位置に調節します。

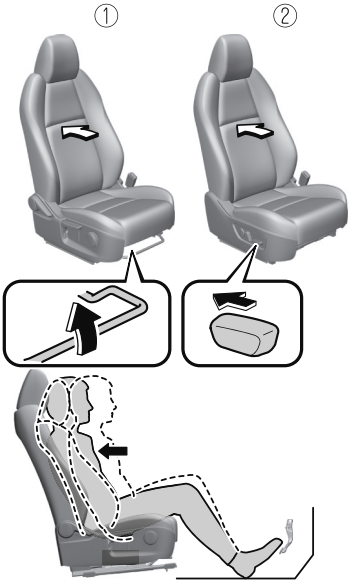
1. 左足はフットレストに置き、右足はアクセルペダルとブレーキペダルの中間、ペダルを踏みかえられる位置にかかとを置きます。
2. かかとを床につけた状態でブレーキペダルに右足を乗せ、足首が少し窮屈に感じるまでシートをできるだけ前へ動かします。



1. マニュアルシート
2. パワーシート

3. ブレーキペダルに右足を乗せたまま、足首が窮屈と感じなくなるまでシートを後ろへ動かします。
4. かかとを床につけたまま、ブレーキペダルとアクセルペダルの踏みかえがスムーズにできることを確認します。

5. かかとを床につけたままアクセルペダルをいちばん奥まで踏み、足首が伸びきった感じを受けないことを確認します。

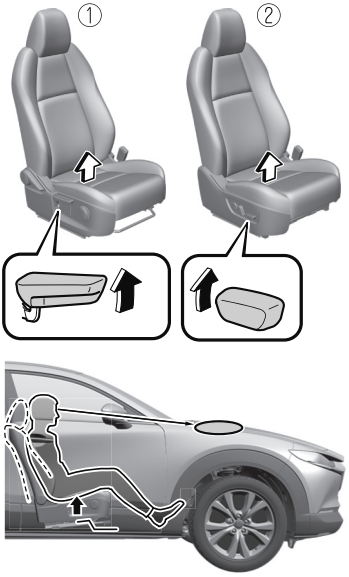


1. マニュアルシート
2. パワーシート

シートの高さを調節する

前が見やすく、運転しやすい高さに調節します。

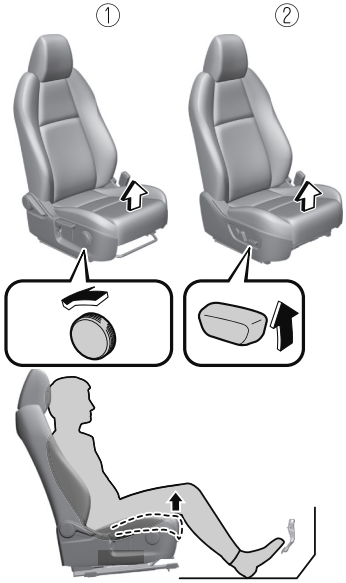
1. 背もたれに背中を密着させた状態で、ボンネット表面の後端部分が確認できる高さまでシートの高さを上げます。



1. マニュアルシート
2. パワーシート

シート前端の高さを調節する

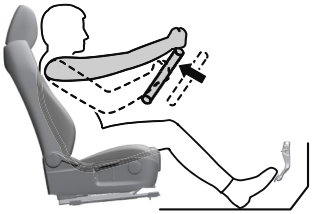
ひざの裏にシート前端が密着するようにシート前端の高さを調節します。
1. アクセルペダルに右足を乗せたまま、ひざの裏にシート前端が軽く沿うようにシート前端の高さを調節します。
2. アクセルペダルを踏み込んでひざの裏が窮屈と感じないことを確認します。



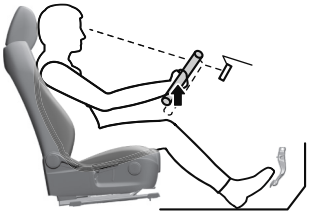
1. マニュアルシート
2. パワーシート

ハンドルの位置を調節する

運転操作がしやすく、メーターが見える位置に調節します。
1. 背もたれに背中を密着させた状態で、両腕をのばし、ハンドル上部に両手を置いて、手首の位置までハンドルを引き寄せます。



2. メーター類がしっかり見えるように、ハンドルの高さを調節します。



3. レバーを引き上げてハンドルを固定します。

ヘッドレストの位置を調節する

万一のときに頭部への衝撃を防ぐため、正しい位置にヘッドレストを調節します。
→2-12 ページ「ヘッドレストを調節するとき」

▼ ドライビングポジションメモリー機能 (パワーシート)*

お好みのドライビングポジションを記憶させることができます。
次のドライビングポジションを記憶させることができます。

・運転席シート位置 (角度、前後位置、全体高さ、前端高さ)
→2-3 ページ「運転席の操作」
・アクティブ・ドライビング・ディスプレイ (表示位置、輝度、表示情報)
→5-34 ページ「アクティブ・ドライビング・ディスプレイ」
・ドアミラー角度
→3-26 ページ「ドアミラーの操作」

ドライビングポジションを次の操作で記憶または操作することができます。

・ポジションメモリースイッチの操作
・キーを使った操作

知識

張り出し調節 (ランバーサポート) は記憶させることはできません。

記憶させるとき

ドライビングポジションをポジションメモリースイッチとキーに記憶させることができます。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
3. 電源ポジションを ON にします。
4. 次のドライビングポジションをお好みの位置に調節します。

   ・運転席シート
   ・アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
   ・ドアミラー
5. 音が鳴るまで､SET スイッチを押し続けます。



1. SET スイッチ
2. スイッチ 1
3. スイッチ 2

6. 音が鳴ってから 5 秒以内に次の操作を行ない､ドライビングポジションを記憶させます。

   ・**ポジションメモリースイッチに記憶させるとき**
   スイッチ 1 またはスイッチ 2 のうち記憶させたいスイッチを押します。
   ・**キーに記憶させるとき**
   キーの解錠スイッチを押します。

   正しく操作して記憶が完了すると､音が鳴ります。

知識

・操作を誤ると､記憶に失敗したことを示す音が鳴ります。
・ドアミラー角度の変更量が少ない場合は､ドアミラー角度が正しく記憶されないことがあります。

知識

・ドアミラー角度が可動域の限界近くに調節されている場合､ドライビングポジションの記憶には成功しますが､記憶させたドライビングポジションを呼び出すときに失敗することがあります。

記憶させたドライビングポジションを呼び出すとき

⚠ 注意

ドライビングポジションメモリー機能でシートが自動的に動いているときは､シートの下やその周辺に手や指などを近づけないでください。手や指などをはさんで､けがをするおそれがあります。

ポジションメモリースイッチで操作するとき

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
3. 電源ポジションを ON にします。
4. スイッチ 1 またはスイッチ 2 のうち呼び出したい位置が記憶されているスイッチを押します。
5. 記憶させたドライビングポジションへの調節が終了すると､音が鳴ります。

知識

・記憶させたドライビングポジションに調節済みのときは､音が鳴りません。
・次のような場合､ドライビングポジションの調節を中止します。
   ・運転席シートのシート調節スイッチを操作したとき
   ・ドアミラーの角度を調節したとき
   ・SET スイッチを押したとき
   ・スイッチ 1 またはスイッチ 2 を押したとき
   ・キーの施錠スイッチまたは､解錠スイッチを操作したとき
   ・車両が走行状態になったとき

知識

・アクティブ･ドライビング･ディスプレイを調節したとき
・**(マニュアル車)**
パーキングブレーキが解除されているとき
・**(オートマチック車)**
セレクトレバーを P 以外の位置にしたとき

キーで操作するとき

1. 次のいずれかの方法で運転席ドアを解錠します。
・解錠用タッチセンサーの感知エリアに触れる。
・キーの解錠スイッチを押す。
2. 解錠してから 90 秒以内に運転席ドアを開けると､次のドライビングポジションの調節が開始されます。
・運転席シート
・アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
・ドアミラー

調節が終了すると音が鳴ります。

知識

・記憶させたドライビングポジションに調節済みのときは､音が鳴りません。
・次のような場合､ドライビングポジションの調節を中止します。
・運転席シートのシート調節スイッチを操作したとき
・ドアミラーの角度を調節したとき
・SET スイッチを押したとき
・スイッチ 1 またはスイッチ 2 を押したとき
・キーの施錠スイッチまたは､解錠スイッチを操作したとき
・車両が走行状態になったとき
・アクティブ･ドライビング･ディスプレイを調節したとき
・**(マニュアル車)**
パーキングブレーキが解除されているとき

知識

・**(オートマチック車)**
セレクトレバーを P 以外の位置にしたとき

記憶させた位置を消去するとき

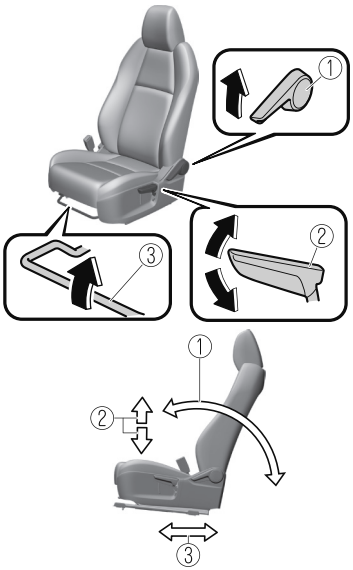
キーに記憶させた位置を消去するとき

1. 電源ポジションを OFF にします。
2. 音が鳴るまで､SET スイッチを押し続けます。
3. 音が鳴ってから 5 秒以内に､キーの施錠スイッチを押します。

知識

操作を誤ると､記憶に失敗したことを示す音が鳴ります。

▼ 助手席の操作



1. 角度調節(リクライニング)
2. シート全体高さ調節
3. 前後調節(スライディング)

リアシートの操作

▼ 荷室を作るとき

リアシートの背もたれを倒すと荷室として広げることができます。

⚠ 警告

倒した背もたれの上や荷室内に人を乗せて走行しない。
シートベルトが着用できないため、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれを倒した車内でお子さまを遊ばせない。
お子さまがラゲッジルーム内に入り、背もたれがもどった場合、ラゲッジルーム内に閉じ込められるため思わぬ事故につながるおそれがあります。

背もたれを倒して荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定する。
固定しないで走行すると、急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

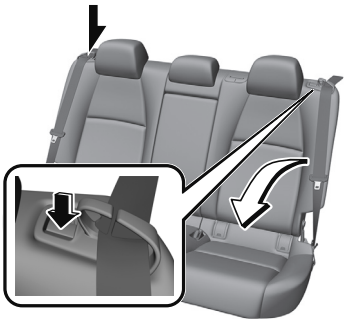
荷物を運ぶときは、シート背もたれの高さを越えないようにする。
後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

背もたれを倒すとき

⚠ 注意

- 背もたれを倒すときは、必ず背もたれを手で支えながら操作してください。背もたれを手で支えずに操作すると、プッシュノブを押す指などにけがをするおそれがあります。
- 背もたれを倒す前にフロントシートの位置を確認してください。 フロントシートの位置によっては、リアシートの背もたれがフロントシートにあたって、フロントシートやシートバックポケットが損傷、破損したり、背もたれを倒すことができなくなったりする場合があります。また、必要に応じてリアシート左右席のヘッドレストは、位置を下げる、または取りはずしてください。

プッシュノブを押して背もたれを前に倒します。

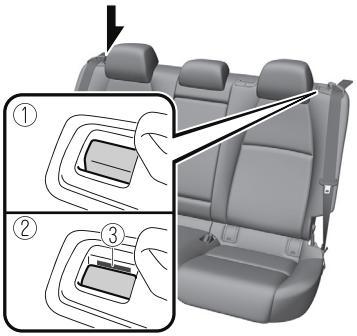


もとにもどすとき

⚠ 警告

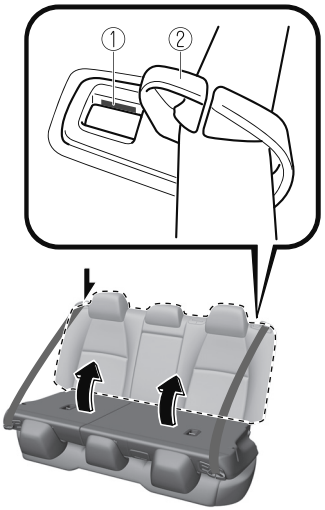
背もたれをもとにもどすときは、シートベルトが、はさまれていないこととねじれていないことを確認する。
シートベルトが、背もたれにはさまれていたり、ねじれていたりしている状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分発揮できないため重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認する。
プッシュノブ後部に赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



1. ロック
2. アンロック
3. 赤色の表示

1. シートベルトが、シートベルトガイドに正しく通っていることとねじれていないことを確認し、シートベルトがはさまらないようにして背もたれを起こします。

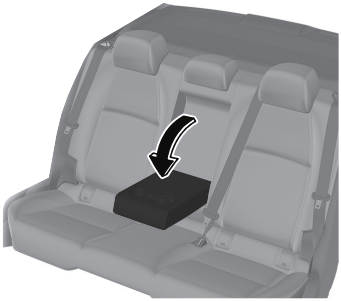


1. 赤色の表示
2. シートベルトガイド

2. 背もたれを後ろに押しつけロックさせます。背もたれをもとの位置にもどした後は、確実にロックされていることを確認してください。

▼ アームレストの使いかた

前に倒して使用します。



⚠ 警告

アームレストの取り付け部周辺に、手や指を置かない。
シートとアームレストの間に手や指がはさまり、けがをするおそれがあります。

ヘッドレストの使いかた

▼ ヘッドレストの使いかた

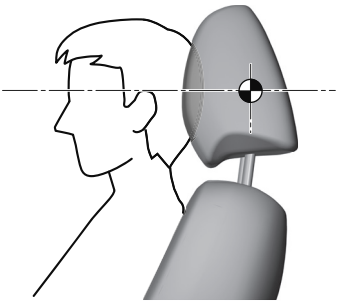
すべてのシートには、ヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

▼ ヘッドレストを調節するとき

⚠ 警告

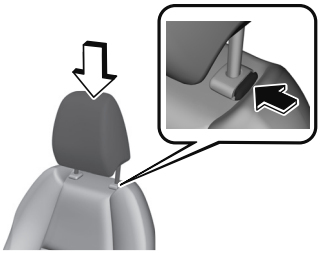
高さを調節しないままで走行しない。
高さを調節しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

ヘッドレストの中央が、耳の上部と同じ高さになるように調節してください。

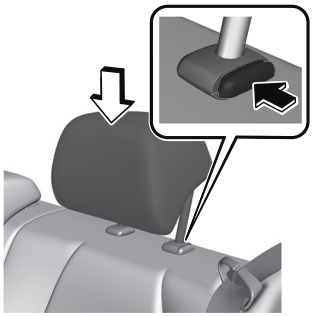


- **高くするとき**
  そのまま引き上げます。
- **低くするとき**
  ロックノブを押したまま下げます。

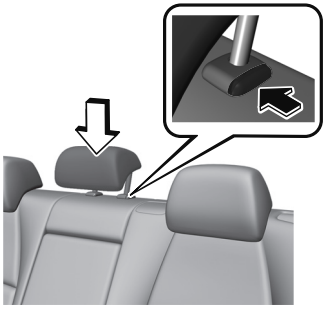
フロントシート



リアシート左右席



リアシート中央席



▼ ヘッドレストを脱着するとき

・**ヘッドレストを取りはずすとき**
ロックノブを押しながら引き上げます。
・**ヘッドレストを取り付けるとき**
ロックノブを押しながら差し込みます。

⚠ 警告

ヘッドレストをはずした状態で走行しない。
取りはずした状態のまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

取り付けた後は、ヘッドレストが抜け出さないことを確認する。
ヘッドレストが抜け出すと万一の場合、思わぬけがをするおそれがあります。ヘッドレストを引き上げて、抜け出さないことを確認してください。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付けるときは、ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きを間違えて取り付けると、衝突時などにヘッドレストがはずれ、けがをするおそれがあります。
- ヘッドレストは、各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると、衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず、けがをするおそれがあります。

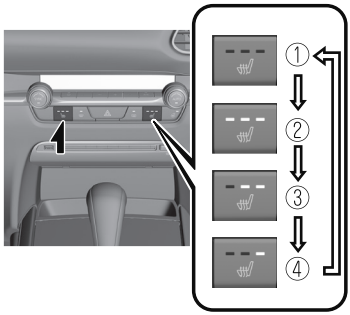
シートヒーターの使いかた*

▼ シートヒーターの使いかた

エンジンがかかっているときに、フロントシートを温めることができます。
シートヒーターが作動しているときは、シートヒータースイッチ内の表示灯が設定温度に応じて点灯します。

マニュアルモード

シートヒータースイッチを押すと、シートヒーターがマニュアルモードで作動します。
シートヒータースイッチを押すごとに、図のように設定温度が切り替わります。



1. OFF
2. 高
3. 中
4. 低

知識

シートヒーターがマニュアルモードで作動しているときにエンジンを止めると、次にエンジンをかけたとき、シートヒーターは自動的に ON にはなりません。シートヒーターを使用するときは、再度スイッチを押してください。

オートモード

次の手順で、運転席と助手席のシートヒーターをオートモードで作動させることができます。

1. 「快適装備オートエアコン連動」が無効になっている場合は、次の手順で有効にします。
   a) マツダコネクトのホーム画面から、「設定」を選択します。
   b)「車両装備」を選択します。
   c)「快適装備オートエアコン連動」を有効にします。
2. AUTO スイッチを押してください。

オートモード中は、車内環境に応じてシート温度が 4 段階 (高、中、低、OFF) で自動制御されます。

知識

- 助手席のシートベルトがはずれている場合は、助手席のシートヒーターが OFF になります。
- オートモード中にシートヒータースイッチを押すと、スイッチを押した側のシートヒーターがマニュアルモードに移行します。オートモードにもどすときは、AUTO スイッチを押してください。
- シートヒーターがオートモードで作動しているときにエンジンを止めると、次にエンジンをかけたとき、シートヒーターは再度オートモードで作動します。

⚠ 警告

- 次のような方がご使用になる場合は、熱すぎたり、低温やけどを起こしたりするおそれがありますので、十分注意してください。
  - 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
  - 皮膚の弱い方
  - 疲労の激しい方
  - 深酒や眠気をさそう薬 (睡眠薬、かぜ薬など) を服用された方
- 低温やけどを起こさないために、次のことをお守りください。
  - 毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。異常加熱するおそれがあります。
  - 仮眠するときは使用しないでください。
  - 突起のある重量物をシートの上に置いたり、針金やピンなどでシートクッションをつきさしたりしないでください。異常加熱するおそれがあります。

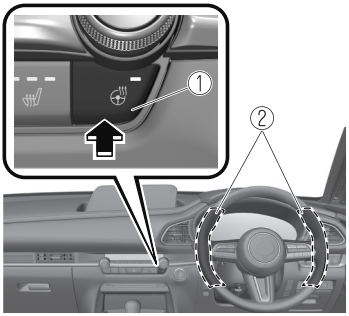
⚠ 注意

シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

ステアリングヒーターの使いかた*

▼ ステアリングヒーターの使いかた

電源ポジションが ON のときに、ハンドルの左右のグリップ部分を温めることができます。
ステアリングヒーターが作動しているときは、ステアリングヒータースイッチ内の表示灯が点灯します。



1. ステアリングヒータースイッチ
2. 加熱位置

マニュアルモード

ステアリングヒータースイッチを押すと、ステアリングヒーターが約 30 分間作動し、その後自動で停止します。
ステアリングヒーターを手動で停止したいときは、もう一度スイッチを押してください。

オートモード

次の手順で、ステアリングヒーターをオートモードで作動させることができます。

1. 「快適装備オートエアコン連動」が無効になっている場合は、次の手順で有効にします。
   a) マツダコネクトのホーム画面から、「設定」を選択します。
   b) 「車両装備」を選択します。
   c) 「快適装備オートエアコン連動」を有効にします。
2. AUTO スイッチを押してください。

オートモード中は、車内環境に応じて自動でステアリングヒーターが作動/停止します。

知識

・オートモード中にステアリングヒータースイッチを押すと、ステアリングヒーターがマニュアルモードに移行します。オートモードにもどすときは、AUTO スイッチを押してください。
・ステアリングヒーターがオートモードで作動しているときに電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたとき、ステアリングヒーターは再度オートモードで作動します。

警告

低温やけどを起こすおそれがありますので、次のような方が触れないよう注意してください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬 (睡眠薬、かぜ薬など) を服用された方

シートベルトについて

▼ シートベルトについて

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



・上体を起こし、シートに深く腰かけます。
・ベルトが首、あご、顔などにあたらず、肩に十分かかるようにします。
・ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。
・ベルトにねじれがないか確認します。

⚠ 警告

シートベルトは全員が正しく着用する。
着用しないと体が拘束されないため、急ブレーキ時や衝突時に車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされたりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

1 つのシートベルトを同時に 2 人以上で使用しない。
2 人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。
万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

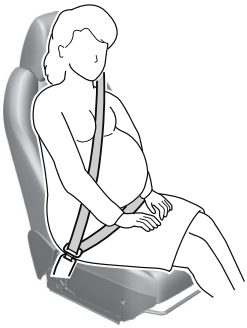
ベルトがねじれた状態で使用しない。
ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。

肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。
ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれは倒しすぎない。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。
シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。
ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。



⚠ 警告

シートベルトのバックルの中に異物を入れない。
異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。
お子さまを乗せるときは

お子さまはできるだけリアシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させる。
お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートベルトが首や顔などにあたるなどして、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用する。
シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。
ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

▼ シートベルトの種類

⚠ 警告

メンテナンスについて

シートベルトを分解･改造･交換しない。
万一の場合、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

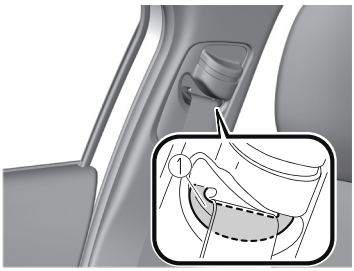
事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受ける。
プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしたりしない。
正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。



1. リング

▼ ELR (緊急時固定) 機構

全席のシートベルトに装備されています。
シートベルトは体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

シートベルトの正しい着用のしかた

▼ シートベルトを着用するとき

1. プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。
2. ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。



1. ベルト
2. プレート

知識

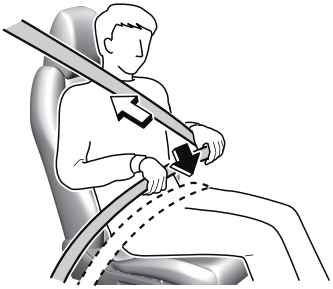
ベルトがロックして引き出せないときは
一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

3. ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。



1. プレート
2. バックル

4. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみがないようにベルトを引いて体に密着させます。

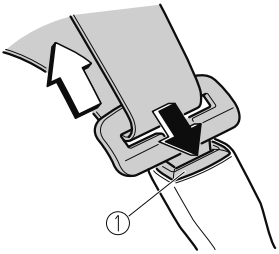


リアシートのシートベルトは、着用する前にシートベルトがシートベルトガイドに正しく通っていることと、ねじれていないことを確認してください。



▼ シートベルトをはずすとき

はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。



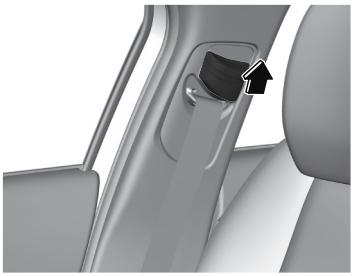
1. ボタン

▼ シートベルトの高さ調節

フロントシートベルトにはシートベルトアンカーアジャスターが付いています。
シートベルトが首にあたったり、肩からはずれたりしてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。

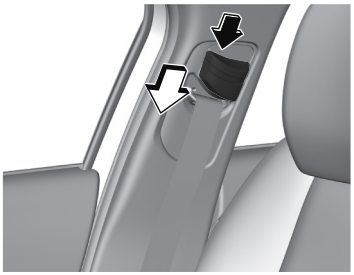
高くするとき

高くするときは、そのまま上に動かします。



低くするとき

低くするときは、シートベルトアンカーアジャスターをつかみ、ノブを下方に押して下げます。



調節した後は、シートベルトアンカーアジャスターを下方に押し、確実にロックされていることを確認してください。

シートベルト警告システム

▼ シートベルト警告システム

シートベルトを着用していないと、警告灯とチャイムが作動します。
→8-32 ページ「シートベルト警告灯 (フロントシート)」
→8-33 ページ「シートベルト警告灯 (リアシート) (赤)」
→8-38 ページ「シートベルト着用忘れチャイム」

シートベルト表示灯 (リアシート) (緑)

REAR 

電源ポジションが ON のとき、リアシートのシートベルトを着用するとしばらくの間点灯し、その後消灯します。

プリテンショナー/ロードリミッター機構

▼ プリテンショナー/ロードリミッター機構

プリテンショナー機構
運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方または側方から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

ロードリミッター機構
運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

知識

・プリテンショナー機構は、車両前方または側方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
・プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

お子さま専用シートについて

▼ お子さま専用シートについて

シートベルトが首や顔などにあたるなどして、腰骨に正しく着用できないお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。
シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リアシートのシートベルトを使用してシートに固定します。
また ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートは、リアシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

⚠ 警告

お子さまの首や顔などにシートベルトがあたるなどして、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使う。
お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされたりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従う。
正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。
エアバッグの作動可能な助手席には、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負ったりする可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。

⚠ 警告

助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。



警告ラベル



知識

ISO は International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略です。

▼ お子さま専用シートの種類

UN-R 44 法規に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の 5 種類に分類されます。

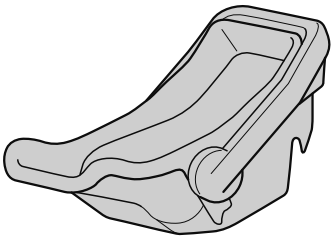
知識

・UN-R は United Nations Regulation (国連規則) の略です。
・UN-R 44 法規は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

グループ	体重	サイズ等級/器具 (CRF)
0	10kg まで	ISO/L1
		ISO/L2
		ISO/R1
0+	13kg まで	ISO/R1
		ISO/R2
		ISO/R3
I	9～18kg	ISO/R2
		ISO/R3
		ISO/F2
		ISO/F2X
		ISO/F3
II	15～25kg	—
III	22～36kg	—

本書では、3 種類のお子さま専用シートについて説明します。
取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

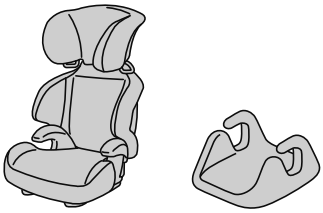
ベビーシート
UN-R 44 法規のグループ 0、0+に相当



チャイルドシート
UN-R 44 法規のグループ I に相当



ジュニアシート
UN-R 44 法規のグループ II、IIIに相当



1. ブースターシート
ブースターシートを使用するときは、必ず取り付けるシートのヘッドレストを取り付けてください。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

▼ シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認する。
誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

シート位置	着座位置			
	助手席	第 2 列左	第 2 列中央	第 2 列右
汎用ベルト式に適する着席位置	UF	U	U	U
アイサイズ着席位置	X	i-U	X	i-U
適する最大の後向き装具 (R1)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2X)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R3)	X	IL	X	IL
適する最大の前向き装具 (F2)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F2X)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F3)	X	IUF	X	IUF
適する最大の横向き装具 (L1)	X	X	X	X
適する最大の横向き装具 (L2)	X	X	X	X
適する最大のブースター装具(B2)	X	IUF	X	IUF
適する最大のブースター装具(B3)	X	IUF	X	IUF

シート位置	着座位置			
	助手席	第 2 列左	第 2 列中央	第 2 列右
サポートレッグ付装具に適した着席位置 (有/無)	有*1	有	無	有
ロアアンカレッジを備えるがトップテザーのない着席位置 (有/無)	無	無	無	無

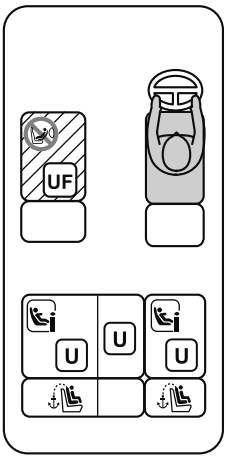
上表の記号について:
U ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
UF ＝この質量グループでの使用を認可された前向き「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
L ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
IUF ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。
IL ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
i-U ＝前向きおよび後向きの i-Size「汎用」チャイルドシートに適しています。
i-UF ＝前向き i-Size「汎用」チャイルドシートのみに適しています。
有＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できる席です。
無＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できない、または装具がない席です。
X ＝お子さま専用シートを取り付けることはできません。
*1　前向きお子さま専用シートのみ取り付けることができます。

知識

・ヘッドレストとお子さま専用シートが干渉して、しっかり固定できない場合は、ヘッドレストの高さを調節する、または取りはずしてください。
・助手席にお子さま専用シートを取り付けるときは、シート位置をできるだけ後ろに調節してください。また、助手席が高さ調節できる場合は、シートベルトでお子さま専用シートがしっかり固定できるようにシートクッションの高さをいちばん高い位置に調節してください。
→2-9 ページ「助手席の操作」
・助手席にお子さま専用シートを取り付けにくいときやお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できないときは、次の操作をしてお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できるようにシートを調節してください。
  ・シートを前方または後方に動かす。
  ・シートの背もたれを前後に動かす。
  ・シートを上または下に動かす。
・お子さま専用シートをリアシートに取り付けるときは、前席にあたらないように、前席のシート位置を調節してください。

知識

・テザーストラップを使用するときは、必ず、ヘッドレストを取りはずしてください。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。



U：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）に適しています。

UF：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）の前向きに取り付けるタイプに適しています。

：ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：i-Size および ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：前向きお子さま専用シートに適しています。

：後ろ向きのお子さま専用シートを取り付けないでください。

：お子さま専用シートを取り付けることはできません。

：トップテザーアンカレッジが装備されている座席です。

チャイルドシートを固定するとき

▼ シートベルトを使用するとき

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。また、シート位置別お子さま専用シート選択の目安表も参照ください。
→2-25 ページ「シート位置別お子さま専用シート選択の目安表」

▼ ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

リアシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
このロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート (チャイルドシート固定ロアアンカレッジ) のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

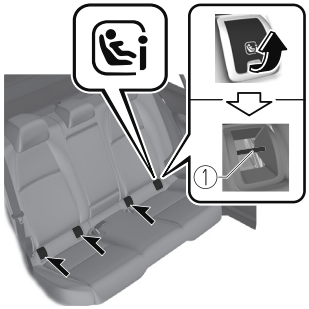
⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみ込んでいないことなどを確認する。
異物やシートベルトなどをはさみ込むとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応の純正チャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

1. チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。→2-3 ページ「運転席の操作」
→2-9 ページ「助手席の操作」
2. フロントおよびリアシートが確実に固定されていることを確認します。
3. チャイルドシート固定ロアアンカレッジのカバーを取りはずし、ロアアンカレッジの位置を確認します。



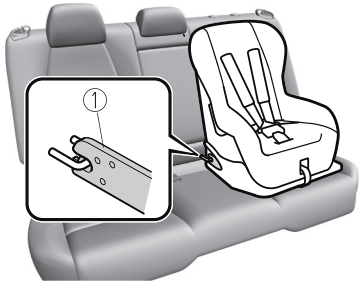
1. ロアアンカレッジ

4. ヘッドレストを取りはずします。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。

知識

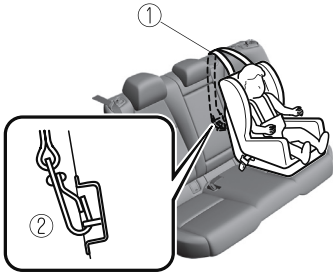
取りはずしたカバーはなくさないように保管してください。

5. チャイルドシートのコネクターをロアアンカレッジに取り付けます。



1. コネクター

6. チャイルドシートのテザーストラップを図のようにトップテザーアンカレッジにかけます。



1. テザーストラップ
2. トップテザーアンカレッジ

7. テザーストラップがたるまないように調節します。

知識

テザーストラップを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

8. チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

⚠ 警告

トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しない。
チャイルドシートの固定以外のことに使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムについて

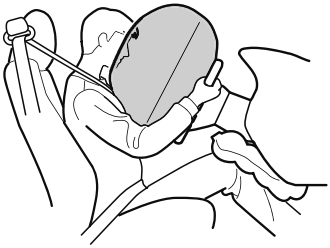
▼ SRS エアバッグシステムについて

SRS とは Supplemental Restraint System (サプルメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。
エアバッグは、電源ポジションが ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRS エアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

エアバッグの種類

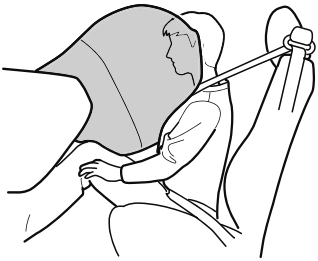
▼ 運転席エアバッグ

運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。



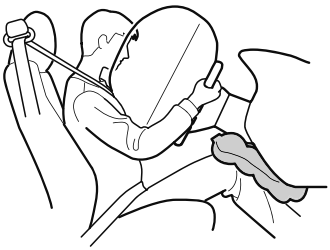
▼ 助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。



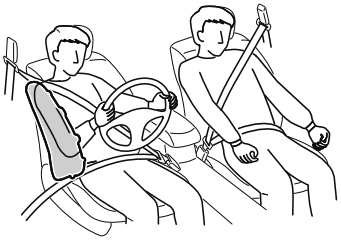
▼ 運転席ニーエアバッグ

ニーエアバッグはインストルメントパネルの下に格納されています。



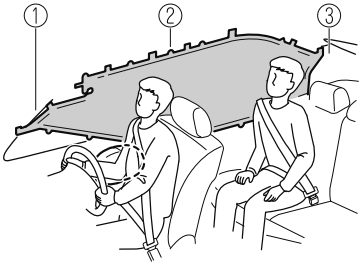
▼ サイドエアバッグ

サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。



▼ カーテンエアバッグ

カーテンエアバッグはフロントピラー、ルーフサイド部、リアピラーに格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。



1. フロントピラー
2. ルーフサイド部
3. リアピラー

エアバッグの注意点

▼ エアバッグの注意点

⚠ 警告

お車に乗る前に

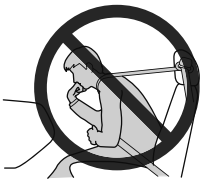
運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用する。
SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

ハンドル中央部に手を置いたり、顔や体を近づけたりしない。
エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけない。
エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



⚠ 警告

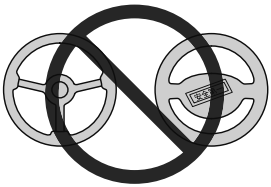
お子さまを乗せるときは

お子さまはできるだけリアシートに座らせ必ずシートベルトを着用させる。
シートベルトが首や顔などにあたるなどして、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



こんなことにも注意

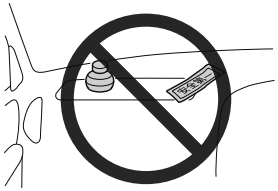
ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置いたりしない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。

⚠ 警告

エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



車両前部にグリルガードなどを装着しない。
SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

サスペンションの改造をしない。
車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRS エアバッグシステムの回路診断をしたりしない。
正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスや廃車について

事故後は必ずマツダ販売店で点検を受ける。
エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店に相談する。
次の作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRS エアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部の修理
- 室内の電装品の取りはずし、取り付け

車を廃車にする場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。
サイドエアバッグについて
フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。
フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リアシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



フロントシートにシートカバーを使用しない。
シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。
サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

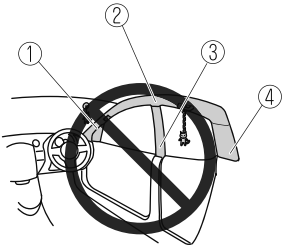
⚠ 警告

フロントシートの下に荷物などを置かない。
フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
カーテンエアバッグについて

ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リアピラー、ルーフサイド部などに近づいたりしないようにして座る。
カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



フロント窓ガラス、リア窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしない。
カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



1. フロントピラー
2. ルーフサイド部
3. サイドピラー
4. リアピラー

⚠ 警告

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。
- ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイドおよびカーテンエアバッグが作動するおそれがあります。

知識

エアバッグの作動について

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

エアバッグの作動条件について

▼ エアバッグの作動条件について

運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグは正面衝突において、サイド/カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車体の衝撃吸収ボディー構造により、乗員への衝撃は大きくならない場合があります。
したがって、車両の損傷が大きくてもエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動するとき

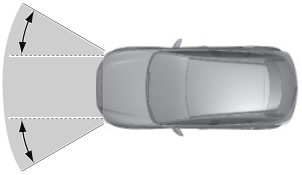
運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

- 約 22 km/h 以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき

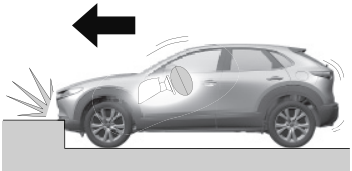


- 正面衝突など車両の前方左右約 30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき

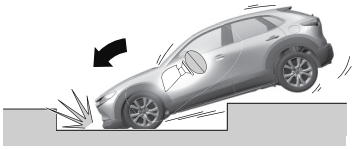


次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

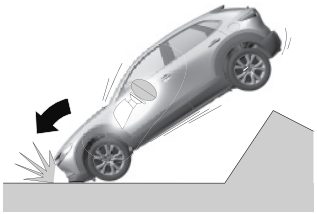
- 中央分離帯や縁石などに衝突したとき



・深い穴や溝に落ちたとき

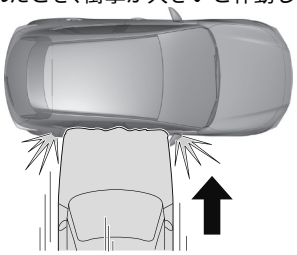


・ジャンプなどで地面にぶつかったとき



サイド/カーテンエアバッグ

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に衝突されたとき、衝撃が大きいと作動します。

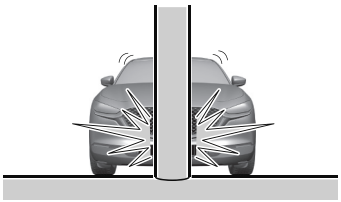


エアバッグが作動しにくいとき

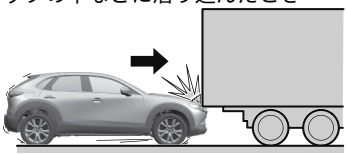
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグ

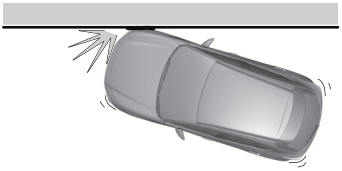
・立木や電柱に衝突したとき



・トラックの下などに潜り込んだとき

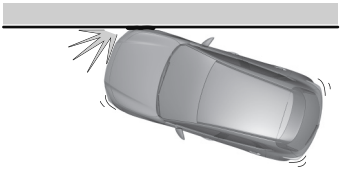


・斜め前方に衝突したとき

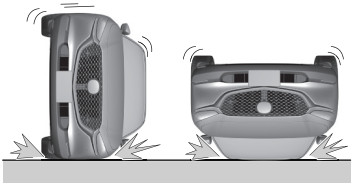


サイド/カーテンエアバッグ

・斜め前方に衝突したとき



・横転や転覆したとき



・車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき



・2 輪車が側面に衝突したとき



エアバッグが作動しないとき

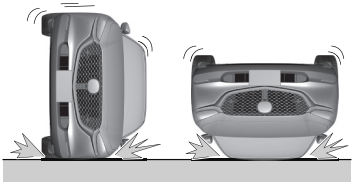
次のようなときには作動しません。

運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグ

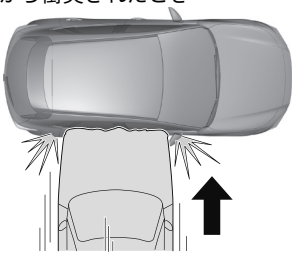
・後ろ方向から衝突されたとき



・横転や転覆したとき



・横方向から衝突されたとき



サイド/カーテンエアバッグ

・後ろ方向から衝突されたとき



・正面衝突したとき



3 運転する前に

運転する前に必要な操作と取り扱い

キー.....3-2
キーについて.....3-2
キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作..... 3-5

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム 3-6
アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム..... 3-6

ドア.....3-8
ドアの開閉..... 3-8

リアゲート.....3-15
リアゲートの開閉..... 3-15
パワーリアゲートの開閉.....3-17

トノカバー.....3-22
トノカバーの使いかた..... 3-22

燃料補給口.....3-23
給油するとき.....3-23

ミラー.....3-26
ミラーの操作.....3-26

ウインドー.....3-29
窓ガラスの開閉..... 3-29
電動スライドガラスサンルーフの操作*.....3-31

盗難防止システム.....3-33
イモビライザーシステム.....3-33

*グレード/仕様別装備

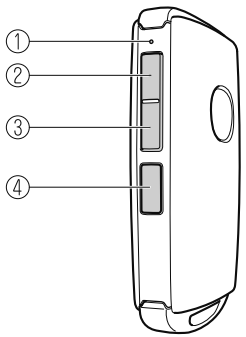
キーについて

▼ キー

知識

・キーは必ず運転者が携帯してください。
・**電池の寿命について**
電池の寿命は、約 1 年程度です。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示された場合は、新しい電池と交換してください。
電池の消耗度合いによっては KEY 警告表示が表示されない場合もありますので、1 年を目安に電池の交換をおすすめします。
・**キーを紛失したときは**
キーを紛失された場合は、盗難や事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。
・**キーを追加するときは**
別売りのキーをお求めいただけます。お手持ちのキーとあわせて、同じ車両で 6 個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

キー



1. 作動表示灯
2. ロックスイッチ
3. アンロックスイッチ
4. リアゲート開閉スイッチ (HOLD)*

キーを携帯することにより、キーを取り出すことなく次のことができます。

・エンジンをかける。

(アドバンストキーレス機能装備車)

・ドア、フューエルリッド、リアゲートを施錠/解錠する。
・リアゲートを開ける。

また、キーを使用してリモートコントロールをすることができます。
キーは 2 本あります。

節電機能

キーの節電機能を ON にすることで、アドバンストキーレスエントリー*1&プッシュボタンスタートシステムの機能が OFF となり、キーの電池消耗を抑えることができます。
節電機能が ON の状態でも、キーのスイッチ操作によるリモートコントロール機能は有効です。ただし、キーの作動表示灯は点灯/点滅しません。

節電機能を ON にするとき
次の操作によって節電機能を ON にしたとき、非常点滅灯とチャイム*1 がそれぞれ 1 回作動します。
1. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押して、作動表示灯を点灯させます。
2. 作動表示灯が点灯している間 (5 秒間) に、ロックスイッチを 1.5 秒以上押し続けます。
3. キーのいずれかのスイッチを押して、作動表示灯が点灯/点滅しないことを確認します。

節電機能を OFF にするとき
次の操作によって節電機能を OFF にしたとき、非常点滅灯とチャイム*1 がそれぞれ 1 回作動します。
1. キーのいずれかのスイッチを押して、作動表示灯が点灯/点滅しないことを確認します。
2. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押して、作動表示灯を点灯させます。
3. 作動表示灯が点灯している間 (5 秒間) に、ロックスイッチを 1.5 秒以上押し続けます。

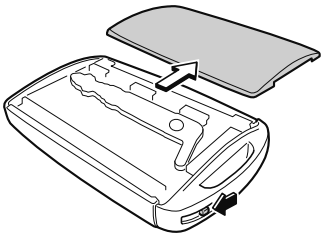
*1 アドバンストキーレス機能装備車

補助キー

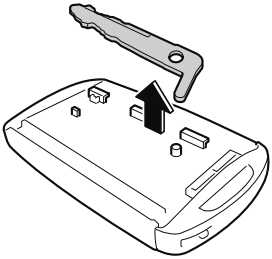
取りはずし可能な補助キーが、キー内部にあります。
補助キーは、運転席ドアの解錠に使用できます。

補助キーの取りはずしかた

1. ノブを矢印方向に押しながら、下側カバーを取りはずします。

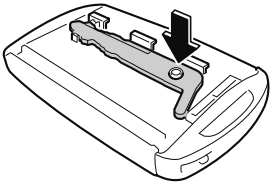


2. 補助キーを取りはずします。

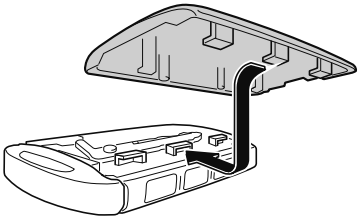


補助キーの取り付けかた

1. 図のように補助キーを取り付けます。



2. キーのスロットに下側カバーのツメを差し込むように、下側カバーを取り付けます。



キーナンバープレート

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーをもとに、マツダ販売店で補助キーを作ることができます。

・車両以外の安全な場所にキーナンバープレートを保管してください。
・お客様以外の方にキーナンバーを知られないようにしてください。

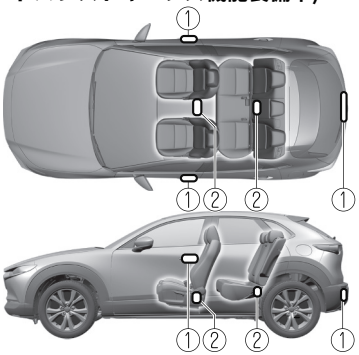


1. キーナンバープレート

キーの注意点

⚠ 警告

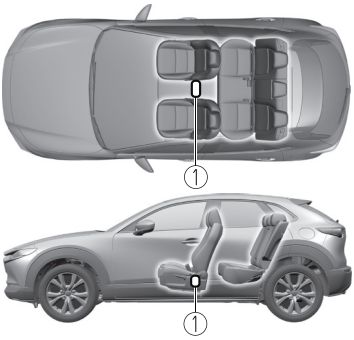
➢ **植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の医療用機器を使用している方は、車内・車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。**
電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。
(アドバンストキーレス機能装備車)



1. 車外のアンテナ
2. 車内のアンテナ

⚠ 警告

(アドバンストキーレス機能非装備車)



1. 車内のアンテナ

- **次にある以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。**
  - 植え込み型心臓ペースメーカー
  - 植え込み型除細動器

  電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。
- プッシュボタンスタートシステム機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。
  ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。 また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
  詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- キーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはキーが正常に作動しないことがあります。
  - 携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
  - 金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき
  - パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - 純正品以外の電子機器を取り付けたとき
  - 近くに電波を発する設備があるとき
- キーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。
- キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。
  - 強い衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。
  - 分解しないでください。
  - 重い物を上に置かないでください。
  - 直射日光があたる場所や高温になるところに放置しないでください。
  - 磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。
  - システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。
- 航空機内ではキーを操作しないでください。
  キーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運航に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、キーのスイッチが容易に押されないように注意してください。

キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作

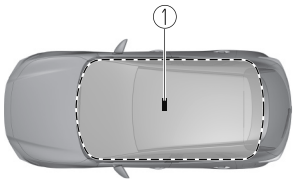
▼ キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作*

キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムには、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能があります。
また、キーのスイッチを押すことにより、ドア、フューエルリッド、リアゲートの施錠/解錠ができるリモートコントロール機能があります。
→3-11 ページ「キーによる施錠/解錠」

機能の作動範囲

キーを携帯して作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

エンジンの始動



1. 車内のアンテナ
2. 作動範囲

知識

・次のような場合は、キーの作動範囲が狭くなったり、作動しなくなったりすることがあります。
  ・電池が消耗しているとき
    電池交換の目安は 3-2 ページをお読みください。
  ・強い電波、ノイズを受けているとき
・次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
  ・インストルメントパネルの周辺
  ・グローブボックスや小物入れなど

知識

・荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
  車外からでも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステム

▼ アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作*

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムには、キーを取り出すことなく次のことができる機能があります。

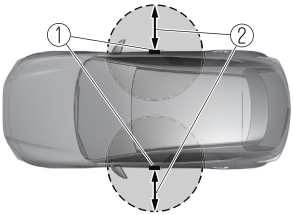
・エンジンをかける。
・ドア、フューエルリッド、リアゲートを施錠/解錠する。
・リアゲートを開ける。

また、キーのスイッチを押すことにより、ドア、フューエルリッド、リアゲートの施錠/解錠ができるリモートコントロール機能があります。
→3-9 ページ「キーによる施錠/解錠」

機能の作動範囲

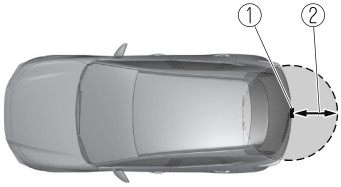
キーを携帯して作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

タッチセンサーによる施錠/解錠



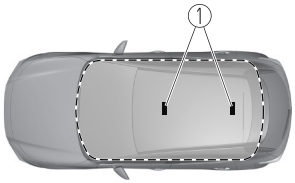
1. 車外のアンテナ
2. 80 cm
3. 作動範囲

電磁式リアゲートオープナーによる解錠/ロックスイッチによる施錠



1. 車外のアンテナ
2. 80 cm
3. 作動範囲

エンジンの始動



1. 車内のアンテナ
2. 作動範囲

知識

・次のような場合は、キーの作動範囲が狭くなったり、作動しなくなったりすることがあります。
  ・電池が消耗しているとき
    電池交換の目安は 3-2 ページをお読みください。
  ・強い電波、ノイズを受けているとき
  ・窓ガラス、ドアハンドル、リアゲートに近づきすぎたとき
・次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
  ・インストルメントパネルの周辺
  ・グローブボックスや小物入れなど

*グレード/仕様別装備

知識

・次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・グローブボックスや小物入れなど
・携帯電話などの通信機器の近く

・荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
車外からでも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

ドアの開閉

▼ ドアの開閉

⚠ 警告

- **ドアを閉めた後は、確実にドアが閉まっていることを確認する。**
  半ドアのまま走行すると、不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **お子さまにドアの開閉をさせない。**
  手、足、首などをはさみ、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **半ドア警告灯/警告表示が点灯/表示したまま走行しない。**
  走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ドアを開閉するときは、強風や傾斜など周囲の状況を確認して開閉してください。指をはさんだり、ドアが通行人にあたったりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

・車から離れるときは、必ずエンジンを止めてドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。
・次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・グローブボックスや小物入れなど
・携帯電話などの通信機器の近く

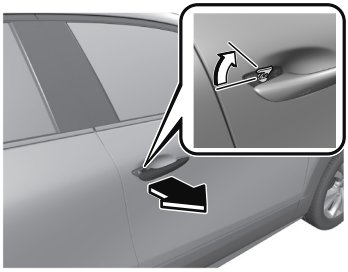
知識

・**衝撃感知ドアロック解除システム**
事故などで強い衝撃を受けたときに、すべてのドア、リアゲートを自動的に解錠するシステムです。自動的に解錠することで、車外から乗員を救出できるようにします。
電源ポジションが ON のときに、エアバッグが展開するほどの強い衝撃を受けると、約 6 秒後にすべてのドア、リアゲートが自動的に解錠します。
ただし、衝撃の加わり方や強さ、事故の状況によっては自動的に解錠されないことがあります。

▼ 補助キーによる解錠

補助キーを使うと、運転席ドアのみを解錠できます。
→3-2 ページ「キー」

運転席ドアのドアハンドルを引いたまま補助キーを差し込み、解錠側に補助キーをまわしてください。補助キーを抜くときは、もとの位置までもどしてから抜いてください。



知識

運転席ドアを解錠するときに不正な補助キーを使用すると、キーシリンダーが空転して解錠できません。

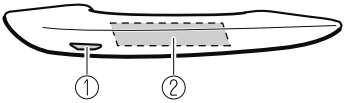
▼ キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能装備車)

知識

・施錠/解錠するときにチャイムが鳴ります。
・チャイムの音量を変更したり、鳴らないようにしたりすることができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

タッチセンサー

タッチセンサーの感知エリアに触れることで、キーを取り出すことなく施錠/解錠できます。タッチセンサーには施錠用と解錠用の 2 つがあり、それぞれがフロントドアの外側ドアハンドルに内蔵されています。

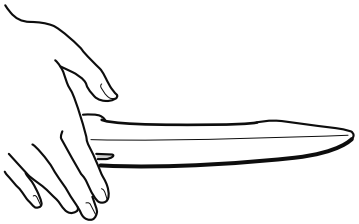


1. 施錠用タッチセンサーの感知エリア (ドアハンドルの外側のくぼみ)
2. 解錠用タッチセンサーの感知エリア (ドアハンドルの内側)

知識

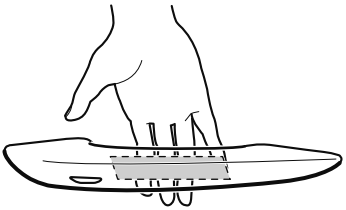
・施錠/解錠するときは、キーを携帯した状態で、次のようにタッチセンサーの感知エリアに確実に触れてください。

施錠

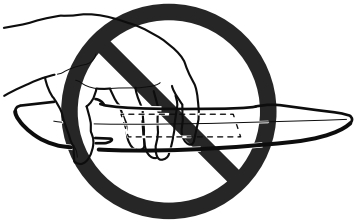


知識

解錠



・次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。
  ・施錠用タッチセンサーの感知エリアと解錠用タッチセンサーの感知エリアに、同時に触れたとき



  ・手袋を着用してタッチセンサーの感知エリアに触れたとき
  ・タッチセンサーの感知エリアに、氷、雪、汚れなどの異物が付着しているとき
  ・タッチセンサーの感知エリアに触れてからすぐにドアハンドルを引いたとき
・キーが作動範囲内にある状態で、洗車や雨などでフロントドアの外側ドアハンドルに水がかかると、システムが作動することがあります。
・タッチセンサーの感知エリアに正しく触れても反応がないときは、いったん手を離してから再びタッチセンサーの感知エリアに触れてください。

施錠

施錠する場合は、次の条件をすべて満たして施錠用タッチセンサーの感知エリアに触れてください。

・キーを携帯しているとき
・電源ポジションが OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき

施錠用タッチセンサーの感知エリアに触れると、次の箇所が施錠されます。

・すべてのドア
・フューエルリッド
・リアゲート

施錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが 1 回作動します。

解錠

解錠する場合は、次の条件をすべて満たして解錠用タッチセンサーの感知エリアに触れてください。

・キーを携帯しているとき
・電源ポジションが OFF のとき
・運転席ドアが施錠されているとき
・施錠してから 3 秒以上経っているとき

解錠用タッチセンサーの感知エリアに触れると、次の箇所が解錠されます。

・すべてのドア
・フューエルリッド
・リアゲート

解錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが 2 回作動します。

知識

・**オートリロック機能**
タッチセンサーの感知エリアに触れて解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、オートリロック機能により自動的に施錠されます。

・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
・電源ポジションを OFF 以外にする。

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

・**エリア離脱式オートロック機能**
タッチセンサーの感知エリアに触れなくても、エリア離脱式オートロック機能により自動的に施錠されるよう設定できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

知識

キーを携帯して、すべてのドア、リアゲートを閉めると、チャイムが 1 回鳴ります。そのまま作動範囲から出ると、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートが自動的に施錠されます (作動範囲から出なくても、約 30 秒後に自動的に施錠されます)。 ただし、次のようなときは施錠されません。

・車内に別のキーがあるとき
・運転席ドアが既に施錠されているとき
・いずれかのドアまたはリアゲートが開いているとき
・いずれかのドアまたはリアゲートを最後に閉めるときに、完全に閉まる前に作動範囲を出たとき

リモートコントロール機能

キーのスイッチを押すと、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートを施錠/解錠できます。

知識

・スイッチはゆっくりと確実に押してください。
・リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。

施錠

施錠する場合は、次の条件をすべて満たしてロックスイッチを押してください。

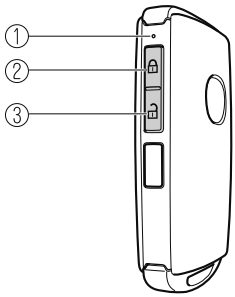
・電源ポジションが OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき

施錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが 1 回作動します。

解錠

電源ポジションが OFF の状態で、アンロックスイッチを押してください。

解錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが2回作動します。



1. 作動表示灯
2. ロックスイッチ
3. アンロックスイッチ

知識

・スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。

・**オートリロック機能**
アンロックスイッチを押して解錠した後、約30秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、オートリロック機能により自動的に施錠されます。

・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
・電源ポジションをOFF以外にする。

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能非装備車)

リモートコントロール機能

キーのスイッチを押すと、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートを施錠/解錠できます。

知識

・スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

・リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。

施錠

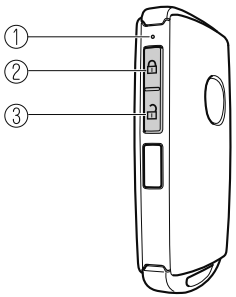
施錠する場合は、次の条件をすべて満たしてロックスイッチを押してください。

・電源ポジションがOFFのとき
・すべてのドアが閉まっているとき

施錠が行なわれると、非常点滅灯が1回作動します。

解錠

電源ポジションがOFFの状態で、アンロックスイッチを押してください。
解錠が行なわれると、非常点滅灯が2回作動します。



1. 作動表示灯
2. ロックスイッチ
3. アンロックスイッチ

知識

・スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。

・**オートリロック機能**
アンロックスイッチを押して解錠した後、約30秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、オートリロック機能により自動的に施錠されます。

・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。

知識

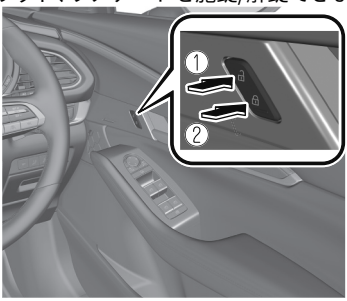
・電源ポジションを OFF 以外にする。

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ ロックスイッチによる施錠/解錠

運転席ドアにあるロックスイッチ

ロックスイッチを押すと、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートを施錠/解錠できます。



1. 解錠
2. 施錠

車外からロックスイッチを使って施錠する場合

車外からロックスイッチを使って施錠する場合は、次の条件をすべて満たしてロックスイッチの施錠側を押した後、すべてのドアを閉めてください。

・電源ポジションが OFF のとき
・いずれかのドアが開いているとき

知識

・キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
・ロックスイッチを押して施錠が行なわれた後、キーが車内にある状態でリアゲートが最後に閉まると、リアゲートのみが解錠されます。

リアゲートにあるロックスイッチ (アドバンストキーレス機能装備車)

ロックスイッチを押すと、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートを施錠できます。
また、施錠が行なわれた後、リアゲートが自動で閉まります。



ロックスイッチを使って施錠する場合は、次の条件をすべて満たしてロックスイッチを押してください。施錠が行なわれた後、リアゲートは自動で閉まります。

・キーを携帯しているとき
・電源ポジションが OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき
・リアゲートが自動開閉中ではないとき
・停車しているとき

施錠が行なわれると、非常点滅灯とチャイムが 1 回作動します。
また、リアゲートが閉まる際に、非常点滅灯が 2 回作動してブザーが鳴ります。

パワーリアゲート機能の詳細については、「パワーリアゲートの開閉」を参照してください。
→3-17 ページ 「パワーリアゲートの開閉」

知識

・キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
・ロックスイッチを押して施錠が行なわれた後、キーが車内にある状態でリアゲートが閉まると、リアゲートが解錠されます。

▼ 車速感応式オートドアロック

⚠ 警告

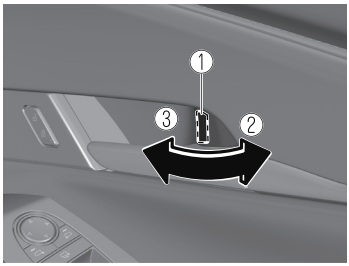
走行中に車内のドアハンドルを引かない。
不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・車速が 20 km/h を超えると、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートが自動的に施錠されます。
・**(マニュアル車)**
電源ポジションを OFF にすると、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートが自動的に解錠されます。
・**(オートマチック車)**
電源ポジションが ON の状態でセレクトレバーを P の位置にすると、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートが自動的に解錠されます。

この機能が作動しないように設定できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ ロックノブによる施錠/解錠

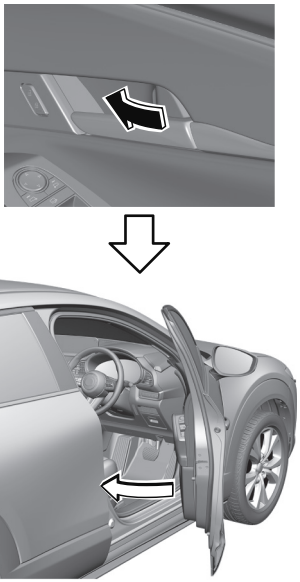
ロックノブを操作したドアを施錠/解錠できます。



1. 解錠時 : 赤色の表示
2. 解錠
3. 施錠

車外からロックノブを使って施錠するとき

ドアを開けた状態でロックノブを施錠側にした後、ドアを閉めると施錠できます。

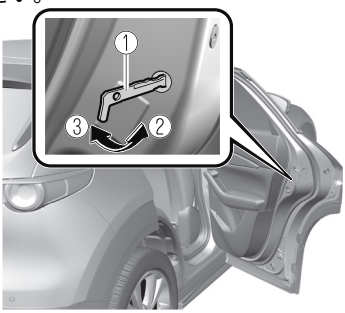


知識

・キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
・電源ポジションが ACC または ON のときに、いずれかのドアまたはリアゲートが開いている状態で運転席ドアのロックノブを施錠側にすると、キーの閉じ込めを防止するためにロックノブが解錠側にはね返ります。
・すべてのドアのノブをロック側に倒して、キーが車内にある状態で全てのドアが閉まると、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートが解錠されます。

▼ チャイルドプルーフの使いかた

お子さまをリアシートに乗せているとき、いたずらなどで不意にドアが開くことを防止できます。
チャイルドプルーフロックを施錠側にして閉めたリアドアは、車内から開けることができません。お子さまの安全のため、両側のリアドアのチャイルドプルーフロックを施錠側にしてください。
チャイルドプルーフロックを施錠側にしたリアドアを開けるときは、車内のロックノブを解錠側にした状態で、車外のドアハンドルを引いてください。



1. 補助キー
   →3-2 ページ「キー」
2. 施錠
3. 解錠

リアゲートの開閉

▼ リアゲートの開閉

⚠ 警告

ラゲッジルーム内に人を乗せない。
急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

リアゲートは必ず閉めてから走行する。
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

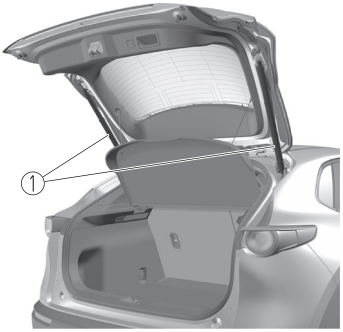
荷物を積むときはそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定する。
走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

⚠ 注意

- リアゲートを開ける前に、リアゲートから雪や氷などの付着物を取り除いてください。リアゲートを開けたときに、雪や氷などの重みでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。
- 強風時にリアゲートを開閉するときは、風にあおられないよう注意して開閉してください。リアゲートが急に閉まり、けがをするおそれがあります。
- リアゲートを開けるときは全開にして、リアゲートが止まることを確認してください。リアゲートを途中で止めると、振動や突風などでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームの荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

- リアゲートのダンパーステーに手をかけるなどして過度の力を加えないでください。ダンパーステーが曲がり、リアゲートの作動に影響をおよぼすおそれがあります。

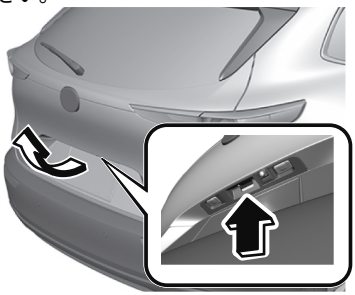


1. ダンパーステー

- リアゲートのダンパーステーを改造または交換しないでください。衝突などで変形または破損した場合や、異常を感じた場合はマツダ販売店へご相談ください。

リアゲートを開けるとき

ドアとリアゲートを解錠した状態で電磁式リアゲートオープナーを押し、リアゲートを持ち上げます。
パワーリアゲートの操作については、3-17 ページの「パワーリアゲートの開閉」を参照してください。



知識

・**(アドバンストキーレス機能装備車)**
  ・キーを携帯した状態で電磁式リアゲートオープナーを押すと、ドアとリアゲートが施錠されていてもリアゲートを開けることができます。
  ・ドアとリアゲートが施錠されている状態から、電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを開けるときは、すぐに解錠されないことがあります。
  ・ドアが施錠されている状態で、車内にキーを入れたままリアゲートを閉めると、リアゲートは閉まりますが、施錠されません。電磁式リアゲートオープナーを押すことにより、リアゲートを開けることができます。この操作をしてもリアゲートを開けることができないときは、リアゲートを押さえつけるようにして完全に閉めてから、電磁式リアゲートオープナーを押して開けてください。
・電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートが少し浮いた後、そのままの状態で一定の時間が経過すると、リアゲートを開閉することができなくなります。その場合、もう一度電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを開けてください。
・バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リアゲートの解錠ができず開けられなくなったときは、応急処置を行なうとリアゲートを開けることができます。
→8-42 ページ「リアゲートが開けられなくなったとき」

リアゲートを閉めるとき

リアゲートをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めてください。リアゲートリセスを使用すると便利です。

パワーリアゲートの操作については、3-17 ページの「パワーリアゲートの開閉」を参照してください。



⚠ 警告

リアゲートを閉めた後は、リアゲートが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にリアゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアゲート開警告表示が表示したまま走行しない。
走行中にリアゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

リアゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

知識

リアゲートを閉めた後は、電磁式リアゲートオープナーを押さずにリアゲートを動かし、半ドアでないことを確認してください。

パワーリアゲートの開閉

▼ パワーリアゲートの開閉

キーのスイッチまたは車両の各種スイッチを操作することにより、リアゲートが自動で開閉します。

⚠ 警告

リアゲートを自動で開閉するときは、リアゲート付近の安全を必ず確認する。
安全確認を怠ると、リアゲートが開くときにリアゲートと障害物の間にはさまったり、リアゲートが閉まるときに車両にはさまれたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

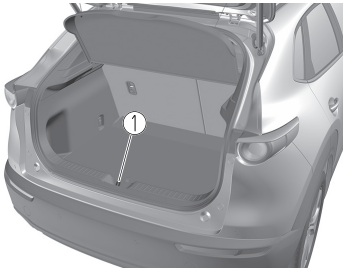
リアゲートを自動で開閉するときは、リアゲートから目を離さない。
障害物などがあると、はさみ込み防止機能により全閉しないことがあります。全閉していない状態で走行すると、人や物が車外に転落するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアゲートを全閉にした状態で車を発進させる。
全閉していない状態で走行すると、人や物が車外に転落するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにスイッチの操作をさせない。
お子さまが誤って操作してリアゲートが不意に開閉すると、お子さまや同乗者の手や頭がはさまれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- リアゲートを閉めるときは、ストライカー付近に異物がないことを確認してください。異物をはさみ込むと、リアゲートが正常に閉まらなくなるおそれがあります。



1. ストライカー

- リアゲートに、この車両専用のアクセサリー用品以外を取り付けないでください。リアゲートが自動で開閉できず、故障につながるおそれがあります。
- リアゲートの開閉が自動から手動に切り替わる際、リアゲートの位置によってはリアゲートが不意に開閉し、けがをするおそれがあります。

知識

- リアゲートが自動で開閉しているときは、リアゲートに無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、リアゲートが反対方向に動くことがあります。また、故障の原因になります。
- 次のような場合は、リアゲートが自動で開閉しないことがあります。
  - 坂道などの傾斜地に停車しているとき
  - 風が強いとき
  - リアゲートに雪が積もっているとき
- 車両整備などでバッテリーの接続を断つときは、リアゲートを全閉してから行なってください。リアゲートが開いた状態でバッテリーの接続を断つと、リアゲートが自動で開閉しなくなります。自動で開閉する機能を復帰させるには、リアゲートを手動で全閉してください。

知識

・バッテリーあがりや電気系統の故障などでリアゲートが開けられないときは、エマージェンシーレバーを使用してリアゲートを開けてください。
→8-42 ページ 「リアゲートが開けられなくなったとき」
・リアゲートを自動で開けるとき、積雪などにより重みを感知すると、ブザーが鳴って反対方向に動いた後、停止します。
・リアゲートに雪が積もっている場合は、リアゲートを自動で開ける前に雪を取り除いてください。

キーのスイッチによる操作

リアゲートを開けるとき

リアゲートを開けるときは、次の条件をすべて満たしてキーのリアゲート開閉スイッチを約 1 秒以上押してください。

・電源ポジションが OFF のとき
・すべてのドア、リアゲートが解錠されているとき
・停車しているとき

→3-2 ページ 「キー」

リアゲートが開く際に、非常点滅灯が 2 回作動してブザーが鳴ります。

知識

設定を変更することにより、すべてのドアおよびリアゲートが施錠されている状態でも、リアゲートを開けることができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

リアゲートを閉めるとき

リアゲートを閉めるときは、次の条件をすべて満たしてキーのリアゲート開閉スイッチを約 1 秒以上押してください。

・電源ポジションが OFF のとき
・停車しているとき

→3-2 ページ 「キー」

リアゲートが閉まる際に、非常点滅灯が 2 回作動してブザーが鳴ります。

知識

リアゲートが自動開閉中にリアゲート開閉スイッチを押すと、ブザーが鳴ってリアゲートが止まります。リアゲート開閉スイッチを再び押すと、リアゲートは反対方向へ動きます。

パワーリアゲート専用スイッチによる操作

作動条件

リアゲートを開けるとき
リアゲートを開けるときは、次の条件をすべて満たして各スイッチを操作してください。

・すべてのドア、リアゲートが解錠されているとき
・停車しているとき
・**(マニュアル車)**
電源ポジションが ON 以外のとき、または、電源ポジションが ON かつパーキングブレーキがかかっている状態で、チェンジレバーが N の位置にあるとき
・**(オートマチック車)**
電源ポジションが ON 以外のとき、または、電源ポジションが ON でセレクトレバーが P の位置にあるとき

リアゲートを閉めるとき
リアゲートを閉めるときは、次の条件をすべて満たして各スイッチを操作してください。

・停車しているとき
・**(マニュアル車)**
電源ポジションが ON 以外のとき、または、電源ポジションが ON かつパーキングブレーキがかかっている状態で、チェンジレバーが N の位置にあるとき
・**(オートマチック車)**
電源ポジションが ON 以外のとき、または、電源ポジションが ON でセレクトレバーが P の位置にあるとき

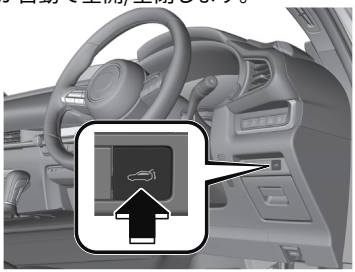
知識

リアゲートが自動で開閉しているときに、チェンジレバー/セレクトレバーを別の位置にして車両を動かすと、リアゲートは次のように作動します。

- **リアゲートが開いている最中のとき**
  ブザーが鳴り、リアゲートが自動で反転して閉まります。
- **リアゲートが閉じている最中のとき**
  ブザーが鳴りますが、リアゲートはそのまま閉まります。

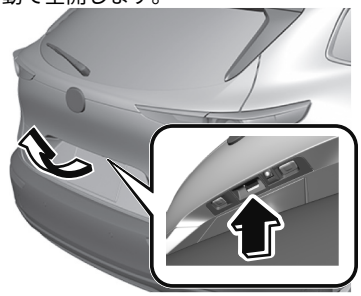
パワーリアゲートスイッチで開閉するとき

パワーリアゲートスイッチを約 1 秒以上押すと、非常点滅灯が 2 回作動して音が鳴り、リアゲートが自動で全開/全閉します。



電磁式リアゲートオープナーで開けるとき

電磁式リアゲートオープナーを押すと、非常点滅灯が 2 回作動してブザーが鳴り、リアゲートが自動で全開します。



キーを携帯して電磁式リアゲートオープナーを押すと、施錠されている状態でもリアゲートを開けることができます。

パワーリアゲートクローズスイッチで閉めるとき

パワーリアゲートクローズスイッチを押すと、非常点滅灯が 2 回作動してブザーが鳴り、リアゲートが自動で全閉します。



ロックスイッチによる操作

リアゲートにあるロックスイッチを押すと、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートが施錠された後、リアゲートが自動で全閉します。
作動条件などの詳細については、「ロックスイッチによる施錠/解錠」を参照してください。
→3-12 ページ 「ロックスイッチによる施錠/解錠」

自動開閉停止機能

自動開閉中のリアゲートを、任意の位置で止めることができます。

リアゲートを止めるとき

次のいずれかの操作をすると、自動開閉中のリアゲートが止まります。

- キーのリアゲート開閉スイッチを押す
- パワーリアゲートスイッチを押す
- 電磁式リアゲートオープナーを押す
- パワーリアゲートクローズスイッチを押す
- リアゲートにあるロックスイッチを押す

知識

全閉位置から約 20cm までの間は、リアゲートを止めることができません。リアゲート自体の重量によって、閉じる方向に動きます。

リアゲートを再度動かすとき

次のいずれかの操作をすると、リアゲートは、停止前に動いていた方向とは逆の方向に動きます。

・キーのリアゲート開閉スイッチを約 1 秒以上押す
・パワーリアゲートスイッチを約 1 秒以上押す
・電磁式リアゲートオープナーを押す
・パワーリアゲートクローズスイッチを押す

リアゲートにあるロックスイッチを押すと、リアゲートは自動で全閉します。

リアゲートの全開位置変更

お客様の車庫の高さなどにあわせて、リアゲートの全開位置を変えることができます。

全開位置を変更するとき

1. リアゲートをお好みの位置で止めます。
2. パワーリアゲートクローズスイッチを約 3 秒以上押します。ブザーが 2 回鳴り、変更が完了したことをお知らせします。

知識

リアゲートの全開位置は、リアゲートが半分以上開いている位置で設定してください。半分よりも開いていない位置には変更できません。

リセットするとき

1. リアゲートを開けます。
2. パワーリアゲートクローズスイッチを約 7 秒以上押します。ブザーが 3 回鳴り、リセットが完了したことをお知らせします。

知識

スイッチを押し始めてから約 3 秒後にブザーが 2 回鳴りますが、これはリアゲートの全開位置の変更をお知らせするためのブザーです。リセットを完了させるためには、約 7 秒間スイッチを押し続けてください。

リアゲートイージークロージャー

イージークロージャーは、リアゲートが閉まるのを補助する装置です。
リアゲートを半ドア位置まで閉めると、自動的に全閉位置まで閉まります。

⚠ 注意

- リアゲートを閉めるときは、指などをはさまないように注意してください。半ドア位置まで閉めると自動的に全閉位置まで閉まるため、指などをはさむとけがをするおそれがあります。
- リアゲートを閉めるときは、無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、システムの故障の原因になります。

知識

リアゲートの開閉を短期間に繰り返すと、イージークロージャーが作動しないことがあります。約 2 秒待ってから閉めなおしてください。

はさみ込み防止機能

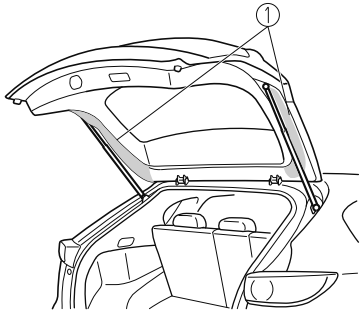
人や障害物を感知して、リアゲートにはさみ込まれることを防止します。
リアゲートの自動開閉中に人や障害物などのはさみ込みを感知すると、ブザーが鳴ってリアゲートが反対方向へ動いた後、停止します。

⚠ 警告

リアゲートを閉める前に、リアゲート付近に人や障害物がないことを必ず確認する。
はさみ込み防止機能は、万一のときに人や障害物を感知してリアゲートにはさまれることを防ぐためのものです。また、はさまれかたや形状によっては、はさみ込みを感知できない領域があります。特にお子さまには十分気をつけてください。指などをはさむとけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

リアゲートの両端にはセンサーがついています。センサーを鋭利なもので傷つけないようにしてください。センサーが切断されると、リアゲートを自動で開閉できなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、リアゲートは停止します。



1. センサー

知識

半ドア位置から全閉位置までのイージークロージャー作動中、はさみ込み防止機能は作動しません。

トノカバーの使いかた

▼ トノカバーの使いかた

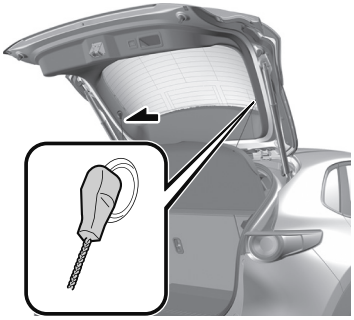
⚠ 警告

トノカバーの上には、荷物を置かない。
荷物を置いたまま走行すると、急ブレーキ時などに荷物が移動して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

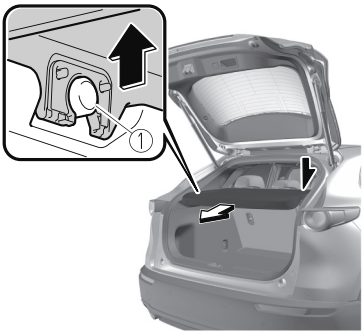
トノカバーが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないまま使用すると、走行中不意にトノカバーがはずれて、けがをするおそれがあります。

ストラップをリアゲートのフックにかけておくと、リアゲートと同時に開閉します。



▼ トノカバーを取りはずすとき

1. フックからストラップをはずします。
2. トノカバーのピンに近い部分を上方向に押して、トノカバーをピンからはずします。



1. ピン

3. トノカバーの前側を持ち上げ、トノカバーをはずします。

給油するとき

▼ 給油するとき

燃料計が“E”に近づいたら、早めに給油してください。
エンジン性能を最大限に発揮させるために、指定された燃料を使用してください。
→10-3 ページ「燃料」

⚠ 警告

- **給油するときは必ず次のことを守る。**
  - エンジンを止める。
  - タバコなどの火気を給油口に近づけない。
  - こぼれた燃料はすみやかにふき取る。

  燃料や燃料蒸気は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
- **給油を行なう前に、車体の金属部分に触れて体の静電気を除去する。**
  放電による火花で、燃料に引火したり、やけどしたりするおそれがあります。
- **給油中は必ず次のことを守る。**
  - 給油はひとりで行ない、給油口に他の人を近づけない。
  - 車内にもどったり、帯電している人や物に触れたりしない。
  - 携帯電話やスマートフォン、その他電子機器などを使用しない。

  再帯電により、燃料に引火したり、やけどしたりするおそれがあります。
- **フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なう。**
  放電による火花で、燃料に引火したり、やけどしたりするおそれがあります。
- **フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから開ける。**
  急に開けると燃料が噴き出すことがあるため、火災につながったり、目や皮膚に付着したりして、傷害につながるおそれがあります。
- **気化した燃料を吸い込まないようにする。**
  燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

⚠ 警告

- **給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。**
  給油ノズルの挿入が浅いと給油の自動停止が遅れるため、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- **給油の自動停止後は、追加給油しない。**
  追加給油をすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- **給油の自動停止後は、すぐに給油ノズルを引き抜かない。**
  給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出て、火災につながるおそれがあります。
- **フューエルキャップは確実に閉める。**
  フューエルキャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-X 2.0)

- 指定燃料以外の燃料を使用したり、純正以外の燃料添加剤を使用したりしないでください。
  有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、たとえば次のような悪影響をおよぼします。
  - エンジンや燃料系部品の損傷 (最悪の場合、車両火災)
  - エンジンの出力低下や始動性能の悪化

(SKYACTIV-D 1.8)

- 指定燃料以外の燃料を使用したり、燃料添加剤や水抜き剤を使用したりしないでください。
  ガソリンや灯油、混合率が 5%を超えるバイオディーゼル燃料、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、たとえば次のような悪影響をおよぼします。
  - エンジンや燃料系部品の損傷 (最悪の場合、車両火災)
  - エンジンの出力低下や始動性能の悪化
- 給油するときは、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

⚠ 注意

- 給油するときは、ドアや窓を必ず閉めてください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。
- 純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。
- 自動洗車機や高圧洗車機を使うときは、フューエルリッドが閉まっていることを確認してドアを施錠してください。フューエルリッドが意図せず開いて損傷するおそれがあります。

▼ 給油のしかた

給油するときは、すべてのドア、窓ガラス、リアゲートを閉めて、電源ポジションを OFF にしてください。

1. 次のいずれかを使って、ドアを解錠します。
   - リモートコントロール機能
     →3-9 ページ「キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能装備車)」
     →3-11 ページ「キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能非装備車)」
   - タッチセンサー
     →3-9 ページ「キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能装備車)」
   - ロックスイッチ
     →3-12 ページ「ロックスイッチによる施錠/解錠」
   - 車速感応式オートドアロック機能
     →3-13 ページ「車速感応式オートドアロック」

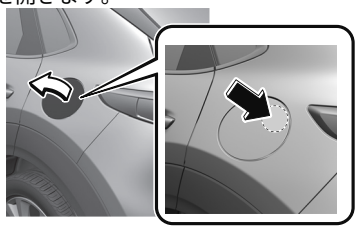
知識

- ドアを解錠すると、フューエルリッドも同時に解錠されます。
- ドアを施錠すると、90 秒後にフューエルリッドが施錠されます。
- ドアを施錠してからフューエルリッドが施錠されるまでの時間を変更できます。
  →マツダコネクト取扱書 「設定」

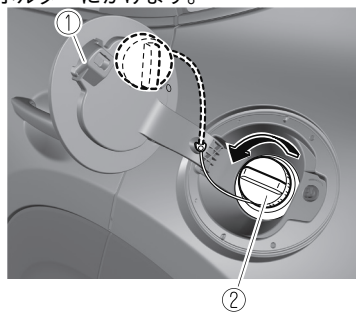
知識

- ただし、次の機能によってドアが施錠されるときは、ドアの施錠と同時にフューエルリッドも施錠されます。
  - 車速感応式オートドアロック機能
    →3-13 ページ「車速感応式オートドアロック」
  - オートリロック機能
    →3-9 ページ「キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能装備車)」
    →3-11 ページ「キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能非装備車)」

2. 図に示す箇所を押して、フューエルリッドを開きます。



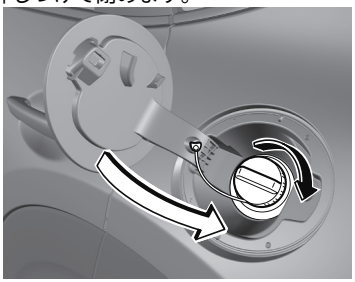
3. フューエルキャップをゆっくり左にまわして開けます。
4. フューエルキャップをフューエルリッドのホルダーにかけます。



1. フューエルリッド
2. フューエルキャップ

5. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油します。給油が自動で停止したら、ノズルを抜きます。
6. フューエルキャップを右にまわし、カチッと 1 回音がするまで締め付けます。

7. カチッと音がするまでフューエルリッドを押しつけて閉めます。



8. 車から離れるときは、必ずドアを施錠してください。

知識

- フューエルリッドを閉めた後に、ドアを施錠してください。
  ドアを施錠した後にフューエルリッドを閉めると、フューエルリッドは施錠されません。
- **(SKYACTIV-X 2.0)**
  無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、エンジンの性能を十分発揮できないことがあります。また、エンジン始動時やアクセルペダルを踏み込んだときに、異音が聞こえることがあります。

ミラーの操作

▼ ミラーの操作

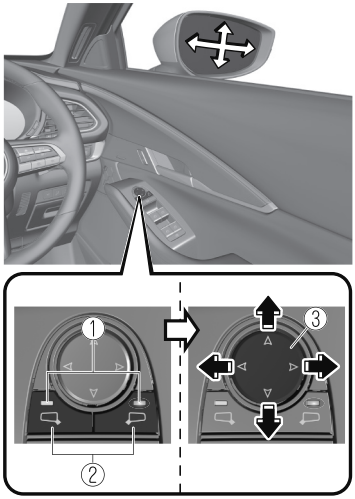
⚠ 警告

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ ドアミラーの操作

ドアミラーの角度調節

電源ポジションが ACC または ON のときに、ドアミラーの角度を調節できます。
1. 調節するドアミラー側の選択スイッチを押して、表示灯を点灯させます。
2. 調節スイッチを操作して、ドアミラーの角度を調節します。



1. 表示灯
2. 選択スイッチ
3. 調節スイッチ

ドアミラーの角度を調節した後は、調節したドアミラー側の選択スイッチを押して、表示灯を消灯させてください。

知識

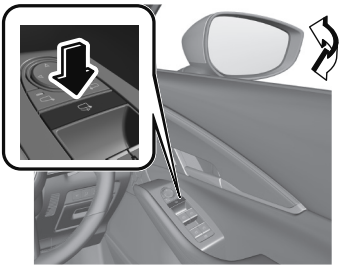
(ドライビングポジションメモリー機能装備車)
ドライビングポジションメモリー機能に、ドアミラーの角度を記憶させることができます。
→2-7 ページ「ドライビングポジションメモリー機能」

ドアミラーの格納/展開

⚠ 注意

ドアミラーは格納スイッチで操作してください。手動で操作すると、ドアミラーが固定されず後方確認ができなくなることがあります。

電源ポジションが ACC または ON のときに格納スイッチを押すと、ドアミラーが格納/展開されます。



自動格納機能

電源ポジションが OFF のときにドアを施錠/解錠すると、ドアミラーが自動的に格納/展開されます。
ドアミラーが格納されているときに、電源ポジションを ON またはエンジンをかけると、ドアミラーが自動的に展開されます。

知識

・寒冷時には、ドアミラーが自動的に格納/展開されないことがあります。
自動的に格納/展開されない場合は、氷や雪を取り除いてから格納スイッチを押し、ドアミラーを格納/展開してください。
・自動格納機能の ON/OFF を切り替えることができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
・次の場合は、ドアミラーが自動的に展開しなくなります。格納スイッチを押して、ドアミラーを展開してください。
・格納スイッチを押してドアミラーを格納したとき*1
・ドアミラーが自動で格納した後に、バッテリー端子をはずしたとき

*1 ドアミラーを格納した後に、自動格納機能を OFF から ON に変更すると、ドアミラーが自動で展開するようになります。

キー OFF 後作動機能

電源ポジションを ON から OFF にした後でも、約 40 秒間はドアミラーの角度調節や格納/展開をすることができます。

リバース連動ドアミラー機能*

車両後退時に、ドアミラーを自動的に下向きにすることができます。後退を終えると、ドアミラーはもとの角度に戻ります。

1. 電源ポジションを ON にします。
2. 下向きにしたいドアミラー側の選択スイッチを押して、選択スイッチの表示灯を点灯させます。
3. チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると、選択スイッチを押した側のドアミラーが下向きになります。

知識

次のいずれかの条件を満たすと、ドアミラーがもとの角度にもどります。

・電源ポジションを ON 以外にしたとき
・チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置以外にしたとき
・選択スイッチをもう一度押したとき

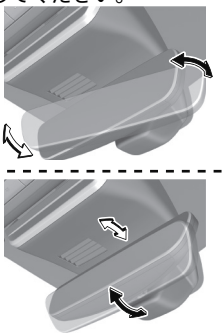
自動防眩機能*

オートタイプルームミラーの防眩機能と連動して、運転席側のドアミラーのみ後続車のヘッドランプの光を軽減します。

▼ ルームミラーの操作

ルームミラーの角度/高さ調節

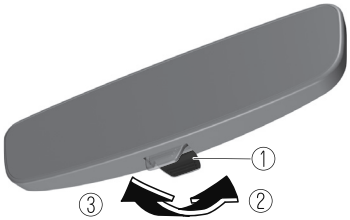
ミラー本体を動かして、後方を十分確認できるように調節してください。



防眩機能

マニュアルタイプ

通常はレバーを押した状態にしてください。
夜間などに後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いてください。



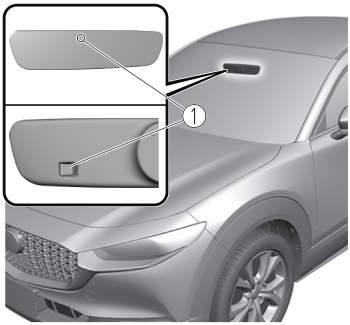
1. レバー
2. 昼間
3. 夜間

オートタイプ

電源ポジションが ON のとき、後続車のヘッドランプの光を自動的に軽減します。

知識

・**センサーについて**
センサーをガラスクリーナーでふいたり、ステッカーやカバーなどで覆ったりしないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。



1. センサー

・電源ポジションが ON のときにチェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると、防眩機能は一時停止します。

窓ガラスの開閉

▼ 窓ガラスの開閉

⚠ 警告

窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。
特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにパワーウインドースイッチを操作させない。
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。
お子さまが誤ってパワーウインドースイッチを操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

窓から手や顔を出させない。
走行中にお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物にあたったり、急ブレーキを踏んだりしたとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないことがあるため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

- 窓ガラスが閉まりきる直前
- スイッチを引き続けたままの状態

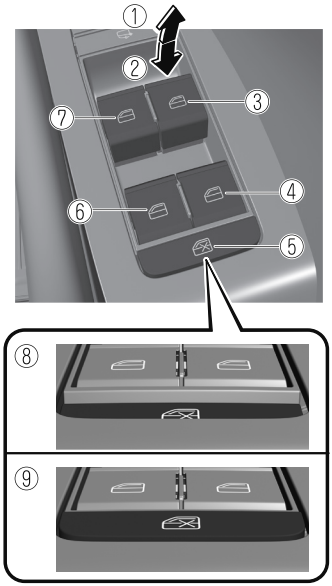
知識

後席の片側の窓ガラスだけ開けて走行するとき、耳を圧迫するような音がする場合がありますが、異常ではありません。前席の窓ガラスを少し開ける、もしくは、後席の窓ガラスの開き具合を変えると、音を軽減することができます。

▼ 窓ガラスの開閉のしかた

電源ポジションが ON のときにパワーウインドースイッチを操作すると、窓ガラスを開閉できます。
パワーウインドースイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。
3 つ以上の窓ガラスを同時に開閉しないようにお使いください。
助手席と後席の窓ガラスは、運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているときに開閉できます。

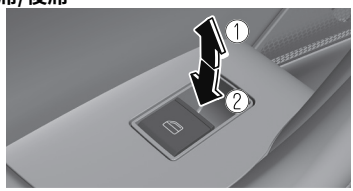
運転席



1. 閉める
2. 開ける
3. 運転席側スイッチ
4. 後席右側用スイッチ
5. パワーウインドーロックスイッチ
6. 後席左側用スイッチ

7. 助手席側スイッチ
8. ロック
9. アンロック

助手席/後席



1. 閉める
2. 開ける

知識

パワーウインドースイッチを長時間操作し続けると、窓ガラスを開閉できなくなることがあります。
窓ガラスを開閉できないときは、しばらく待ってから再度スイッチを操作してください。

自動開閉機構

パワーウインドースイッチを操作し続けなくても、窓ガラスを全開/全閉できます。
パワーウインドースイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。
窓ガラスの開閉を途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作してください。

知識

自動開閉機構が作動しなくなったときは
窓ガラスが全閉していない状態でパワーウインドースイッチを何度も操作すると、自動開閉機構が作動しなくなることがあります。
次の操作で復帰させてください。
1. 電源ポジションを ON にします。
2. パワーウインドースイッチを押して窓ガラスを全開にします。
3. パワーウインドースイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続けます。

キー OFF 後作動機能

電源ポジションを ACC または OFF にした後でも、約 40 秒間は全席の窓ガラスを開閉できます。

▼ はさみ込み防止機構

窓ガラスが閉まる途中に、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが停止し、少し開きます。

知識

・次のようなときも、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  ・窓ガラスが閉まる途中に強い衝撃を感知したとき
  ・極低温下で窓ガラスを閉めたとき
・**窓ガラスを閉められないときは**
はさみ込み防止機構が作動して窓ガラスを閉められないときは、窓枠の周囲に異物がないか確認してください。
窓枠の周囲に異物がなければ、次の操作で窓ガラスを強制的に閉めてください。
1. 電源ポジションを OFF にしてから、45 秒以上待ちます。
2. 電源ポジションを ON にします。
3. はさみ込み防止機構が作動して窓ガラスが止まるまで、窓ガラスを閉める方向にスイッチを操作します。この作業を計 5 回繰り返します。
4. スイッチを引き上げ続けて、窓ガラスを全閉にします。

電動スライドガラスサンルーフの操作*

▼ 電動スライドガラスサンルーフの操作

前席頭上のチルト/スライドスイッチを操作するとサンルーフの開閉ができます。

⚠ 警告

サンルーフを閉めるときは、同乗者の手や頭などをはさまないように注意する
万一、手や頭をはさむと、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにチルト/スライドスイッチの操作をさせない。
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

走行中は、開口部から手や頭などを出さない
走行中に車外のものにあたったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

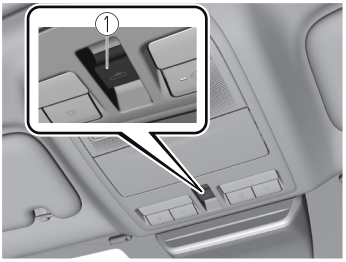
⚠ 注意

- サンルーフの開口部に腰をかけたり、重い荷物をのせないでください。サンルーフが破損するおそれがあります。
- 凍結時や降雪時には無理に開閉しないでください。故障につながるおそれがあります。
- サンルーフが閉まりきる直前は、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。
- サンシェードは、チルト開閉できません。サンルーフ後部が開いている場合は、サンシェードを押し上げないでください。無理に押し上げようとすると、サンシェードが破損するおそれがあります。
- サンルーフが開いているときは、サンシェードを閉めないでください。無理に閉めようとすると、サンシェードが破損するおそれがあります。

▼ サンルーフのチルト/スライド操作

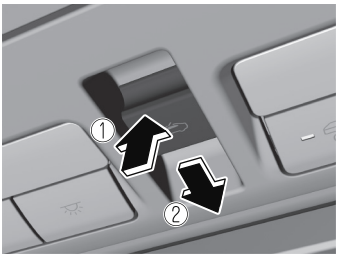
電源ポジションが ON のとき使用できます。

- 車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉まっていることを確認してください。
- 降雨後や洗車後または積雪時にサンルーフを開けるときは、ルーフ上の水や雪を除去してください。室内に水や雪がはいることがあります。



1. チルト/スライドスイッチ

サンルーフのチルト操作

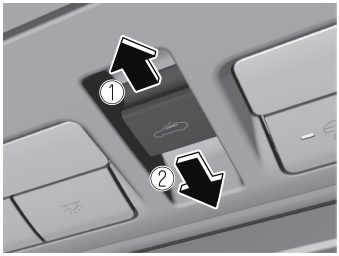


1. 上がる
2. 閉まる (下がる)

チルト/スライドスイッチを押すとサンルーフ後部が上に開き、前側に押すと閉まります。

- 途中で止めるには、再度スイッチを操作してください。
- サンルーフがスライドで開いているときは、閉めてからスイッチ操作をしてください。

サンルーフのスライド操作



1. 開く
2. 閉まる

チルト/スライドスイッチを後側に引くと全開し、前側に押すと全閉します。

・途中で止めるには、再度スイッチを操作してください。
・サンルーフがチルトで開いているときは、閉めてからスイッチ操作をしてください。

知識

サンルーフが正常に作動しないときは、次の操作をおこなってください。

1. 電源ポジションを ON にします。
2. チルト/スライドスイッチを押してサンルーフの後側を少し上に開けます。 (チルト操作)
   サンルーフが開いた状態からスイッチを押した場合は、いったんサンルーフが全閉したあと、後ろ側が上に開きます。
3. 手順 2 をくり返し行なって、サンルーフの後側が完全に上に開くまでチルト/スライドスイッチを押します。その後サンルーフが少し閉まります。

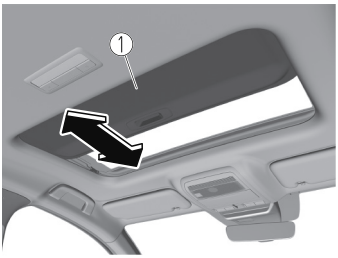
▼ はさみ込み防止機構

サンルーフを自動で閉めているときに異物のはさみ込みを感知すると、自動的にサンルーフが停止し、途中まで開きます。

知識

・サンルーフの初期設定をしていないときは、はさみ込み防止機構は作動しません。
・はさみ込み防止機構が作動し、サンルーフを自動で閉めることができないときは、サンルーフとその枠との間に異物がないかを確認し、スイッチを押し続けてサンルーフを閉めてください。
・次のようなときに、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  ・サンルーフを閉めている途中で強い衝撃を感知したとき
  ・極低温下でサンルーフを閉めたとき

▼ サンシェードの使いかた



1. サンシェード

手動で開閉できます。
スライド操作でサンルーフを開くときのみ、連動して開きます。

イモビライザーシステム

▼ イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにする車両盗難防止装置です。
キーの電池が切れていたり、故障したりしているときは、電池切れ時のエンジン始動手順を行なうとイモビライザーシステムが解除され、エンジンを始動できます。

⚠ 注意

キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。
- 磁気を帯びた製品を近づけないでください。
- インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になるところに放置しないでください。

▼ システムの作動

電源ポジションを ON から ACC または OFF にすると、システムが作動してセキュリティ表示灯が点滅します。



▼ システムの解除

登録されたキーで電源ポジションを ON にすると、システムが解除されてエンジンを始動できます。このとき、セキュリティ表示灯は約 3 秒間点灯した後消灯します。

エンジンが始動しないときは

次のような場合は、エンジンの始動ができない場合があります。

- キーを (車内でも) 感知しにくい場所に置いている。
- 携帯電話、テレビ、ラジオ、トランシーバーなどからの電波でシステムが影響を受けている。

処置方法

一度、電源ポジションを OFF にもどし、キーを別の場所に置いて、再度エンジンを始動してください。
→3-6 ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
→3-5 ページ「キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯/点滅したままなど)、一度電源ポジションを OFF にもどし、しばらく待ってから再度エンジンを始動してください。
3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

キーを追加するときは

- キーを紛失したときのために、スペアのキーを保管しておいてください。
- キーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でキーを追加することはできません。

キーを紛失した場合は、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。登録されていないキーではエンジンを始動することができません。

MEMO

4 運転のアドバイス

安全なドライブのための運転のアドバイス

安全なドライブのために..... 4-2
お出かけ前に.....4-2
運転するとき.....4-2
こんなことにも注意.....4-3
駐停車するとき.....4-5
お子さまを乗せるとき..... 4-6

安全に運転をしていただくために 4-7
積雪、寒冷時の取り扱い..... 4-7

さまざまな状況での運転のときは 4-8
悪天候での運転.....4-8

環境保護のために.....4-10
経済的な運転.....4-10

お出かけ前に

▼ ルーフの上に直接荷物を積まない

ルーフの上に直接荷物を積まないでください。荷くずれを起こすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

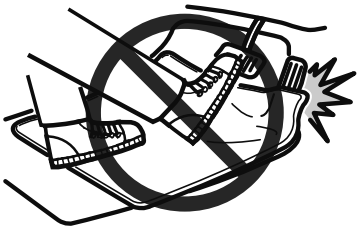
▼ 可燃物、危険物は積まない

燃料の入った容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

▼ 運転席足元には物を置かない

運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると、ペダルを正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ フロアマットは車に合ったものを使用する



フロアマットは純正品を使用することをおすすめします。
フロアマットは車に合ったものを使用し、大きすぎるフロアマットを使用しないでください。

フロアマットを車に敷くときは次の点を守ってください。

・フロアマットは重ねて使用しない。
・フロアカーペットの上のフックでしっかり固定して使用する。

守られていないと、フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかったりなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転するとき

▼ 坂道ではエンジンブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。
下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。
エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよく効きます。

▼ 走行中はセレクトレバー/チェンジレバーをニュートラルの位置にしない

エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。また、オートマチック車はトランスミッションの故障につながります。

▼ すべりやすい路面では慎重に運転する

ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態 (ハイドロプレーニング現象) になるおそれがあります。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストをするだけではなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中にひたってしまったときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

▼ 水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行した後や洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いたりして、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

▼ 横風が強いときは慎重に運転する

横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

・クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
・ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

▼ ブレーキ操作は右足で

・ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
・アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

こんなことにも注意

▼ 発進時には安全を十分確認する

発進時は周囲の状況に十分注意してください。

・信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
・後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

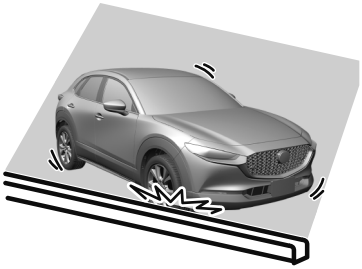
▼ 路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーやマフラーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

・車止めのある場所への駐車



・路肩に沿っての駐車



・路肩など段差のある場所への乗り降り



・駐車場など急な坂道への出入り



・凸凹やわだちのある道路の走行





▼ アクセサリーを取り付けない

フロントガラスや窓ガラス、また、その周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、アクセサリーの吸盤が凸レンズの働きをして、火災につながるおそれがあります。

▼ 一酸化炭素中毒に気をつける

自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色/無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい/吐き気/頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなります。また、症状によっては死に至ることがあります。万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたりしたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を手動で外気導入にして新鮮な外気を取り入れてください。そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

▼ ライターやメガネを車内に放置しない

炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こしたりすることがあります。

▼ ターボ車の特性 (SKYACTIV-D 1.8)

ターボ装置は、エンジンに多量の空気を過給することにより大きな出力を得る装置で、非常に精密に作られています。
またその潤滑や冷却は、エンジンオイルによって行なわれています。
ターボ装置の故障を防ぐため、次の点を守ってください。

・エンジンオイル、オイルフィルターは必ず指定された期間で交換してください。
・エンジン始動直後の空ふかし、急加速は行なわないでください。
・ターボ装置の冷却のため、高速走行や登坂走行の直後は、エンジンを停止する前にアイドリング運転を行なってください。ただし、i-stop が作動したときはアイドリング運転は不要です。

運転状況	アイドリング時間
市街地などの一般走行	不要
高速走行	約 1 分
特殊な連続走行または急な登坂走行	約 2 分

駐停車するとき

▼ 燃えやすい物のそばに車を止めない

車を止める時には、次の点を守ってください。

・そばに枯れ草など、燃えやすいものがない場所に止めてください。走行した後は排気管が高温になっているため、火災につながるおそれがあります。
・壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくと火災につながったりするおそれがあります。

▼ 仮眠するときはエンジンを止める

エンジンをかけたままで仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー/セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入したりして、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

▼ 長時間停車するときは空調を外気導入にする

エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を手動で外気導入にしてください。空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入りやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

▼ 換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない

換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所など、換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へ入りやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

▼ 坂道駐車はパーキングブレーキをかける

坂道での駐車は、パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを 1 または R の位置 (マニュアル車)/セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車)に入れてください。
急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 車の移動はエンジンをかける

車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

▼ ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

▼ 車から離れるときはパーキングブレーキをかけ、施錠する

車から離れるときは、エンジンを止め、パーキングブレーキがかかっていることを確認して、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

お子さまを乗せるとき

▼ 車から離れるときはお子さまも一緒につれていく

車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

・お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
・炎天下の車内は大変高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。重症化すると、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

積雪、寒冷時の取り扱い

▼ お車に乗る前に

ルーフに雪が積もっているときは

・走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
走行前に取り除いてください。

ガラスに雪や霜が付いているときは

⚠ 注意

ガラスに直接熱湯をかけないでください。熱湯をかけると、ガラスが破損するおそれがあります。

・視界を確保するため、雪や霜を取り除いてください。
・プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。
プラスチックの板などを使用するときはガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは

⚠ 注意

ガラスに直接熱湯をかけないでください。熱湯をかけると、ガラスが破損するおそれがあります。

・ワイパー、パワーウインドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合は、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かしてから操作してください。
無理に動かそうとすると故障の原因になります。
・ドアが凍結しているときは、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かしてから開けてください。
無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷したりするおそれがあります。
・ドアのキー穴部にはぬるま湯をかけないでください。凍結してキーが差し込めなくなるおそれがあります。
・ぬるま湯をかけた後は、すぐに水分をふき取ってください。

▼ お車に乗るときは

靴に付いた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

悪天候での運転

▼ 雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。
このようなときは、吹き出し口を に設定します。吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

⚠ 警告

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路は

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中にひたってしまったときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

▼ 積雪、寒冷時の運転

すべりやすい路面を走行するときは

早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
→7-37 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意

走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。
ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

駐車するときは



- 寒冷時はパーキングブレーキをかけると凍結して解除できなくなるおそれがあります。
  パーキングブレーキは使わず、チェンジレバーを 1 または R の位置 (マニュアル車)/セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車) に入れてタイヤに輪止めをしてください。
  →5-63 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB)」
- ボンネット側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。

⚠ 注意

ワイパーアームを立てるときは、サービスポジションにしてワイパーアームを立ててください。
→7-17 ページ「ワイパーブレードの交換をするときは」
また、降ろすときはワイパーアームに手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムで覆ってあります。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

経済的な運転

▼ 経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

▼ アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車のときにもエンジンを止めましょう。10 分間のアイドリングで、130cc 程度の燃料を浪費します。

▼ 不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。
100 kg の不要な荷物を載せて走ると、3 %程度燃費が悪化します。

▼ 空ぶかしをしない

空ぶかしをやめると、燃料を節約できます。
空ぶかしは環境にも車にもよくありません。

▼ エアコンの使用はひかえめに

エアコンの使用をひかえると、燃料の節約になります。外気温 25°Cの時に、エアコンを使用すると、12%程度燃費が悪化します。

▼ タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。
タイヤの空気圧が適正値より 50 kPa (0.5 kg/cm^2) 不足した場合、市街地で 2%程度、郊外で 4%程度、それぞれ燃費が悪化します。

▼ ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。
速度にムラのある走り方をすると、市街地で 2%程度、郊外で 6%程度燃費が悪化します。

▼ 経済的速度

一般道路で 40 km/h、高速道路で 80 km/h 程度の等速走行が経済的です。

▼ アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時 (オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき (ガソリンエンジン車)

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

一定速度のとき (ガソリンエンジン車)

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。
アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

▼ WLTC モード燃費について

「WLTC モード」とは

「市街地モード (WLTC-L) 」、「郊外モード (WLTC-M) 」、「高速道路モード (WLTC-H) 」の３つの走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な燃費試験方法です。
WLTC とは Worldwide-harmonized Light vehicles Test Cycle (世界統一試験サイクル) モードの略称です。

知識

WLTC モードは従来の JC08 モードよりも実際の走行環境に近い燃費試験方法です。

市街地モード (WLTC-L)	信号や渋滞などの影響を受ける比較的低速な走行を想定
郊外モード (WLTC-M)	信号や渋滞などの影響をあまり受けない走行を想定
高速道路モード (WLTC-H)	高速道路などでの走行を想定

ただし、お客様の使用環境 (気象、渋滞など) や運転方法 (急発進、エアコン使用など) に応じて燃料消費率は異なります。

5 運転するときに

運転するときに必要な操作と取り扱い

エンジンの始動と停止..... 5-4
電源ポジション (エンジンスイッチ)..... 5-4
エンジンの始動..... 5-5
エンジンの停止..... 5-8
i-stop について..... 5-9

メーター、警告灯、表示灯の見方 5-15
メーター、表示..... 5-15
メーター..... 5-15
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)..... 5-32
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ..... 5-34

M ハイブリッドについて..... 5-36
M ハイブリッドとは*..... 5-36

マニュアルトランスミッションの使いかた..... 5-40
マニュアルトランスミッション 5-40

オートマチックトランスミッションの使いかた..... 5-42
オートマチック車の特性..... 5-42
各位置の働き..... 5-42
セレクトレバーの操作..... 5-43
シフトロック装置..... 5-44
マニュアルモード..... 5-44
ダイレクトモード..... 5-48
オートマチック車を運転するときに..... 5-48

スイッチの使いかた..... 5-51
ヘッドランプスイッチ..... 5-51
リアフォグランプスイッチ* 5-55
方向指示器..... 5-55
フロントワイパー/ウォッシャースイッチ..... 5-56
リアワイパー/ウォッシャースイッチ..... 5-59
ヘッドランプウォッシャースイッチ*..... 5-60
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ..... 5-60
ホーン..... 5-62
非常点滅灯スイッチ..... 5-62

ブレーキ..... 5-63
ブレーキの操作..... 5-63
オートホールド..... 5-66
エマージェンシーシグナルシステム (ESS)..... 5-70
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) とは..... 5-70

ABS/TCS/DSC/オフロード・トラクション・アシストについて..... 5-72
ABS とは..... 5-72
TCS とは..... 5-73
DSC とは..... 5-74
オフロード・トラクション・アシストとは (AWD 車)..... 5-75

ドライブセレクションについて 5-77
ドライブセレクションとは*..... 5-77

i-ACTIV AWD.....5-79
i-ACTIV AWD*..... 5-79

i-ACTIVSENSE について.....5-80
i-ACTIVSENSE とは..... 5-80
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) とは*.....5-84
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは*.....5-85
車線逸脱警報システムとは 5-87
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは..... 5-90
交通標識認識システム (TSR) とは*..... 5-94
ディスタンス & スピード・アラート (DSA) とは.....5-100
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは.....5-101
ドライバー・モニタリングとは*.....5-102
前側方接近車両検知 (FCTA) とは*.....5-104
後側方接近車両検知 (RCTA) とは 5-106
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは (マニュアル車)..... 5-109
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは (オートマチック車)..... 5-116
クルージング& トラフィック・サポート (CTS) とは*.....5-125
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) とは.....5-138
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは.....5-141
スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R) とは.....5-143
スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) とは 5-146
AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは*.....5-149
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは*.....5-153
360° ビュー・モニターとは*..... 5-155
フォワードセンシングカメラ (FSC) について.....5-183
フロントレーダーセンサーについて.....5-186
フロントサイドレーダーセンサーについて*..... 5-188
リアサイドレーダーセンサーについて.....5-189
フロント超音波センサーについて*.....5-190
リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーについて.....5-190
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ*.....5-191
ドライバー・モニタリングカメラ*.....5-191

クルーズコントロールについて 5-192
クルーズコントロールとは..... 5-192

ガソリンパティキュレートフィルターについて.....5-195
ガソリンパティキュレートフィルターとは (SKYACTIV-X 2.0)..... 5-195

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について.....5-196
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは (SKYACTIV-D 1.8)..... 5-196

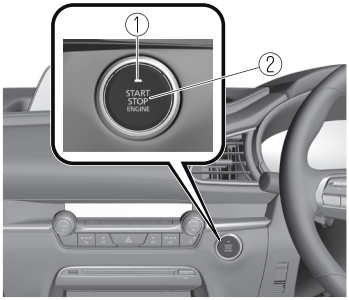
バックガイドモニターについて 5-197
バックガイドモニターとは*..... 5-197

駐車支援システムについて..... 5-205
駐車支援システムとは.....5-205

電源ポジション (エンジンスイッチ)

▼ 各位置の働き

クラッチペダル (マニュアル車)/ブレーキペダル (オートマチック車)を踏まない状態で、プッシュボタンスタートを押すごとに OFF、ACC、ON の順に電源ポジションが切り替わります。ON からもう一度、プッシュボタンスタートを押すと OFF へもどります。



1. 表示灯
2. プッシュボタンスタート

電源ポジション	働き
OFF	プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、消灯します。
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどの電装品が使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、点灯します。
ON	すべての電装品が使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、点灯します。 (エンジン回転中は、プッシュボタンスタートの表示灯は消灯します。)

知識

- ハンドルがロックされているときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅します。ハンドルを左右に動かしながら、プッシュボタンスタートを押して、ハンドルのロックを解除してください。
- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-X 2.0)**
  プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションを ON のまま放置したりしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。電源ポジションを ACC (オートマチック車は、セレクトレバーが P の位置になっていること) で放置した場合は、約 25 分間で電源ポジションが OFF になります。
- クラッチペダル (マニュアル車)/ブレーキペダル (オートマチック車)をいっぱいに踏み込んだ状態で、プッシュボタンスタートを押すとエンジンが始動します。電源ポジションの切り替えを行なう場合は、ペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してください。

エンジンの始動

▼ エンジンをかける前に

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
3. 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→2-3 ページ「運転席の操作」

▼ クラッチスタートシステムについて (マニュアル車)

クラッチスタートシステムとは、クラッチペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してもエンジンを始動させない装置で、車が動き出すのを防止します。
エンジンを始動するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。

知識

エンストで動けなくなったとき
ギヤを入れたままプッシュボタンスタートを押し続けても車は動きません。
→8-4 ページ「エンストで動けなくなったとき」

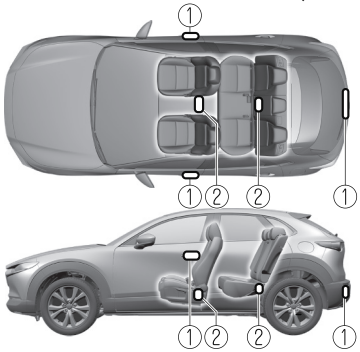
▼ エンジンをかけるとき

⚠ 警告

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内・車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

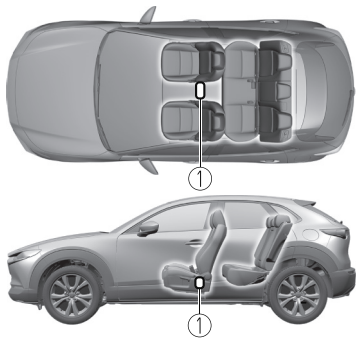
⚠ 警告

(アドバンストキーレス機能装備車)



1. 車外アンテナ
2. 車内アンテナ

(アドバンストキーレス機能非装備車)



1. 車内アンテナ

次にある以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。

- 植え込み型心臓ペースメーカー
- 植え込み型除細動器

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

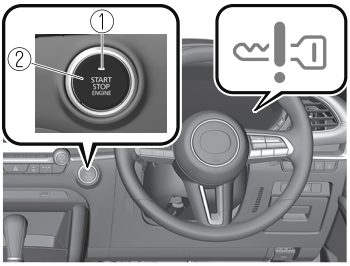
⚠ 警告

プッシュボタンスタートシステム機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。
ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。 また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

知識

・キーは必ず運転者が携帯してください。
・電源ポジションの状態 (OFF、ACC、ON) に関係なく、エンジンを始動できます。

1. キーを携帯していることを確認します。
2. エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。
3. マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。
4. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) とメーター内の KEY 表示灯 (緑) が点灯するのを確認します。
   プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅するときは、キーの電池切れなどが考えられます。
   →5-7 ページ「キーが電池切れしたときのエンジン始動」



   1. 表示灯
   2. プッシュボタンスタート
5. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯している状態でプッシュボタンスタートを押します。

⚠ 注意

プッシュボタンスタートに異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

・次のようなときは、メーター内の KEY 警告灯 (赤) が点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示され、エンジンをかけることができません。



  ・キーの電池切れ
  ・キーが作動範囲内にない
  →3-6 ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
  →3-5 ページ「キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
  ・キーを車内でも感知しにくい場所に置いている
  ・キーに類似した他社のキーが作動範囲内にある
・プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅しているときは、通常の操作ではエンジンを始動できない場合があります。クラッチペダル (マニュアル車)/ブレーキペダル (オートマチック車)をいっぱいに踏み込み、エンジンが完全に始動するまでプッシュボタンスタートを押し続けてください。エンジン始動後、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) は消灯します。
・冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。

知識

・冷間始動後は、排気ガスの浄化を促進するためにエンジン回転が高くなり、うなっている音が聞こえることがありますが、部品機能の異常ではありません。
・**(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-X 2.0)**
プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
・**(SKYACTIV-D 1.8)**

・予熱表示灯が消灯するまで、スターターはまわりません。



・予熱が終了した後、電源ポジションがONのままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行ない予熱表示灯が点灯する場合があります。
・エンジン始動時は、プッシュボタンスタートを押した後、メーター内の予熱表示灯が消灯して、エンジンがかかるまでクラッチペダル (マニュアル車)/ブレーキペダル (オートマチック車)を放さないでください。
・エンジンがかかる前にクラッチペダル (マニュアル車)/ブレーキペダル (オートマチック車)を放した場合は、再度クラッチペダル (マニュアル車)/ブレーキペダル (オートマチック車)を踏み込みプッシュボタンスタートを押してエンジンを始動してください。
・外気温が−10°C より低いときは、エンジン保護のためエンジンが始動してから約 3 分間、最高回転数が制限される場合があります。

・**(マニュアル車)**
エンスト時、エンジンが完全停止したあと約 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動させることができます。
ただし次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。

・運転席のドアが開いているとき

知識

・運転席のシートベルトが装着されていないとき
・エンスト後にクラッチペダルを完全に放していないとき
・エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

▼ キーが電池切れしたときのエンジン始動

注意

キーの使用について
次のような状態にしないでください。車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

➢ キーに他のキーの金属部や金属製のものが接している



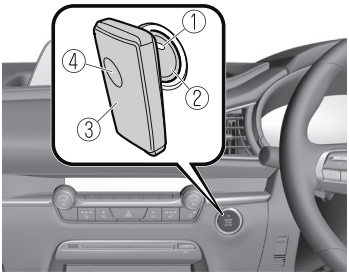
➢ キーにスペアのキーや他の車両の盗難防止システムキー (信号発信機内蔵のもの) が重なっている、または近くにある



➢ キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある

キーの電池切れなどで、エンジンが始動できないときは、次の手順でエンジンを始動することができます。
1. エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。
3. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅するのを確認します。

4. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅中に、キーのエンブレム中心をプッシュボタンスタートの中心にあわせて重ねます。



1. 表示灯
2. プッシュボタンスタート
3. キー
4. エンブレム

5. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯に変わったら、プッシュボタンスタートを押します。

知識

・クラッチペダル (マニュアル車)/ブレーキペダル (オートマチック車)をいっぱいに踏み込まないとエンジンが始動しません。
・プッシュボタンスタート機能に異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
・プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯しない場合は、最初から操作を行なってください。それでも点灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。
・電源ポジションの切り替えを行なう場合は、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯に変わった後、クラッチペダル (マニュアル車)/ブレーキペダル (オートマチック車)を放してからプッシュボタンスタートを押してください。電源ポジションが ACC、ON、OFF の順に切り替わります。なお、電源ポジションが OFF になると、それ以降は電源ポジションの切り替えができませんので、エンジンを始動する場合は最初から操作を行なってください。

エンジンの停止

▼ エンジンの停止

1. マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にします。
2. プッシュボタンスタートを押します。エンジンが停止し、電源ポジションが OFF になります。

⚠ 警告

緊急時以外は、走行中にエンジンを停止しない。
走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 車から離れるときは、電源ポジションが OFF になっていることを確認してください。
- **(SKYACTIV-D 1.8)**
  エンジンが暖まらない状態でのエンジン始動・停止を繰り返すと、エンジン内部を浄化するために停車中のエンジン回転数が高くなる場合があります。エンジン回転数が通常の回転数にもどるまでエンジンを停止しないでください。

知識

・**キーの電池容量について**
電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたとき、キーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、メーター内の KEY 表示灯 (緑) が点滅または、マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示されます。新しい電池と交換してください。
→7-21 ページ「キーの電池を交換するときは」

知識

・**電源ポジションについて**
オートマチック車はセレクトレバーが P 以外の位置のときに、プッシュボタンスタートを押してエンジンを止めると、電源ポジションは ACC になります。
・**電源ポジションを OFF にせずに車から離れると**
メーター内の KEY 警告灯 (赤) が点滅または、マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示され、警告チャイムが鳴ります。
→8-38 ページ「チャイムがなったときは」
・**エンジンルームの冷却について**
エンジンルームを早期に冷却するため、電源ポジションを ON から OFF にしても、エアコンの ON/OFF にかかわらずクーリングファンが数分間回転することがあります。

緊急エンジン停止

車両が停止していなくてもプッシュボタンスタートを押し続ける、または素早く何度も押すとエンジンが停止します。電源ポジションは ACC になります。

i-stop について

▼ i-stop について

i-stop (アイ・ストップ) は、燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

アイドリングストップ・再始動

知識

・次の条件のときに、i-stop 表示灯 (緑) が点灯します。
・アイドリングストップ中のとき



・エンジンが再始動すると、i-stop 表示灯 (緑) が消灯します。

マニュアル車

停車時のアイドリングストップ・再始動
(オートホールド非作動時)
1. ブレーキペダル、次にクラッチペダルを踏み込んで、車両を停車させます。
2. クラッチペダルを踏み込んだまま、チェンジレバーをニュートラルの位置にします。クラッチペダルから足を放したあと、アイドリングストップします。
3. クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動します。

(オートホールドによって停車したとき)
1. ブレーキペダル、クラッチペダルの順に踏み込んで、車両を完全に停車させます。
2. クラッチペダルを踏み込んだまま、チェンジレバーをニュートラルの位置にします。クラッチペダルから足を放したあと、アイドリングストップし、ブレーキペダルから足を放してもアイドリングストップが継続します。

3. クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動します。

走行中のアイドリングストップ･再始動

1. チェンジレバーがニュートラル以外の位置のとき、アイドリングストップできる状態になると、ギア･シフト･インジケーター (GSI) に N と表示されます。
2. クラッチペダルを踏み込みます。
3. チェンジレバーをニュートラルの位置にします。
4. クラッチペダルから足を放すと、アイドリングストップします。
5. クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動します。

オートマチック車

停車時のアイドリングストップ･再始動

オートホールドおよびマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))/クルージング& トラフィック･サポート (CTS)を使用していないとき

1. 走行状態 (R レンジ、M レンジの 2 速固定モード時以外) からブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。
2. セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動します。
3. セレクトレバーが N または P レンジでは、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) または R レンジへ操作すると再始動します。 (安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なってください。)

オートホールドによって停車したとき

1. 走行状態 (R レンジ、M レンジの 2 速固定モード時以外) からブレーキペダルを踏んで停車するとアイドリングストップし、ブレーキから足を放してもアイドリングストップが継続します。
2. セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでアクセルを踏むと、自動でエンジンが再始動します。
3. セレクトレバーが N または P レンジでは、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) または R レンジへ操作すると再始動します。 (安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なってください。)

MRCC (全車速追従機能付)/CTS の停止保持制御によって停車したとき

1. MRCC (全車速追従機能付)/CTS の停止保持制御によって停車すると、アイドリングストップします。
2. MRCC (全車速追従機能付)/CTS の停止保持制御によって停車しているときに、クルーズコントロールスイッチの RES スイッチを押す、またはセレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでアクセルを踏むと、自動でエンジンが再始動します。

走行中のアイドリングストップ･再始動

MRCC (全車速追従機能付)/CTS を使用していないとき

1. 走行状態 (D レンジ時) からブレーキペダルを踏んで車速が約 10 ｋｍ/ｈ以下になると、アイドリングストップします。
2. セレクトレバーが D レンジでブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動します。

MRCC (全車速追従機能付)/CTS を使用しているとき

1. MRCC (全車速追従機能付)/CTS の追従走行中に一定以上の減速で車速が約 10 ｋｍ/ｈ以下になると、アイドリングストップします。
2. MRCC (全車速追従機能付)/CTS の追従走行中に加速が必要になると、自動でエンジンが再始動します。

▼ 作動条件

作動するとき

次の条件のとき i-stop 表示灯 (緑) が点灯して、アイドリングストップします。

- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-X 2.0)**
  エンジン暖機後
- **(SKYACTIV-D 1.8)**
  - エンジン冷間以外
  - ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) による PM (Particulate Matter: 粒子状物質) の除去が行われていないとき
- エンジンを始動し、一度走行したあと
- ボンネットを閉めて、エンジンを始動したとき
- すべてのドア、リアゲート、ボンネットが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 曇り取りスイッチ  が OFF の状態のとき
- エアコンの温度設定ダイヤルが最大暖房または最大冷房 (A/C ON) 以外の位置になっているとき

・車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
・外気温が低すぎない、または高すぎないとき
・気圧が低くないとき (標高が高いところを走行していないとき)
・i-stop 警告灯 (橙) が点灯/点滅していないとき
・キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能が正常なとき
・**(M ハイブリッド付車)**
  ・M ハイブリッド用バッテリーの温度と充電状態が良好であるとき
  ・インテグレーテッド・スタータ・ジェネレータ (ISG) の状態が良好であるとき
・**(M ハイブリッド無車)**
  ・ブレーキ負圧が十分に高いとき
  ・バッテリーの状態が良好のとき
・**(マニュアル車)**
停車時の場合
  ・車速が 3km/h 以下のとき
  ・チェンジレバーがニュートラルの位置のとき
  ・クラッチペダルを踏んでいないとき

走行中の場合

  ・車速が 17km/h 以下のとき
  ・ギア・シフト・インジケーター (GSI) に N と表示されているとき
  ・チェンジレバーがニュートラルの位置のとき
  ・ブレーキペダルを踏んだとき
  ・クラッチペダルを踏んでいないとき
  ・ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしていてもハンドルに力をかけているとアイドリングストップしない場合があります。アイドリングストップさせたいときは、ハンドルにかけている力をゆるめてください。)
  ・坂道ではないとき
・**(オートマチック車)**
停車時の場合
  ・セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジのとき
  ・オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
  ・オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
  ・ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしていてもハンドルに力をかけているとアイドリングストップしない場合があります。アイドリングストップさせたいときは、ハンドルにかけている力をゆるめてください。)
  ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
  ・急な坂道ではないとき
  ・急停車ではないとき

走行中の場合

  ・セレクトレバーが D レンジのとき
  ・停車でのアイドリングストップ後、車速約 13 ｋm/ｈ以上で走行したとき
  ・走行中でのアイドリングストップ後、車速約 40 ｋm/ｈ以上で走行したしたとき
  ・スポーツモードで走行していないとき
  ・オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
  ・オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
  ・ハンドルがほぼ直進状態のとき
  ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
  ・坂道ではないとき
  ・急制動ではないとき

知識

アイドリングストップするまでに時間がかかるとき

・車両を長時間使用しなかったときなどでバッテリーが放電したとき
・外気温が高いとき、または低いとき
・バッテリー交換などによりバッテリー端子をはずしたあと
・ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) による PM の除去が行われたあと

エンジンの停止時間が短くなる、または次のアイドリングストップが可能になるまでの時間が長くなるとき

・外気温が高いとき、または、低いとき
・バッテリーの放電が進んだとき
・車両電装品の消費電力が多いとき

アイドリングストップ中にエンジンが自動で再始動するとき
次のようなときは自動でエンジンを再始動します。

・i-stop OFF スイッチを押し続けたとき
・外気温が非常に低い、または高いとき

知識

・曇り取りスイッチ  を ON にしたとき
・エアコンの温度設定ダイヤルを最大暖房または最大冷房 (A/C ON) の位置にしたとき
・車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
・坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき
・アイドリングストップしてから 2 分経過したとき
・バッテリーの放電が進んだとき
・ボンネットを開けたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき
・運転席ドアを開けたとき
・**(オートマチック車)**
停車時にアイドリングストップした場合
  ・セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジで、アクセルペダルを踏んだとき
  ・セレクトレバーを R レンジにしたとき
  ・セレクトレバーを N または P レンジから D/M (2 速固定モードではない) レンジにしたとき
  ・セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジのまま、ハンドル操作をしたとき
  ・セレクトレバーが M レンジで、2 速固定モードにしたとき
  ・ハンドル操作したとき

走行中にアイドリングストップした場合
  ・セレクトレバーが D レンジ以外にしたとき
  ・アクセルペダルを踏んだとき
  ・スポーツモードにしたとき
  ・ハンドル操作したとき

バッテリー端子をはずしたとき
バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、バッテリーを交換したときは、i-stop の機能を確認する必要がありますので、マツダ販売店にご相談ください。

▼ i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑)

i-stop は、安心かつ快適にご使用いただくために、運転者の操作状況や、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑) によりさまざまな注意を運転者にお知らせします。

知識

i-stop の作動状況を燃費モニターで表示します。
→マツダコネクト取扱書 「燃費モニター」

i-stop 警告灯 (橙)



点灯するとき

・電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。

知識

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき
・エンジンがかかっている状態で点灯し続けるとき

点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

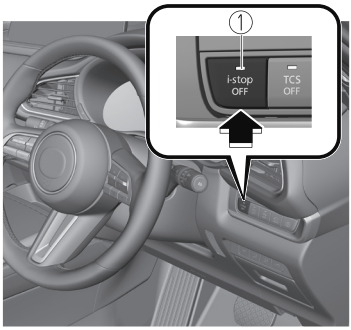
i-stop 表示灯 (緑)



・アイドリングストップ中に点灯し、エンジンが再始動すると消灯します。

▼ i-stop OFF スイッチ

スイッチを押すと i-stop が停止し、i-stop OFF スイッチ表示灯が点灯します。もう一度押すと i-stop が作動可能な状態になり、i-stop OFF スイッチ表示灯が消灯します。



1. 表示灯

知識

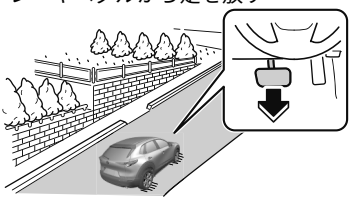
i-stop を停止させた状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると i-stop は作動可能な状態にもどります。

▼ 発進補助装置について (オートマチック車)

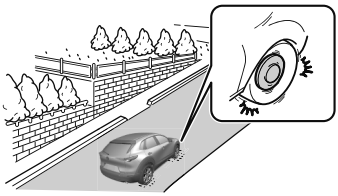
i-stop 装備車には発進補助機能が装備されています。これは次のような状態でブレーキペダルから足を放したときに、坂道などで車両が動き出すことを防ぐ機能です。

・アイドリングストップ中 (車両の後退防止)
・再始動時 (クリープ現象発生による車両の飛び出し防止)
ブレーキペダルを放してエンジンが再始動したときに、ブレーキまたはオートマチックトランスミッションの制御により車両が急に動き出すことを防止しています。

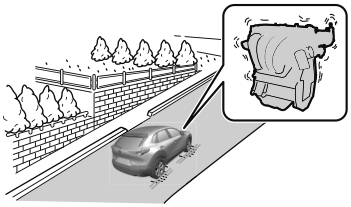
1. ブレーキペダルから足を放す



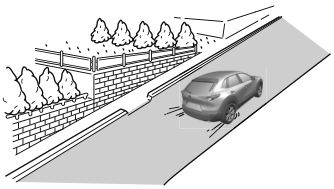
2. 車を保持



3. エンジン再始動



4. 発進



警告

システムを過信しない
発進補助機能は、あくまでアイドリングストップ状態から車両を発進させる際に、ブレーキから足を放したあと最長 4 秒間作動する補助装置です。システムを過信して操作すると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあるため非常に危険です。発進時は周囲の安全を確認してセレクトレバーやブレーキペダル、アクセルペダルを適切に操作してください。道路の勾配や積載、けん引の状態によって、意図せず車両が動き出す可能性がありますのでご注意ください。

⚠ 警告

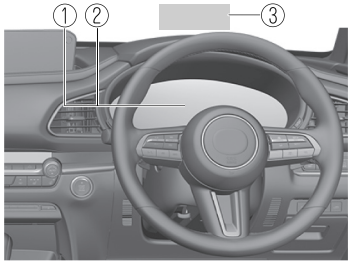
発進時はセレクトレバーを N 以外の位置にしてエンジンを再始動させた後に、ブレーキペダルから足を放す
アイドリングストップ中にセレクトレバーを N の位置に操作し、ブレーキペダルから足を放したときは、ブレーキ力が徐々に解除されます。発進時はセレクトレバーを N 以外の位置にしてエンジンを再始動させた後に、ブレーキペダルから足を放してください。セレクトレバーが N の位置では、発進補助機能が解除された後に意図せず車両が動き出す可能性がありますのでご注意ください。

知識

・急な坂道で停車したときは、アイドリングストップしないため発進補助機能は作動しません。
・発進補助機能の作動により、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、ブレーキから音が発生したり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。

メーター、表示

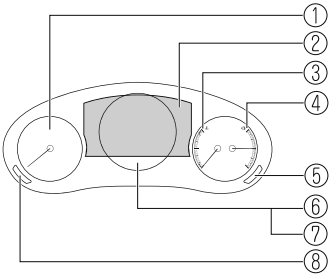
▼ メーター、表示



① メーター..... 5-15 ページ
② インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....5-32 ページ
③ アクティブ・ドライビング・ディスプレイ ..... 5-34 ページ

メーター

▼ メーター



① タコメーター..... 5-15 ページ
② マルチインフォメーションディスプレイ ..... 5-17 ページ
③ 水温計..... 5-19 ページ
④ 燃料計..... 5-20 ページ
⑤ パネルライトコントロールスイッチ ....5-20 ページ
⑥ スピードメーター..... 5-15 ページ
⑦ インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....5-32 ページ
⑧ TRIP スイッチ.....5-19 ページ

▼ スピードメーター

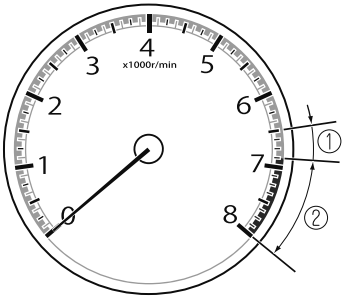
走行速度を km/h で示します。

▼ タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

⚠ 注意

指針がレッドゾーン (許容回転数以上を示す) に入らないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。



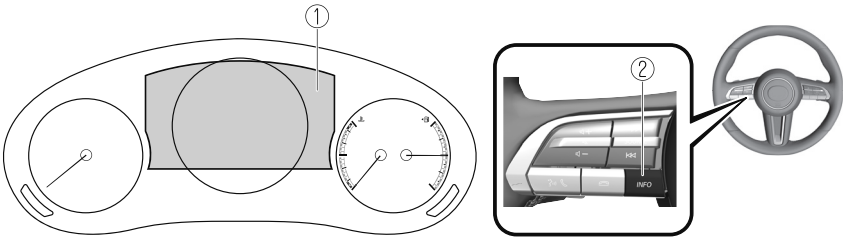
1. ストライプゾーン*1
2. レッドゾーン*1

*1 仕様により範囲が異なります。

知識

ストライプゾーンはレッドゾーンに入らないようにするために、早めの変速を促すゾーンです。

▼ マルチインフォメーションディスプレイ



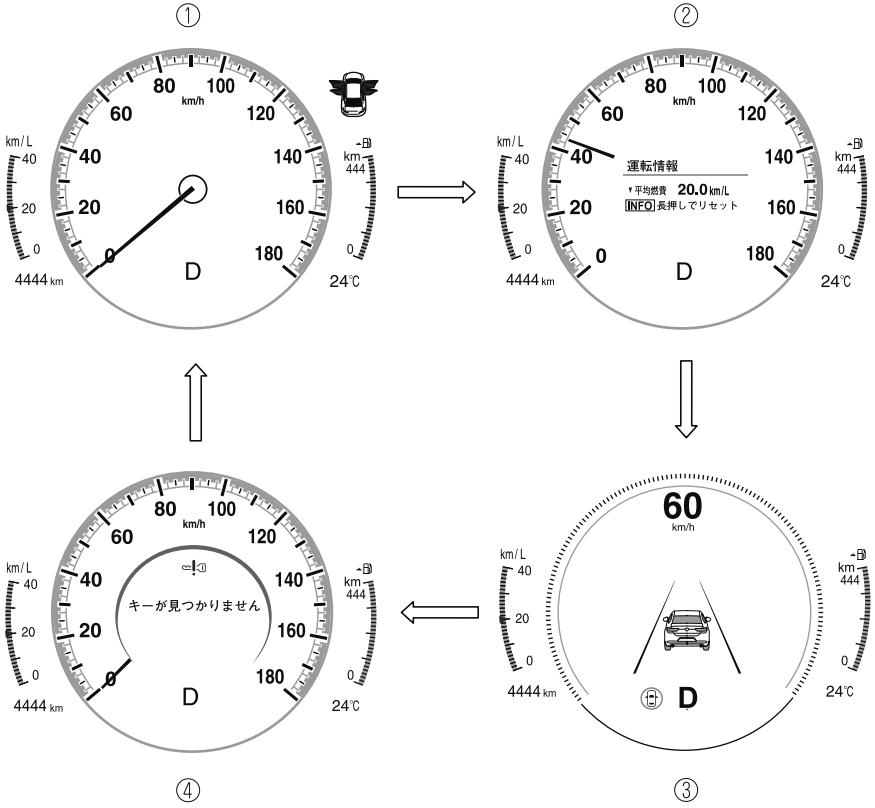
1. マルチインフォメーションディスプレイ
2. INFO スイッチ

マルチインフォメーションディスプレイは次の情報を表示します。

・スピードメーター
・オドメーター
・トリップメーター
・外気温
・走行可能距離
・平均燃費
・瞬間燃費
・回生ブレーキ充電表示 (M ハイブリッド車)
・i-ACTIVSENSE 表示
・半ドア警告表示/リアゲート開警告表示*1
・メッセージ表示

*1　ドア/リアゲートが開いているときに表示します。

INFO スイッチを押すごとに表示が切り替わります。



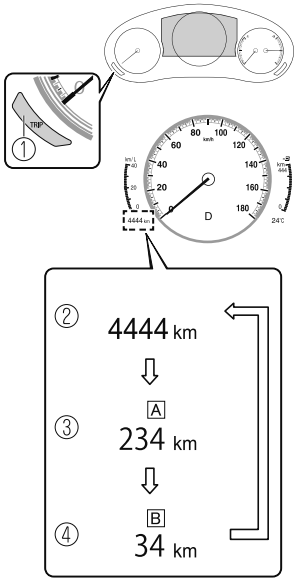
1. 基本画面
2. 運転情報画面
3. i-ACTIVSENSE 画面
4. メッセージ表示画面*1

*1 メッセージ表示があるときのみ表示します。

マツダコネクトの「設定」で、瞬間燃費や走行可能距離の表示タイプを切り替えることができます。
→マツダコネクト取扱書 「画面表示」

▼ オドメーター/トリップメーター

TRIP スイッチを操作して、オドメーターとトリップメーターを切り替えることができます。



1. TRIP スイッチ
2. オドメーター表示
3. トリップメーター A 表示
4. トリップメーター B 表示

オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します (右側の数字は 100 m 単位です)。2 種類 (トリップメーター A、トリップメーター B) の区間距離を計測することができます。
たとえば、トリップメーター A で給油してからの距離を測りながら、トリップメーター B で出発してからの距離を測ることができます。

トリップメーターを“0”にもどすときは、トリップメーターが表示されているときに TRIP スイッチを 1.5 秒以上押します。

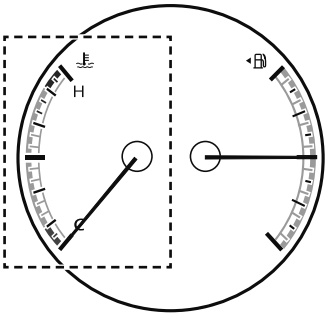
知識

次のようなときは、トリップメーターの表示が“0”にもどります。

- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
- 走行距離が 9999.9 km を超えたとき。

▼ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。青いゲージはエンジン冷却水の温度が低いことを示し、赤いゲージはエンジン冷却水が高く、過熱していることを示します。



注意

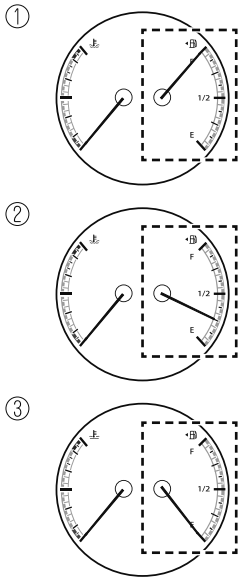
水温計の指針が赤いゲージを示すときは、オーバーヒートのおそれがあります。エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。
→8-21 ページ「オーバーヒートについて」

知識

エンジンやエンジン冷却水の温度が高いまたは低いときは、エンジンを保護するためにエンジン出力を制限することがあります。

▼ 燃料計

電源ポジションが ON のとき、燃料の残量を示します。
燃料が満タンのときは F (Full) を示し、少なくなるにつれ E (Empty) に移行します。燃料が、1/4 以下になった場合は給油することをおすすめします。



1. Full
2. 1/4 Full
3. Empty

燃料が少なくなると、エンジン不調やエンストする場合があります。エンジン不調やエンストが発生する場合は、すみやかに安全な場所へ車を移動させ、燃料を少なくとも 10 L 補給してください。
→8-32 ページ「燃料残量警告表示/警告灯」

知識

・給油後は、指針が安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が移動することがあります。

知識

・◀の矢印は給油口が助手席側にあることを示します。

▼ パネルライトコントロール

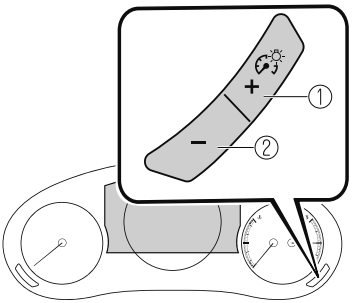
電源ポジションが ON で車幅灯が点灯しているときにパネルライトは減光されます。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが車両の周辺が明るいと感知した場合、パネルライトは減光されません。

知識

・夕方や薄暗い場所で電源ポジションを ON にすると、ライトセンサーが周辺の明るさを感知するまでの数秒間パネルライトが減光され、明るさを感知した後に減光が解除される場合があります。
・車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。
→5-51 ページ「ヘッドランプの点灯/消灯」

パネルライトコントロールスイッチを押すと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

・+スイッチを押すと明るくなります。
・–スイッチを押すと暗くなります。最も暗い状態でさらに–スイッチを押すと音が鳴り、最も暗い位置になっていることを知らせます。



1. +スイッチ
2. –スイッチ

減光解除機能

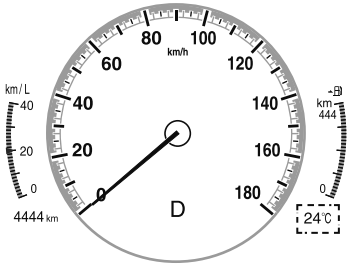
電源ポジションが ON でメーターが減光しているときに、パネルライトコントロールスイッチの+スイッチを押して最も明るい位置にすると減光を解除できます。メーターなどが見えにくい場合は減光を解除してください。
減光を解除した状態でさらに+スイッチを押すと音が鳴り、最も明るい位置になっていることを知らせます。

知識

・減光を解除しているときは、車幅灯が点灯しても、メーターは減光されません。
・減光を解除しているとき、センターディスプレイは常に昼画面になります。

▼ 外気温表示

電源ポジションが ON のとき、外気温を表示します。



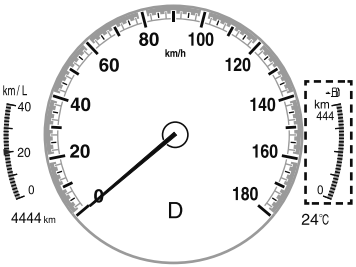
知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

・著しく寒いとき、暑いとき
・外気温が急激に変化したとき
・停車時
・低速走行時

▼ 走行可能距離表示

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

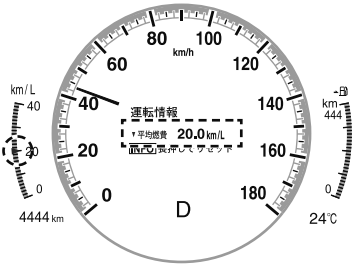


知識

・走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の指針が E に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したらすみやかに給油してください。
燃料残量警告灯が点灯すると、燃料計の指針が 1/4 以上の位置になるまで給油しないと走行可能距離表示は変化しません。
・走行可能距離とは、現在の燃料残量で、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。
・お車を購入されたときやバッテリー端子をはずした後など過去の燃費情報がないときは、実際に走行できる距離と異なる数値を表示することがあります。

▼ 平均燃費表示

お車を購入されたとき、または過去のデータをリセットしたときからの累積走行距離と累積消費燃料から、約 30 秒間ごとに平均燃費を算出して表示します。
瞬間燃費ゲージ上にも赤矢印で平均燃費を表示します。

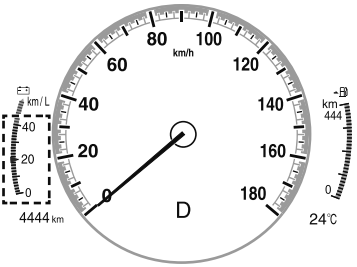


表示されている平均燃費のデータをリセットするには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押します。
データをリセットすると、平均燃費を再算出して表示するまでの約 30 秒間は、“- - - km/L”を表示します。

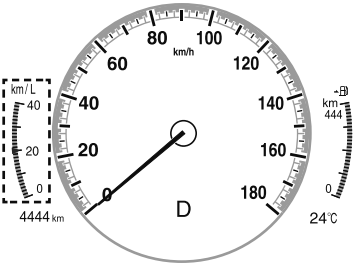
▼ 瞬間燃費表示

走行中の瞬間燃費を、消費燃料から算出して表示します。

M ハイブリッド車



M ハイブリッド車以外

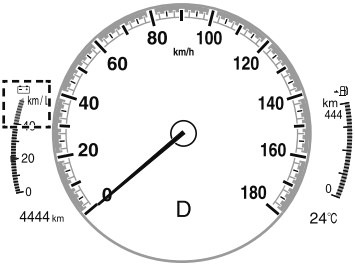


知識

- 時速が約 5 km/h 以下になると 0 位置を表示します。
- メモリ上の赤矢印は、平均燃費を示します。

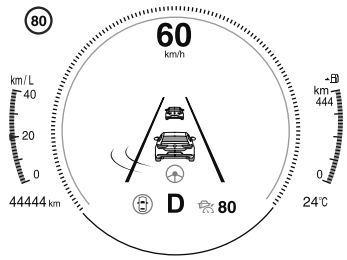
▼ 回生ブレーキ充電表示 (M ハイブリッド車)

回生ブレーキによる充電状態を表示します。



▼ i-ACTIVSENSE 表示

システムの作動状態を表示します。



→5-89 ページ「車線逸脱警報システム」

→5-92 ページ「ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)」
→5-98 ページ「交通標識認識システム (TSR)」
→5-100 ページ「ディスタンス&スピード・アラート (DSA)」
→5-102 ページ「ドライバー・アテンション・アラート (DAA)」
→5-103 ページ「ドライバー・モニタリング」
→5-104 ページ「前側方接近車両検知 (FCTA)」
→5-110 ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)」
→5-118 ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))」
→5-128 ページ「クルージング&トラフィック・サポート (CTS)」
→5-140 ページ「 レーンキープ・アシスト・システム (LAS)」
→5-142 ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS)」
→5-145 ページ「スマート・ブレーキ・サポート [後進時] (SBS-R)」
→5-148 ページ「スマート・ブレーキ・サポート [後進時左右接近物] (SBS-RC)」
→5-152 ページ「AT 誤発進抑制制御 [前進時]」
→5-155 ページ「AT 誤発進抑制制御 [後退時]」

▼ メッセージ表示

システムの作動状態や故障・異常状態などを知らせるメッセージが表示されます。

メッセージと同時にメーター内の警告灯/表示灯が点灯/点滅、またはディスプレイにシンボルが表示されたとき

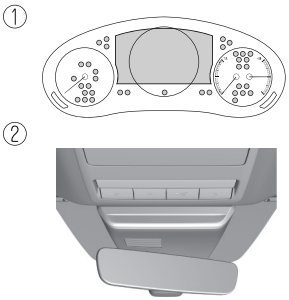
警告灯/表示灯、または表示されたシンボルの内容を確認してください。
→5-24 ページ「警告表示/警告灯」
→5-26 ページ「表示/表示灯」

ディスプレイにメッセージのみ表示されたとき

ディスプレイの指示に従ってください。表示の内容については次のページを参照ください。
→8-34 ページ「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

▼ 警告灯/表示灯配置

メーターはグレードや仕様により異なります。



1. メーター
2. 天井の前側中央

▼ 警告表示/警告灯

故障時などに表示/点灯します。

表示	名称	参照
	ブレーキ警告表示/警告灯*1	8-26
	充電警告表示/警告灯*1	8-26
	オイル警告表示/警告灯*1	8-26
	高水温警告表示	8-27
	電動パワーステアリング警告表示*1	8-27
	ABS 警告表示/警告灯*1	8-27
	マスター警告表示	8-28

表示	名称	参照
	ブレーキコントロールシステム警告表示/警告灯*1	8-28
	ブレーキ・オーバーライド警告表示	8-28
	エンジン警告表示/警告灯*1	8-28
	ガソリンパティキュレートフィルター警告表示/警告灯*1 (SKY-ACTIV-X 2.0)	8-29
	ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) 警告表示/警告灯*1 (SKYACTIV-D 1.8)	8-29
i-stop (橙)	i-stop 警告表示/警告灯*1	8-29
AT	*オートマチックトランスミッション警告表示/警告灯*1	8-30
AWD	*AWD 警告表示/警告灯*1	8-30
	エアバッグ/フロントプリテンショナー警告表示/警告灯*1	8-30
 (赤)	KEY 警告表示/警告灯*1	8-31
 (橙)	*ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯*1	8-31
	*アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯*1	8-31
	i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯*1	8-31
	エクステリアランプ警告表示/警告灯*1	8-32

表示	名称	参照
	燃料残量警告表示/警告灯	8-32
	エンジンオイルレベル警告表示/警告灯*1	8-32
	シートベルト警告灯 (フロントシート)	8-32
 (赤)	シートベルト警告灯 (リアシート)	8-33
	*ウォッシャー液残量警告表示	8-33
	半ドア警告表示	8-33
	リアゲート開警告表示	8-33
	半ドア警告灯	8-33

*1　作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 表示/表示灯

システムが作動中または停止しているときに表示/点灯/点滅します。

表示	名称	参照
 (緑)	シートベルト表示灯 (リアシート)	2-20

表示	名称	参照
	セキュリティ表示灯	イモビライザーシステム 3-33 故障したとき 8-31
 (緑)	KEY 表示灯	5-5
i-stop (緑)	i-stop 表示灯	5-12
	レンチ表示/表示灯*1	5-30
	予熱表示灯 (SKYACTIV-D 1.8)	5-31
P	*セレクトレバー位置表示	5-43
	車幅灯表示/表示灯	5-51
	ヘッドランプ上向き表示灯	ヘッドランプが上向き(ハイビーム)のとき 5-53 パッシング合図 5-53
	*リアフォグランプ表示灯	5-55

表示	名称	参照
	方向指示/非常点滅表示灯	方向指示灯 5-55
		非常点滅表示灯 5-62
	電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯*1*2	8-28
HOLD	オートホールド作動表示灯*1	5-68
	*マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示灯	5-124
	*クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 表示灯	5-137
	TCS/DSC 作動表示/表示灯*1	TCS 5-73
		DSC 5-75
		点灯 8-30
TCS OFF	TCS OFF 表示灯 (2WD 車) *1	5-73
	オフロード・トラクション・アシスト表示灯 (AWD 車) *1	5-76
SPORT	*セレクトモード表示灯	5-78

表示	名称	参照
 (白)	i-ACTIVSENSE 警報・リスク回避支援表示	5-82
 (緑)		
 (橙)		
	i-ACTIVSENSE 警報・リスク回避支援 OFF 表示	5-82
 (緑)	*ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 表示灯	5-84
	*アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 表示灯	5-86
 (白)	*マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) スタンバイ表示	5-112
	*マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) スタンバイ表示	5-120
	*クルージング&トラフィック・サポート (CTS) スタンバイ表示	5-130
 (緑)	*マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) セット表示	5-112
	*マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) セット表示	5-120
	*クルージング&トラフィック・サポート (CTS) セット表示	5-130

表示	名称	参照
	スマート・ブレーキ・サポート (SBS) OFF 表示灯*1	スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 5-142
		スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R) 5-145
		スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) 5-148
 (白)	クルーズスタンバイ表示	5-192
 (緑)	クルーズメイン表示	5-192

*1　作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。
*2　パーキングブレーキをかけているときは点灯し続けます。

▼ レンチ表示/表示灯

レンチ表示/表示灯は次の時期になると表示/点灯します。



・あらかじめ設定されたメンテナンス時期になったとき
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

- メンテナンス時期になったまま走行を続けないでください。メンテナンスを怠ると、車両性能の低下、さらには故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までに点検を受けてください。
- エンジンオイル交換時期を過ぎたまま走行を続けると、エンジン故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までにエンジンオイルを交換してください。

⚠ 注意

➢ **(SKYACTIV-D 1.8)**
お車の使用状態によっては、燃料がエンジンオイルに混入することでエンジンオイルが劣化して交換が必要になることがあります。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、“エンジンオイル量が規定値を超えています点検を受けてください”と表示されているときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

・**(SKYACTIV-D 1.8)**
フューエルフィルター (セジメンタ) の水抜きが必要なとき
マツダ販売店へご相談ください。

知識

お車の使用状態によっては、別冊のメンテナンスノートに記載された交換時期よりも早く表示されることがあります。

▼ 予熱表示灯 (SKYACTIV-D 1.8)

電源ポジションを ON にすると点灯します。予熱が終了すると消灯します。
→5-5 ページ「エンジンをかけるとき」



次のようなときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
・点滅しているとき

知識

予熱が終了した後、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行ない点灯することがあります。

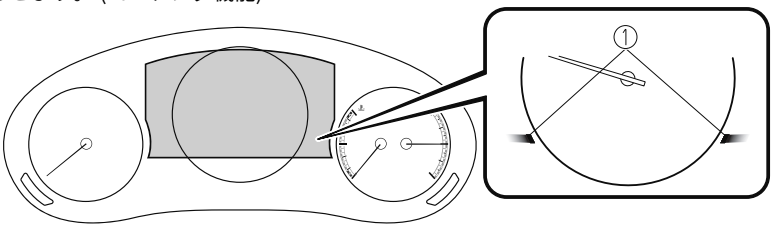
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

▼ インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

i-DM はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。運転者も同乗者も気持ちのよい「しなやかな運転」ができるようになる運転技術の習得/向上をサポートします。

▼ インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) ランプ

走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況を知らせます。 (コーチング機能)



① グリーンランプ/ブルーランプ/ホワイトランプ

グリーンランプ

次の運転のときはランプが緑で点灯します。

内容	運転のポイント
やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費のよい運転です。	・加速をするとき/しないときに、アクセルペダルをゆっくり踏む/もどす ・減速をするとき/しないときに、ブレーキペダルをゆっくり踏む/もどす ・旋回をするとき/直進にもどすときに、ハンドルをゆっくり切る/もどす

ブルーランプ

次の運転のときはランプが青で点灯します。

内容	運転のポイント
しなやかな運転を示します。特に次の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちのよい運転です。 **走行タイプ 1** 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 **走行タイプ 2** 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。	**走行タイプ 1 の場合** ・加速をするときに、最適な踏み込み量/速さでアクセルペダルを操作する ・減速をするときに、最適な踏み込み量/速さでブレーキペダルを操作する ・旋回をするときに、最適な切り込み量/速さでハンドルを操作する **走行タイプ 2 の場合** ・加速をするときに、一定の加速度を継続するようにアクセルペダルを操作する ・減速をするときに、一定の減速度を継続するようにブレーキペダルを操作する ・旋回をするときに、一定の横 G を維持するようにハンドルおよびアクセルペダルを操作する

ホワイトランプ

次の運転のときはランプが白で点灯します。

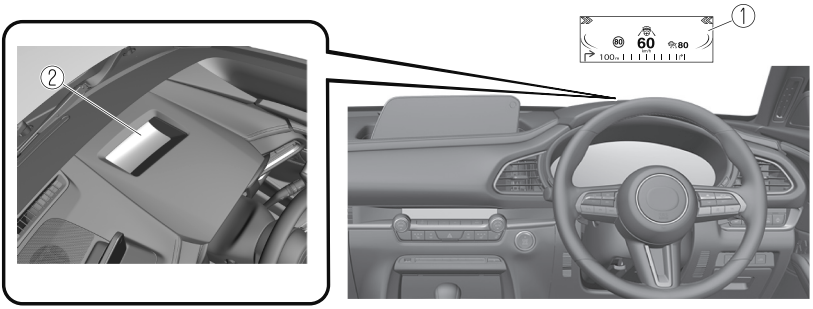
内容	運転のポイント
体が揺れる運転を示します。 やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまりよくない運転です。	・加速をするとき/しないときに、アクセルペダルをやや急に踏む/もどす ・減速をするとき/しないときに、ブレーキペダルをやや急に踏む/もどす ・旋回をするとき/直進にもどすときに、ハンドルをやや急に切る/もどす

知識

i-DM ランプの表示/非表示を変更、i-DM の作動状況をセンターディスプレイに表示させることができます。
→マツダコネクト取扱書 「i-DM」

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ

▼ アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1. ディスプレイ
2. 防塵シート

⚠ 警告

ディスプレイの明るさや位置の調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

アクティブ･ドライビング･ディスプレイの防塵シート付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が防塵シートにかかると装置の故障の原因となります。
表示のさまたげとなりますので、アクティブ･ドライビング･ディスプレイの上や防塵シートにものを置いたり、シールを貼ったりしないでください。

知識

- アクティブ･ドライビング･ディスプレイの特性上、偏光サングラスを着用すると視認性が低下します。
- バッテリーを脱着したとき、またはバッテリーの電圧が低下してきたときは、調節した位置がずれることがあります。
- 気象条件 (雨、雪、光、温度など) によっては、表示が見づらかったり、一時的に影響を受けたりする場合があります。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイは次の情報を表示します。

・車線逸脱警報システムの作動状態と警告
→5-87 ページ「車線逸脱警報システムとは」
・ブラインド・スポッド・モニタリング (BSM) の作動状態と警告
→5-90 ページ「ブラインド・スポッド・モニタリング (BSM) とは」
・交通標識認識システム (TSR) の警告
→5-94 ページ「交通標識認識システム (TSR) とは」
・ディスタンス &スピード・アラート (DSA) の作動状態と警告
→5-100 ページ「ディスタンス &スピード・アラート (DSA) とは」
・ドライバー・アテンション・アラート (DAA) の表示
→5-101 ページ「ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは」
・前側方接近車両検知 (FCTA) の警告
→5-104 ページ「前側方接近車両検知 (FCTA) とは」
・後側方接近車両検知 (RCTA) の警告
→5-106 ページ「後側方接近車両検知 (RCTA) とは」
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) の作動状態と警告
→5-109 ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは」
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の作動状態と警告
→5-116 ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」
・クルージング&トラフィック・サポート (CTS) の作動状態と警告
→5-125 ページ「クルージング&トラフィック・サポート (CTS) とは」
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の警告
→5-141 ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは」
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R) の警告
→5-143 ページ「スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R) とは」
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) の警告
→5-146 ページ「スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) とは」
・AT 誤発進抑制制御 (前進時) の警告
→5-149 ページ「AT 誤発進抑制制御 (前進時) とは」
・AT 誤発進抑制制御 [後退時] の警告
→5-153 ページ「AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは」
・クルーズコントロールの作動状態
→5-192 ページ「クルーズコントロール とは」
・ナビゲーションガイダンス (方向と距離)
・車速

アクティブ・ドライビング・ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報など)を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

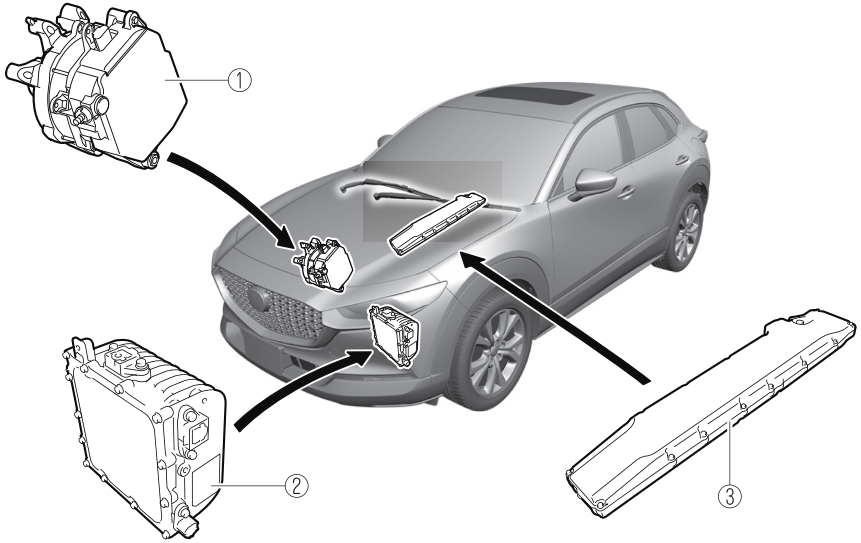
知識

・アクティブ・ドライビング・ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報)を記憶させ、記憶させた位置にセットすることができます。
→2-7 ページ 「ドライビングポジションメモリー機能」

M ハイブリッドとは*

▼ M ハイブリッドとは

M ハイブリッドは、車が減速する際に発生する運動エネルギーを利用して、発電効率に優れたインテグレーテッド・スタータ・ジェネレータ (ISG) により発電し、M ハイブリッド用バッテリーに充電します。大容量の蓄電池である M ハイブリッド用バッテリーに蓄えた電力を利用して、エンジン負荷低減やモーターアシストを行い、走りの性能と燃費の向上に貢献します。また、アイドリングストップ状態からエンジンの再始動を行う際は、ISG を用いて静粛性を実現しています。



1. ISG
2. DC-DC コンバーター
3. M ハイブリッド用バッテリー

⚠ 警告

高温部位、高電流部位に触れない。
次の部位は高温で高電流が流れているため、触れるとやけどや感電のおそれがあります。

- ISG
- DC-DC コンバーター
- M ハイブリッド用バッテリー

知識

・次のような状態のときに運転席ドアを開けると、運転者が車から離れると車両が判断し、運転者に危険を知らせる警報音が吹鳴して警告表示が表示されます。

知識

・エンジンがかかっているとき
・**(オートマチック車)**
セレクトレバーが P、N の位置以外のとき
・M ハイブリッドに異常があるときは、警告表示が表示されます。
・M ハイブリッドのエネルギー回生状況は、燃費モニターのシステム作動状態表示に表示されます。
→マツダコネクト取扱書 「燃費モニター」

▼ M ハイブリッド車特有の音と振動について

M ハイブリッド車特有の音と振動について

M ハイブリッド車は、通常の車と異なる特有の音や振動があります。 次のような音や振動が発生することがありますが、M ハイブリッド特有のもので、異常ではありません。

種類 (音/振動)	発生状況/発生箇所
回生ブレーキの作動音	減速時にエンジンルームから “ヒューン” という音が聞こえます。
M ハイブリッド用バッテリーのリレー作動音	エンジン始動時および停止時に、車両床下から “コン”、“カチッ” という音が聞こえます。
ブレーキシステムの作動音	次のような場合、車両前方から音が聞こえます。 ・運転席ドアを開けたとき ・電源ポジションを ON にしたとき ・ブレーキペダルを操作したとき ・自動でブレーキシステムが作動したとき ・エンジンを停止して数分経過したとき
ブレーキペダルの振動	次のような場合、ブレーキペダルに振動を感じるときがあります。 ・電源ポジションを ON にしたとき ・ブレーキペダルを操作したとき

▼ M ハイブリッド用バッテリーについて

M ハイブリッドは、専用のバッテリーを搭載しています。

⚠ 警告

やけどや感電のおそれがあるため、必ず次のことを守る。

- 端子部位、配線、M ハイブリッド用バッテリーを固定しているブラケット、コネクターの取りはずしおよび分解などは絶対に行わないでください。
- 炎天下のときや走行後は、M ハイブリッド用バッテリーが高温になるため、絶対にさわらないでください。
- M ハイブリッド用バッテリーが濡れているときは特に危険なため、絶対にさわらないでください。

知識

M ハイブリッド用バッテリーには寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

M ハイブリッド用バッテリーの充電について

M ハイブリッド用バッテリーの充電は、エンジンの動力や回生ブレーキによって自動で行われます。そのため、車外から充電する必要はありません。

知識

車両を長時間放置すると少しづつ自然放電するため、2〜3 ヶ月に一度を目安に約 30 分間の運転を行ってください。万が一、M ハイブリッド用バッテリーが完全に放電し、M ハイブリッドが起動できないときは、マツダ販売店に連絡してください。

▼ M ハイブリッドの注意

お車のメンテナンスや修理、使用済み自動車として廃車する場合はマツダ販売店にご相談ください。

M ハイブリッド用バッテリーの取り扱いについて

M ハイブリッド用バッテリー取り扱いには、専門的な知識と技術が必要です。

⚠ 警告

M ハイブリッド用バッテリーを安全に取り扱うために、次のことを必ず守る。

- M ハイブリッド用バッテリーを取りはずさない。
- M ハイブリッド用バッテリーを転売、譲渡、改造しない。
- M ハイブリッド用バッテリーを装備された車両以外で使用しない。

適切に取り扱わないと次のようなことが起こり、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 放置または不法投棄された M ハイブリッド用バッテリーに触れてしまい感電事故が発生する。
- 装備された車両以外で M ハイブリッド用バッテリーを使用し (改造などを含む)、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する。

使用済み自動車の廃車と M ハイブリッド用バッテリーの廃棄について

M ハイブリッド用バッテリーによる事故を防止するため、M ハイブリッド用バッテリーの回収を行っています。お車を廃車にする場合、M ハイブリッド用バッテリーを交換する場合、M ハイブリッド用バッテリーを廃棄する場合などは、マツダ販売店にご相談ください。M ハイブリッド用バッテリーが確実に回収できるようご協力ください。

⚠ 警告

M ハイブリッド用バッテリーを適切に処理する。
M ハイブリッド用バッテリーを放置または不法投棄するなど、適切に回収し廃棄しないと、第三者が M ハイブリッド用バッテリーに触れる感電事故を引き起こし、重大な傷害につながるおそれがあります。

事故が起きたとき

衝突事故など車両に一定以上の衝撃が加わったときなどは、M ハイブリッドが停止します。この場合、充電警告灯が点灯し、M ハイブリッドが起動できないときがあります。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

高電流部位に絶対さわらない。
M ハイブリッド関連部品には、絶対にさわらないでください。やけどや感電など重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対に触らない。
感電ややけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

電解液が付着している、電解液が漏れている場合は絶対にさわらない。
M ハイブリッド用バッテリーの電解液が目や皮膚に触れると失明や皮膚障害のおそれがあります。万が一、目や皮膚に付着した場合はただちに大量の水で洗い流し、早急に医師の診断を受けてください。

⚠ 警告

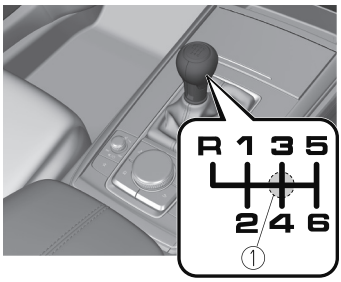
M ハイブリッド用バッテリーの電解液が漏れている場合は、車両に近づかない。
M ハイブリッド用バッテリーが破損しても、バッテリー内部の構造により大量の電解液が流出することありませんが、万が一、電解液が流出すると蒸気が発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒につながるおそれがあります。

火気や高温のものを絶対に近づけない。
M ハイブリッド用バッテリーの電解液に引火するおそれがあります。

万が一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する。
水で消火する場合は、消火栓など、大量の放水が可能な場合のみ行ってください。

マニュアルトランスミッション

▼ マニュアルトランスミッション



1. ニュートラル位置

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。
マニュアルトランスミッションは、シフトの誤操作を防ぐ装置が装備されています。
R に入れるときは、チェンジレバーを下方向へ押しながら R 方向へ操作してください。



⚠ 注意

R に入れるときは、車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。
5 速から 4 速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押しすぎないでください。思いがけず 2 速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。
R に入れるとき以外は、誤操作を防ぐためにチェンジレバーを下方向へ押さないでください。

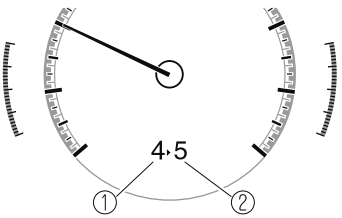
知識

・R に入らないときは、チェンジレバーをニュートラル位置にもどし、クラッチペダルを踏み直して、再度操作してください。
・**(M ハイブリッド車)**
坂道でエンストしたときに、車両が動き出すのを防止するためパーキングブレーキが自動でかかることがあります。
・エンスト時、エンジンが完全停止したあと 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動することができます。
次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。

・運転席のドアが開いているとき
・運転席のシートベルトが装着されていないとき
・エンスト後にクラッチペダルを完全に放していないとき
・エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

▼ ギア･シフト･インジケーター (GSI)

GSI は、燃費のよい快適な走行をサポートします。メーター内で選択したギヤ位置を表示し、実際の走行状態に適したギヤ位置に変更するよう運転者に知らせます。



1. ギヤ位置表示
2. 推奨ギヤ位置

表示	内容
ギヤ位置表示	現在のギヤ位置を表示
推奨ギヤ位置	走行状態に適したギヤ位置を表示

⚠ 注意

GSI を過信しないでください。実際の走行状況では、表示と異なるシフト操作が必要な場合があります。変速する前に道路や周囲の状況を正確に判断してください。

知識

次のようなとき、GSI は表示しません。

- 停車時
- チェンジレバーがニュートラル位置または R のとき
- 後退時
- 発進時、クラッチを完全につないでいないとき
- 走行中に 2 秒以上クラッチペダルを踏み続けたとき

オートマチック車の特性

▼ オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。

クリープ現象

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが P、N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジン回転が上がって急加速させることができます。

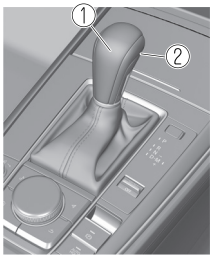
- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

知識

アクセルペダルを踏み込んでいくと途中で重くなり、さらに踏み込むと軽くなります。この踏力の変化はキックダウンさせるためのアクセルペダルの踏み込み量を容易に認識し、キックダウンさせる･させないをコントロールするための機能です。

各位置の働き

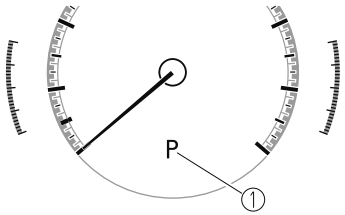
▼ 各位置の働き



1. セレクトレバー
2. セレクトレバーボタン

P (パーキング)
駐車およびエンジンを始動する位置。
R (リバース)
車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。
N (ニュートラル)
動力が伝わらない位置。
エンジンを始動することはできますが、安全のため P の位置で行なってください。
D (ドライブ)
通常走行する位置。
車速に応じて 1 速から 6 速までを自動変速します。
M (マニュアル)
マニュアル走行する位置。
ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
→5-44 ページ「マニュアルモード」

▼ セレクトレバー位置表示



1. セレクトレバー位置表示

電源ポジションが ON のとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を表示します。

ギヤ位置表示

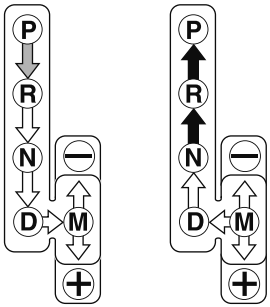
マニュアルモードのとき使用しているギヤ位置を表示します。

▼ AAS モードについて

AAS (アクティブアダプティブシフト) モードとは、運転者が快適に運転するため、道路の状況や運転者の操作に最適なシフトポイントを自動的にコントロールするモードです。
セレクトレバーを D の位置にしている状態で、上り坂や下り坂、コーナーや高地を走行したり、アクセルペダルを素早く操作したりすることで AAS モードになる場合があります。
走行状態、路面状態、シーンや操作に応じて、最適なギヤ位置を維持するためシフトチェンジが遅れたり、行なわれなかったりする場合がありますが、異常ではありません。

セレクトレバーの操作

▼ セレクトレバーの操作



レバー操作	
⇒	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
⇨	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押して操作します。

知識

・**誤作動防止について**

⇨の操作は、誤作動防止のため、ギヤ位置ごとに節度をつけ確実に行なってください。

・**先にブレーキペダルを踏んでから操作する**

セレクトレバーを P から操作するとき、セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

シフトロック装置

▼ シフトロック装置

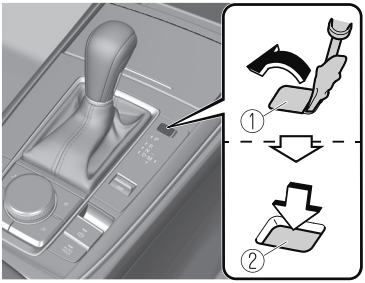
シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

知識

電源ポジションが ACC または OFF のときは、セレクトレバーを P から動かすことはできません。

▼ シフトロック装置の解除

万一、セレクトレバーを P から操作できないときは、カバーをはずし、ブレーキペダルを踏み、マイナスドライバーなどで解除ボタンを押したまま、セレクトレバーボタンを押してセレクトレバーを操作します。



1. カバー
2. 解除ボタン

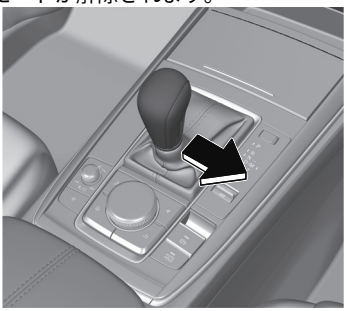
知識

マイナスドライバーなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。マイナスドライバーなどが直接カバーにあたると、傷がつくおそれがあります。

マニュアルモード

▼ マニュアルモード

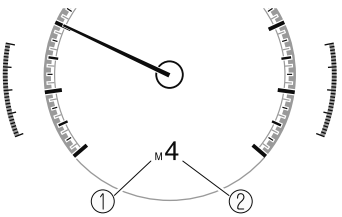
セレクトレバーを D から M に入れるとマニュアルモードになります。
マニュアルモードでは、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
セレクトレバーを M から D に入れるとマニュアルモードが解除されます。



知識

- 停車時にマニュアルモードにした場合、ギヤは 1 速になります。
- D レンジ 5 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは 4 速になります。また、D レンジ 6 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギヤは 5 速になります。

▼ 表示



1. マニュアルモード表示
2. ギヤ位置表示

マニュアルモード表示

マニュアルモードにすると、メーター内にあるセレクトレバー位置表示の M が表示されます。

ギヤ位置表示

ギヤ位置が表示されます。
高速走行中、速度によりシフトダウンできないときは、ギヤ位置表示が 2 回点滅します。

知識

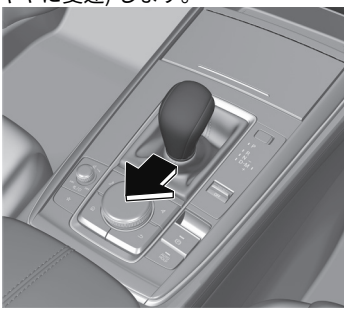
自動変速になる場合があります
オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が高温になると、マニュアルモードが解除される場合があり、マニュアルモードが解除されるとメーター内のギヤ位置表示が消灯し、自動変速になります。これはオートマチックトランスミッションを保護するための正常な機能です。しばらくして ATF 温度が下がるとギヤ位置表示が再び点灯しマニュアルモードでの走行が可能になります。

▼ シフトアップのしかた

セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチ*によりシフトアップ (M1→M2→M3→M4→M5→M6) することができます。

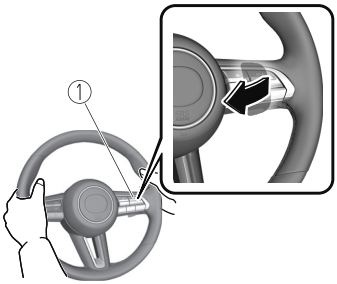
セレクトレバーでの操作

セレクトレバーを+側に動かすとシフトアップ (高速ギヤに変速) します。



ステアリングシフトスイッチでの操作*

ハンドル右裏側のアップスイッチ (+/OFF) を手前に引くとシフトアップ (高速ギヤに変速) します。



1. アップスイッチ (+/OFF)

知識

- 低速時は速度によりシフトアップできないことがあります。
- マニュアルモードではタコメーターの指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。なお、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでいる間は自動変速に切り替わります。
  ただし、TCS を OFF にしているときは、この機能は停止されます。また、エンジン回転が高い状態で連続走行されたときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。
- ステアリングシフトスイッチは、走行中セレクトレバーが D レンジでも、一時的に使用することができます。また、アップスイッチ (+/OFF) を一定時間以上手前に引いたときは自動変速にもどります。

▼ シフトダウンのしかた

セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチ*によりシフトダウン (M6→M5→M4→M3→M2→M1) することができます。

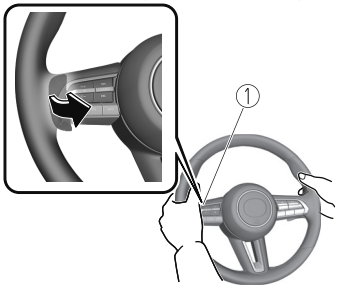
セレクトレバーでの操作

セレクトレバーを–側に動かすとシフトダウン (低速ギヤに変速)します。



ステアリングシフトスイッチでの操作*

ハンドル左裏側のダウンスイッチ (–) を手前に引くとシフトダウン (低速ギヤに変速)します。



1. ダウンスイッチ (–)

⚠ 警告

高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避ける。
タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
- 減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。
- マニュアルモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンします。ただし、TCS を OFF にしているときは、キックダウンしません。
→5-42 ページ「オートマチック車の特性」

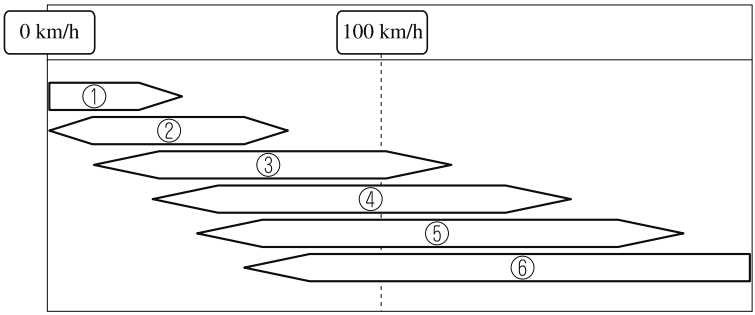
▼ 2 速固定モード

車速が約 10 km/h 以下のときにセレクトレバーを+側に動かして 2 速にすると 2 速固定モードになり、ギヤ位置は 2 速に固定されます。雪道などすべりやすい路面での発進や走行がしやすくなります。
2 速固定モードのときに、セレクトレバーを+側または–側に動かして 2 速以外にすると 2 速固定モードは解除されます。

 *グレード/仕様別装備

▼ シフトチェンジ (変速) 制限速度

マニュアルモードでは、各ギヤ位置において次の表のような制限速度を設けています。制限速度範囲内のときにセレクトレバーを操作すると変速します。



1. 1 速
2. 2 速
3. 3 速
4. 4 速
5. 5 速
6. 6 速

シフトアップ

制限速度より低いときはシフトアップしません。

シフトダウン

制限速度を超えているときはシフトダウンしません。
制限速度を超えていてシフトダウンしなかった場合には、ギヤ位置表示が 2 回点滅し、変速できないことを運転者に知らせます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンします。
ただし、TCS を OFF にしているときは、キックダウンしません。

知識

2 速固定モード時も、キックダウンします。

オートシフトダウン

減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。

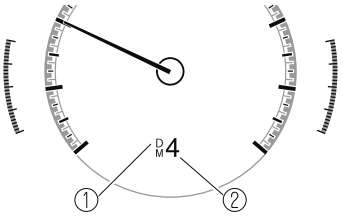
知識

2 速固定モード時は、2 速のまま停車します。

ダイレクトモード

▼ ダイレクトモード

セレクトレバーを D の位置で走行中、ステアリングシフトスイッチを操作すると一時的にギヤ位置を切り替えることができます。
ダイレクトモードのときは、メーターに D と M が表示され、使用しているギヤ位置が表示されます。



1. ダイレクトモード表示
2. ギヤ位置表示

ダイレクトモードは、次の状態になると解除されます。

・UP スイッチ (+/OFF) を一定時間以上手前に引いたとき
・一定時間以上走行したとき (操作時の走行状態により時間は異なります)
・停車したとき、または低速走行になったとき

オートマチック車を運転するときに

▼ オートマチック車を運転するときに

発進または後退するとき

⚠ 警告

セレクトレバーが P または N の位置のときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行ないますので、アクセル操作は慎重に行なってください。

1. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
   前進・・・D、M
   後退・・・R
2. セレクトレバーの位置を確認します。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルを踏み発進します。

⚠ 注意

後退時は体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。

知識

・セレクトレバーを R の位置に入れるとチャイムが鳴り、セレクトレバーが R の位置に入っていることを運転者に知らせます。
・少し後退したときなどはセレクトレバーを R に入れたことを忘れてしまうことがあります。後退した後は、すぐにセレクトレバーを N にもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルを踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキを解除します。

走行するとき

⚠ 警告

走行中にセレクトレバーを N に入れない
トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

通常走行

セレクトレバーを D に入れて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。ギヤは 1 速から 6 速の間で、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行

停車中または走行中にセレクトレバーを D から M に入れると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。
→5-44 ページ「マニュアルモード」

急加速

セレクトレバーが D または M のとき、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速できます。

知識

セレクトレバーが M で TCS を OFF にしているときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでも自動変速されません。セレクトレバーを操作してください。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じ、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギヤにシフトダウンしてください。
マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて 1 段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

停車するとき

1. ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N または P に入れます。

⚠ 警告

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。
セレクトレバーが P、N 以外に入っているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認する。
意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置に入れ、アクセルをふかしながら停車したりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

駐車するとき

1. 車を完全に止めます。
2. セレクトレバーを P に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
4. エンジンを止めます。

⚠ 警告

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかける。
パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーを P に入れただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンをかけたまま駐車しない。
万一セレクトレバーが P、N 以外に入っていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

セレクトレバーを P に入れるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーを P に入れると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

⚠ 警告

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進したりしない。
エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

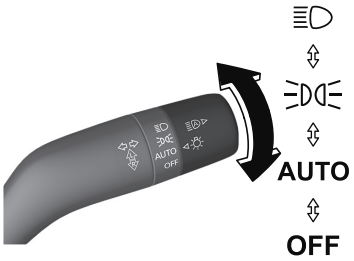
ヘッドランプスイッチ

▼ ヘッドランプの点灯/消灯

電源ポジションが ON のとき使用できます。車幅灯、尾灯、番号灯のみ電源ポジションが ON 以外でも使用できます。ランプスイッチをまわすと、各ランプが点灯/消灯します。

知識

・エンジンを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
・対向車がまぶしくないヘッドランプを採用しています。そのため、海外のような一時的な右側通行で使用するときでも、ヘッドランプの光軸を調整する必要はありません。



電源ポジション	ACC もしくは OFF				ON			
スイッチ位置	OFF*1	AUTO	≡D◇≡	≡D	OFF*1	AUTO	≡D◇≡	≡D
ヘッドランプ	消灯	消灯	消灯	消灯	自動で点灯/消灯 *2*4		自動で点灯/消灯 *3*4	点灯
デイタイムランニングランプ*	消灯	消灯	消灯	消灯				消灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	消灯	点灯	消灯				点灯

*1　ランプスイッチは自動で AUTO の位置に戻ります。
*2　昼間はデイタイムランニングランプが自動で点灯し、夜間はヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動で点灯します。
*3　昼間はデイタイムランニングランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動で点灯し、夜間はヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動で点灯します。

*4 停車中にランプスイッチを OFF の位置に切り替えると、点灯しているランプがすべて消灯します。
停車中にランプスイッチを 以外の位置から の位置に切り替えると、デイタイムランニングランプまたはヘッドランプが消灯します。消灯したランプは、車両を発進させると、再び点灯します。

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。



知識

デイタイムランニングランプは、カスタマイズ設定で無効にすることができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

オートライト機能

電源ポジションが ON のとき使用できます。
ランプスイッチを AUTO、 の位置にすると、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯/消灯します。

注意

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。
センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。



知識

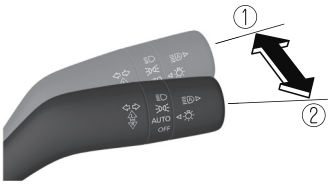
・長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など、周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。
・車幅灯やヘッドランプを点灯させるタイミングを変更することができます。

知識

→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

▼ ヘッドランプの切り替え

レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。



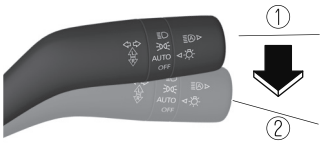
1. 上向き
2. 下向き

ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯しているときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



▼ パッシング合図

電源ポジションが ON のとき使用できます。ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯します。



1. OFF
2. パッシング合図

同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

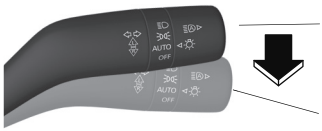


▼ カミング･ホーム･ライト

レバーを操作すると、ヘッドランプ (下向き) を点灯させるシステムです。

作動させるとき

電源ポジションが ACC または OFF のときに、レバーを引くとヘッドランプが下向き (ロービーム) で点灯します。すべてのドアを閉めてから一定時間経過すると消灯します。



知識

- すべてのドアを閉めてからヘッドランプが消灯するまでの時間をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
  →マツダコネクト取扱書 「車両装備」
- レバーを引いた後、何も操作しない状態が 3 分間続いた場合、ヘッドランプは消灯します。
- ヘッドランプが点灯中に、もう一度レバーを引くとヘッドランプは消灯します。

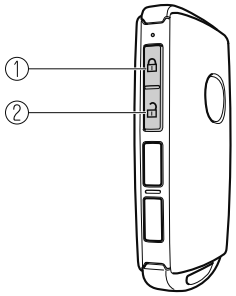
▼ リービング･ホーム･ライト

車両から離れているときにキーのアンロックスイッチを押すと、ランプを点灯させるシステムです。
リービング･ホーム･ライトを作動させると、次のランプが点灯します。
ヘッドランプの下向き (ロービーム)、車幅灯、尾灯、番号灯

作動させるとき

電源ポジションおよびランプスイッチが、次の状態のときにキーのアンロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信するとランプが点灯します。一定時間 (30 秒) 経過すると消灯します。

・電源ポジション: OFF
・ランプスイッチ:、、AUTO



1. ロックスイッチ
2. アンロックスイッチ

知識

・リービング･ホーム･ライトの作動/非作動をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」
・キーのロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信すると消灯します。
・電源ポジションを ON にすると消灯します。
・ランプスイッチを OFF にすると消灯します。

▼ ヘッドランプレベリング

ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

▼ デイタイムランニングランプ*

電源ポジションを ON にすると、自動で点灯/消灯します。

知識

デイタイムランニングランプはマツダコネクトの「設定」で無効にすることができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

 *グレード/仕様別装備

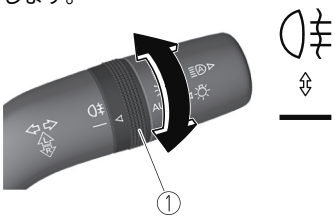
リアフォグランプスイッチ*

▼ リアフォグランプスイッチ

霧などで視界が悪いときに使用します。
次の条件のときリアフォグランプを使用できます。

・電源ポジション: ON
・ヘッドランプ点灯時

リアフォグランプスイッチを の位置にするとリアフォグランプが点灯します。リアフォグランプスイッチは自動でもとの位置にもどります。
リアフォグランプが点灯しているときにリアフォグランプスイッチを の位置にする、またはランプスイッチを OFF にすると、リアフォグランプが消灯します。



1. リアフォグランプスイッチ

リアフォグランプが点灯しているときは、メーター内のリアフォグランプ表示灯が点灯します。



知識

ヘッドランプが消灯しても車幅灯が点灯しているときは、リアフォグランプも点灯し続けます。車幅灯が消灯するとリアフォグランプも消灯します。

方向指示器

▼ 方向指示器の操作

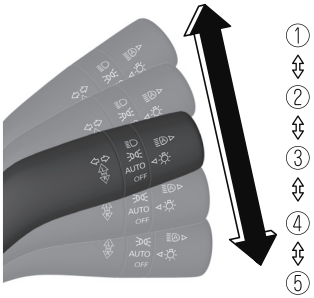
電源ポジションが ON のとき使用できます。

車線変更する場合

レバーを車線変更の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

左折、または右折する場合

レバーを左折または右折の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、ハンドルをもどすと、自動でもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。



1. 左折
2. 左に車線変更
3. OFF
4. 右に車線変更
5. 右折

方向指示灯



知識

・方向指示灯が点滅せず点灯したまま、もしくは異常な点滅をするときは、方向指示灯の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
・方向指示器のブザーの音量をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。

知識

→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

▼ スリーフラッシュターンシグナル

レバーを車線変更の位置に操作し、すぐに手を離すと方向指示灯が 3 回点滅します。

知識

スリーフラッシュターンシグナルの作動/非作動をマツダコネクトの「設定」で変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

フロントワイパー/ウォッシャースイッチ

▼ フロントワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき使用できます。

⚠ 警告

寒冷地では不凍液が入ったウォッシャー液を使用する。また寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスを温めてから行なう。
寒冷時に不凍液が含まれないウォッシャー液を使用した場合、フロントガラス上で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、デフロスターを使用してフロントガラスが十分に温まっていることを確認してください。

⚠ 注意

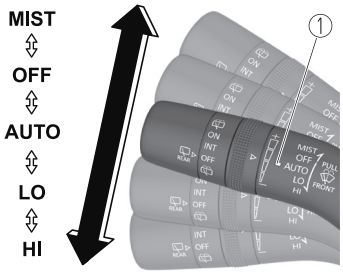
- 凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いた状態で作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。
- ガラスが乾いている状態でワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたり、ワイパーゴムを損傷したりするおそれがあります。ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してください。
- ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ない状態で、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

知識

降雪時にワイパーを作動させていると、ワイパーの停止位置に雪が集まりワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを OFF の位置にした後、集まった雪を取り除いてください。

▼ フロントワイパー

ワイパーレバーを操作すると、フロントワイパーが作動します。



1. 表示灯

レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
AUTO*1	オートワイパー機能
LO	低速作動
HI	高速作動

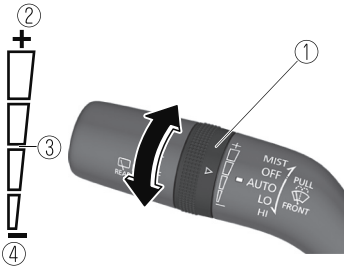
*1 ワイパーレバーを AUTO の位置にすると、表示灯が点灯します。

オートワイパー機能

レバーを AUTO の位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。

雨量	作動状態
少ない	間欠作動
普通	低速作動
多い	高速作動

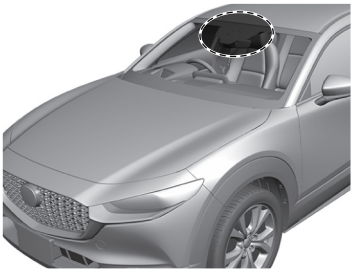
スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。



1. スイッチ
2. 雨に反応しやすい
3. 普通
4. 雨に反応しにくい

注意

- フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の雨量を感知できなくなり、オートワイパー機能が正常に作動しないことがあります。



- 電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。

⚠ 注意

- ➢ フロントガラスのレインセンサー上部に触れたり、布などで拭いたとき。
- ➢ フロントガラスや車内のレインセンサー部に衝撃が加わったとき。

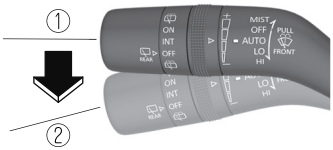
➢ 電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、フロントガラスやワイパーを触らないでください。ワイパーが自動で作動し、指を挟んだり、ワイパーが損傷するおそれがあります。
氷や雪を除去する、またはフロントガラスを清掃するときは、確実にワイパーレバーが OFF の位置になっていることを確認してください。

知識

・レインセンサーの温度が-10°C以下、または 85°C以上のときはオートワイパーが作動しないことがあります。
・フロントガラスに純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。
・フロントガラスのレインセンサー上部に泥や異物 (氷や塩水などを含むもの) が付着しているときや、フロントガラスが凍っているときに、ワイパーが自動で作動することがあります。ワイパーが数回作動してもセンサー上部の泥や異物、氷などを取り除けないときは、オートワイパーは作動を停止します。ワイパーレバーを LO または HI にしてワイパーを作動させるか、フロントガラスの泥や異物、氷などを取り除いてからオートワイパーを作動させてください。
・レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線などの影響により、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを OFF の位置にして走行することをおすすめします。

▼ フロントウォッシャー

ワイパーレバーを手前に引くと、ワイパーが格納位置から反転位置に動いている間のみ、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。



1. 停止
2. ウォッシャーおよびワイパー作動

知識

ワイパーが反転位置から格納位置に動いているときにワイパーレバーを手前に引くと、次回ワイパーが格納位置から反転位置に動いている間、噴射されます。

ウォッシャー液が噴射されないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。
→7-16 ページ「ウォッシャー液の補充」
ウォッシャー液を補充してもウォッシャー液が噴射されないときは、マツダ販売店にご相談ください。

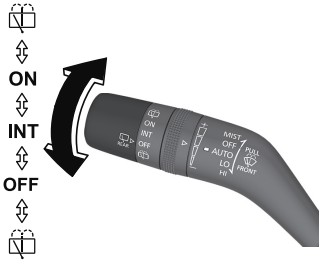
リアワイパー/ウォッシャースイッチ

▼ リアワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき使用できます。

▼ リアワイパー

リアワイパー/ウォッシャースイッチをまわすと、リアワイパーが作動します。



スイッチ位置	作動状態
	リアウォッシャーおよびリアワイパー作動
ON	連続作動
INT	間欠作動
OFF	停止
	リアウォッシャーおよびリアワイパー作動

▼ リアウォッシャー

ウォッシャー液を噴射させるときは、リアワイパー/ウォッシャースイッチを の位置にします。スイッチを離すとウォッシャー液の噴射が止まります。

知識

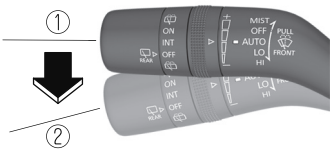
フロントウォッシャー作動中 (ワイパーレバーの操作を行なってからウォッシャー液の噴射が完了する間) は、スイッチを操作してもリアウォッシャーは噴射されません。

ウォッシャー液が噴射されないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。
→7-16 ページ「ウォッシャー液の補充」
ウォッシャー液を補充してもウォッシャー液が噴射されないときは、マツダ販売店にご相談ください。

ヘッドランプウォッシャースイッチ*

▼ ヘッドランプウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON でヘッドランプが点灯しているときに、レバーを手前に 2 回引くとヘッドランプウォッシャーが作動します。



1. 停止
2. ヘッドランプウォッシャー作動

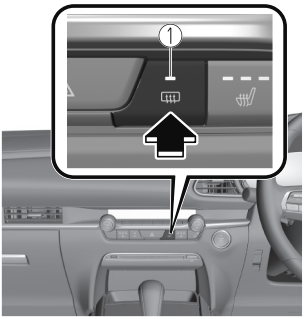
知識

ヘッドランプ点灯後、初めてフロントウォッシャーを作動させると、ヘッドランプウォッシャーが自動で作動します。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

▼ リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーを熱線で温め、曇りを取ります。
電源ポジションが ON のとき使用できます。
スイッチを押すと約 15 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



1. 表示灯

注意

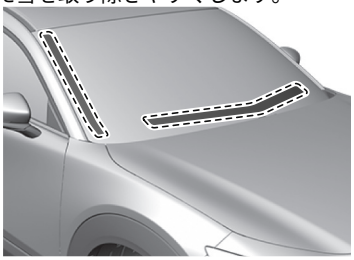
リアウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。
→7-34 ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

知識

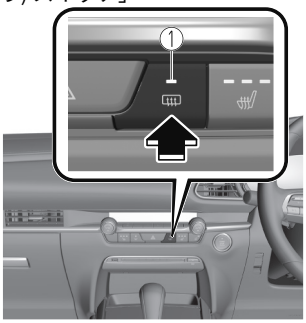
- エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- リアウインドーデフォッガーの作動時間をマツダコネクトの「設定」で 15 分から連続作動に変更することができます。作動時間を連続作動に変更した場合、スイッチを押すと電源ポジションを OFF にするまでリアウインドーデフォッガーが作動し続けます。
- →マツダコネクト取扱書 「車両装備」

▼ ウインドーワイパーデアイサー*

次の位置の熱線を温め、フロント窓ガラスにたまった雪を取り除きやすくします。



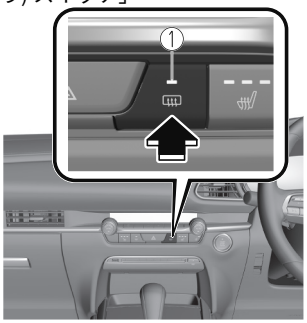
ウインドーワイパーデアイサーは、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) と連動して作動します。
電源ポジションを ON にして、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すとウインドーワイパーデアイサーが作動します。
→5-60 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」



1. 表示灯

▼ ミラーの曇り取り*

ドアミラーの曇りを取ることができます。
ミラーの曇り取りは、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) と連動して作動します。
電源ポジションを ON にして、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すとミラーの曇り取りが作動します。
→5-60 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」



1. 表示灯

ホーン

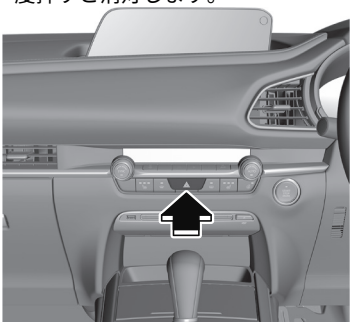
▼ ホーン

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

非常点滅灯スイッチ

▼ 非常点滅灯スイッチ

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯および、メーター内の非常点滅表示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



非常点滅表示灯



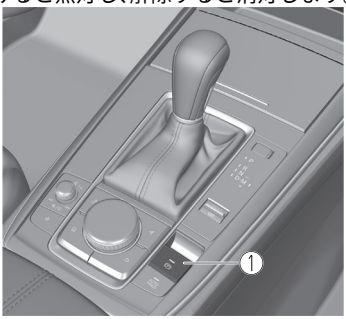
知識

・すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示灯が点滅することがあります。
→5-70 ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 」
・エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意を促します。
→5-70 ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 」

ブレーキの操作

▼ 電動パーキングブレーキ (EPB)

EPB とは、電気モーターでパーキングブレーキをかける装置です。自動での作動および手動での操作ができます。
EPB スイッチの表示灯は、パーキングブレーキをかけると点灯し、解除すると消灯します。



1. 表示灯

⚠ 警告

パーキングブレーキをかけたまま走行しない
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱しブレーキシステムが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行するときはパーキングブレーキを解除し、メーター内の EPB 表示灯が消灯していることを確認してください。

車から離れるときは、パーキングブレーキをかける
意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車から離れるときはパーキングブレーキをかけ、メーター内の EPB 表示灯が点灯していることを確認してください。

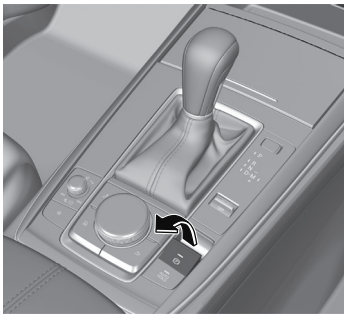
知識

- バッテリーがあがったときは、パーキングブレーキをかけたり、解除したりすることはできません。
→8-17 ページ「バッテリーあがりについて」
- メーター内の充電警告灯が点灯しているときは、電源ポジションを OFF にした後、パーキングブレーキをかけることができません。電源ポジションを OFF にする前に、手動でパーキングブレーキをかけてください。
- パーキングブレーキをかけたり、解除したりしたときに、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- EPB を長期間使用しない場合は、駐車中にシステムの自動点検を行ないます。作動音が聞こえますが、異常ではありません。
- パーキングブレーキをかけて電源ポジションを OFF にしたとき、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- パーキングブレーキをかけたり、解除したりしたときに、ブレーキペダルが動くことがありますが、異常ではありません。
- 走行中にブレーキシステム (フットブレーキ) が故障した場合、EPB スイッチを引き続けると、その間はブレーキがかかり、車両を減速・停止させることができます。ブレーキ作動中は、EPB 警告チャイムが鳴ります。また、スイッチから手を離すと、ブレーキは解除され、チャイムが停止します。
- 電源ポジションが OFF または ACC のときにパーキングブレーキがかかっている場合は、メーター内の EPB 表示灯およびスイッチの表示灯が 15 秒間点灯することがあります。
- 前輪を載せて車両を動かすタイプの自動洗車機を使用する場合は、車両を自動洗車機に入れる際に、パーキングブレーキの自動作動を停止する必要があります。詳細は「パーキングブレーキの自動作動を停止するとき」を参照してください。

手動で操作するとき

パーキングブレーキを手動でかけるとき

電源ポジションに関係なく、ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPB スイッチを引き上げると、パーキングブレーキがかかります。パーキングブレーキがかかると、メーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が点灯します。

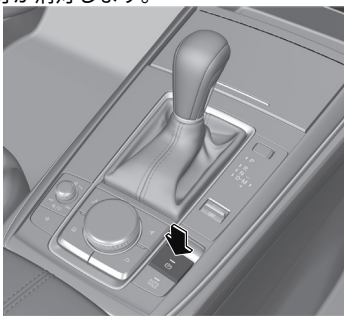


EPB 表示灯



パーキングブレーキを手動で解除するとき

電源ポジションが ON またはエンジン回転中にブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPB スイッチを押すと、パーキングブレーキが解除されます。パーキングブレーキを解除すると、メーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が消灯します。



ブレーキペダルを踏み込まずに EPB スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブレーキペダルを踏み込むよう運転者にお知らせます。

→8-34 ページ「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

自動で作動するとき

パーキングブレーキを自動でかけるとき

電源ポジションを ON から ACC または OFF にすると、パーキングブレーキが自動でかかります。パーキングブレーキがかかると、メーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が点灯します。

知識

・電源ポジションが OFF のときに、パーキングブレーキを解除したい場合は、パーキングブレーキの自動作動を停止する必要があります。詳細は「パーキングブレーキの自動作動を停止するとき」を参照してください。

パーキングブレーキを自動で解除するとき

パーキングブレーキがかかっている状態で、次の条件をすべて満たしているときにアクセルペダルを踏むと、パーキングブレーキが自動で解除されます。パーキングブレーキを解除するとメーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が消灯します。

・エンジン回転中のとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・**(マニュアル車)**
  ・チェンジレバーがニュートラル位置以外のとき
  ・半クラッチ操作をしているとき
・**(オートマチック車)**
  セレクトレバーが D、M、R の位置のとき

知識

エンジン回転中でパーキングブレーキがかかっているときに、アクセルペダルに足などがあたると、パーキングブレーキを自動解除してしまう場合があります。ただちに発進しない場合は、マニュアル車はチェンジレバーをニュートラル位置に、オートマチック車はセレクトレバーを P または N の位置にしてください。

パーキングブレーキの自動作動を停止するとき

次のいずれかの操作を行なうと、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、パーキングブレーキが自動でかかる作動を停止することができます。

操作方法 1

1. 電源ポジションを ON にします。
2. パーキングブレーキを手動で解除します。
3. オートホールドを OFF にします。
4. 2 秒以上 (チャイムが鳴るまで)、EPB スイッチを押し続けます。
5. EPB スイッチから手を離し、チャイムが鳴ってから 5 秒以内に、電源ポジションを OFF にします。
   自動作動を停止すると、チャイムが 1 回鳴り、EPB スイッチの表示灯が、消灯から速い点滅に変わり、3 秒後に消灯します。

操作方法 2

1. 電源ポジションを ON にします。
2. パーキングブレーキを手動で解除します。
3. オートホールドを OFF にします。
4. EPB スイッチを押したまま、ブレーキペダルを踏んでいない状態でプッシュボタンスタートを押して、電源ポジションを OFF にします。
   自動作動を停止すると、チャイムが 1 回鳴り、EPB スイッチの表示灯が、通常の点滅から速い点滅に変わり、3 秒後に消灯します。

知識

・パーキングブレーキの自動作動を停止して駐車するときは、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R の位置に、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にしてタイヤに輪止めをしてください。
・急勾配のときは、自動作動を停止できないときがあります。

パーキングブレーキの自動作動は、電源ポジションを ON にすると復帰します。

▼ ブレーキ･オーバーライド･システム

ブレーキ･オーバーライド･システムとは、ブレーキとアクセルを同時に踏み込んだ際、安全のためにブレーキを優先して作動させるシステムです。

知識

ブレーキ･オーバーライド･システムを作動しないようにマツダコネクトの「設定」で変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

オートホールド

▼ オートホールド

停車中にブレーキペダルから足を放しても、ブレーキを制御して車両の停車状態を保持する機能です。信号待ちなどの停車時に運転者の負担を軽減します。

⚠ 警告

オートホールドを過信しない
オートホールドは、あくまでも停車時のブレーキ操作を補助する機能です。機能を過信してブレーキ操作を怠ると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。道路状況や周囲の状況に応じて、適切にブレーキを操作してください。

停車中、急な坂道ではブレーキペダルから足を放さない
オートホールド機能による停車保持ができない可能性があるため、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

凍結路、積雪路および未舗装路などのすべりやすい路面では、オートホールドの使用をひかえる
オートホールド機能による停車保持が作動していても、車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてアクセルやブレーキ、ハンドルを適切に操作してください。

次のような場合は、ただちにブレーキペダルを踏み込む
オートホールド機能が強制解除されるため、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキペダルを踏んでください停止保持を継続できません」とメッセージが表示され、同時にブザーが鳴ったとき

駐車するとき、および車両から離れるときは、パーキングブレーキをかける
意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。駐車するとき、および車両から離れるときは、セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車) にして、パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

車両が発進する前にアクセル操作をやめた場合、停車状態を保持する力が弱まっている場合があります。ブレーキペダルをしっかり踏み込む、または発進するまでアクセルペダルを踏み込んでください。

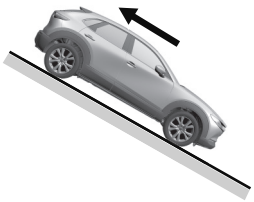
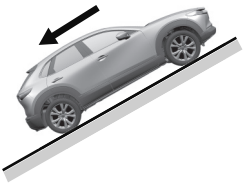
知識

・次のようなときは、オートホールドに不具合が発生しています。すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

・オートホールド作動中やオートホールドスイッチを操作したときに、約 5 秒間、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されてブザーが鳴る

知識

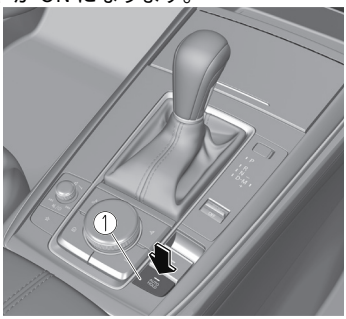
・オートホールド作動中に電源ポジションを OFF にすると、自動的にパーキングブレーキがかかり、駐車するときに必要な運転者の操作を補助します。
・車両前上がりの状態、または平坦路でシフトレバー/セレクトレバーを R の位置にすると、オートホールドが解除されます。必要に応じてブレーキを操作してください。

車両姿勢および路面勾配		オートホールド作動状態
車両前下がり		作動する
平坦路		作動しない、解除
車両前上がり		作動しない、解除

: 後退時 (シフトレバー/セレクトレバーが R の位置)

▼ オートホールドを ON にするとき

オートホールドスイッチを押して、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯すると、オートホールドが ON になります。



1. オートホールドスタンバイ表示灯

知識

・次のすべての条件を満たすと、オートホールドスイッチを押したときに、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯して、オートホールドが ON になります。
  ・電源ポジションが ON のとき (エンジン回転中、またはアイドリングストップ中)
  ・運転席シートベルトを着用しているとき
  ・運転席ドアが閉まっているとき
  ・オートホールドが故障していないとき

オートホールドを作動させ、ブレーキを保持するには

1. ブレーキペダルを踏み、車両を停車させます。
2. メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯し、ブレーキが保持されます。

HOLD

3. ブレーキペダルから足を放すと、車両の停車状態が保持されます。

知識

・次のすべての条件を満たすと、オートホールドが作動して、ブレーキが保持されます。
  ・電源ポジションが ON のとき (エンジン回転中、またはアイドリングストップ中)
  ・車両が停止しているとき
  ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
  ・オートホールドスタンバイ表示灯が点灯しているとき
  ・アクセルペダルを踏んでいないとき
  ・運転席シートベルトを着用しているとき
  ・運転席ドアが閉まっているとき
  ・オートホールドが故障していないとき
  ・パーキングブレーキが解除されているとき
  ・電動パーキングブレーキ (EPB) が故障していないとき
  ・**(オートマチック車)**
  セレクトレバーが R 以外の位置、または R の位置で車両が前下がりの状態のとき

オートホールドを解除させ、発進するには

・車両を発進させようとすると、ブレーキ保持が解除され、メーター内のオートホールド作動表示灯が消灯します。

知識

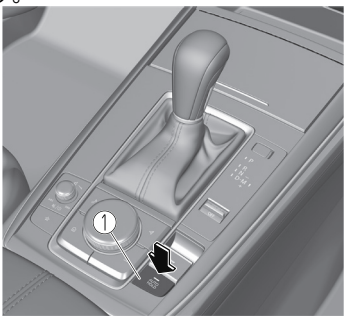
・オートホールドが作動しているときに、電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き上げると、パーキングブレーキがかかり、オートホールドが解除されます。また、この状態からパーキングブレーキを解除すると、オートホールドが作動して、ブレーキが保持されます。
・次のようなときは、パーキングブレーキが自動でかかり、オートホールドが解除されます。オートホールドが解除される前の状態にもどすと、オートホールドが復帰します。
  ・運転席シートベルトをはずしたとき
  ・運転席ドアを開けたとき

知識

・オートホールドが作動開始してから約 10 分以上経過すると、パーキングブレーキが自動でかかります。パーキングブレーキを解除すると、オートホールドが復帰するため、再度オートホールドでのブレーキ保持を開始します。
・**(マニュアル車)**
発進したい方向が下り坂の場合、クラッチペダルを踏み込みチェンジレバーのギヤの位置を発進したい下り坂方向にして、アクセルペダルを踏み込むとオートホールドが解除されます。
・オートホールド作動中に、アクセルペダルを約 1 秒いっぱいに踏み込むと、オートホールドを強制的に解除できます。システム故障などでオートホールドが通常操作で解除できないときや、緊急でオートホールドの解除が必要なときのみ使用してください。

▼ オートホールドを OFF にするとき

ブレーキペダルを踏み込み、オートホールドスイッチを押します。オートホールドが OFF になり、オートホールドスタンバイ表示灯が消灯します。



1. オートホールドスタンバイ表示灯

知識

・走行中などブレーキが保持されていないときは、オートホールドスイッチを押すだけでオートホールドを OFF にすることができます。
・オートホールドが作動しているとき (メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯中) に、ブレーキペダルを踏み込まずにオートホールドスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに「解除するにはブレーキペダルを踏みスイッチを操作してください」とメッセージが表示され、ブレーキペダルを踏み込むように運転者に知らせます。
・オートホールドが作動しているとき (メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯中) に、次のような状況になると、パーキングブレーキが自動でかかり、オートホールドが OFF になります。電動パーキングブレーキ (EPB) の操作方法については、電動パーキングブレーキ (EPB) を参照してください。
→5-63 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB)」

・電源ポジションを OFF にしたとき
・オートホールドが故障したとき

エマージェンシーシグナルシステム (ESS)

▼ エマージェンシーシグナルシステム (ESS)

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は、急ブレーキをかけたときの車速が約 55 km/h 以上のときに、すべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意を促すシステムです。

知識

・**点滅について**
すべての方向指示灯が高速点滅中に停車した場合、すべての方向指示灯は通常の周期で点滅します。ブレーキペダルから足を放すと方向指示灯が消灯します。
・**作動について**
・ABS 作動時は、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しやすくなります。そのため、すべりやすい路面でブレーキを踏むと、すべての方向指示灯が点滅することがあります。
・非常点滅灯スイッチが操作されると、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は作動しません。

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは

▼ ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは

HLA とは、坂道発進を補助する機能です。坂道停車後の発進時、ブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえる際の車両のずり下がりを防ぎます。坂道を後退して上るときにも作動します。
急な坂道でブレーキペダルを放したときに自動でブレーキ力を保持します。

・**(マニュアル車)**
チェンジレバーが前進ギヤのときは、車両前上がりの状態のとき作動し、R の位置のときは車両前下がりの状態のとき作動します。
・**(オートマチック車)**
セレクトレバーが前進の位置のときは、車両前上がりの状態のとき作動し、R の位置のときは車両前下がりの状態のとき作動します。

⚠ 警告

HLA を過信しない。
HLA はあくまでも発進するときの補助機能です。システムが作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので、アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあるため危険です。発進時は周囲の安全を確認してください。積載やけん引の状態によって、車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

知識

・緩勾配の坂道では HLA が作動しません。また、積載状態によって作動する勾配が若干変化します。
・パーキングブレーキがかかっているときや、車両が完全に停車していないときは HLA は作動しません。
・HLA 作動中にブレーキペダルが硬くなったり、ペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。
・TCS/DSC 作動表示灯が点灯しているときは、HLA が作動しないことがあります。

知識

・TCS を解除しても HLA は解除されません。
・**(オートマチック車)**
アイドリングストップ中は HLA は作動しませんが、発進補助機能が作動して車両が動き出すことを防ぎます。

ABS とは

▼ ABS とは

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。

⚠ 警告

ABS を過信せず安全運転に心がける。
ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ジャリ道、新雪道を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

⚠ 注意

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しないことがあります。

▼ ABS 装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。万一の危険な状況では、次のようにしてください。

1. 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
2. ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。
3. 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

知識

- ABS は低速 (約 10 km/h 以下) では作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後に、モーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

TCS とは

▼ TCS とは

TCS (トラクションコントロールシステム) は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ､適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。

⚠ 警告

TCS を過信せず安全運転に心がける。
TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり､無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

・エンジン回転が高いときに TCS が作動すると､エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが､異常ではありません。
・TCS を解除するときは､TCS OFF スイッチを押して解除してください。
→5-73 ページ「TCS OFF スイッチ」

▼ TCS/DSC 作動表示灯



点灯するとき

・電源ポジションを ON にすると点灯し､しばらくすると消灯します。
・次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  ・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき､または点灯したままのとき。
  ・走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

▼ TCS OFF 表示灯 (2WD 車)

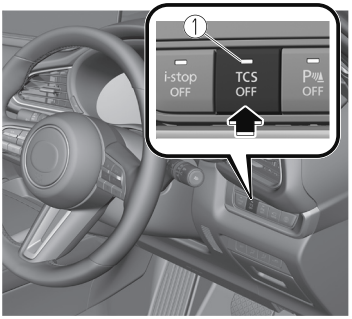


点灯するとき

・電源ポジションを ON にすると点灯し､しばらくすると消灯します。
・TCS OFF スイッチを押して､TCS を停止すると点灯します。
・次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  ・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき､または点灯したままのとき。
  ・TCS を停止していないのに点灯したとき。

▼ TCS OFF スイッチ (2WD 車)

スイッチを押すと TCS が停止され､メーター内の TCS OFF 表示灯と TCS OFF スイッチ表示灯が点灯します。もう一度押すと TCS が作動可能な状態になり､メーター内の TCS OFF 表示灯と TCS OFF スイッチ表示灯が消灯します。



1. TCS OFF スイッチ表示灯

知識

・ぬかるみや新雪などからの脱出時に TCS が作動し､アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず､脱出困難なときに TCS を停止します。
・TCS を停止した状態でエンジンを停止した場合､次にエンジンを始動すると TCS は作動可能な状態にもどります。

知識

・TCS を停止したときは､TCS が装備されていない車と同じ走行性能になります。
・TCS OFF スイッチを 10 秒以上押し続けると､その後 TCS OFF スイッチを押しても TCS を停止することができなくなります。
その場合､一度電源ポジションを OFF にして､再度電源ポジションを ON にすると､通常の TCS OFF スイッチの操作が可能になります。
・TCS を停止した状態でスマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動すると､TCS は自動的に作動可能な状態に復帰します。
・TCS を停止した状態でマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)/マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))/クルージング & トラフィック･サポート (CTS) を設定すると､TCS は自動的に作動可能な状態に復帰します。

DSC とは

▼ DSC とは

DSC (ダイナミック･スタビリティ･コントロール) は､すべりやすい路面での走行時や､緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりを抑えるため､ABS や TCS などにより､ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して､車両の安定性を確保する装置です。
DSC は約 20 km/h 以上で作動可能な状態になります。
「ABS について」､「TCS について」もあわせてお読みください。
→5-72 ページ「ABS とは」
→5-73 ページ「TCS とは」

警告

DSC を過信せず安全運転に心がける。
DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため､無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
特に TCS/DSC 作動表示灯が点滅しているときは､車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

注意

- DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。
  - 前後輪とも必ず指定されたサイズで､メーカー､銘柄､パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - 指定以外のサイズや､異なる種類､摩耗差の著しいタイヤを使用しないでください。
- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは､DSC が正常に作動しないことがあります。

知識

・電源ポジションを ON にした後、インストルメントパネルの奥からカチッと音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。
・DSC が故障したときは、ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) が作動しないおそれがあります。
→5-70 ページ「ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは」

▼ TCS/DSC 作動表示灯



点灯するとき

・電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
・次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  ・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  ・走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

オフロード･トラクション･アシストとは (AWD 車)

▼ オフロード･トラクション･アシストとは

オフロード･トラクション･アシストは、ぬかるみ、砂地、深雪路などでスタックした場合に駆動輪の空転を防ぎ、スタック脱出を補助する機能です。
凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。

警告

オフロード･トラクション･アシストを過信しない。
オフロード･トラクション･アシストには限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあるため、路面状態に応じた安全運転に心がけてください。また、次のようなときには、オフロード･トラクション･アシストを作動させた状態で走行しないでください。駆動系部品に悪影響をおよぼし思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 舗装路を走行するとき。
- 指定サイズと異なる応急用スペアタイヤなどを装着しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。

注意

オフロード・トラクション・アシストは、スタック脱出を補助する機能です。必要がない場合は、オフロード・トラクション・アシストを作動させた状態での連続走行は避けてください。
オフロード・トラクション・アシストを作動させた状態で連続走行すると、AWD 警告表示/警告灯が表示/点滅することがあります。
→8-30 ページ「AWD 警告表示/警告灯」

知識

オフロード・トラクション・アシストが作動中や作動可能な状態にしたとき、車体の振動や作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

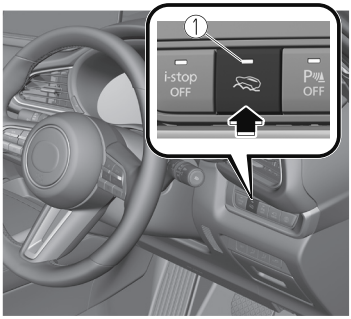
▼ オフロード・トラクション・アシスト表示灯



・電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
・オフロード・トラクション・アシストスイッチを押して、オフロード・トラクション・アシストを作動させると点灯します。
・次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  ・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  ・オフロード・トラクション・アシストを作動させていないのに点灯したとき。

▼ オフロード・トラクション・アシストスイッチ

車両を停止させて、スイッチを押すとオフロード・トラクション・アシストが作動可能な状態になります。
メーター内のオフロード・トラクション・アシスト表示灯とオフロード・トラクション・アシストスイッチ表示灯が点灯します。



1. オフロード・トラクション・アシストスイッチ表示灯

もう一度押すとオフロード・トラクション・アシストが停止し、オフロード・トラクション・アシスト表示灯とオフロード・トラクション・アシストスイッチ表示灯が消灯します。

知識

オフロード・トラクション・アシストを作動可能な状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動するとオフロード・トラクション・アシストは停止します。

ドライブセレクションとは*

▼ ドライブセレクションとは

ドライブセレクションとは、車両の走行モードを切り替えることができるシステムです。
スポーツモードを選択すると、アクセルペダルを踏み込んだときの車両応答性が高められます。
より安全に高速道路に合流したり、追い越したりしたいときにご使用ください。

⚠ 注意

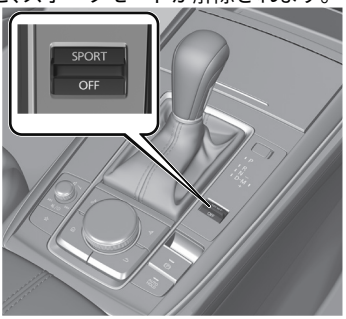
ぬれた路面や積雪路などすべりやすい路面を走行しているときは、スポーツモードの使用を避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。

知識

・スポーツモードを選択すると、高いエンジン回転数での走行が多くなり、燃費が悪化することがあります。通常時はスポーツモードを解除して走行することをおすすめします。
・次のようなときは、走行モードの切り替えはできません。
  ・ABS/TCS/DSC が作動しているとき
  ・クルーズコントロールで定速走行をしているとき
  ・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) で定速走行しているとき
  ・**(クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 装備車)**
  クルージング&トラフィック・サポート (CTS) を設定しているとき
  ・急激なハンドル操作を行なっているとき

▼ ドライブセレクションスイッチ

ドライブセレクションスイッチを前方 (SPORT) に押すと、スポーツモードになります。
ドライブセレクションスイッチを手前 (OFF) に引くと、スポーツモードが解除されます。

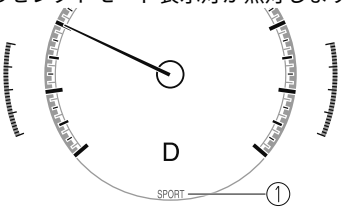


知識

・次の操作をするとスポーツモードは解除されます。
  ・電源ポジションを OFF にしたとき。
  ・クルーズコントロールを設定したとき。
  ・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付) を設定したとき。
  ・**(クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 装備車)**
  クルージング&トラフィック・サポート (CTS) を設定したとき。
・スポーツモードを選択したときの走行状態によっては、シフトダウンしたり、少し加速したりすることがあります。

▼ セレクトモード表示灯

スポーツモードを選択しているときに、メーター内のセレクトモード表示灯が点灯します。



1. セレクトモード表示灯

知識

走行モードを切り替えることができないときは、セレクトモード表示灯が点滅してお知らせします。

i-ACTIV AWD*

▼ i-ACTIV AWD

AWD は、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面で優れた走行性を発揮します。

▼ 走行するときは

本格的なオフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。AWD 車であっても、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行ない、常に安全運転を心がけてください。

i-ACTIVSENSE とは

▼ i-ACTIVSENSE とは

i-ACTIVSENSE (アイ・アクティブセンス) とは、フォワードセンシングカメラ (FSC) やレーダーセンサーなどの検知システムを利用したマツダの先進安全・運転支援システムの総称です。これらのシステムは、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術で構成されています。
これらのシステムはあくまで、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷や事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

▼ アクティブセーフティ技術とは

アクティブセーフティ技術とは、安全・安心な運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。

認知支援システム

夜間視界

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) .....5-85 ページ
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC).....5-84 ページ

左右側面・後側方認知

車線逸脱警報システム.....5-87 ページ
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM).....5-90 ページ

標識認知

交通標識認識システム (TSR).....5-94 ページ

車間認知

ディスタンス & スピード・アラート (DSA).....5-100 ページ

交差点発進時前方認知

前側方接近車両検知 (FCTA).....5-104 ページ

駐車場発進時後方認知

後側方接近車両検知 (RCTA).....5-106 ページ

全周囲認知

360°ビュー・モニター..... 5-155 ページ

運転者疲労検知

ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....5-101 ページ
ドライバー・モニタリング..... 5-102 ページ

運転支援システム

車間距離

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC).....5-109 ページ
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)).....5-116 ページ

車線逸脱

レーンキープ・アシスト・システム (LAS) .....5-138 ページ

車間距離・車線保持

クルージング & トラフィック・サポート (CTS)..... 5-125 ページ

▼ プリクラッシュセーフティ技術とは

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故が避けづらい状況での衝突回避、避けられず衝突した際の被害低減を図る技術です。

衝突回避支援・被害軽減

前進時

スマート・ブレーキ・サポート (SBS).....5-141 ページ
AT 誤発進抑制制御 [前進時].....5-149 ページ

後退時

スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R)..... 5-143 ページ
スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC)..... 5-146 ページ
AT 誤発進抑制制御 [後退時].....5-153 ページ

▼ カメラ、センサーについて

フォワードセンシングカメラ (FSC)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、車線表示を検知したり、夜間走行時にはヘッドランプ、テールランプ、街灯を認識したりしています。また、前方の車両や歩行者、障害物も認識します。フォワードセンシングカメラ (FSC) は、次のシステムが共用しています。

・ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
・アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)

・車線逸脱警報システム
・交通標識認識システム (TSR)
・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
・ドライバー・モニタリング
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
・レーンキープ・アシスト・システム (LAS)
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
・AT 誤発進抑制制御 [前進時]
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、フロントガラスの上のルームミラー付近に設置されています。
→5-183 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」

フロントレーダーセンサー

フロントレーダーセンサーは、レーダーセンサーから送信される電波が前方車や障害物に反射し、もどってきた電波により対象物を検知します。フロントレーダーセンサーは次のシステムが共用しています。

・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

フロントレーダーセンサーは、ラジエーターグリルの裏側に設置されています。
→5-186 ページ「フロントレーダーセンサーについて」

フロントサイドレーダーセンサー

フロントサイドレーダーセンサーは、レーダーセンサーから送信される電波が前方車や障害物に反射し、もどってきた電波により対象物を検知します。フロントサイドレーダーセンサーは次のシステムが共用しています。

・前側方接近車両検知 (FCTA)

フロントサイドレーダーセンサーはフロントバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。
→5-188 ページ「フロントサイドレーダーセンサーについて」

リアサイドレーダーセンサー

リアサイドレーダーセンサーは、レーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。リアサイドレーダーセンサーは次のシステムが共用しています。

・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC)

リアサイドレーダーセンサーはリアバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。
→5-189 ページ「リアサイドレーダーセンサーについて」

フロント超音波センサー

フロント超音波センサーは、超音波センサーから送信される超音波が前方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。フロント超音波センサーは AT 誤発進抑制制御 [前進時] で使用しています。フロント超音波センサーはフロントバンパーに設置されています。
→5-190 ページ「フロント超音波センサーについて」

リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサー

リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーは、超音波センサーから送信される超音波が後方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーは次のシステムが共用しています。

・AT 誤発進抑制制御 [後退時]
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R)
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC)

リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーはリアバンパーに設置されています。
→5-190 ページ「リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーについて」

フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ

フロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラは、車両周辺の映像を撮影します。各カメラは 360°ビュー・モニターで使用しています。
各カメラはフロントバンパー、ドアミラー、およびリアゲートに設置されています。
→5-191 ページ「フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラについて」

ドライバー・モニタリングカメラ

ドライバー・モニタリングカメラは、顔の各部位の変化を検出し、運転者の疲労や眠気を推定しています。ドライバー・モニタリングカメラはドライバー・モニタリングで使用しています。
ドライバー・モニタリングカメラはセンターディスプレイに設置されています。
→5-191 ページ「ドライバー・モニタリングカメラについて」

▼ 警報・リスク回避支援表示

次のシステム状態を警報・リスク回避支援表示の色または OFF 表示で運転者にお知らせします。

・車線逸脱警報システム
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・前側方接近車両検知 (FCTA)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・レーンキープ・アシスト・システム (LAS)

知識

カスタマイズで起動しているシステムの状態を表示します。

警報・リスク回避支援表示 (白)



システム待機状態

すべてのシステムの作動条件を満たしていないまたは、システムに何らかの故障がある場合は、警報・リスク回避支援表示 (白) を表示します。

知識

たとえば、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) が正常に作動していても、車線逸脱警報システムが故障している場合は、警報・リスク回避支援表示 (白) を表示します。

警報・リスク回避支援表示 (緑)



システム作動状態

いずれかのシステムが作動条件を満たしている場合は、警報・リスク回避支援表示 (緑) を表示します。

知識

警報・リスク回避支援表示 (緑) が表示していても、作動条件を満たしていないシステムは作動しません。

警報・リスク回避支援表示 (橙)



システム警告状態

いずれかのシステムが警報している場合は、警報・リスク回避支援表示 (橙) を表示します。

警報・リスク回避支援 OFF 表示



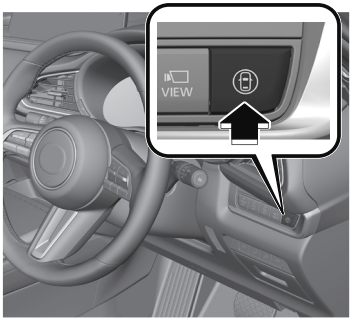
システム停止状態

i-ACTIVSENSE スイッチですべてのシステムを停止している場合は、警報・リスク回避支援 OFF 表示を表示します。

▼ i-ACTIVSENSE スイッチ

i-ACTIVSENSE スイッチを押すと、次のシステムの作動が停止し、メーター内に警報・リスク回避支援 OFF 表示が表示されます。

・車線逸脱警報システム
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・前側方接近車両検知 (FCTA)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・レーンキープ・アシスト・システム (LAS)



警報・リスク回避支援 OFF 表示



もう一度、i-ACTIVSENSE スイッチを押すともとの作動状態になり、警報・リスク回避支援 OFF 表示が消えます。
i-ACTIVSENSE スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にし、次に電源ポジションを ON にすると、システムは自動復帰します。
ただし、カスタマイズ設定でシステムを停止している場合は自動復帰しません。

知識

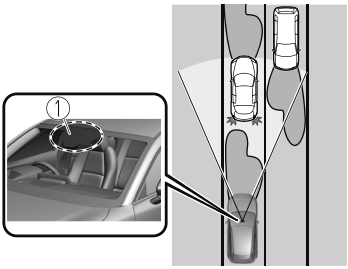
カスタマイズ設定で停止できるシステムを選択することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) とは*

▼ ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) とは

HBC は､フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方の状況を判断し､ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を自動的に切り替えるシステムです。
→5-183 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) ついて」
時速約 30 km/h 以上で走行中に､前方に前方車や対向車がいないときは､ヘッドランプは上向き (ハイビーム) に切り替わります。
次のときは､ヘッドランプを下向き (ロービーム) に切り替えます。

・前方に前方車や対向車のランプ類を検知したとき
・街灯が並んでいるエリアや､路面の明るい街中を走行しているとき
・車速が約 20 km/h 未満のとき



1. フォワードセンシングカメラ (FSC)*1

*1 フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を認識できる距離は､周囲の状況により異なります。

⚠ 注意

➢ サスペンションの改造､ヘッドランプユニットの改造､カメラの取りはずしを行なわないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

➢ システムを過信せず､常に周囲の状況に注意を払い､必要に応じて上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えるなど､安全運転に心がけてください。

知識

次のような状況では､ヘッドランプの切り替えタイミングが変化することがあります。視界や道路状況､交通状況に応じて､上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

・周囲に街灯､電光掲示､信号機などの光源があるとき
・周囲に反射板や標識などの反射物があるとき
・雨､雪､霧などで視界が悪いとき
・カーブの多い道､起伏の激しい道を走行しているとき
・前方車や対向車のランプが暗いときや電球切れしているとき
・薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
・荷室や後席へ重い荷物をのせたとき
・前方車が水をまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき

▼ 作動させるとき

電源ポジションが ON の状態でランプスイッチが AUTO の位置のときに､ヘッドランプを下向き (ロービーム) にします。
周囲の明るさから HBC が夜と判断すると作動します。同時に､メーター内の HBC 表示灯 (緑) が点灯します。



知識

HBC を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ 手動で切り替えるとき

ヘッドランプを下向き (ロービーム) に切り替えるとき

ランプスイッチを≡Dの位置に切り替える、もしくは HBC スイッチを押します。
HBC 表示灯 (緑) が消灯します。



1. HBC スイッチ

HBC スイッチで HBC を停止した場合は、もう一度 HBC スイッチを押すと HBC が作動可能な状態にもどります。

ヘッドランプを上向き (ハイビーム) に切り替えるとき

レバーをハイビームの位置にします。
HBC 表示灯 (緑) が消灯し、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

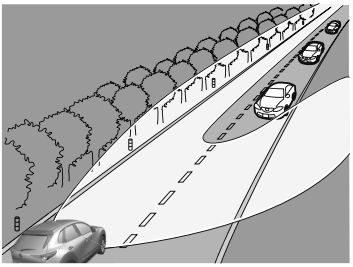
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) とは*

▼ アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) とは

ALH は、フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方車や対向車の状況を判断し、ヘッドランプの照射範囲、照射部分や明るさを自動的に変化させるシステムです。
→5-183 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
ALH は、ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を次のように制御し、前方車や対向車を眩惑することなく運転者の視界確保を支援します。

グレアフリー (防眩) ハイビーム

ヘッドランプ上向き (ハイビーム) の配光を前方車の部分だけ減光して照射します。
車速約 30 km/h 以上で走行中に、ヘッドランプ上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を切り替えます。また、車速が約 20 km/h 未満になると、ヘッドランプは下向き (ロービーム) に切り替わります。

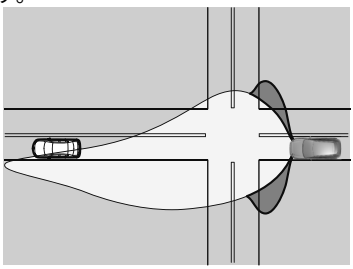


知識

ヘッドランプが上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

ワイド配光ロービーム

車速約 40 km/h 未満で走行中に、ヘッドランプ下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大して照射します。



ハイウェイモード

高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方向へ移動して照射します。



ALH が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。

⚠ 注意

- サスペンションの改造、ヘッドランプユニットの改造、カメラの取りはずしを行なわないでください。ALH が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- システムを過信せず、常に周囲の状況に注意を払い、必要に応じて、上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えるなど、安全運転に心がけてください。

知識

次のような状況では、ALH が正常に作動しない場合があります。視界や道路状況、交通状況に応じて、上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

・周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
・周囲に反射板や標識などの反射物があるとき

知識

・雨、雪、霧などで視界が悪いとき
・カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき
・前方車や対向車のランプが暗いときや電球切れしているとき
・薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
・荷室や後席へ重い荷物をのせたとき
・前方車が水をまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき

▼ 作動させるとき

電源ポジションが ON の状態でランプスイッチが AUTO の位置のときに、ヘッドランプを下向き (ロービーム) にします。
周囲の明るさから ALH が夜と判断すると作動します。同時に、メーター内の ALH 表示灯 (緑) が点灯します。



知識

ALH を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ 手動で切り替えるとき

ヘッドランプを下向き (ロービーム) に切り替えるとき

ランプスイッチを≡Dの位置に切り替える、もしくは ALH スイッチを押します。
ALH 表示灯 (緑) が消灯します。



1. ALH スイッチ

ALH スイッチで ALH を停止した場合は、もう一度 ALH スイッチを押すと ALH が作動可能な状態にもどります。

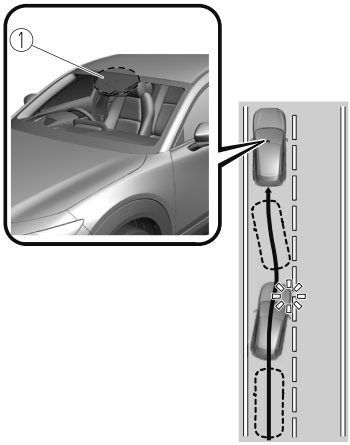
ヘッドランプを上向き (ハイビーム) に切り替えるとき

レバーをハイビームの位置にします。
ALH 表示灯 (緑) が消灯し、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

車線逸脱警報システムとは

▼ 車線逸脱警報システムとは

車線逸脱警報システムは自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせる装置です。走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知して、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、車線逸脱警報により運転者に知らせます。
→5-183 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
白線 (黄線) の整備された道路でご使用ください。



1. フォワードセンシングカメラ (FSC)

⚠ 警告

車線逸脱警報システムを過信しない。

- 車線逸脱警報システムは、前方不注意を補助するものではないため、システムを過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報システムの機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

⚠ 注意

車線逸脱警報システムを正常に作動させるために次の点をお守りください。

- サスペンションの改造を行なわないでください。
- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

知識

次のようなときは、車線逸脱警報システムが正常に作動しない場合があります。

- 白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
- 天候 (雨、霧、雪のときなど) により、白線 (黄線) が見えにくいとき
- 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき (白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れたりしているとき)
- 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき
- トンネルの出入り口など、周囲の明るさが急に変わるとき
- 逆光を浴びて路面が光っているとき
- 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 車線の幅が狭いとき
- 急カーブのとき
- 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- 分岐路や合流路を走行するとき
- ガードレールなどの影が道路上に白線 (黄線) と平行して写っているとき
- 夜間、ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱い時や光軸がずれているとき
- 道路がうねっているとき
- 段差などにより車が大きく揺れたとき
- 前方車が白線 (黄線) の近くを走行していて、白線 (黄線) が見えにくいとき
- フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
- 前方から強い光を受けているとき (太陽光や対向車のヘッドランプ (ハイビーム) など)

知識

・交差点や環状交差点を走行しているとき

▼ 作動させるとき

電源ポジションを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイに警報･リスク回避支援表示 (白) が表示され、システムが待機状態となります。



知識

警報･リスク回避支援表示 (白) が表示されない場合は、i-ACTVSENSE スイッチまたは、カスタマイズでシステムが停止されています。

作動条件

次の条件をすべて満たすと、マルチインフォメーションディスプレイの警報･リスク回避支援表示灯が白色から緑色に変わり、システム作動状態となります。

- 電源ポジションが ON のとき
- 車速が約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 車線の白線 (黄線) を検知しているとき



知識

左右どちらか一方の車線の白線 (黄線) が検知できていない場合、検知できていない方向への逸脱に対しては作動しません。

一時的に解除されるとき

次のとき、車線逸脱警報システムは待機状態になります。なお、車線逸脱警報システムが作動可能な状態になると自動で復帰します。

・白線 (黄線) を検知できないとき
・車速が約 60 km/h 未満になったとき
・方向指示器を操作したとき
・アクセル操作をしたとき
・ハンドル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき

一時的に機能が停止されるとき

次のとき、車線逸脱警報システムは機能を停止します。

・フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が高温または低温になったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮へい物があり前が見えないとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) に強い光 (太陽光や対向車のヘッドランプ (ハイビームなど)) を受けているとき

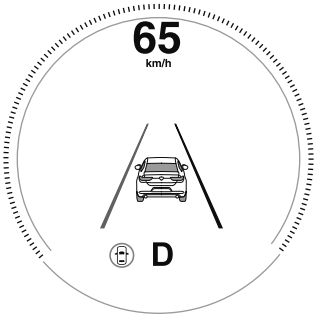
システム故障

システムに何らかの故障がある場合は、マルチインフォメーションディスプレイに警報・リスク回避支援表示 (白)、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。
→8-31 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

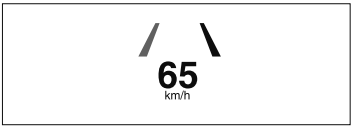
▼ 車線逸脱警報

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、警報 (警報音、ハンドルの振動) とともに、逸脱する可能性があるとシステムが判断した方向をマルチインフォメーションディスプレイとアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



知識

・車線逸脱警報の種類を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
・外部の騒音など状況によっては、車線逸脱警報システム警報チャイムが聞こえない場合があります。
・車線逸脱警報の種類をハンドル振動に設定しているときは、路面状況によっては、振動を感じない場合があります。

▼ 解除するとき

車線逸脱警報システムを作動しないように変更できます。

- **(車線逸脱警報システムのみ OFF にする場合)**
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
- **(i-ACTIVSENSE スイッチの操作で車線逸脱警報システムを OFF にする場合)**
  →5-83 ページ 「i-ACTIVSENSE スイッチ」

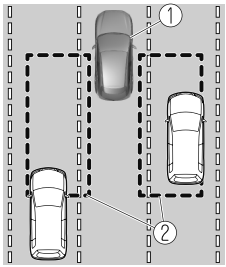
知識

i-ACTIVSENSE スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にし、次に電源ポジションを ON にすると、システムは自動復帰します。ただし、カスタマイズ設定でシステムを停止している場合は自動復帰しません。

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは

▼ ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは

BSM は、自車の後方から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時の後方確認を支援するシステムです。
BSM は、車速が約 15 km/h 以上で前進しているときに後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置した BSM 接近表示灯を点灯させます。
BSM 接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、BSM 接近表示灯が点滅、警告表示、および警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。
当システムの検知エリアは、自車の左右に隣接する車線で、自車のフロントドア後端付近から自車の後方約 50 m までです。



1. 自車
2. 検知エリア

警告

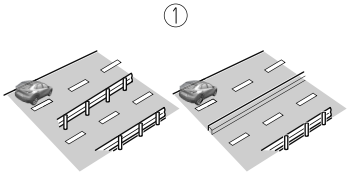
実際の車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。
BSM は車線変更時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、隣接車線に車両が存在する場合でも BSM 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れたりする場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

知識

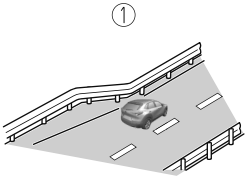
・BSM は次の条件をすべて満たしているときに作動します
  ・電源ポジションが ON のとき
  ・メーター内の i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が消灯しているとき
  ・車速が約 15 km/h 以上のとき
・BSM は次のときには作動しません。
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が消灯している場合でも、車速が約 10 km/h を下回ったとき
  ・チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にして後退中のとき
  ・回転半径が小さいとき (急カーブや交差点を曲がるときなど)
・次の場合、システムは i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯を点灯させ、システムの作動を停止します。i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し続ける場合はすみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  ・BSM 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  ・リアサイドレーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  ・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーに雪や氷などが多量に付いたとき (氷、雪や泥が付着しているときは、これらを取り除いてください。)
  ・雪道を長時間走行したとき
  ・夏場に上り坂を長時間走行するなどリアサイドレーダーセンサー付近の温度が非常に高くなったとき
  ・バッテリーの電圧が下がっているとき
・次のような対象物は、リアサイドレーダーセンサーが検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  ・隣接した車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき
  ・接近車両が次のような形状をしているとき
    a) 車両が非常に小さい
    b) 車高が非常に低い/高い
    c) 特殊車両など複雑な形状をしている
  ・隣車線後方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両 (接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています。)

知識

  ・自車とほとんど速度差なく長い時間並走している車両
  ・対向車
  ・自車が追い越そうとしている隣接車線の車両
  ・道路幅が極端に広い場合の隣接車線の車両 (リアサイドレーダーセンサーの検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
・次のような場合は、BSM 接近表示灯の点滅、警告表示、および警報チャイムの警告が遅れるか、点滅/警告ができないことがあります。
  ・車両が 2 つ離れた車線から隣接車線に車線変更してきたとき
  ・急勾配を走行しているとき
  ・峠を越えるとき
  ・自車線と隣接車線の高さに差があるとき
  ・BSM を作動可能な状態にした直後
  ・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーが変形しているとき
・道路幅が極端に狭い場合は、2 車線横の車両を検知する場合があります。 (リアサイドレーダーセンサーの検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
・道路上および道路端の停止物 (ガードレール、トンネル、側壁、駐車車両など) に対して BSM 接近表示灯が点灯し、警告表示を表示する場合があります。

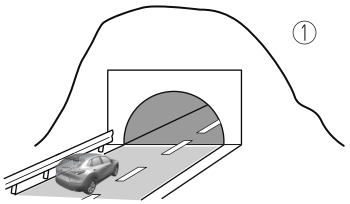


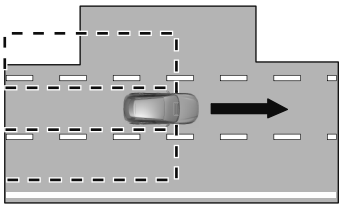
1. ガードレール、コンクリート壁などが並行している場合



知識

1. ガードレールや側壁の幅が狭くなっているところ





1. トンネルの出入り口やトンネル内の側壁、待避所

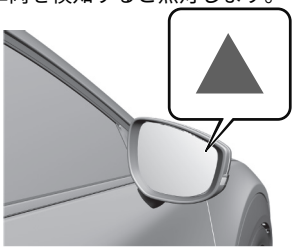
・市街地の交差点を曲がるときなどに、BSM 接近表示灯が点滅、警告表示、または警報チャイムが複数回鳴る場合があります。
・トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりした場合は、BSM を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。
・次のような場合は、ドアミラーに取り付けられている BSM 接近表示灯の点灯/点滅が見えにくいことがあります。
  ・ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
  ・フロント窓ガラスに曇り、雪、汚れ、霜が付着しているとき
・チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると、後側方接近車両検知 (RCTA) に切り替わります。
→5-106 ページ「後側方接近車両検知 (RCTA) とは」

▼ ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯/ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示/ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警報チャイム

BSM 作動中は、BSM 接近表示灯、警告表示や警報チャイムで、隣接車線や自車後方に車両が存在することを知らせます。

BSM 接近表示灯

ドアミラーに取り付けられています。後方からの接近車両を検知すると点灯します。



電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。

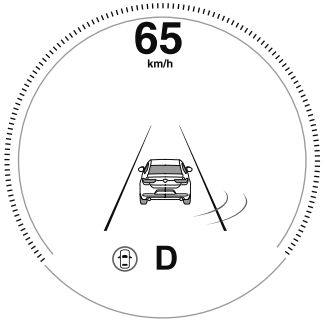
減光解除機能

車幅灯が点灯しているとき、ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯すると、点灯したときの明るさが減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態で、ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯が見えにくい場合には、パネルライトの減光を解除するとブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯の明るさが明るくなります。
→5-20 ページ「パネルライトコントロール」

ディスプレイ表示

前進時、後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警告表示を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



接近車両を検知すると、検知した方向を検知表示 (白色) で表示します。また検知した状態で、検知した方向に方向指示器のレバーを操作すると、警告表示 (橙色) に表示が変わります。

BSM 警報チャイム

BSM 接近表示灯の点滅と同時に鳴ります。

▼ ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を停止させるには

BSM を作動しないように変更できます。

- **(BSM のみ OFF にする場合)**
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
- **(i-ACTIVSENSE スイッチの操作で BSM を OFF にする場合)**
  →5-83 ページ 「i-ACTIVSENSE スイッチ」

知識

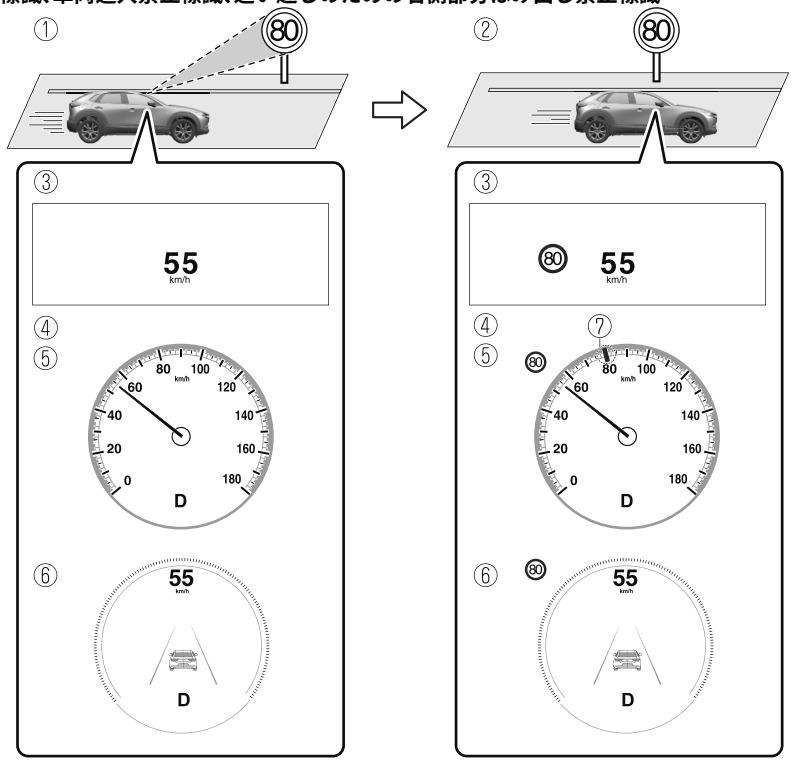
i-ACTIVSENSE スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にし、次に電源ポジションを ON にすると、システムは自動復帰します。ただし、カスタマイズ設定でシステムを停止している場合は自動復帰しません。

交通標識認識システム (TSR) とは*

▼ 交通標識認識システム (TSR) とは

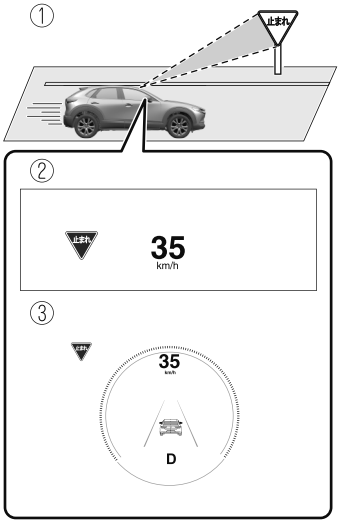
※TSR: Traffic Sign Recognition System
TSR は、走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) またはナビゲーションシステムが認識した交通標識を、アクティブ・ドライビング・ディスプレイおよびメーターに表示することで、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。
TSR は、最高速度標識 (補助標識も含む)、車両進入禁止標識、一時停止標識、および追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識の交通標識を表示します。
走行中、アクティブ・ドライビング・ディスプレイおよびメーターに表示した最高速度標識の速度を、自車の速度が超えているときは、アクティブ・ドライビング・ディスプレイおよびメーターの表示および警報音で運転者にお知らせします。

最高速度標識、車両進入禁止標識、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識



1. 標識を認識
2. 標識を表示
3. アクティブ・ドライビング・ディスプレイ表示
4. メーター
5. 通常画面
6. i-ACTIVSENSE 画面
7. 認識した最高速度にあわせて、目盛りの色が変わります

一時停止標識



1. 標識を認識と同時に表示
2. アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示
3. メーター

⚠ 警告

走行中は必ず目視にて交通標識を確認する。
TSR は、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。天候状況や交通標識に問題がある場合など、交通標識を認識できないまたは実際の状況とは異なる交通標識を表示することがあります。交通標識の確認を怠ると思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず運転者の責任において、実際の交通標識を確認してください。

知識

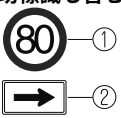
- フォワードセンシングカメラ (FSC) またはナビゲーションシステムに異常がある場合、TSR は作動しません。
- TSR はナビゲーションシステムの SD カードが挿入されていない場合でも作動しますが、最高速度標識の認識性能が低下し、実際とは異なる交通標識を表示するおそれがあります。
- 次のようなときは、TSR が正常に作動しない場合があります。
  - インストルメントパネルの上に置いた物が、フロントガラスに反射してカメラに写っているとき
  - 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が適正空気圧に調整されていないとき
  - 標準タイヤ以外のタイヤを装着しているとき
  - 高速道路などの、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどの分岐路やその周辺を走行しているとき

知識

・トンネルの出入り口などの、周辺の明るさが急に変わるとき
・ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
・フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
・フロントガラス、カメラに露 (水滴) が生じているとき
・前方に強い光を受けているとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
・急カーブを走行しているとき
・強い光が道路に反射しているとき
・夜間やトンネル内などを走行中、交通標識が自車のヘッドランプの光を受けにくい位置にあるとき
・雨、霧、雪などの天候時に走行しているとき
・交通標識が泥、雪などで汚れているとき
・交通標識が木の茂み、車などで隠れているとき
・影などで交通標識の明るさが一部異なるとき
・交通標識が曲がっていたり、歪んだりしているとき
・交通標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
・交通標識が明るすぎたり、暗すぎたりするとき (電光標識含む)
・交通標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
・読み取る交通標識の色、形などに似たものがあるとき (類似の交通標識、看板など)
・アクティブ・ドライビング・ディスプレイの TSR の表示を非表示にできます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ 交通標識ディスプレイ表示

次の交通標識をアクティブ・ドライビング・ディスプレイおよびメーターに表示します。
最高速度標識 (補助標識も含む)



1. 最高速度標識
2. 補助標識 (一例)

補助標識の条件 (時間帯、右左折時、区間の終わりなど) をフォワードセンシングカメラ (FSC) が正しく分類できなかった場合、次の画面を表示します。



車両進入禁止標識



一時停止標識



追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識



追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識は、最高速度標識と同時に表示することができます。



知識

最高速度標識 (補助標識も含む)

・約 1 km/h 以上で走行している場合に、次のいずれかの条件を満たしているとき、最高速度標識を表示します。
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が最高速度標識を自車対象標識として認識し、最高速度標識を通過したとき
  ・ナビゲーションシステムに保存されている最高速度標識を読み込んだとき
・**(ナビゲーションシステム非装備車)**
次のときは、最高速度標識表示を終了します。

知識

・最高速度標識を認識し、車両が最高速度標識を通過してから、一定の距離を走行したとき
・自車が路線を変えたと判断したとき
・新たに、フォワードセンシングカメラ (FSC) が異なる最高速度標識を認識したとき (新しい最高速度標識を表示する)
・最高速度標識を表示してから、表示中の最高速度標識より約 30 km/h 以上速度超過している状態が一定時間経過したとき

・**(ナビゲーションシステム装備車)**
次のときは、最高速度標識表示を終了します。

・新たに、フォワードセンシングカメラ (FSC) が異なる最高速度標識を認識したとき (新しい最高速度標識を表示する)
・ナビゲーションシステムに記憶されている最高速度標識を一定時間読み込めなかったとき

車両進入禁止標識

・次の条件をすべて満たしているとき、車両進入禁止標識を表示します。

・約 60 km/h 以下で走行しているとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) が車両進入禁止標識を自車対象標識として認識し、車両進入禁止標識を通過したとき

・車両進入禁止標識を認識し、車両が車両進入禁止標識を通過してから、一定の時間経過したときは、車両進入禁止標識表示を終了します。

一時停止標識

・次の条件をすべて満たしているとき、一時停止標識を表示します。

・約 40 km/h 以下で走行しているとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) が一時停止標識を自車対象標識として認識したとき

・一時停止標識表示を開始してから、一定の時間経過したときは、一時停止標識表示を終了します。

知識

追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識

・次の条件をすべて満たしているとき、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を表示します。

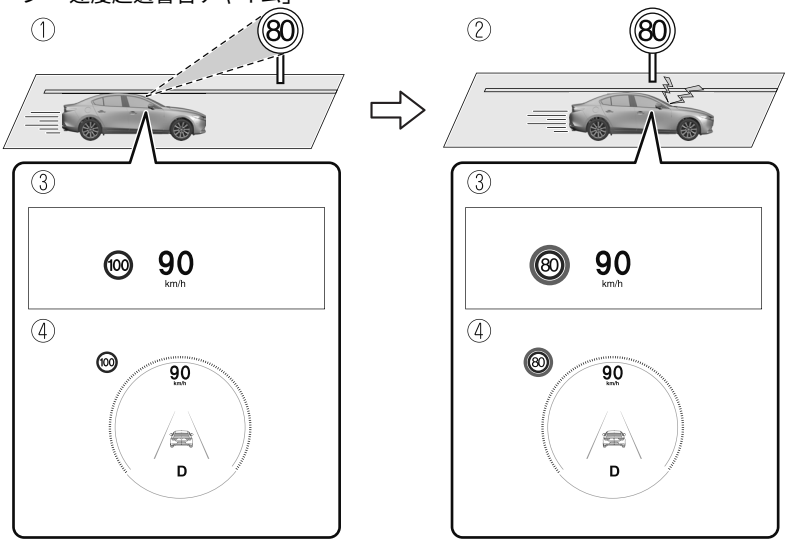
・約 1 km/h 以上で走行しているとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) が追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を自車対象標識として認識し、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を通過したとき

・次のときは、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識表示を終了します。

・追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を認識し、車両が追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識を通過してから、一定の距離を走行したとき
・自車が路線を変えたと判断したとき

▼ 速度超過警報

アクティブ･ドライビング･ディスプレイおよびメーターに表示している最高速度標識より自車の速度が超えると、表示している最高速度標識のまわりが橙色に点滅し、同時に警報音が吹鳴します。速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をし、法定速度内に減速してください。
→8-41 ページ 「速度超過警告チャイム」



1. 90 km/h で走行中、80 km/h の最高速度標識を認識
2. 80 km/h の最高速度標識を越えて、車両が 90 km/h で走行し続けている
3. アクティブ･ドライビング･ディスプレイ画面
4. メーター

速度超過警報は初期設定で作動しないように設定されています。速度超過警報を作動させたいときは、カスタマイズ設定を行なってください。なお、警報パターンおよび警報タイミングは設定内容によって異なります。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
速度標識警報

- Off: 速度超過警報は作動しません。
- 表示のみ: ディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に点滅し、速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。
- 表示+音: ディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に点滅し、同時に警報音が吹鳴します。速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。最高速度標識よりも自車の速度が下回るまで警報音は吹鳴します。

速度標識警報閾値

- +0 km/h: ディスプレイに表示されている最高速度標識を超えたとき速度超過警報が作動します。
- +5 km/h: ディスプレイに表示されている最高速度標識を 5 km/h 超えたとき速度超過警報が作動します。
- +10 km/h: ディスプレイに表示されている最高速度標識を 10 km/h 超えたとき速度超過警報が作動します。

知識

・次のときは、速度超過警報を終了します。
  ・車速が表示している最高速度標識未満になったとき (カスタマイズで速度超過警報の警報タイミングを変更している場合は、変更した車速未満になったとき、速度超過警報は終了します)
  ・最高速度標識表示が更新され、更新された表示より自車の速度が低いとき
  ・最高速度標識表示を終了したとき
・補助標識付き最高速度標識を認識し、表示することは可能ですが、補助標識の条件 (時間帯、右左折時、区間の終わりなど) を判断することはできません。
したがって、自車が補助標識の条件以外のときでも、表示された最高速度標識より速度が超えたときは、速度超過警報が作動します。
・フォワードセンシングカメラ (FSC) またはナビゲーションシステムが最高速度標識を低い速度で誤認識した場合は、法定速度で走行しているときでも速度超過警報が作動します。

ディスタンス & スピード･アラート (DSA) とは

▼ ディスタンス & スピード･アラート (DSA) とは

DSA は､前方車との安全な車間距離の目安を知らせ､適正な車間距離を保って運転できるようアドバイスを行なうシステムです。システムは､車速が約 30 km/h 以上のとき､前走車との車間距離を計測します。前方車との車間距離が近い状態が継続した場合には､ディスプレイ表示により運転者に対して衝突の危険性を知らせるとともに加速を抑制し､前方車への異常接近状態をお知らせします。

⚠ 警告

DSA を過信しない。
前方車の種類､天候状況､道路状況などによっては前方車の検知に限界があります。また､前方車との車間を維持する機能ではありませんので､アクセルやブレーキでの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど､前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

作動条件

次の条件をすべて満たしているときに DSA は作動します。

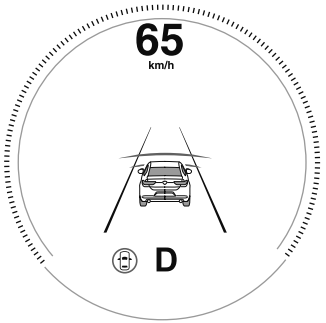
- 電源ポジションが ON のとき
- DSA が ON のとき
- チェンジレバー/セレクトレバーが R の位置以外のとき
- 車速が約 30 km/h 以上で走行しているとき
- 警報･リスク回避支援表示 (緑) が表示されているとき

知識

- システムの作動対象は 4 輪車両です。
- バイクや自転車などにも DSA が作動するときがあります。
- 前方車の速度が極めて遅いときは､DSA が正常に作動しないときがあります。
- 次の対象物には作動しません。
  - 対向車
  - 静止物 (停車車両､障害物など)
- DSA を作動しないように変更できます。
  - **(DSA のみ OFF にする場合)**
    →マツダコネクト取扱書 「設定」
  - **(i-ACTIVSENSE スイッチの操作で DSA を OFF にする場合)**
    →5-83 ページ 「i-ACTIVSENSE スイッチ」
- i-ACTIVSENSE スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にし､次に電源ポジションを ON にすると､システムは自動復帰します。ただし､カスタマイズ設定でシステムを停止している場合は自動復帰しません。

▼ ディスプレイ表示

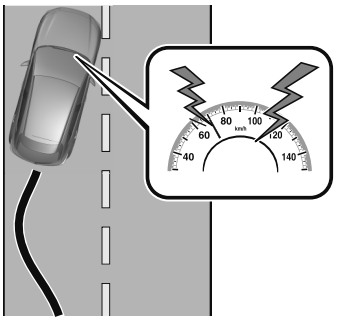
前方車との車間距離が近いとシステムが判断すると､警報･リスク回避支援表示が緑色から橙色に変わり､マルチインフォメーションディスプレイに警告表示を表示します。周囲の状況を確認しながら､ブレーキペダルを踏むなど前方車との車間距離を十分に確保してください。



ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは

▼ ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは

DAA は､運転者の疲労や注意力の低下を検知し､運転者に休憩を促すシステムです。
DAA は､車線内を車速が約 65 km/h 以上で走行しているとき､フォワードセンシングカメラ (FSC) や各種車両情報から運転者の疲労増加や注意力低下を推定して､マルチインフォメーションディスプレイの表示､警報チャイムにより運転者へ休憩を促します。
DAA は高速道路や自動車専用道路などで使用してください。
→5-183 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」



⚠ 警告

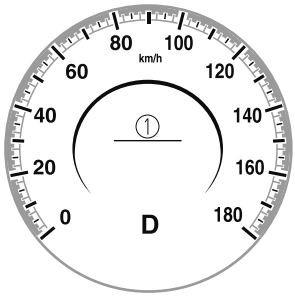
DAA を過信せず安全運転に心がける。
DAA は､運転者の疲労や注意力の低下を検知し､運転者へ休憩を促すシステムです。ふらつきを防止するものではないため､過信しすぎると､思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し､適切にハンドルを操作してください。
また､道路状況や走行状況などによっては､運転者の疲労や注意力の低下を適切に検知できない場合があります。運転者は十分に休憩を取り､安全運転に心がけてください。

知識

- DAA は､次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 車速が約 65 km/h 以上のとき
  - 車線の白線 (黄線) を検知しているとき
  - 運転者の走行データ学習が完了したとき
  - 運転開始後､1 時間経過したとき
- DAA は､次のときには作動しません。
  - 車速が約 65 km/h を下回ったとき
  - 車線の白線 (黄線) を検知できないとき
  - 急カーブを走行しているとき
  - 車線変更したとき
- DAA は､次のときには正常に作動しない場合があります。
  - 車線の白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 強風や悪路走行で車両が揺れ続けたとき
  - スポーティーな走行をしているとき
  - 頻繁に車線変更を行なっているとき
- DAA は､車速が約 65 km/h 以上で約 20 分間走行したときの走行データをもとに､運転者の疲労や注意力の低下を検知しています。次のときは学習した走行データがリセットされます。
  - 15 分以上停車したとき
  - 車速が約 65 km/h 未満で約 30 分間走行したとき
  - 電源ポジションを OFF にしたとき
- DAA は､一度休憩を促すと､60 分間は次回休憩をお知らせしません。

▼ ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 表示

運転者の疲労や注意力の低下を検知すると、警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



1. “休憩をおすすめします”

▼ ドライバー･アテンション･アラート (DAA) を停止させるには

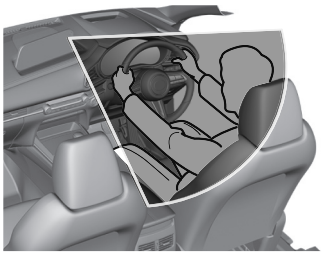
DAA を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

ドライバー･モニタリングとは*

▼ ドライバー･モニタリングとは

ドライバー･モニタリングは、運転者の疲労や眠気を検知し、運転者に休憩を促すシステムです。ドライバー･モニタリングは、車速が約 5 km/h 以上で走行しているとき、ドライバー･モニタリングカメラで顔の各部位の変化を検出し、運転者の疲労や眠気を推定して、マルチインフォメーションディスプレイの表示および警報チャイムにより運転者へ休憩を促します。
お知らせは運転者の状態を推定し、2 種類のパターンが設定されています。

- 疲労や眠気を検出した場合：警報パターン (注意)
- より強い疲労や眠気を検出した場合：警報パターン (警告)



⚠ 警告

ドライバー･モニタリングを過信せず安全運転に心がける。
ドライバー･モニタリングは、運転者の疲労や眠気を検知し、運転者へ休憩を促すシステムです。疲労や眠気を防止するものではないため、過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し、適切にハンドルを操作してください。
また、道路状況や走行状況などによっては、運転者の疲労や眠気を適切に検知できない場合があります。運転者は十分に休憩を取り、安全運転に心がけてください。

作動条件

ドライバー･モニタリングは、運転開始から 20 分経過し、車速が約 5 km/h 以上のときに作動します。

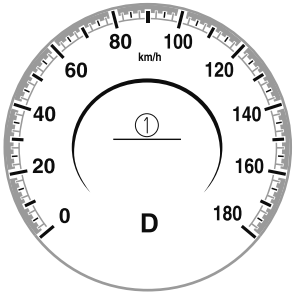
知識

・ドライバー・モニタリング作動状態から車速が約 5 km/h 未満になると、車速が約 5 km/h 以上になっても 6 分間は作動しません。
・ドライバー・モニタリング・カメラが運転者を正しく認識していない場合、ドライバー・モニタリングは、正常に作動しないときがあります。
→5-191 ページ「ドライバー・モニタリングカメラについて」
・ドライバー・モニタリングは、一度休憩を促すと、次の間は休憩をお知らせしません。
  ・警報パターン (注意) のお知らせ後、45 分間は次回の警報パターン (注意) をお知らせしません。
  ・警報パターン (警告) のお知らせ後、15 分間は次回の警報パターン (警告) をお知らせしません。
  ・警報パターン (警告) のお知らせ後、45 分間は次回の警報パターン (注意) をお知らせしません。

▼ ドライバー・モニタリング表示

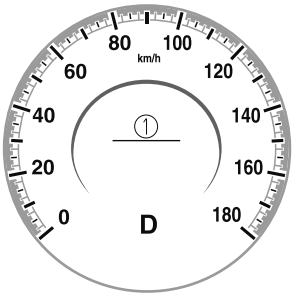
運転者の疲労や眠気を検知すると、警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警報表示が表示されます。

警報パターン (注意) (白)



1. “休憩をおすすめします”

警報パターン (警告) (橙)



1. “休憩をおすすめします”

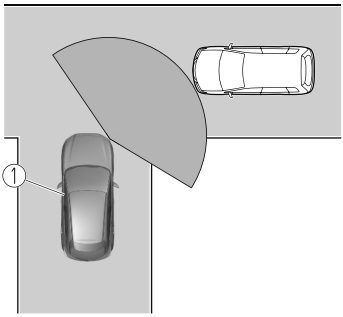
▼ ドライバー・モニタリングを停止させるには

ドライバー・モニタリングを作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

前側方接近車両検知 (FCTA) とは*

▼ 前側方接近車両検知 (FCTA) とは

前側方接近車両検知 (FCTA) は、交差点などで自車が発進するときの左右確認を支援するシステムです。
前側方接近車両検知 (FCTA) は、交差点などで自車が発進するときに左右前方の死角から接近した車両を検知して、警告表示および警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。



1. 自車

⚠ 警告

必ず目視にて周辺状況を確認する。
前側方接近車両検知 (FCTA) の作動には各種の制約があるため、死角から接近する車両が存在する場合でも、警告表示および警報チャイムが遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において左右を確認してください。

作動条件

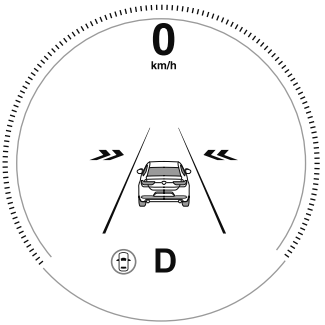
次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 車速が約 10 km/h 未満のとき
- **(マニュアル車)**
  チェンジレバーが R、N 以外のとき
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが D レンジのとき
- 接近車両などが、自車前側方から約 5 km/h 以上で接近しているとき

前側方接近車両検知 (FCTA) 作動

自車が停止している場合

車両が接近している場合、次のディスプレイに車両の接近をお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

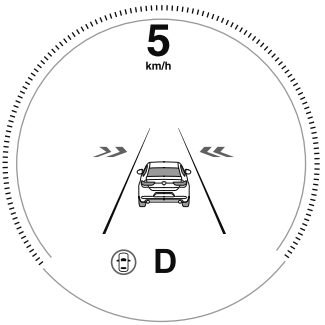


360°ビュー・モニター (360°ビュー・モニター装備車)



自車が動いている場合

車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、次のディスプレイに警告表示でお知らせし、同時に警報チャイムが鳴ります。
マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



360°ビュー･モニター (360°ビュー･モニター装備車)



知識

・次の場合、車両が接近していなくてもシステムが作動することがあります。
  ・自車のすぐ横に、駐車車両･ガードレール･壁などレーダーを反射する路側物があるとき
  ・渋滞時など車両周辺に車両が停止しているとき
  ・自車の前方または側方から接近している車両が減速しているとき
  ・自車の前方または右側から接近している車両が自車両の直前で右左折したとき
  ・車両や歩行者が、自車周辺の駐車場や歩道などを移動しているとき
  ・自車が右左折した場合、右左折後の車線に対向車が走行しているとき
  ・対向車とすれ違うとき
  ・自車停車中に他車両に追い越されたとき
  ・テレビ塔、発電所など、強い電波や電気的なノイズが発生する可能性がある場所の近くにいるとき
・次の場合、フロントサイドレーダーセンサーが検知しないもしくは、検知しにくいことがあり、前側方接近車両検知 (FCTA) が正常に作動しないことがあります。
  ・隣接した壁や車両によりフロントサイドレーダーセンサーの検知エリアがさまたげられているとき
  ・システムを作動可能な状態にした直後
  ・隣接した車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき

知識

  ・接近車両が次のような形状をしているとき
    a) 車両が非常に小さい
    b) 車高が非常に低い/高い
    c) 特殊車両など複雑な形状をしている
  ・自車の前方または側方から検知エリアに突然車両などが進入したとき
  ・停止していた車両などが突然動き始めたとき
  ・複数の物体が同時に移動しているとき
  ・豪雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候で運転するとき
  ・急カーブや凸凹道路を走行しているとき
  ・自車のすぐ横に、駐車車両･ガードレール･壁などレーダーを反射する路側物があるとき
  ・接近車両が旋回しながら接近してくるとき (環状交差点など)
  ・極低速で走行しているとき
・次の場合、システムは i-ACTIVSENSE 警告灯を点灯させ、システムの作動を停止します。i-ACTIVSENSE 警告灯が点灯し続ける場合はすみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  ・システムに何らかの異常が認められるとき
  ・フロントサイドレーダーセンサー取り付け位置が大きくずれているとき
  ・フロントサイドレーダーセンサー付近のフロントバンパーに雪や氷などが多量に付いたとき
  ・夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダーセンサー付近の温度が非常に高くなったとき
  ・バッテリーの電圧が下がっているとき

▼ 前側方接近車両検知 (FCTA) を停止させるには

前側方接近車両検知 (FCTA) を作動しないように変更できます。

- **(前側方接近車両検知 (FCTA) のみ OFF にする場合)**
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
- **(i-ACTIVSENSE スイッチの操作で前側方接近車両検知 (FCTA) を OFF にする場合)**
  →5-83 ページ 「i-ACTIVSENSE スイッチ」

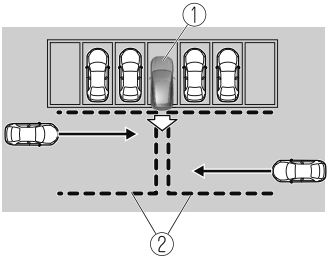
知識

i-ACTIVSENSE スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にし、次に電源ポジションを ON にすると、システムは自動復帰します。ただし、カスタマイズ設定でシステムを停止している場合は自動復帰しません。

後側方接近車両検知 (RCTA) とは

▼ 後側方接近車両検知 (RCTA) とは

後側方接近車両検知 (RCTA) は、自車の後方に接近する車両の存在を知らせることにより、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。
後側方接近車両検知 (RCTA) は、駐車場などから後退するときに自車の左右および後方に接近した車両を検知して、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅および、警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。



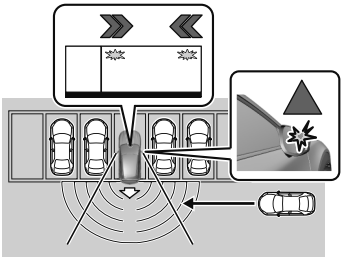
1. 自車
2. 検知エリア

⚠ 警告

実際の車両後退時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。
本システムは車両後退時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、自車後方に車両が存在する場合でもブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れたりする場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

後側方接近車両検知 (RCTA) 作動

1. チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると、後側方接近車両検知 (RCTA) が作動します。
2. 車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、360°ビュー・モニター (360°ビュー・モニター装備車)/バックガイドモニター (バックガイドモニター装備車) に警告が表示され、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅、同時に警報チャイムが鳴ります。

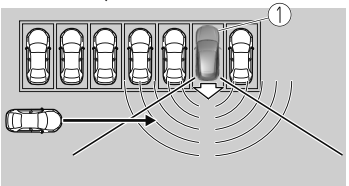


減光解除機能

車幅灯が点灯しているとき、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯すると、点灯したときの明るさが減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態で、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が見えにくい場合には、パネルライトの減光を解除するとブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の明るさが明るくなります。
→5-20 ページ「パネルライトコントロール」

知識

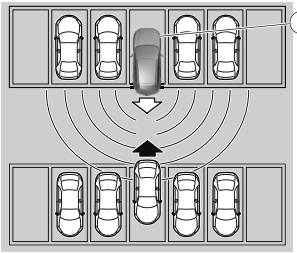
・次の場合、車両が接近していなくてもシステムが作動することがあります。
  ・自車のすぐ横に、駐車車両・ガードレール・壁などレーダーを反射する路側物があるとき
  ・自車の後方または側方から接近している車両が減速しているとき
  ・自車の後方または側方から接近している車両が自車両の直前で右左折したとき
  ・渋滞時など車両周辺に車両が停止しているとき
  ・テレビ塔、発電所など、強い電波や電気的なノイズが発生する可能性がある場所の近くにいるとき
・次の場合、システムは i-ACTIVSENSE 警告灯を点灯させ、システムの作動を停止します。i-ACTIVSENSE 警告灯が点灯し続ける場合はすみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  ・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  ・リアサイドレーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  ・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパー上に雪や氷などが多量に付いたとき
  ・雪道を長時間走行したとき
  ・夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダー付近の温度が非常に高くなったとき
  ・バッテリーの電圧が下がっているとき
・次の場合、リアサイドレーダーセンサーが検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  ・後退時の車速が約 10 km/h 以上のとき
  ・隣接した壁や駐車車両によりリアサイドレーダーセンサーの検知エリアがさまたげられているとき (リアサイドレーダーセンサーの検知エリアがさまたげられない位置まで、自車を後退させてください。)



1. 自車

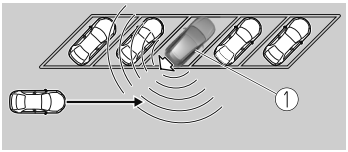
知識

・自車の真後ろから車両が接近してきたとき



1. 自車

・車両が斜めに駐車されているとき



1. 自車

・後側方接近車両検知 (RCTA) を作動可能な状態にした直後
・隣接した駐車車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき
・リアサイドレーダー周辺のリアバンパーが変形しているとき
・接近車両が次のような形状をしているとき
  a) 車両が非常に小さい
  b) 車高が非常に低い/高い
  c) 特殊車両など複雑な形状をしている

・次のような場合は、ドアミラーに取り付けられているブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅が見えにくいことがあります。
  ・ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
  ・フロント窓ガラスに曇りや雪、汚れ、霜が付着しているとき

知識

・トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりした場合は、後側方接近車両検知 (RCTA) を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。

▼ 後側方接近車両検知 (RCTA) を停止させるには

後側方接近車両検知 (RCTA) を作動しないように変更できます。

・**(後側方接近車両検知 (RCTA) のみ OFF にする場合)**
→マツダコネクト取扱書 「設定」
・**(i-ACTIVSENSE スイッチの操作で後側方接近車両検知 (RCTA) を OFF にする場合)**
→5-83 ページ 「i-ACTIVSENSE スイッチ」

知識

i-ACTIVSENSE スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にし、次に電源ポジションを ON にすると、システムは自動復帰します。ただし、カスタマイズ設定でシステムを停止している場合は自動復帰しません。

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは (マニュアル車)

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは

MRCC は､フロントレーダーセンサーが前方車を検知することで､運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても､設定した速度での定速走行や､前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また､追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど､前方車に接近したときは､警報音と同時にディスプレイに警告を表示し､車間距離を十分確保するようお知らせします。
MRCC は高速道路､加速/減速の繰り返しが少ない自動車専用道路などで使用してください。
MRCC を使用するときは､使用前に次の記載もあわせてお読みください。

・5-186 ページ「フロントレーダーセンサーについて」

オートマチック車は､次の記載をお読みください。

・5-116 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」

⚠ 警告

MRCC を過信しない。
MRCC は運転者の負担を軽減するために､走行速度を一定に保つ､あるいは､前方車を検知して前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つシステムですが､前方車の種類や状態､天候状況､道路状況などによっては前方車の検知に限界があります。また､前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず､前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど､前方車や後続車との車間距離を十分に確保し､安全運転に心がけてください。

⚠ 警告

思わぬ事故につながるおそれがあるため､次のような状況では使用しない。

- 自動車専用道路以外の一般道 (道路状況にあわせた走行はできません。)
- 急なカーブ､交通量が多く車間距離が十分にとれない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路 (道路状況にあわせた走行はできません。)
- 高速道路などでインターチェンジ､サービスエリア､パーキングエリアに進入するなど本線から出るとき (本線上で追従走行していたときは､自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり､設定された速度まで加速する場合があります。)
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して､車のコントロールを失うおそれがあります。)
- 長い下り坂 (車間距離を保つため MRCC 制御によるブレーキが作動し続け､ブレーキが効かなくなるおそれがあります。)
- 勾配が急な坂 (前方車を正しく検知できないおそれがあります。)
- 前方にバイクや自転車などの二輪車がいるとき

MRCC を使用しないときは､安全のため MRCC を OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと､誤って MRCC を作動させ､思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- けん引されるとき､または､他の車をけん引するときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。
- シャシーローラーを使用するときは､シャシーローラー上を走行中に誤って作動しないよう､システムを OFF にしてください。

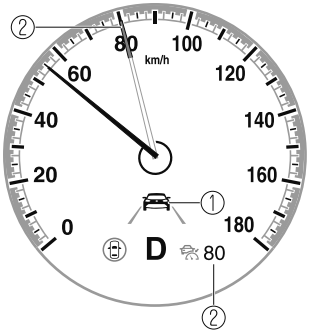
知識

- MRCC は、次の対象物については、対象物として検知しません。
  - 対向車両
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両、障害物など)
- 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
- 前方に地上から低い位置にある道路構造物や障害物 (モノレールなど) がある時は、システムが作動する場合がありますので、MRCC を使用しないでください。
- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、MRCC を使用しないでください。
- 追従走行時は前方車の速度にあわせて加速や減速を行ないますが、車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行なってください。
- MRCC を使用して走行しているときは、チェンジレバーを操作しても MRCC が解除されないため、意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。
- MRCC 制御によるブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- MRCC 制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定速度、または前方車に追従して一定車速で走行中はブレーキランプが点灯しないときがあります。
- 追従走行を解除し、定速走行のみを作動するように切り替えることができます。
  →マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) ディスプレイ表示

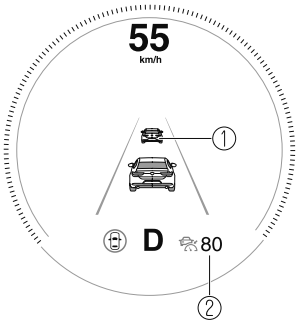
MRCC の設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



1. 前方車表示
2. MRCC 設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 画面)



1. 前方車表示
2. MRCC 設定速度

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ

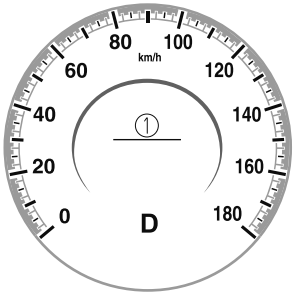


1. 前方車表示
2. MRCC 設定速度

MRCC が故障したときは、マルチインフォメーションディスプレイ/センターディスプレイにメッセージが表示されます。故障内容をマルチインフォメーションディスプレイ/センターディスプレイで確認し、マツダ販売店で点検を受けてください。
→8-26 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

▼ 接近警報

追従走行時に前方車が急制動を行なったときなど前方車に接近したときは、警報音が鳴り、ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。



1. “ブレーキペダルを踏んでください”

知識

次のときは、前方車と接近したときでも、警報やブレーキが作動しない場合があります。

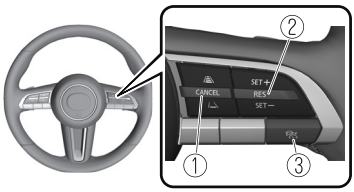
- 前方車と同程度の速度で走行しているとき
- MRCC を設定した直後
- アクセルペダルを離した直後
- 他の車が割り込んできたとき

▼ 設定するとき

MRCC は、次のすべての条件を満たしているときに作動します。

・車速が約 30 km/h 以上のとき
・MRCC が ON のとき
・ブレーキペダルを踏んでいないとき
・パーキングブレーキが解除されているとき (電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯が消灯しているとき)
・DSC が故障していないとき
・すべてのドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・チェンジレバーが R、N 以外のとき
・クラッチペダルを踏んでいないとき

ON にする



1. CANCEL スイッチ
2. RES スイッチ
3. MRCC スイッチ

MRCC スイッチを 1 回押すと、MRCC が ON になり、MRCC スタンバイ表示 (白) が点灯し、速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になります。



また同時に、MRCC ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

知識

MRCC を ON にしたまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON したとき、MRCC は自動的に OFF になります。

速度を設定する

アクセルペダルの操作で設定したい速度に速度を調整し、RES スイッチを押し上げる (SET+) または、押し下げる (SET-) と定速走行を始めます。

ディスプレイに設定速度が表示されます。同時に MRCC スタンバイ表示 (白色) から MRCC セット表示 (緑色) に変わります。



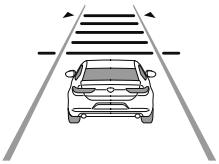
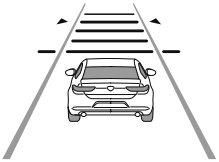
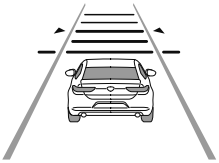
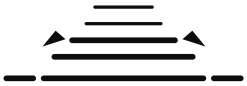
走行状態	マルチインフォメーションディスプレイ表示	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示
定速走行時	 D 80	80 km/h 80
追従走行時	 D 80	 55 km/h 80

知識

- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行ないます。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- MRCC の設定速度の下限は 30 km/h です。
- 設定した速度より速い速度で走行している車両を、前方車として追従走行することはできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節してください。
- 車速の条件など MRCC の作動条件が揃っていない場合で MRCC スタンバイ表示 (白色) のときに、RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-) とチャイムが鳴り、速度を設定できないことをお知らせします。

追従走行時の車間距離を設定する

車間距離は長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
CANCEL スイッチを押し下げると車間距離を短く設定します。CANCEL スイッチを押し上げると車間距離を長く設定します。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	マルチインフォメーションディスプレイ表示	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示*1
長 (約 50 m)		
中 (約 40 m)		
短 (約 30 m)		
極短 (約 25 m)		

*1　運転者がスイッチ操作をしたときのみ、アクティブ･ドライビング･ディスプレイにポップアップ表示されます。

知識

・車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
・電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

設定速度を変更する

(RES スイッチで加速/減速するとき)

RES スイッチを押し上げる (SET+) と加速し、RES スイッチを押し下げる (SET-) と減速します。

・短押し：1 km/h
・長押し：10 km/h

(アクセルペダルで加速するとき)

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、RES スイッチを押し上げる (SET+) または、押し下げて (SET-)、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

知識

・アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。

一時的に解除されるとき

次の操作を行なうと、MRCC が一時的に解除され、同時に MRCC セット表示 (緑色) から MRCC スタンバイ表示 (白色) に変わります。

・CANCEL スイッチを 1 回押したとき
・ブレーキペダルを踏んだとき
・チェンジレバーが R になったとき

次のようなときは、MRCC キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

・DSC が作動したとき
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
・下り坂を長時間走行したとき
・システムに異常が発見されたとき
・車速が 25 km/h 以下になったとき
・チェンジレバーが一定時間ニュートラル位置だったとき
・クラッチペダルを一定時間踏んだとき
・エンストしたとき
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できなくなったとき (雨、霧、雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたとき)
・パーキングブレーキをかけたとき
・いずれかのドアを開けたとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき
・MRCC 制御によるブレーキの作動頻度が高いとき

制御を再開するとき

MRCC が一時的に解除された場合、再度作動条件をすべて満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除された前の設定速度で作動します。

知識

ディスプレイに設定速度が表示されていないときは、RES スイッチを押しても、作動しません。

OFF にする

MRCC が作動中に、MRCC スイッチを押すと、MRCC が OFF になります。

▼ シフトアップ/シフトダウン要求表示について

MRCC 作動中に、シフトアップ要求表示、またはシフトダウン要求表示が表示されることがあります。このときは、ギヤの位置が不適切であるためシフトチェンジをしてください。

要求	ディスプレイ表示
シフトアップ	シフトアップしてください
シフトダウン	シフトダウンしてください

知識

・シフトアップ要求表示が表示されてもシフトアップしないときはエンジンに負荷がかかり、MRCC が自動的に解除される、または、エンジンを損傷するおそれがあります。
・シフトダウン要求表示が表示されてもシフトダウンしないときは MRCC が自動的に解除される、または、エンストすることがあります。

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは (オートマチック車)

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは

MRCC (全車速追従機能付) は、フロントレーダーセンサーが前方車を検知することで、運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また、追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
前方車に追従して停車したときは、停車状態を保持 (停車保持制御) し、運転者が RES スイッチを押すなどの発進操作を行なうと、追従走行を再開します。
MRCC (全車速追従機能付) を使用するときは、使用前に次の記載もあわせてお読みください。

・5-9 ページ「i-stop について」
・5-66 ページ「オートホールド」
・5-183 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
・5-186 ページ「フロントレーダーセンサーについて」

マニュアル車は、次の記載をお読みください。

・5-109 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは」

⚠ 警告

MRCC (全車速追従機能付) を過信しない。
MRCC (全車速追従機能付) は運転者の負担を軽減するために、走行速度を一定に保つ、あるいは、前方車を検知して前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つシステムですが、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況などによっては前方車の検知に限界があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保し、安全運転に心がけてください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況では使用しない。

- 自動車専用道路以外の一般道 (道路状況にあわせた走行はできません。)
- 急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路 (道路状況にあわせた走行はできません。)
- 高速道路などでインターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するなど本線から出るとき (本線上で追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり、設定された速度まで加速する場合があります。)
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失ったり、停車保持制御が作動しなかったりするおそれがあります。)
- 長い下り坂 (車間距離を保つため MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキが作動し続け、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。)
- 勾配が急な坂 (前方車を正しく検知できなかったり、停車保持制御中に車両がずり下がったり、発進時に飛び出すおそれがあります。)
- 前方にバイクや自転車などの二輪車がいるとき

⚠ 警告

MRCC (全車速追従機能付) を使用しないときは、安全のため MRCC (全車速追従機能付) を OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと、誤って MRCC (全車速追従機能付) を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停止保持制御中に車両から離れない。
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは、MRCC (全車速追従機能付) を OFF にして、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P の位置にしてください。

⚠ 注意

- けん引されるとき、または、他の車をけん引するときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。
- シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動しないよう、システムを OFF にしてください。

知識

- MRCC (全車速追従機能付) は、次の対象物については、対象物として検知しません。
  - 対向車両
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両、障害物など)
- 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
- 前方に地上から低い位置にある道路構造物や障害物 (モノレールなど) がある時は、システムが作動する場合がありますので、MRCC (全車速追従機能付) を使用しないでください。
- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、MRCC (全車速追従機能付) を使用しないでください。

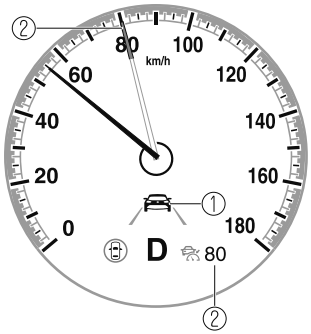
知識

・追従走行時は前方車の速度にあわせて加速や減速を行ないますが、車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行なってください。
・MRCC (全車速追従機能付) を使用して走行しているときは、セレクトレバーを操作しても MRCC (全車速追従機能付) が解除されないため、意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。
・MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
・MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中は、ブレーキランプが点灯しないときがあります。
・追従走行を解除し、定速走行のみを作動するように切り替えることができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) ディスプレイ表示

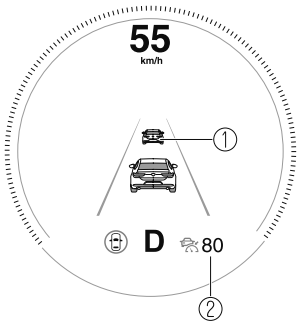
MRCC (全車速追従機能付) の設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



1. 前方車表示
2. MRCC (全車速追従機能付) 設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 画面)



1. 前方車表示
2. MRCC (全車速追従機能付) 設定速度

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ

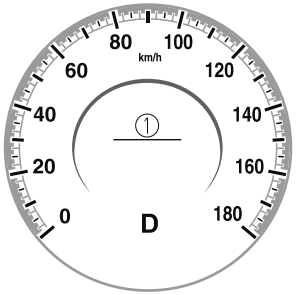


1. 前方車表示
2. MRCC (全車速追従機能付) 設定速度

MRCC (全車速追従機能付) が故障したときは、マルチインフォメーションディスプレイ/センターディスプレイにメッセージが表示されます。故障内容をマルチインフォメーションディスプレイ/センターディスプレイで確認し、マツダ販売店で点検を受けてください。
→8-26 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

▼ 接近警報

追従走行時に前方車が急制動を行なったときなど前方車に接近したときは、警報音が鳴り、ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。



1. “ブレーキペダルを踏んでください”

知識

次のときは、前方車と接近したときでも、警報やブレーキが作動しない場合があります。

- 前方車と同程度の速度で走行しているとき
- MRCC (全車速追従機能付) を設定した直後
- アクセルペダルを離した直後
- 他の車が割り込んできたとき

▼ 設定するとき

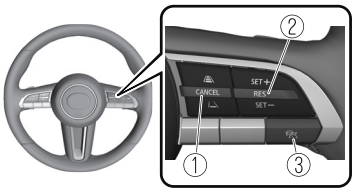
MRCC (全車速追従機能付) は、次のすべての条件を満たしているときに作動します。

・MRCC (全車速追従機能付) が ON のとき
・ブレーキペダルを踏んでいないとき
・パーキングブレーキが解除されているとき (電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯が消灯しているとき)
・DSC が故障していないとき
・すべてのドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・セレクトレバーが D または M (マニュアルモード) のとき

知識

・次の場合、30 km/h 以下のときは MRCC (全車速追従機能付) が使用できません。また、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに“30km/h 以下で MRCC が作動しません”とメッセージが表示されます。
  ・フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できなくなったとき (故障やフロントガラスが汚れたとき)
  ・停車保持制御の機能が故障したとき
  ・電動パーキングブレーキ (EPB) が故障したとき
・エンジン始動直後は、DSC の作動チェックのため、MRCC (全車速追従機能付) が設定できないときがあります。

ON にする



1. CANCEL スイッチ
2. RES スイッチ
3. MRCC スイッチ

MRCC スイッチを 1 回押すと、MRCC (全車速追従機能付) が ON になり、MRCC (全車速追従機能付) スタンバイ表示 (白) が点灯し、速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になります。



また同時に、MRCC (全車速追従機能付) ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

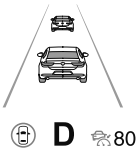
知識

MRCC (全車速追従機能付) を ON にしたまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON したとき、MRCC (全車速追従機能付) は自動的に OFF になります。

速度を設定する

アクセルペダルの操作で設定したい速度に速度を調整し、RES スイッチを押し上げる (SET+) または、押し下げる (SET-) と定速走行を始めます。
ディスプレイに設定速度が表示されます。同時に MRCC (全車速追従機能付) スタンバイ表示 (白色) から MRCC (全車速追従機能付) セット表示 (緑色) に変わります。



走行状態	マルチインフォメーションディスプレイ表示	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示
定速走行時		80 km/h 80
追従走行時		 55 km/h 80

知識

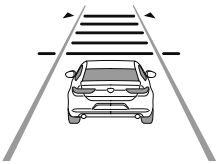
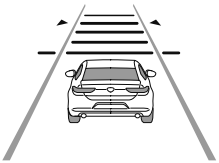
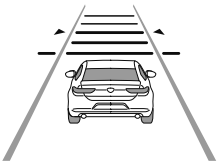
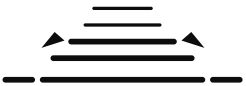
- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行ないます。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- MRCC (全車速追従機能付) の設定速度の下限は 30 km/h です。
- 設定した速度より速い速度で走行している車両を、前方車として追従走行することはできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節してください。

知識

・車速の条件など MRCC (全車速追従機能付) の作動条件が揃っていない場合で MRCC スタンバイ表示 (白色) のときに、RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-) とチャイムが鳴り、速度を設定できないことをお知らせします。

追従走行時の車間距離を設定する

車間距離は長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
CANCEL スイッチを押し下げると車間距離を短く設定します。CANCEL スイッチを押し上げると車間距離を長く設定します。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	マルチインフォメーションディスプレイ表示	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示*1
長 (約 50 m)		
中 (約 40 m)		
短 (約 30 m)		
極短 (約 25 m)		

*1　運転者がスイッチ操作をしたときのみ、アクティブ･ドライビング･ディスプレイにポップアップ表示されます。

知識

・車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
・電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

設定速度を変更する

(RES スイッチで加速/減速するとき)

RES スイッチを押し上げる (SET+) と加速し、RES スイッチを押し下げる (SET-) と減速します。

・短押し：1 km/h
・長押し：10 km/h

(アクセルペダルで加速するとき)

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、RES スイッチを押し上げる (SET+) または、押し下げて (SET-)、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

知識

・アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。
・停車保持制御中に RES スイッチを押し上げる (SET+) または、押し下げる (SET-) と設定速度を変更できます。

一時的に解除されるとき

次の操作を行なうと、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除され、同時に MRCC (全車速追従機能付) セット表示 (緑色) から MRCC (全車速追従機能付) スタンバイ表示 (白色) に変わります。

・CANCEL スイッチを 1 回押したとき
・ブレーキペダルを踏んだとき
・セレクトレバーが P、N または R レンジになったとき

次のようなときは、MRCC キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

・DSC が作動したとき
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
・下り坂を長時間走行したとき
・システムに異常が発見されたとき
・停車保持制御中に自動でパーキングブレーキがかかったとき
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できなくなったとき (雨、霧、雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたとき)
・パーキングブレーキをかけたとき
・いずれかのドアを開けたとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき
・MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキの作動頻度が高いとき

制御を再開するとき

MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合、再度作動条件をすべて満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除された前の設定速度で作動します。

知識

ディスプレイに設定速度が表示されていないときは、RES スイッチを押しても、作動しません。

OFF にする

MRCC (全車速追従機能付) が作動中に、MRCC スイッチを押すと、MRCC (全車速追従機能付) が OFF になります。

▼ 停車保持制御

MRCC (全車速追従機能付) で追従走行中に前方車が停車すると、追従して自車も停車します。停車して停車保持制御が作動すると、MRCC (全車速追従機能付) 表示灯が点灯します。

HOLD

知識

- 停車保持制御中に、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合でも、停車状態は維持されます。
- 停車保持制御が 10 分以上経過した場合、自動でパーキングブレーキがかかり、停車状態を維持します。このとき、MRCC (全車速追従機能付) は一時的に解除されます。
- 停車保持制御中、i-stop の作動条件を満たしている場合は、ブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップします。→5-9 ページ「i-stop について」
- 停車保持制御中は、ブレーキランプが点灯します。

再発進するとき

停車保持制御中に、前方車が発進した後、RES スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏み込むと、停車保持制御が解除され、車両が発進します。

知識

- RES スイッチで再発進するときは、前方車との車間距離が規定値以上開かないと発進しません。
- i-stop が作動している場合、再発進操作を行なうと、自動でエンジンが再始動します。
- 停車保持制御中に、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合、前方車がいないときは RES スイッチでは再発進できません。アクセルペダルを踏み込んで、車両を発進させてください。
- 停車保持制御で停車後、前方車が 3 秒以内に発進した場合は、運転者がアクセルペダルを踏み込むなどの発進操作をしなくても追従走行を継続します。

発進報知

停車保持制御中に、前方車が発進した後、しばらく再発進操作を行なわないと、マルチインフォメーションディスプレイの前方車表示が点滅します。それでも再発進操作を行なわない場合は、通知音により運転者に発進を促します。

クルージング& トラフィック･サポート (CTS) とは*

▼ クルージング& トラフィック･サポート (CTS) とは

CTS は､高速道路や自動車専用道路で渋滞した時に運転疲労を軽減するための追従走行機能とステアリングアシスト機能で構成されているシステムです。
このシステムは､運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても､設定した速度で前方車との車間距離を一定に保つ追従走行を行ないます。さらに､ステアリングアシスト機能では､車線を検知している場合は､車線に沿った走行をアシストし､車線を検知していない場合は､前方車の走行軌跡に沿った走行をアシストします。

⚠ 警告

CTS を過信しない。

- CTS は､自動運転システムではありません。そのため､機能には限界があります。システムを過信せず､常にハンドルの操作で進路を修正し､安全運転に心がけてください。
- 道路状況､環境に応じて制限速度内に車速を設定してください。
- CTS は前方車の種類や状態､天候状況､道路状況などによって前方車を検知できないことがあります。また､前方車が急ブレーキをかけたとき､他車が割り込んだとき､前方車と速度差が大きいときなどは十分な減速ができず､思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど､前方車や後続車との車間距離を十分に確保し､安全運転に心がけてください。

CTS を使用しないときは､安全のため CTS を OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと､誤って CTS を作動させ､思わぬ事故につながるおそれがあります。

思わぬ事故につながるおそれがあるため､次のような状況では使用しない。

- 高速道路や自動車専用道路以外の一般道 (道路状況にあわせた走行はできません。)

⚠ 警告

- 急なカーブ､交通量が多く車間距離が十分にとれない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路 (道路状況にあわせた走行はできません。)
- 高速道路などでインターチェンジ､サービスエリア､パーキングエリアに進入するなど本線から出るとき (本線上で追従走行していたときは､自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり､設定された速度まで加速する場合があります。)
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して､車のコントロールを失うおそれがあります。)
- 長い下り坂 (車間距離を保つため CTS 制御によるブレーキが作動し続け､ブレーキが効かなくなるおそれがあります。)
- 前方にバイク､自転車などの二輪車がいるとき
- **(オートマチック車)**
  勾配が急な坂 (前方車を正しく検知できなかったり､停車保持制御中に車両がずり下がったり､発進時に飛び出すおそれがあります。)
- 悪天候のとき (雨､霧､雪のときなど)
- 凍結路､積雪路や未舗装路などのすべりやすい路面を走行するとき
- 応急用タイヤ装着時など､指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき
- 十分な溝がないタイヤを使用しているとき
- タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき
- キャンピングトレーラーやボートトレーラーなどをけん引しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 白線 (黄線) の整備された高速道路､自動車専用道路以外を走行するとき

停止保持制御中に車両から離れない。 (オートマチック車)
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは､CTS を OFF にして､パーキングブレーキをかけ､セレクトレバーを P の位置にしてください。

⚠ 注意

- CTS を正常に作動させるために次の点をお守りください。
  - シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動しないよう、システムを OFF にしてください。
  - サスペンションの改造を行わないでください。
  - 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換など行うときは、マツダ販売店に相談してください。

知識

・追従走行は、次の対象物については、対象物として検知しません。

・対向車両
・歩行者
・静止物 (停車車両、障害物など)

・前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
・前方に地上から低い位置にある道路構造物や障害物(モノレールなど)がある時は、システムが作動する場合がありますので、CTS を使用しないでください。
・接近警報が頻繁に作動するような状況では、CTS を使用しないでください。
・車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行なってください。
・CTS 機能を使用して走行しているときは、チェンジレバー/セレクトレバーを操作しても意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。
・CTS 制御によるブレーキ作動中は、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
・CTS 制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中は、ブレーキランプが点灯しないときがあります。

知識

・次のようなときは、車線の白線 (黄線) や先行車を正しく検知することができず、CTS が正常に作動しない場合があります。

・汚れや曇りなどでフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方を認識できないとき
・白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
・天候 (雨、霧、雪のときなど) により、白線 (黄線) や先行車が見えにくいとき
・工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき (白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れたりしているとき)
・道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき
・雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
・荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
・前方車が白線(黄線)の近くを走行していて、白線(黄線)が見えにくいとき
・フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
・交差点や合流地点、分岐路などを走行するとき
・道路状況や天候などで車線の白線 (黄線) を検知できないとき
・トンネルの出入り口など、周囲の明るさが急に変わるとき
・夜間、ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱い時や光軸がずれているとき
・逆光や雨あがりなどで路面が光っているとき
・ガードレールなどの影が、道路上に白線 (黄線) と平行して写っているとき
・車線の幅が狭いとき、または広いとき
・道路がうねっているとき
・段差などにより車が大きく揺れたとき
・交差点付近にさまざまな路面表示やさまざまな形状の区画線 (レーンマーカ) があるとき
・カメラ前方の汚れまたは視界をさまたげるようなものを取り付けたとき
・前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき

知識

・夕方、朝方など、薄暗いとき
・前方車が特殊なテールランプ形状のとき
・前方車が自車の中心から大きくはずれて走行しているとき
・前方車が蛇行しているとき
・急カーブのとき

追従走行機能

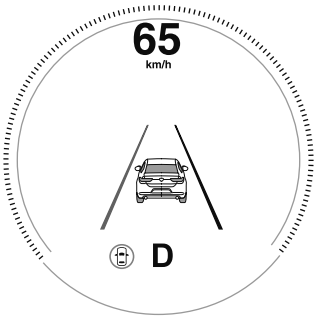
定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行ないます。

ステアリングアシスト機能

車線を検知している場合は、車線に沿った走行をアシストし、車線を検知していない場合は、前方車の走行軌跡に沿った走行をアシストします。

知識

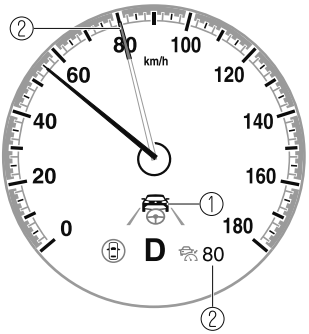
ステアリングアシスト限界警報
ステアリングアシスト機能が作動中に、ステアリングアシスト機能で車線に沿った走行を維持できない場合、運転者にステアリング操作を促すよう警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示されます。



▼ クルージング& トラフィック･サポート (CTS) ディスプレイ表示

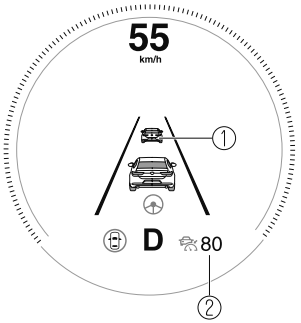
CTS の設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



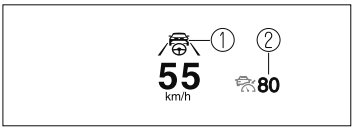
1. 前走車表示
2. CTS 設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)



1. 前走車表示
2. CTS 設定速度

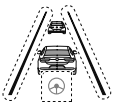
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1. 前走車表示
2. CTS 設定速度

ステアリングアシスト機能表示

ステアリングアシスト機能が作動すると、ディスプレイのステアリングアシスト状態表示が白色から緑色に変わります。



D 80

知識

ステアリングアシストが車線または前方車にあわせて制御するかどうかをマルチインフォメーションディスプレイで確認することができます。

待機状態



D 80

作動状態 (前方車)



D 80

作動状態 (車線)

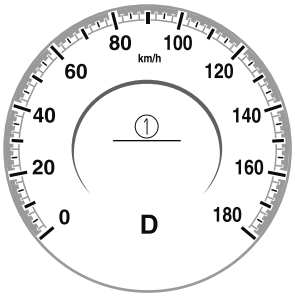


D 80

CTS が故障したときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。故障内容をセンターディスプレイで確認し、マツダ販売店で点検を受けてください。
→8-26 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

▼ 接近警報

追従走行時に前方車と急接近したときは、警報音が鳴り、ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。前方車との車間距離を十分に確保してください。



1. “ブレーキペダルを踏んでください”

知識

・次のときは、前方車と接近したときでも、警報やブレーキが作動しない場合があります。
  ・前方車と同じぐらいの速度で走行しているとき
  ・CTS が作動した直後
  ・アクセルペダルを離した直後
  ・他車が割り込んだとき

▼ 設定するとき

作動条件

追従走行機能

CTS は次のすべての条件を満たしているときに作動します。

・**(マニュアル車)**
  ・車速が約 30 km/h 以上のとき
  ・チェンジレバーが R、N 以外のとき
  ・クラッチペダルを踏んでいないとき
・**(オートマチック車)**
  ・セレクトレバーが D または M (マニュアルモード) のとき
・CTS が起動しているとき
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) またはマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の追従走行機能を有効にしているとき (無効の場合は、カスタマイズ設定で有効にしてください)
・ブレーキペダルを踏んでいないとき
・パーキングブレーキが解除されているとき (電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯が消灯しているとき)
・DSC が故障していないとき
・すべてのドアが閉まっているとき

・運転席シートベルトを着用しているとき

知識

・**(オートマチック車)**
  ・30 km/h 以下で次の状態のときは CTS が使用できません。
  ・停車保持制御の機能が故障したとき
  ・電動パーキングブレーキ (EPB) が故障したとき
・エンジン始動直後は、CTS を起動できないときがあります。

ステアリングアシスト機能

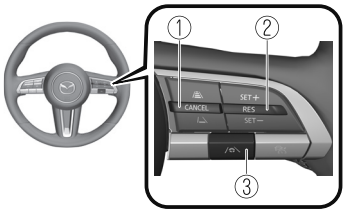
次のすべての条件を満たしているとき、ステアリングアシスト機能は作動します。

・両側の白線 (黄線) を安定して検知している状態で車線の中央付近を走行しているとき、または前方車を自車の正面で安定して検知している状態で車速が約 50 km/h 未満のとき
・ハンドルを大きく操作していないとき
・方向指示器を使用していないとき
・追従走行機能が作動しているとき
・**(マニュアル車)**
約 30 km/h 以上で走行しているとき

知識

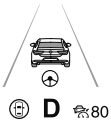
・前方車の走行軌跡に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストする機能は、車速が約 50 km/h 以上では作動しません。
・走行車線内の中央付近を走行できるようにハンドル操作のアシストを行ないますが、カーブの形状、路面の傾斜や起伏、速度などによっては、中央付近を走行できない場合があります。

設定方法

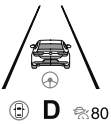


1. CANCEL スイッチ
2. RES スイッチ
3. CTS スイッチ

1. CTS スイッチを押すと CTS スタンバイ表示 (白) が点灯します。また同時に、CTS ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



2. アクセルペダルの操作で設定したい速度に速度を調整し、RES スイッチを押し上げる (SET+) または、押し下げる (SET-) と定速走行を始めます。
ディスプレイに設定速度が表示されます。同時に CTS スタンバイ表示 (白色) が CTS セット表示 (緑色) に変わります。



3. 追従走行機能の条件をすべて満たすと追従走行が作動可能になります。また、ステアリングアシスト機能の条件をすべて満たすと、ステアリングアシスト機能が作動可能になります。

知識

- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行ないます。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- 設定した速度より速い速度で走行している車両を、前方車として追従走行することはできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節してください。
- 車速の条件など CTS の作動条件が揃っていない場合で CTS スタンバイ表示 (白色) のときに、RES スイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-) とチャイムが鳴り、速度を設定できないことをお知らせします。
- CTS を ON にしたまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON したとき、CTS は自動的に OFF になります。
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) またはマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) が作動している状態で、CTS スイッチを押すと、CTS が作動します。また、CTS が作動している状態で、MRCC スイッチを押すと、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) またはマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))が作動します。

設定速度を変更するとき

(RES スイッチで加速/減速するとき)
RES スイッチを押し上げる (SET+) と加速し、押し下げる (SET-) と減速します。

・短押し：1 km/h
・長押し：10 km/h

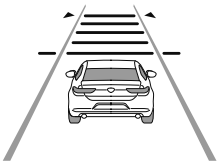
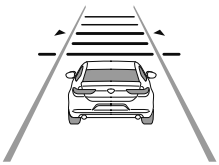
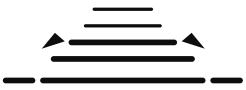
(アクセルペダルで加速するとき)
アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、RES スイッチを押し上げる (SET+) または、押し下げ (SET-) ます。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

知識

・アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。
・CTS の設定速度の下限は 30 km/h です。
・**(オートマチック車)**
停車保持制御中に RES スイッチを操作すると、設定速度を変更することができます。

追従走行時の車間距離を変更するとき

車間距離は長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
CANCEL スイッチを押し下げると車間距離を短く設定します。CANCEL スイッチを押し上げると車間距離を長く設定します。

車間距離の目安 (80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示	
	マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ*1
長 (約 50 m)		
中 (約 40 m)		
短 (約 30 m)		

車間距離の目安 (80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示	
	マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ･ドライビング･ディスプレイ*1
極短 (約 25 m)		

*1　CANCEL スイッチを操作したときにポップアップで表示されます。

知識

・車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
・電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に、前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

一時的に解除されるとき

追従走行機能

次の操作を行なうと、CTS が一時的に解除され、同時に CTS セット表示 (緑色) が CTS スタンバイ表示 (白色) に変わります。

・CANCEL スイッチを 1 回押したとき
・ブレーキペダルを踏んだとき
・**(マニュアル車)**
チェンジレバーを R にしたとき
・**(オートマチック車)**
セレクトレバーを P、N または R レンジにしたとき

次のようなときは、CTS キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

・DSC が作動したとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき
・下り坂を長時間走行したとき
・システムに異常が発見されたとき
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できなくなったとき (雨、霧、雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたとき)
・パーキングブレーキをかけたとき
・いずれかのドアを開けたとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき
・CTS 制御によるブレーキの作動頻度が高いとき
・**(マニュアル車)**
　・車速が 25 km/h 以下になったとき
　・チェンジレバーが一定時間ニュートラル位置だったとき

・クラッチペダルを一定時間踏んだとき
・エンストしたとき
・**(オートマチック車)**
停車保持制御中に自動でパーキングブレーキがかかったとき

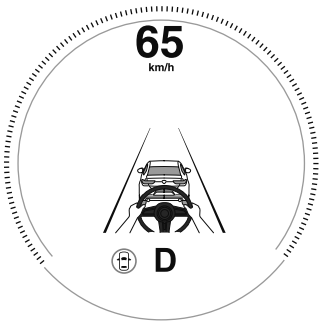
ステアリングアシスト機能

次のような状態になったとき、ステアリングアシスト機能が一時的に解除されます。

・追従走行機能が解除されたとき
・白線 (黄線) を検知できない、または前方車を認識できないとき
・白線 (黄線) を検知できない、かつ車速が約 50 km/h 以上のとき
・アクセル操作をしたとき
・方向指示器を操作したとき
・急なカーブを走行したとき
・車線の幅が狭いとき、または広いとき
・車線をまたいで走行したとき
・運転者がハンドルから手を放したとき
・急なハンドル操作をしたとき
・システムに異常が発見されたとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が高温または低温になったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮へい物があり前が見えないとき

知識

・前方車の走行軌跡に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストする機能は、車速が約 50 km/h 以上になると解除されます。
・運転者がハンドルから手をはなしたとき (ハンドルを保持していないとき) は、警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。
マルチインフォメーションディスプレイ



知識

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



・ハンドルを軽く持っているとき、または道路状態によっては、ハンドルを握っていてもハンドルから手をはなしている (ハンドルを保持していない) と判断し、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されることがあります。

再開するとき

CTS が一時的に解除された場合、再度作動条件をすべて満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除された前の設定速度で作動します。

知識

・ディスプレイに設定速度が表示されていないときは、RES スイッチを押しても再開しません。
・操作後、走行車線を検知、または前方車を認識するまでの最大 5 秒間は、ステアリングアシストが作動しない場合があります。

解除するとき

CTS が作動中に、CTS スイッチを押すと CTS が OFF になります。

▼ シフトアップ/シフトダウン要求表示について (マニュアル車)

CTS 作動中に、シフトアップ要求表示、またはシフトダウン要求表示が表示されることがあります。このときは、ギヤの位置が不適切であるためシフトチェンジをしてください。

要求	ディスプレイ表示
シフトアップ	シフトアップしてください
シフトダウン	シフトダウンしてください

知識

・シフトアップ要求表示が表示されてもシフトアップしないときはエンジンに負荷がかかり、CTS が自動的に解除される、または、エンジンを損傷するおそれがあります。
・シフトダウン要求表示が表示されてもシフトダウンしないときは CTS が自動的に解除される、または、エンストすることがあります。

▼ 停車保持制御 (オートマチック車)

CTS で追従走行中に前方車が停車すると、追従して自車も停車します。停車して停車保持制御が作動すると、CTS 表示灯が点灯します。



知識

- 停車保持制御中に、CTS が一時的に解除された場合でも、停車状態は維持されます。
- 停車保持制御が 10 分以上経過した場合、自動でパーキングブレーキがかかり、停車状態を維持します。このとき、CTS は一時的に解除されます。
- 停車保持制御中、i-stop の作動条件を満たしている場合は、ブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップします。→5-9 ページ「i-stop について」
- 停止保持制御中は、ブレーキランプが点灯します。

再発進するとき

停車保持制御中に、前方車が発進した後、RES スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏み込むと、停車保持制御が解除され、車両が発進します。

知識

- RES スイッチで再発進するときは、前方車との車間距離が規定値以上開かないと発進しません。
- i-stop が作動している間、再発進操作を行なうと、自動でエンジンが再始動します。
- 停車保持制御中に、CTS が一時的に解除された場合、前方車がいないときは RES スイッチでは再発進できません。アクセルペダルを踏み、車両を発進させてください。

知識

- 停車保持制御で停車後、前方車が 3 秒以内に発進した場合は、運転者がアクセルペダルを踏み込むなどの発進操作をしなくても追従走行を継続します。

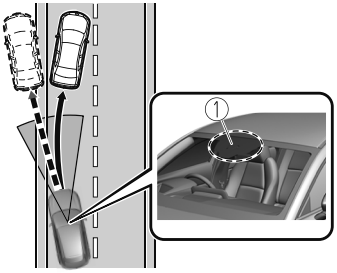
発進報知

停車保持制御中に、前方車が発進した後、しばらく再発進操作を行なわないと、マルチインフォメーションディスプレイの前方車表示が点滅し、運転者に発進を促します。表示灯が点滅した後、再発進操作を行なわないと、音が鳴り、発進を促します。

レーンキープ･アシスト･システム (LAS) とは

▼ レーンキープ･アシスト･システム (LAS) とは

LAS は､自車が車線から逸脱する可能性があると､ハンドル操作をアシストすることにより車線からの逸脱回避を支援する装置です。
走行中に､フォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知して､自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に､電動パワーステアリングを作動させ運転者のハンドル操作をアシストし､マルチインフォメーションディスプレイの表示により運転者に知らせます。
白線 (黄線) が整備された高速道路や自動車専用道路でご使用ください。



1. フォワードセンシングカメラ (FSC)

⚠ 警告

LAS を過信しない。

- LAS は､自動運転システムではありません。また､前方不注意を補助するものではないため､システムを過信しすぎると､思わぬ事故につながるおそれがあります。
- LAS の機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し､安全運転を心がけてください。
- 次のようなときは､思わぬ事故につながるおそれがあるため､LAS を使わない。
  - 凍結路､積雪路や未舗装路などのすべりやすい路面を走行するとき
  - 応急用タイヤ装着時など､指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき

⚠ 警告

- 十分な溝がないタイヤを使用しているとき
- タイヤの空気圧が指定値に調整されていないとき
- キャンピングトレーラーやボートトレーラーなどをけん引しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 白線 (黄線) の整備された高速道路､自動車専用道路以外を走行するとき

⚠ 注意

LAS を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- サスペンションの改造を行なわないでください。
- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは､マツダ販売店にご相談ください。

知識

次のようなときはシステムが正常に作動しない場合があります。

- 白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
- 天候 (雨､霧､雪のときなど) により､白線 (黄線) が見えにくいとき
- 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき (白線 (黄線) が複数引かれていたり､途切れたりしているとき)
- 道路補修の消し残り線､影､残雪､雨のたまったわだちなど､白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき
- トンネルの出入り口など､周囲の明るさが急に変わるとき
- 逆光を浴びて路面が光っているとき
- 雨あがりなどで､路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 車線の幅が狭いとき
- 急カーブのとき

知識

・荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
・分岐路や合流路を走行するとき
・ガードレールなどの影が道路上に白線(黄線)と平行して写っているとき
・夜間、ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱い時や光軸がずれているとき
・道路がうねっているとき
・段差などにより車が大きく揺れたとき
・前方車が白線 (黄線) の近くを走行していて、白線 (黄線) が見えにくいとき
・フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
・前方から強い光を受けているとき (太陽光や対向車のヘッドランプ (ハイビーム) など)

▼ 作動させるとき

電源ポジションを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイに警報・リスク回避支援表示 (白) が表示され、システムが待機状態となります。



知識

警報・リスク回避支援表示 (白) が表示されない場合は、i-ACTVSENSE スイッチまたは、カスタマイズでシステムが停止されています。

作動条件

次の条件をすべて満たすと、マルチインフォメーションディスプレイの警報・リスク回避支援表示が白色から緑色に変わり、システム作動状態となります。

・車速が約 60 km/h 以上で走行しているとき
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき



知識

左右どちらか一方の車線の白線 (黄線) が検知できていない場合、検知できていない方向への逸脱に対しては作動しません。

一時的に解除されるとき

次のとき、LAS は待機状態になります。なお、LAS が作動可能な状態になると自動で復帰します。

・白線 (黄線) を検知できないとき
・車速が約 60 km/h 未満になったとき
・方向指示器を操作したとき
・急なアクセル操作をしたとき
・TCS/DSC が作動しているとき
・TCS を OFF にしたとき
・急なハンドル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき

一時的に機能が停止されるとき

次のとき、LAS は機能を停止します。

・フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が高温または低温になったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮へい物があり前が見えないとき
・フォワードセンシングカメラ (FSC) に強い光 (太陽光や対向車のヘッドランプ (ハイビームなど)) を受けているとき

システム故障

システムに何らかの故障がある場合は、マルチインフォメーションディスプレイに警報・リスク回避支援表示(白)、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し、メッセージが表示されます。→8-31 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

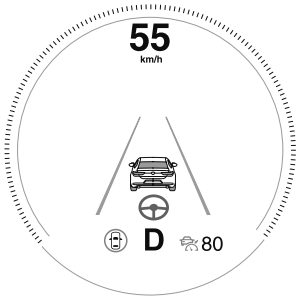
▼ ハンドル操作アシスト

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、ハンドル操作アシストが作動します。システムがハンドル操作アシストしていることをマルチインフォメーションディスプレイとアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

ハンドル操作アシストが作動中に、運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。

▼ 停止するとき

LAS を作動しないように変更できます。

- **(LAS のみ OFF にする場合)**
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
- **(i-ACTIVSENSE スイッチの操作で LAS を OFF にする場合)**
  →5-83 ページ 「i-ACTIVSENSE スイッチ」

知識

i-ACTIVSENSE スイッチでシステムを停止したまま電源ポジションを OFF にし、次に電源ポジションを ON にすると、システムは自動復帰します。ただし、カスタマイズ設定でシステムを停止している場合は自動復帰しません。

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは

▼ スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは

SBS は、フロントレーダーセンサーおよびフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方車、歩行者、および自転車へ衝突する可能性があると判断したときに、ディスプレイの警告表示および警報音により運転者に対して衝突の危険性があることを知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには、SBS 制御によるブレーキが作動することで衝突時の被害を軽減します。また、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。

(ドライバー･モニタリング装備車)
ドライバー･モニタリングカメラで、運転者が正面を注視していないと判断した場合に対象物への衝突の可能性があるときは、通常より早期に衝突警報を行ないます。

⚠ 警告

SBS を過信しない。
SBS は衝突時の被害を軽減するシステムです。
対象物、天候状況、道路状況などによっては対象物の検知に限界があります。システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

次のときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。

- ➢ けん引されるとき、または他の車をけん引するとき
- ➢ シャシーローラーを使用するとき
- ➢ 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  →マツダコネクト取扱書 「設定」

作動条件

次の条件をすべて満たしているときに SBS は作動します。

- ・電源ポジションが ON のとき
- ・SBS が ON のとき
- ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が消灯しているとき
- ・**(対象が前方車のとき)**
  車速が約 4 km/h 以上のとき
- ・**(対象が歩行者/自転車のとき)**
  車速が約 10 km/h から約 80 km/h のとき
- ・DSC が作動していないとき

知識

- ・次のような状態のときは、SBS が作動しないときがあります。
  - ・前方車や障害物と部分的な接触の可能性があるとき
  - ・前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - ・運転者が意図的に運転操作 (アクセル操作、ハンドル操作) を行なったとき
  - ・急なアクセルペダル操作をしているとき
  - ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - ・ハンドルを操作しているとき
  - ・**(オートマチック車)**
    セレクトレバーを操作しているとき
  - ・方向指示器を操作しているとき
  - ・フォワードセンシングカメラ (FSC) またはフロントレーダーセンサーに関する警告や汚れのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されているとき
- ・次のようなときは、SBS が作動する場合があります。
  - ・カーブ入り口に路側物があるとき (ガードレール、雪壁なども含む)
  - ・カーブで対向車両とすれ違うとき
  - ・低いゲート、狭いゲート、狭い鉄橋、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - ・ETC ゲートを通過するとき
  - ・地下駐車場の入り口などに侵入するとき
  - ・路面上に金属物、段差、または突起物があるとき
  - ・前方車に急接近したとき
  - ・動物、壁、立木
- ・システムが作動しているときは、運転者にマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイの表示で知らせます。

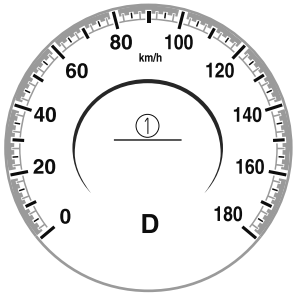
知識

・故障を検知したときや、センサー (レーダーセンサー/フォワードセンシングカメラ (FSC) など) の汚れなどでシステムが一時的に機能を停止しているとき、i-ACTIVSENSE 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
・**(マニュアル車)**
SBS ブレーキの作動により車両が停止したときは、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。
・SBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、約 2 秒後に SBS ブレーキが自動的に解除されます。

▼ 衝突警報

前方車と衝突する可能性がある場合、警報音が鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1. “ブレーキ！”

知識

・SBS ブレーキ作動中やブレーキアシスト (SBS ブレーキアシスト) 作動中も、衝突警報音が断続的に吹鳴します。
・衝突警報の作動距離や音量を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

▼ スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させるには

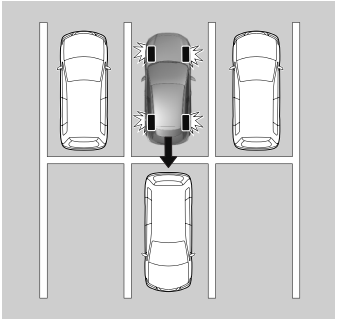
SBS を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
SBS を停止すると、SBS OFF 表示灯が点灯します。



スマート･ブレーキ･サポート[後進時] (SBS-R) とは

▼ スマート･ブレーキ･サポート[後進時] (SBS-R)とは

SBS-R は約 2 km/h～約 8 km/h で後退中に、後方の障害物を超音波センサーが検知し、衝突を回避できないと判断したときに、SBS-R 制御によるブレーキが作動することで衝突時の被害を軽減するシステムです。



⚠ 警告

SBS-R を過信しない。

- SBS-R は、あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- SBS-R の正しい作動のため、次のことをお守りください。
  - リア超音波センサーおよびリアカメラ周辺にステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けないでください。リア超音波センサーおよびリアカメラが障害物を正しく検知できず思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - リア超音波センサーおよびリアカメラを分解しないでください。

⚠ 警告

- 飛び石などでリア超音波センサーおよびリアカメラ周辺に傷などが認められるときは、ただちに SBS-R の使用を停止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。リア超音波センサーおよびリアカメラの周辺にひび割れや引っかき傷などがあるまま運転を続けると意に反して作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  作動を停止させるときは次のページを参照してください。
  →マツダコネクト取扱書 「設定」
- リアバンパーを交換する際は、マツダ販売店に相談してください。

サスペンションを改造しない。
車高や車の傾きが変わると障害物を正しく検知できないため、SBS-R が正常に作動しない場合があります。

リア超音波センサーおよびリアカメラに強い衝撃を与えない。
洗車時にリア超音波センサーおよびリアカメラに強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。また、荷物の出し入れなどでリアバンパーに強い衝撃を与えないでください。障害物を正しく検知できず、SBS-R が正常に作動しない場合があります。

⚠ 注意

- 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行する際は、SBS-R を停止してください。
- 4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー･同一銘柄･同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、SBS-R が正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

➢ リア超音波センサーおよびリアカメラは氷、雪などが付着した場合など、状況によっては障害物を正しく検知できない場合があります。このようなときは、正しい制御ができないおそれがあります。常に後方を注意して運転してください。

知識

・アクセル操作、ブレーキ操作やハンドル操作によって車両姿勢が変化し、障害物を検知しにくくなったり、不要な障害物を検知したりする可能性があります。このような場合、SBS-R が作動しなかったり、作動したりする場合があります。
・SBS-R は、次の条件のとき作動します。
  ・エンジンがかかっているとき
  ・チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にしているとき
  ・急勾配ではないとき
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が消灯しているとき
  ・車速が約 2 km/h～約 8 km/h のとき
  ・SBS-R を停止していないとき
  ・DSC が故障状態でないとき
・次のようなときは、リア超音波センサーおよびリアカメラが障害物を検知できず、SBS-R が作動しない場合があります。
  ・低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
  ・荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
  ・障害物が車両や壁のように大きくないとき
  ・標識のポールなど、障害物が細いとき
  ・障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  ・垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  ・障害物が凹凸のある形状をしているとき
  ・障害物が極端に近いとき
・次のような状況では、リア超音波センサーおよびリアカメラが障害物を正しく検知できず、SBS-R が正常に作動しない場合があります。

知識

  ・リア超音波センサー付近に何か付着しているとき
  ・ブレーキやアクセル操作をしているとき
  ・障害物の周辺に他の障害物があるとき
  ・雨、霧、雪など天候が悪いとき
  ・湿度が低いとき、高いとき
  ・気温が低いとき、高いとき
  ・風が強いとき
  ・走行路が平坦ではないとき
  ・荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
  ・リア超音波センサー付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき
  ・衝突などで、リア超音波センサーの方向がずれたとき
  ・他車のホーン、エンジン音、リア超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき
・次のようなときは、リア超音波センサーおよびリアカメラが対象の障害物だと検知し、SBS-R が作動する場合があります。
  ・急な登坂路があるとき
  ・輪留めがあるとき
  ・垂れ幕や踏切などバーがあるとき
  ・道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
  ・草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  ・低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  ・トーイングバーやトレーラーを装着しているとき
  ・リアカメラに太陽光など明るい光源が写り込むとき
  ・周囲が暗いとき
  ・自転車キャリアなどの車外アクセサリをリア超音波センサー周辺に取り付けたとき
・**(マニュアル車)**
SBS-R ブレーキの作動により車両が停止した場合、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。
・SBS-R ブレーキ作動中に、衝突警報音が断続的に鳴ります。

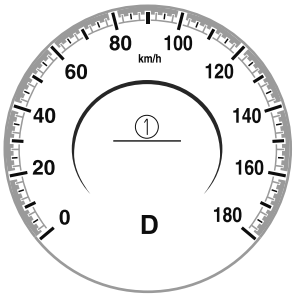
知識

・SBS-R 操作によって車両が停止し、ブレーキペダルが踏み込まれていない場合は、「自動ブレーキ作動停止保持のためブレーキペダルを踏んでください」とメーター内に表示され、約 2 秒後に SBS-R ブレーキが自動的に解除されます。

▼ 衝突警報

衝突する可能性がある場合、警報音が鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1. “ブレーキ！”

▼ スマート･ブレーキ･サポート [後進時] (SBS-R) を停止させるには

SBS-R を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
SBS-R を停止すると、SBS OFF 表示灯が点灯します。



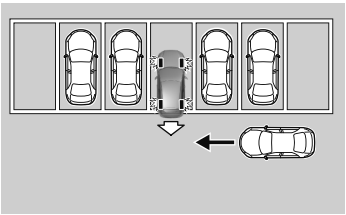
知識

SBS-R を停止した場合、スマート･ブレーキ･サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) も停止します。

スマート･ブレーキ･サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) とは

▼ スマート･ブレーキ･サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) とは

SBS-RC は､駐車場から後退する際に後側方から接近してくる車両に対して衝突の可能性がある場合にブレーキをかけ､衝突回避および衝突時の被害軽減を支援するシステムです。
SBS-RC は､後退中に自車の左右や後方に接近してきた車両を検知し､衝突を回避できないと判断したときに､SBS-RC 制御によるブレーキが作動することで衝突時の被害を軽減します。



SBS-RC 作動

1. チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にすると､SBS-RC が作動します。
2. 車両が接近し､自車と衝突の可能性がある場合､SBS-RC がブレーキをかけ､アクティブ･ドライビング･ディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ！」と表示します。

⚠ 警告

実際の後退時には､必ず目視にて周辺状況を確認する。
SBS-RC は後退での出庫をサポートするシステムですが､作動には各種の制約があります。そのため､自車後側方を通行する車両が存在する場合でも､SBS-RC が作動しなかったり､作動が遅れたりする場合があります。必ず運転者の責任において後方を確認してください。

⚠ 警告

SBS-RC を過信しない。

- SBS-RC は､あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- SBS-RC は､車両に対して作動するシステムです。システムは､壁､歩行者､2 輪車や動物などの障害物には作動しません。

SBS-RC の正しい作動のため､次のことを守る。

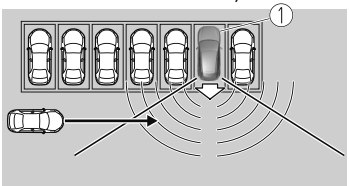
- リアサイドレーダーやリアカメラ周辺にステッカーを貼り付けないでください。リアサイドレーダーやリアカメラが車両や障害物を正しく検知できず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リアサイドレーダーとリアカメラを分解しないでください。
- 飛び石などでリアサイドレーダーやリアカメラ周辺に傷などが認められるときは､ただちに SBS-RC の使用を停止し､必ずマツダ販売店で点検を受けてください。リア超音波センサーの周辺にひび割れや引っかき傷などがあるまま運転を続けると意に反して作動し､思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →5-148 ページ「スマート･ブレーキ･サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) を停止させるには」
- リアバンパーの交換については､マツダ販売店へご相談ください。

サスペンションを改造しない。
車高や車の傾きが変わると障害物を正しく検知できないため､SBS-RC が正常に作動しない場合があります。

リアサイドレーダーやリアカメラに強い衝撃を与えない。
洗車時にリアサイドレーダーやリアカメラに強い水圧を与えたり､強くこすったりしないでください。また､荷物の出し入れなどでリアバンパーに強い衝撃を与えないでください。障害物を正しく検知できず､SBS-RC が正常に作動しない､または不要に作動する場合があります。

知識

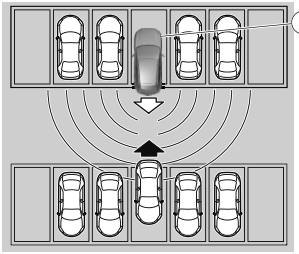
・SBS-RC は次の条件のとき作動します。
  ・エンジンがかかっているとき
  ・チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にしているとき
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯がマルチインフォメーションディスプレイに表示されていないとき
  ・車速が約 10 km/h 以下のとき
  ・接近車両の車速が約 3 km/h 以上のとき
  ・SBS-R を OFF にしていないとき
  ・DSC が故障していないとき
・次の場合、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯を点灯させ、システムの作動を停止します。i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が点灯し続ける場合は、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  ・SBS-RC を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  ・リアサイドレーダーセンサーの車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  ・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパー上に雪、氷や泥などが多量についたとき
  ・雪道を長時間走行したとき
  ・夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダー付近の温度が非常に高くなったとき
  ・バッテリーの電圧が下がっているとき
・次の場合、リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  ・隣接した壁や駐車車両によりリアサイドレーダーセンサーの検知がさまたげられているとき (レーダーセンサーの検知がさまたげられない位置まで、自車を後退させてください。)



1. 自車

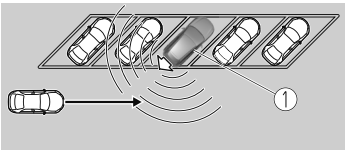
知識

  ・自車の真後ろから車両が接近してきたとき



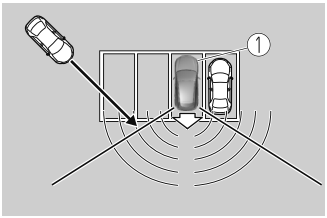
1. 自車

  ・車両が斜めに駐車されているとき



1. 自車

  ・角度が急な方向から車両が接近するとき



1. 自車

  ・SBS-RC をカスタマイズで作動可能な状態にした直後
  ・隣接した駐車車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき
・トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりした場合は、SBS-RC を停止してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。

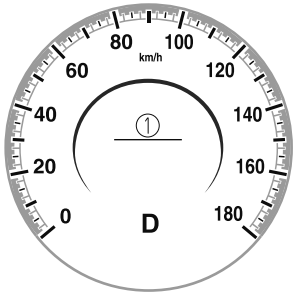
知識

・次のようなときは、リアサイドレーダーやリアカメラが対象の障害物だと検知し、SBS-RC が作動する場合があります。
  ・垂れ幕や踏切などバーがあるとき
  ・道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
  ・草の生い茂った場所やオフロードなど悪路を走行するとき
  ・低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  ・トレーラーを接続しているとき
  ・リアカメラに太陽光など明るい光源が写り込むとき
  ・周囲が暗いとき
・**(マニュアル車)**
SBS-RC の作動により車両が停止した場合、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。
・システム作動時には、マルチインフォメーションディスプレイでお知らせします。
・SBS-RC 作動中は、衝突警報音が断続的に吹鳴します。
・SBS-RC の作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと、約 2 秒後にメーターに「自動ブレーキ作動停止 保持のためブレーキペダルを踏んでください」と表示され、SBS-RC ブレーキが自動的に解除されます。

▼ 衝突警報

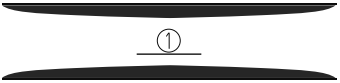
衝突する可能性がある場合、警報音が鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1. “ブレーキ！”

▼ スマート･ブレーキ･サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC) を停止させるには

SBS-RC を作動しないように変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
SBS-RC を停止すると、SBS OFF 表示灯が点灯します。



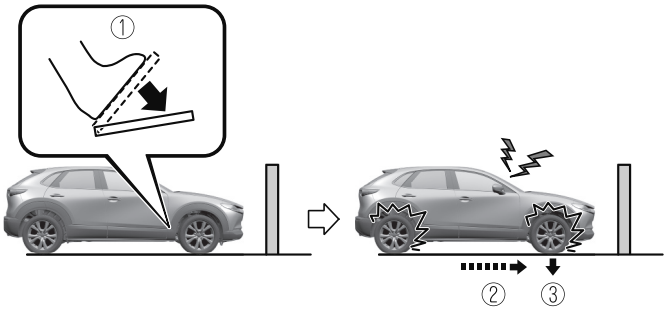
知識

SBS-RC を停止した場合、スマート･ブレーキ･サポート[後進時] (SBS-R) も停止します。

AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは*

▼ AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは

AT 誤発進抑制制御 [前進時] は車両が徐行中 (約 15 km/h 以下) や停車時、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサーにより、前方に車や壁などの障害物を検知しているにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたときに、アクセルペダルを踏み間違えたと判断し、エンジン出力を抑制します。さらに衝突を回避できないと判断したときに、AT 誤発進抑制制御 [前進時] によるブレーキが作動することで衝突時の被害を軽減します。
システム作動中は、AT 誤発進抑制制御 [前進時] 表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



1. アクセル 踏み間違い
2. エンジン出力抑制
3. ブレーキ

⚠ 警告

AT 誤発進抑制制御 [前進時] を過信せず安全運転に心がける
AT 誤発進抑制制御 [前進時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。シフト、アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない
停車状態を保ったり、発進を緩やかにしたりするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 踏切内に閉じ込められた場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が遮断機を障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合、あわてずにアクセルを踏み続ける、または踏み直して脱出してください。脱出の際、車両が急加速することがありますので注意して運転してください。
- AT 誤発進抑制制御 [前進時] のブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと、約 2 秒後に AT 誤発進抑制制御 [前進時] のブレーキが自動的に解除されます。
- 次のときは誤って作動しないよう、システムを OFF にしてください。

⚠ 注意

- ➢ けん引されるとき、または他の車をけん引するとき
- ➢ シャシーローラーを使用するとき
- ➢ 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき

知識

・AT 誤発進抑制制御 [前進時] は次の条件のときに作動します。

- ・エンジンがかかっているとき
- ・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止していないとき
- ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が消灯しているとき
- ・セレクトレバーが D/M レンジのとき

・次のようなときは、システムが作動しない場合があります。

- ・運転者が意図的に運転操作 (アクセル操作、ハンドル操作) を行なったとき
- ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
- ・ハンドルを操作しているとき
- ・セレクトレバーを操作しているとき
- ・アクセルペダルを素早く 3 回以上踏んだとき

・フォワードセンシングカメラ (FSC) およびフロント超音波センサーの検知能力には限界があります。次のようなときは、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。

- ・フロントガラスまたはフロントバンパーに氷、雨滴曇り、雪、霜、汚れ、ビニール袋などの異物が付着しているとき
- ・ウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき

・次のようなときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) およびフロント超音波センサーが障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。

- ・障害物の高さが低いとき (低い壁、低いガードレール、トレーラーなどの後部)
- ・障害物が小さいとき
- ・障害物が細いとき (標識の支柱や電柱など)
- ・障害物が自車の中心からはずれた位置にあるとき
- ・障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
- ・垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
- ・障害物が凹凸のある形状をしているとき
- ・障害物が極端に近いとき
- ・荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
- ・キャリアカーなど、特殊な形状をした車両
- ・障害物が鋭利な形を持つもの
- ・障害物が複数いる場合
- ・カーブ、坂道のとき
- ・ハンドルを大きく切っているとき
- ・ボンネットの上に雪などの障害物があるとき
- ・雨、霧、雪など天候が悪いとき
- ・湿度が低いとき、高いとき
- ・気温が低いとき、高いとき
- ・風が強いとき
- ・走行路が平坦ではないとき

知識

・前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
・荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
・障害物などと部分的な接触の可能性があるとき
・ルーフレールなどを装着してフォワードセンシングカメラ (FSC) およびフロント超音波センサーを覆うような長尺物を装着したとき
・フロント超音波センサー付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき
・車、歩行者、二輪車、自転車などが横から割り込んだり、飛び出してきたりしたとき
・朝方、夕方の薄暗いとき、夜間や屋内駐車場など周囲が暗いとき
・前方に強い光を受けているとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
・自車が進路変更を行ない、障害物のすぐ後ろに接近したとき
・衝突などで、フロント超音波センサーの方向がずれたとき
・他車のホーン、エンジン音、超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき

・次のようなときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) およびフロント超音波センサーが障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動する場合があります。

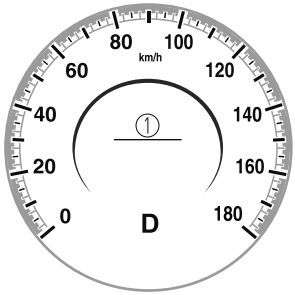
・急な登坂路があるとき
・輪留めがあるとき
・ETC や踏切などバーがあるとき
・道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスを感知しているとき
・草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
・低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
・路面上に金属物、段差または突起物があるとき
・ビニールカーテン、旗などを潜って通行するとき
・パイロンなどのプラスチック類
・完全に開いていない遮断機
・シャシーローラーなど使用するとき
・キャリアカーに積載するとき
・前方車に接近して走行するとき
・カーブや交差点の先に障害物があるとき
・障害物に接近して通過するとき

・システムの故障を検知したたときやセンサーの汚れなどでシステムが一時的に機能を停止しているとき、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が表示/点灯します
→8-31 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

▼ AT 誤発進抑制制御 [前進時] 表示

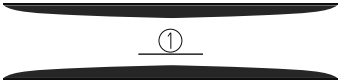
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動中に、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “アクセルを踏んでいます”

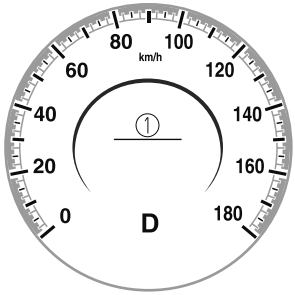
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1. “アクセルを踏んでいます”

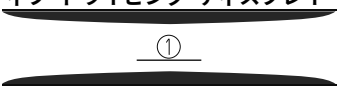
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動中に、アクセルペダルを踏み込むと警報音が鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “ブレーキ！”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1. “ブレーキ！”

▼ AT 誤発進抑制制御 [前進時] を停止させるには

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が停止します。

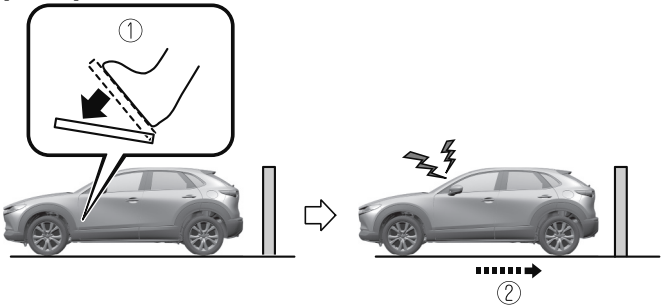
作動を停止させるときは次のページを参照してください。

→5-142 ページ「スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させるには」

AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは*

▼ AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは

AT 誤発進抑制制御 [後退時] は車両が徐行中 (約 10 km/h 以下) や停車時、後方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。システム作動中は、AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



1. アクセル 踏み間違い
2. エンジン出力抑制

⚠ 警告

AT 誤発進抑制制御 [後退時] を過信せず安全運転に心がける。
AT 誤発進抑制制御 [後退時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。
停車状態を保ったり、発進を緩やかにしたりするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

次のときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。

- けん引されるとき、または、他の車をけん引するとき
- シャシーローラーを使用するとき
- 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき

知識

・AT 誤発進抑制制御 [後退時] は次の条件のときに作動します。

知識

・エンジンがかかっているとき
・セレクトレバーを R の位置にしているとき
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R) を停止していないとき
・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が表示/点灯していないとき

・次のようなときは、リア超音波センサーが障害物を検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動しない場合があります。

・低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
・荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
・障害物が車両や壁のように大きくないとき
・標識のポールやフェンスなど、障害物が細いとき
・障害物が自車の車幅からはずれた位置にあるとき
・障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
・垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
・障害物が凹凸のある形状をしているとき
・障害物が極端に近いとき

・次のような状況では、リア超音波センサーが障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が正常に作動しない場合があります。

・リア超音波センサー付近に何か付着したりしているとき
・ハンドルを大きく切ったり、急ブレーキなどの操作を行なったりして車両姿勢が不安定なとき
・障害物の周辺に他の障害物があるとき
・雨、霧、雪など天候が悪いとき
・湿度が低いとき、高いとき
・気温が低いとき、高いとき
・風が強いとき
・走行路が平坦ではないとき
・荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
・リア超音波センサー付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき
・衝突などで、リア超音波センサーの方向がずれたとき
・他車のホーン、エンジン音、リア超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき
・エンジンを始動した直後のとき
・セレクトレバーを R 位置にした直後のとき
・リアカメラに太陽光など明るい光源が写り込むとき
・周囲が暗いとき

・次のようなときは、リア超音波センサーが障害物と検知し、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動する場合があります。

・急な登坂路があるとき
・輪留めがあるとき
・垂れ幕や踏切などバーがあるとき
・道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
・草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
・低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
・トーイングバーやトレーラーを装着しているとき
・可動式シャッターの前で停車し、シャッターを開けた後にシャッターがあったところへ車両を後退させるとき

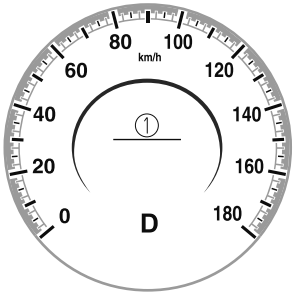
知識

・システムが故障しているときは、i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯が表示/点灯します。
→8-31 ページ「i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯」

▼ AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示

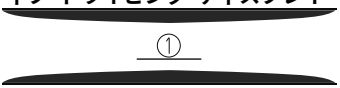
AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動中に、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



1. “アクセルを踏んでいます”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1. “アクセルを踏んでいます”

▼ AT 誤発進抑制制御 [後退時] を停止させるには

スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R) を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が停止します。
作動を停止させるときは次のページを参照してください。
→5-145 ページ「スマート・ブレーキ・サポート [後進時] (SBS-R) を停止させるには」

360° ビュー・モニターとは*

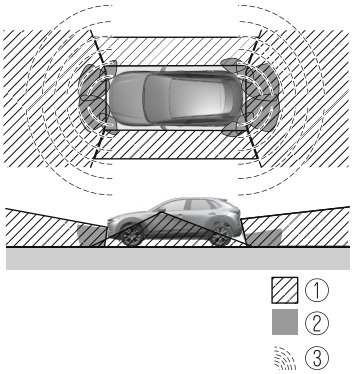
▼ 360° ビュー・モニターとは

360°ビュー・モニターは次のシステムで構成されており、センターディスプレイの表示や各種警報により、低速走行時や駐車時に車両周辺の確認を支援するシステムです。

・**トップビュー**
車両の前後左右にある 4 つのカメラの映像を組み合わせ、車両を真上から見たイメージをセンターディスプレイに表示します。トップビューは、フロントビュー/フロントワイドビュー、またはリアビュー/リアワイドビュー画面を表示しているときに、画面左側に表示します。車両の前進時、または後退時に車両周辺の確認を補助するシステムです。
・**フロントビュー/フロントワイドビュー**
センターディスプレイに車両前方の映像を表示します。
表示した車両前方の映像上にガイド線を映し出すことで、車両前方の確認を補助するシステムです。
・**サイドビュー**
センターディスプレイに車両左右前側面の映像を表示します。
表示した車両左右前側面の映像上にガイド線を映し出すことで、車両側面の確認を補助するシステムです。
・**リアビュー/リアワイドビュー**
センターディスプレイに車両後方の映像を表示します。
表示した車両後方の映像上にガイド線を映し出すことで、車両後方の確認を補助するシステムです。
・**パーキングセンサー**
トップビュー/サイドビュー表示中、車両周辺に障害物がある場合、センターディスプレイに検知表示を表示します。
車庫入れや縦列駐車などの低速走行時に、車両周辺の障害物を超音波センサーで検出し、おおよその距離をブザーおよび検知表示により運転者に知らせるシステムです。
→5-205 ページ「パーキングセンサー」

・**前側方接近車両検知 (FCTA)**
フロントビュー/フロントワイドビュー/サイドビュー表示中、車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、センターディスプレイに警告を表示します。
前側方接近車両検知 (FCTA) は、交差点などで自車が発進するときの左右確認を支援するシステムです。
→5-104 ページ「前側方接近車両検知 (FCTA) とは」
・**後側方接近車両検知 (RCTA)**
リアビュー/リアワイドビュー表示中、車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、センターディスプレイに警告を表示します。
後側方接近車両検知 (RCTA) は、自車の後左右から接近する車両の存在をリアサイドレーダーセンサーで検知し、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅および警報チャイムで知らせることにより、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。
→5-106 ページ「後側方接近車両検知 (RCTA) とは」

360°ビュー・モニター範囲



1. カメラ
2. 超音波センサー
3. フロント/リアサイドレーダーセンサー

⚠ 警告

必ず車両周辺の安全をミラーや目視で直接確認しながら運転する。
360°ビュー・モニターはあくまでも車両周辺の安全を確認するための補助装置です。

⚠ 警告

カメラの撮影範囲やセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラの映像のつなぎ目は死角となり対象物が映らない場合があります。また、車幅延長線および予想進路線などはあくまで目安であり、画面に映し出されている映像は、実際の状況とは異なる場合があります。

⚠ 注意

- 次のような状況では危険ですので、360°ビュー・モニターを使用しないでください。
  - 凍結したすべりやすい路面や雪道
  - タイヤチェーン、応急用スペアタイヤを使用しているとき
  - フロントドアやリアドアが完全に閉まっていないとき
  - 坂道などの平坦でない道路
  - ドアミラーを格納しているとき
- フロント/リアカメラ部、フロント/リアゲート、ドアミラーに強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は防水構造となっていますので、分解、改造、取りはずしをしないでください。
- カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤、有機溶剤、ワックス、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。
- カメラのレンズを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カメラのレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- フロント/リアカメラ部、フロント/リアゲート、ドアミラー付近を修理、塗装、交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。
- 360°ビュー・モニターを正常に作動させるために次の点をお守りください。
  - サスペンションの改造を行なわないでください。

⚠ 注意

- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

- ディスプレイが冷えているときは、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなったり、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず前方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 360°ビュー・モニターを使って駐・停車する方法は、道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況にあわせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐・停車スペースに車両が駐・停車できるかを確認してください。

知識

- サイドカメラとセンターディスプレイは保安基準適合部品です。サイドカメラまたはセンターディスプレイが故障したときは速やかにマツダ販売店にご相談ください。
- カメラのレンズに水滴や雪、泥などがついているときは、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 接触事故などでフロント/リアゲート、ドアミラーなどカメラ取り付け位置周辺に衝撃が加わったときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化を与えると 360°ビュー・モニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの電圧が低いときは画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。

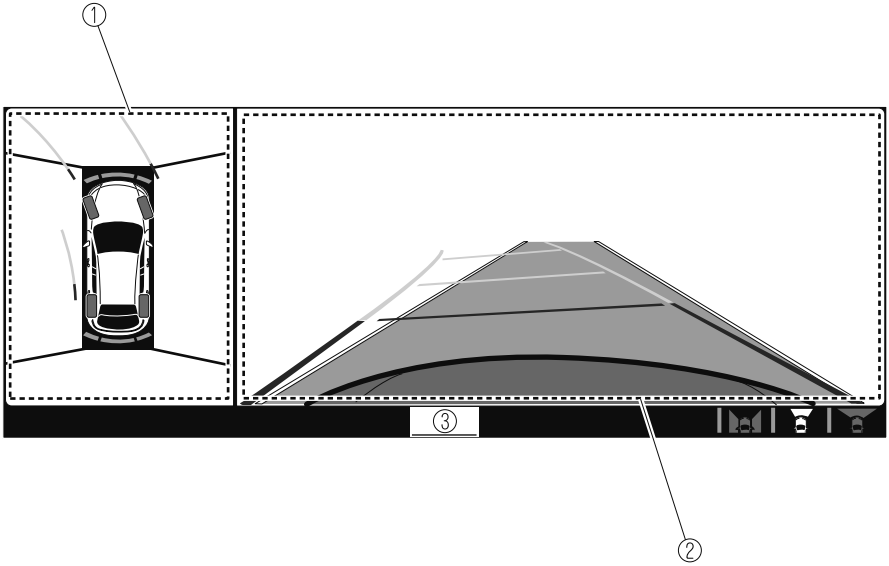
知識

- 360°ビュー・モニターには限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
- カメラの映像範囲よりも上にある障害物については表示されません。
- 次のような状況では、画面が見えにくくなることがありますが、故障ではありません。
  - レンズ付近の温度が高い/低いとき
  - 雨天時など、カメラに水滴がついたときや湿度が高いとき
  - カメラ付近に泥などの異物がついたとき
  - 太陽やヘッドランプなど高輝度な光がカメラのレンズに直接当たったとき
  - 周囲が車両のライト、蛍光灯の光または、LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
  - 極小の黒い点または極小の白い点が画面に含まれているとき (点がちらつくことがあります)
- 360°ビュー・モニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
- 360°ビュー・モニターは鏡面画像になっています。
- 人や障害物などが実際とは異なって表示されることがあります。 (倒れているように表示されたり、実際より長く、または大きく表示されたりすることがあります)
- カメラやその周辺にステッカーを貼り付けたり、アクセサリー用品、字光式ナンバープレートなどを取り付けたりしないでください。カメラが周囲の状況を正確に映し出さなくなります。
- **フリー/オープンソース ソフトウェア情報**
  この製品は、フリー/オープン ソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
  https://www.denso.com/global/en/opensource/svss/mazda/

▼ 画面に表示できる映像の種類

トップビュー/フロントビュー

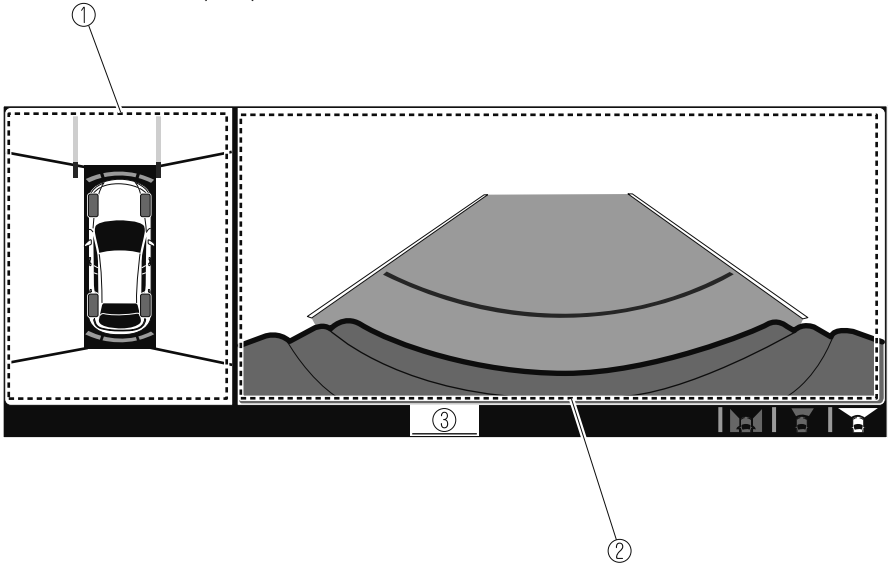
車両周辺および車両前方の映像を表示します。



1. トップビュー画面
2. フロントビュー画面
3. “周囲の安全を確認してください”

トップビュー/フロントワイドビュー

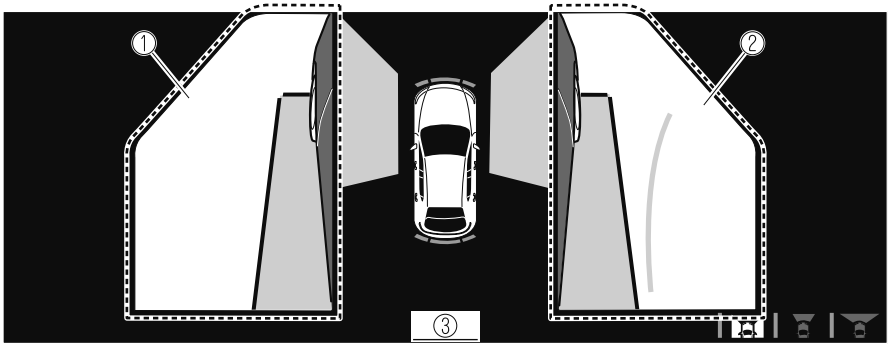
車両周辺および車両前方 (広域) の映像を表示します。



1. トップビュー画面
2. フロントワイドビュー画面
3. “周囲の安全を確認してください”

サイドビュー

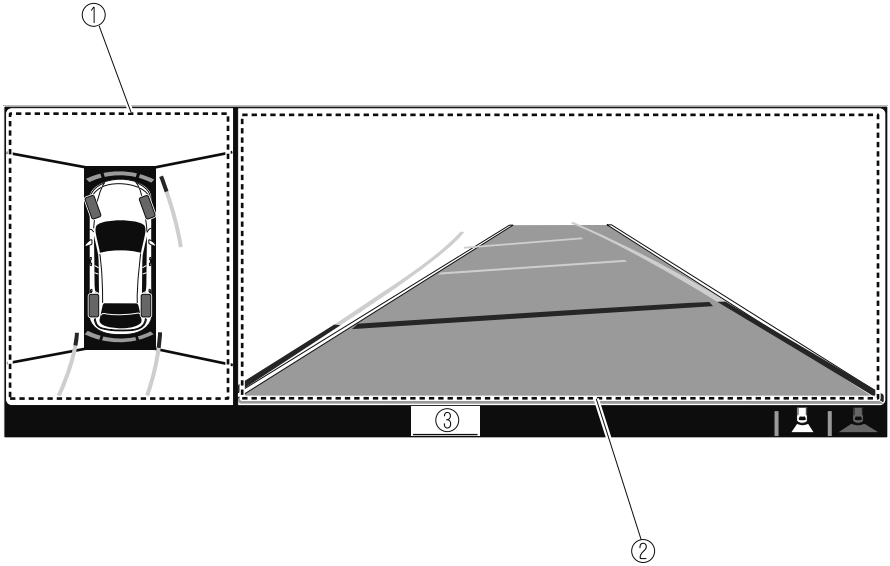
車両左右前側面の映像を表示します。



1. 左前側面画面
2. 右前側面画面
3. “周囲の安全を確認してください”

トップビュー/リアビュー

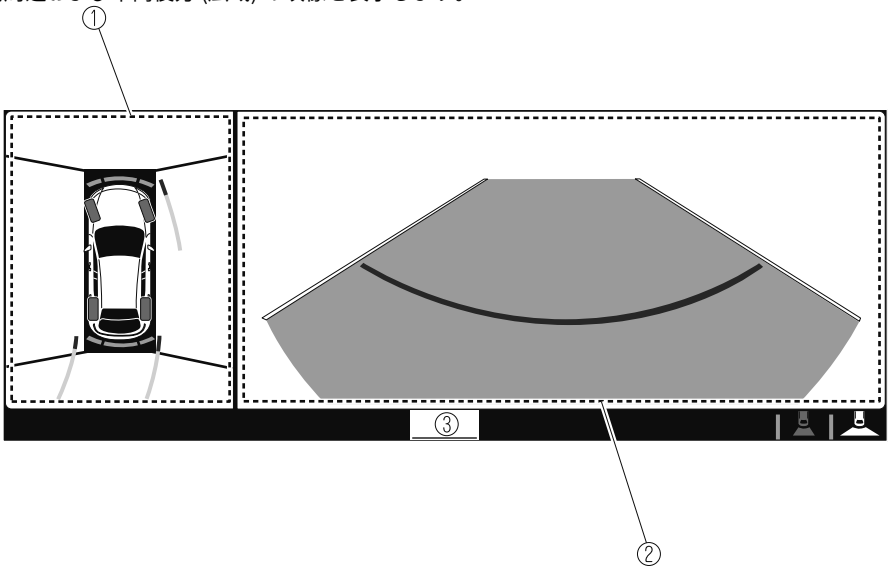
車両周辺および車両後方の映像を表示します。



1. トップビュー画面
2. リアビュー画面
3. “周囲の安全を確認してください”

トップビュー/リアワイドビュー

車両周辺および車両後方 (広域) の映像を表示します。



1. トップビュー画面
2. リアワイドビュー画面
3. “周囲の安全を確認してください”

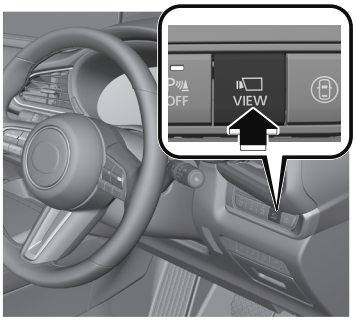
▼ 使用するとき

トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビュー

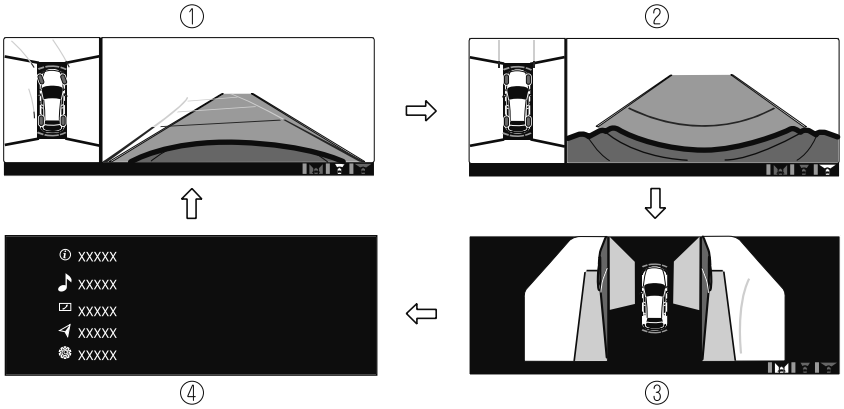
表示

次の条件をすべて満たしているときに 360°ビュー・モニター・スイッチを押すと画面に映像を表示します。

・電源ポジションが ON のとき
・チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置以外にしているとき



表示の切り替え
表示される画面を 360°ビュー・モニタースイッチを押すたびに変更できます。



1. トップビュー/フロントビュー
2. トップビュー/フロントワイドビュー
3. サイドビュー
4. ホームスクリーン

知識

・チェンジレバー/セレクトレバーが R の位置のときは、トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、およびサイドビューに切り替わりません。
・表示条件を満たしていても、次のいずれかの場合はトップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビューの表示を終了します。

・コマンダーノブ周囲のスイッチを押したとき
・**(マニュアル車)**
パーキングブレーキをかけたとき
・**(オートマチック車)**

・セレクトレバーを P の位置にしたとき (セレクトレバーが P の位置以外のときに表示させた場合)
・**(車速が 15 km/h 未満のときに表示させた場合)**

・4 分 30 秒経過したとき
・車速が約 15 km/h 以上になったとき
・**(車速が約 15 km/h 以上のときに表示させた場合)**

・360°ビュー・モニター・スイッチを操作して 8 秒経過したときに、車速が約 15 km/h 以上のとき
・360°ビュー・モニター・スイッチを操作して 8 秒経過したときに、車速が 15 km/h 未満のときは、その時点から 4 分 22 秒経過したとき

・360°ビュー・モニターの設定を次のように変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

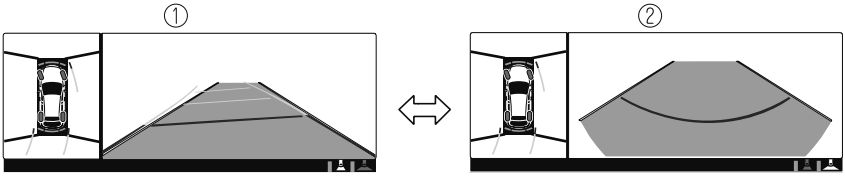
・超音波センサーが障害物を検知したときの 360°ビュー・モニター自動表示
・電源ポジションを ON にしたときの 360°ビュー・モニター自動表示
・システム起動時の優先画面表示

トップビュー/リアビュー、トップビュー/リアワイドビュー

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

・電源ポジションが ON のとき
・チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にしているとき

表示の切り替え
表示される画面を 360°ビュー・モニタースイッチを押すたびに変更できます。

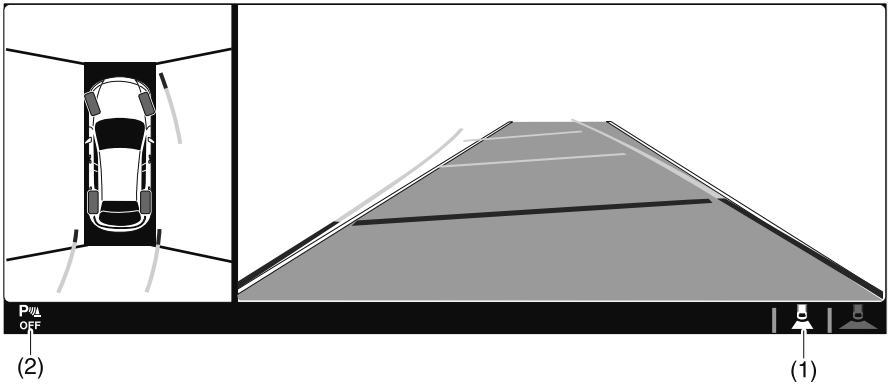


1. トップビュー/リアビュー
2. トップビュー/リアワイドビュー

知識

・トップビュー/リアビュー、トップビュー/リアワイドビューは、360°ビュー・モニター・スイッチの ON/OFF にかかわらず、チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると自動的に表示されます。
・縦列駐車時などに、360°ビュー・モニター・スイッチを操作しなくても、前方の確認ができるよう、後退から前進へシフトチェンジしたとき、トップビュー/フロントビューを表示するように設定を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

画面操作/アイコン

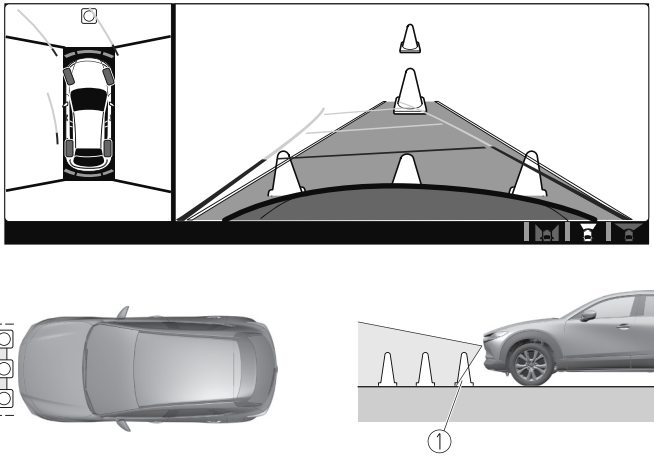


	表示/アイコン	内容
(1)	ビューステータスアイコン	フロントビュー/フロントワイドビュー/サイドビュー/リアビュー/リアワイドビューのうち、どの映像を表示しているかを示します。
(2)	パーキングセンサーステータスアイコン	パーキングセンサーに異常があるとき、または OFF であることを示します。

▼ トップビュー/フロントビュー

発進時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲

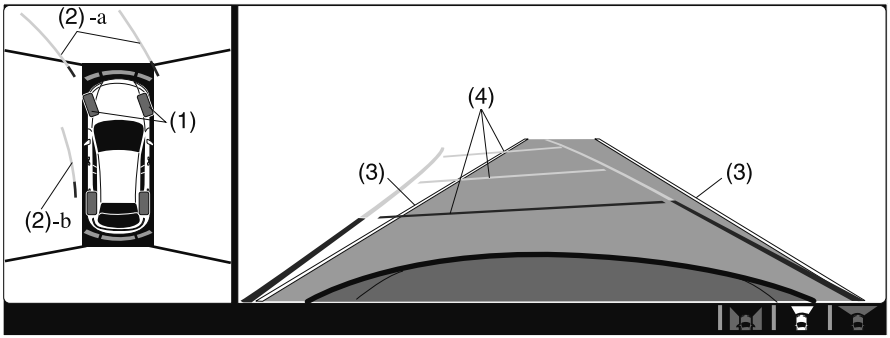


1. 対象物

知識

- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲映すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります
  - フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	タイヤアイコン	タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
(2)	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) フロントバンパーの端が通過する目安を示すライン b) 車両の内側が通過する目安を示すライン
(3)	車幅延長線 (青色)	車幅の延長の目安を示します。
(4)	予想進路距離目安線 (赤色/黄色)	車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 ・赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先を示します。 ・黄色のラインはフロントバンパー前端から約 1 m と約 2 m 先を示します。

⚠ 注意

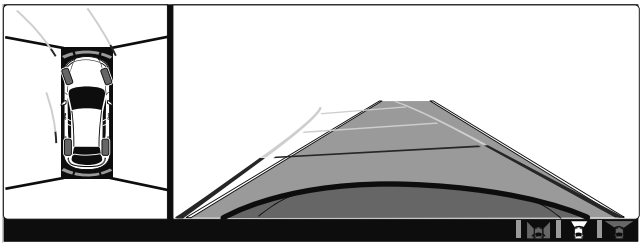
パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
→5-205 ページ 「パーキングセンサーとは」

知識

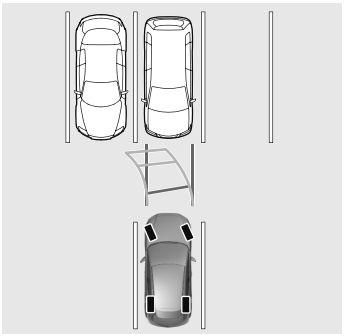
予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

予想進路線の使用方法

①



②



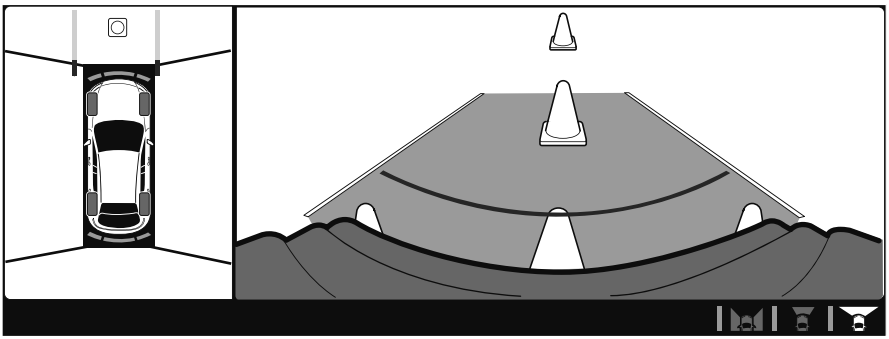
1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

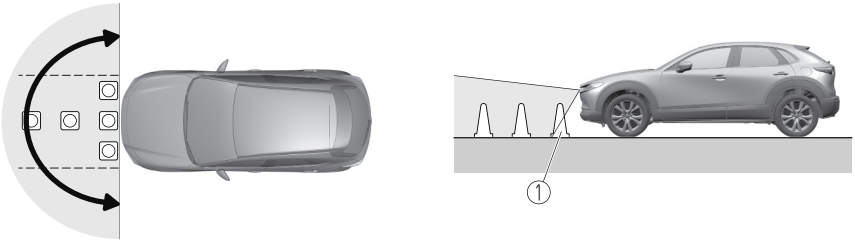
予想進路線が障害物にかかっていないことを確認します。
予想進路線が障害物にかからないようハンドルを操作して前進します。

▼ フロントワイドビュー

発進時、または丁字路や交差点への進入時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲



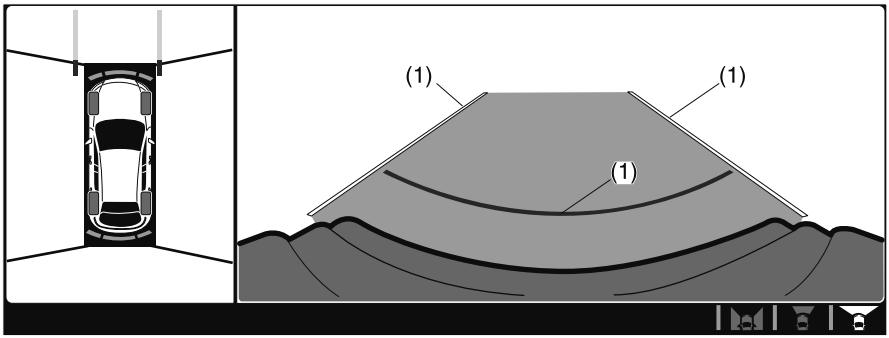


1. 対象物

知識

・トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
・トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  ・いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  ・フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  ・車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  ・路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  ・いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 ・赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先までを示します。 ・青色のラインはフロントバンパー前端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。

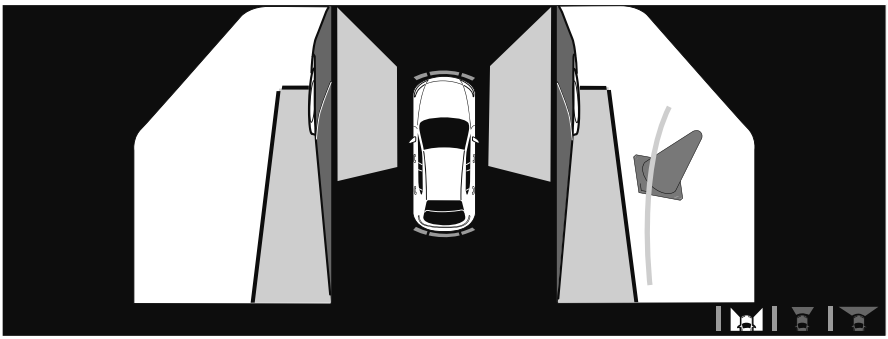
知識

フロントワイドビュー画面は、車両の前方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくする目的で映像を補正しています。そのため、実際の見え方とは異なります。

▼ サイドビュー

発進時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

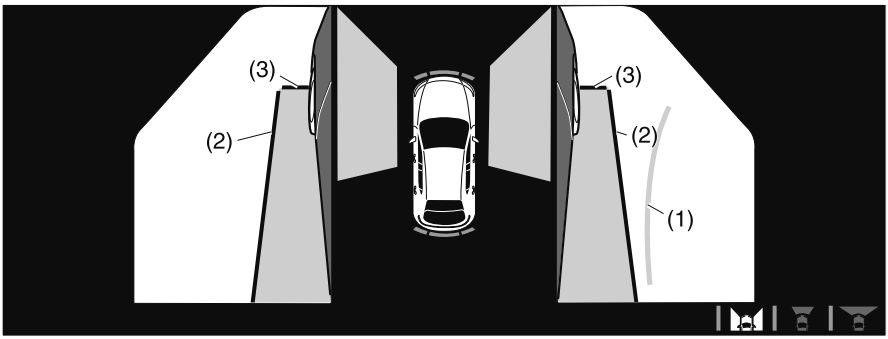
表示範囲





1. 対象物

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 予想進路線 (黄色) は車両の内側が通過する目安を示すラインです。

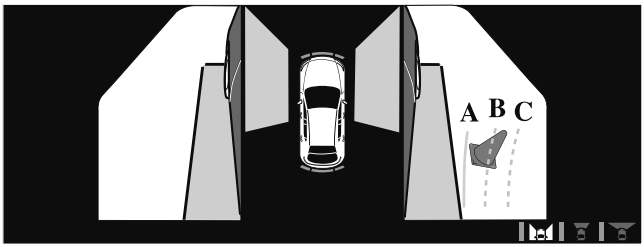
	表示/アイコン	内容
(2)	車両平行線 (青色)	ドアミラーを含んだ車幅の目安を示します。
(3)	車両前端線 (青色)	車両の最前端 (バンパー先端) から約 0.25 m 先を示します。

知識

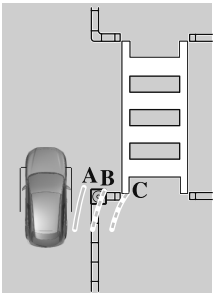
予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

予想進路線の使用方法

①



②



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

予想進路線が障害物にかかっていないことを確認します。
予想進路線が障害物の内側 (A) になるハンドル操作量を保持して車両が障害物を通り過ぎるまで前進します。
予想進路線が障害物上にあるとき (B) や障害物の外側 (C) にあるときは、小回りをすると障害物に触れる可能性があります。

⚠ 注意

- パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
  →5-205 ページ「パーキングセンサーとは」
- サイドビューの映像から障害物が見えなくなっても車両が障害物を通り過ぎるまでハンドルを切り足さないでください。ハンドルを切り足すと小回りすることになり障害物に接触する可能性があります。

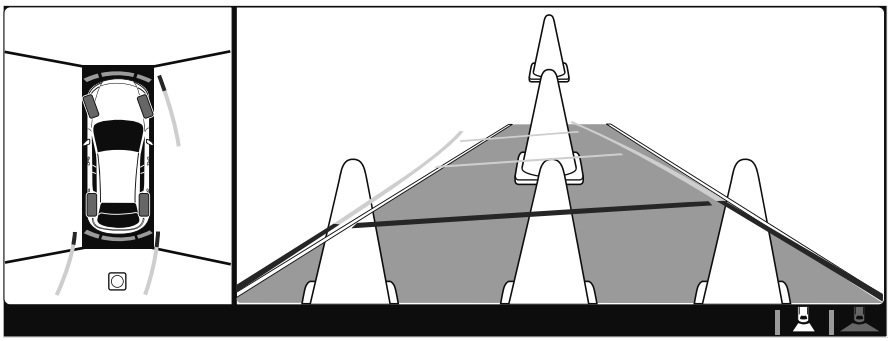
知識

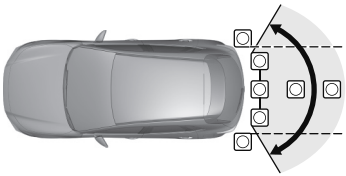
- 画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ずミラーや目視で周囲の安全を確認しながら運転してください。
- 画面に映し出されている路肩の縁石や駐車スペースの区画線などの目標物と車両平行線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

▼ トップビュー/リアビュー

後退時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

画面に映し出される範囲





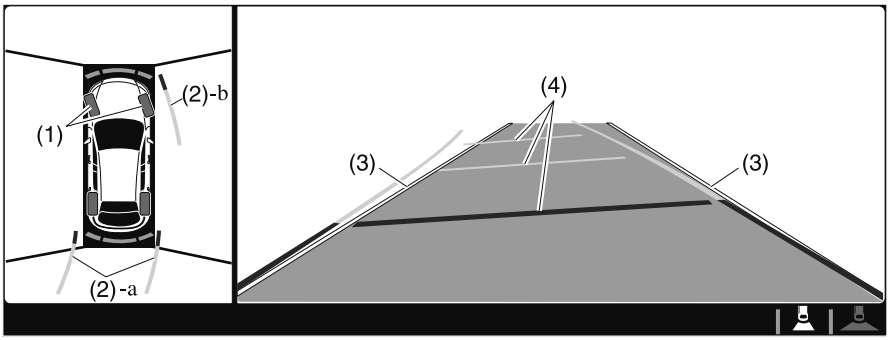


1. 対象物

知識

・トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
・トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  ・いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  ・リアビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  ・車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  ・路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  ・いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	タイヤアイコン	タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
(2)	予想進路線 (黄色/赤色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) 後輪が通過する目安を示すライン b) 車両の外側が通過する目安を示すライン
(3)	車幅延長線 (青色)	車幅の延長の目安を示します。
(4)	予想進路距離目安線 (黄色/赤色)	車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 ・赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先を示します。 ・黄色のラインはリアバンパー後端から約 1 m と約 2 m 先を示します。

知識

予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

予想進路線の使用方法

注意

- 後退時にハンドル操作を行なうと、車両の先端が外側に大きく振れます。車両と障害物の間は十分な間隔を保ってください。
- パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
  →5-205 ページ「パーキングセンサーとは」

知識

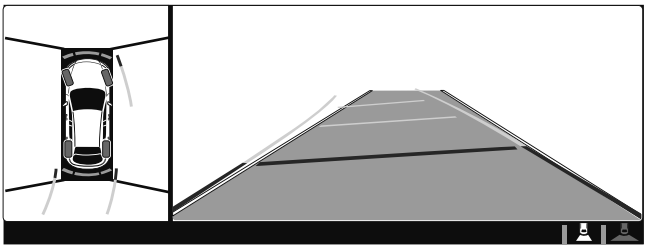
・駐車するときは、次のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

  ・画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。
  ・駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

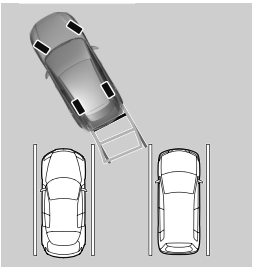
・次に示す状況は、ハンドルを左側にまわして後退し、駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは、左右が逆になります。

1. 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

①



②

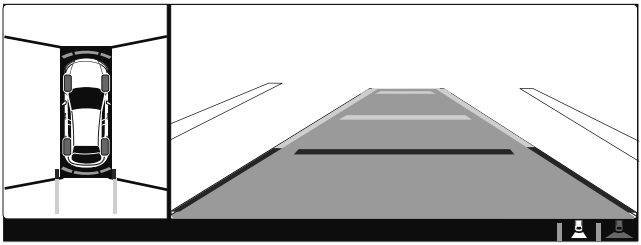


1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

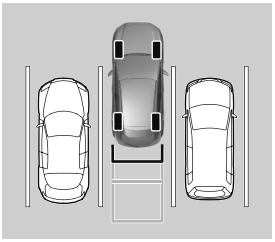
2. 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。

3. 車幅延長線と駐車スペースが平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。 (駐車スペースに区画線がある場合は区画線と車幅延長線が平行になったとき)

①



②

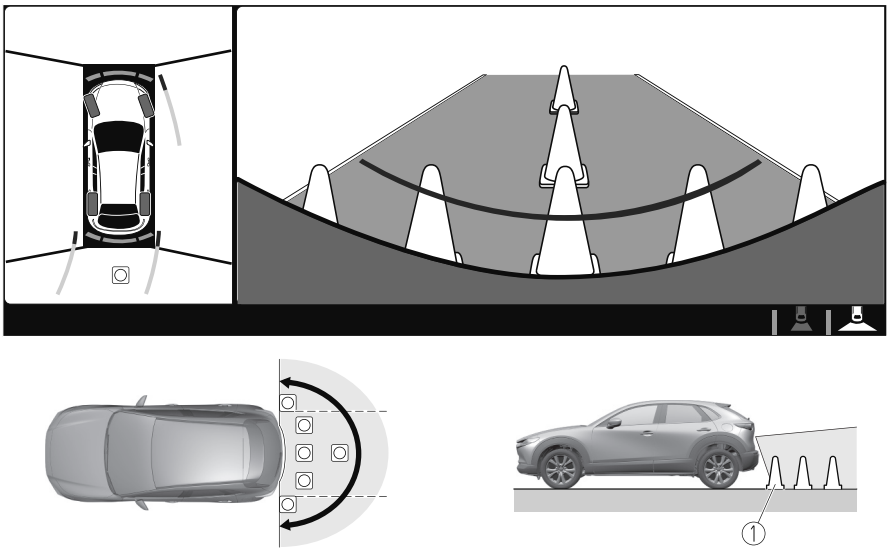


1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

▼ トップビュー/リアワイドビュー

後退時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

画面に映し出される範囲

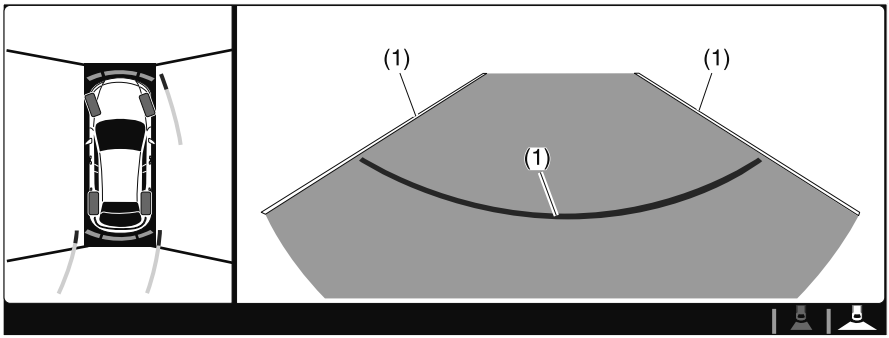


1. 対象物

知識

- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  - フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 ・赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先までを示します。 ・青色のラインはリアバンパー後端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。

知識

リアワイドビュー画面は、車両の後方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくする目的で映像を補正しています。そのため、実際の見え方とは異なります。

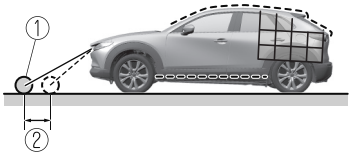
▼ 画面上の路面と実際の路面の誤差

画面上の路面と実際の路面とでは誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような、誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

人や荷物の重みで車が傾いているとき

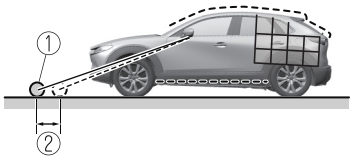
車両が傾いているときは、カメラに映る障害物は車体からの距離が実際の位置と違って見えます。

フロントカメラ



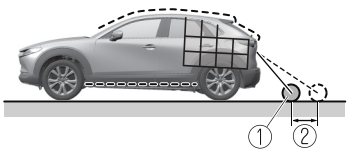
1. 障害物
2. 誤差

サイドカメラ



1. 障害物
2. 誤差

リアカメラ

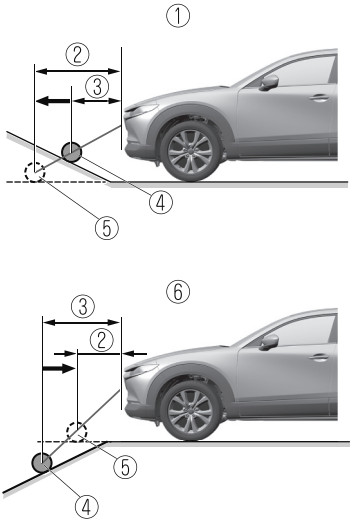


1. 障害物
2. 誤差

車両前方、または後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

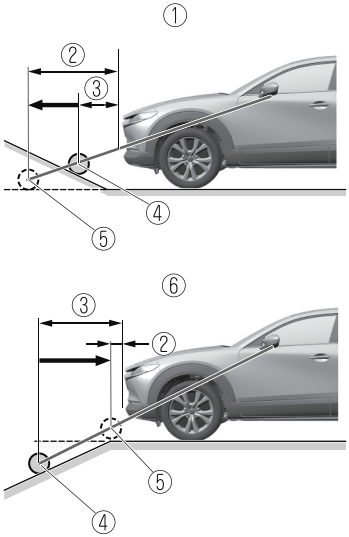
車両前方、または後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。

フロントカメラ



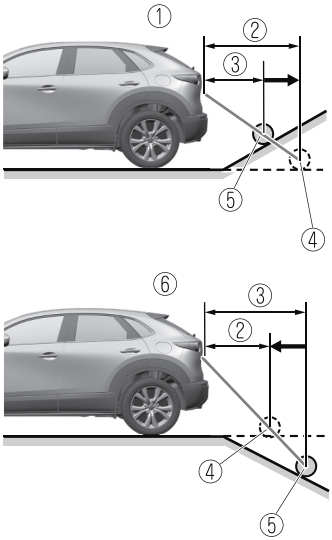
1. 実際よりも遠くに見える
2. 画面で見える車体から障害物の距離
3. 車体から障害物の実際の距離離
4. 実際の障害物
5. 画面上での障害物
6. 実際よりも近くに見える

サイドカメラ



1. 実際よりも遠くに見える
2. 画面で見える車体から障害物の距離
3. 車体から障害物の実際の距離離
4. 実際の障害物
5. 画面上での障害物
6. 実際よりも近くに見える

リアカメラ



1. 実際よりも遠くに見える
2. 画面で見える車体から障害物の距離
3. 車体から障害物の実際の距離離
4. 画面上での障害物
5. 実際の障害物
6. 実際よりも近くに見える

知識

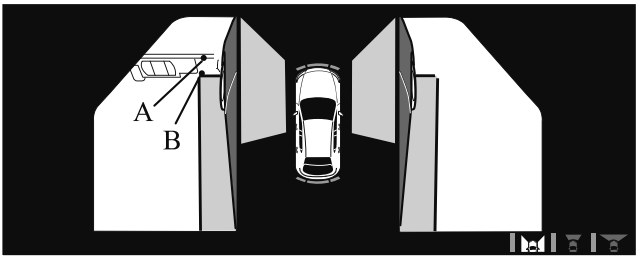
車両が坂にある場合でも同じように誤差が生じます。

車両前方、または後方に立体物があるとき

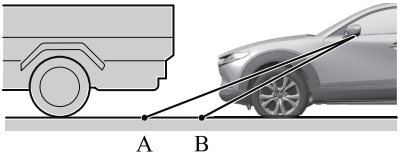
車両前端線 (サイドカメラ)、または距離目安線 (リアカメラ) は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。

サイドカメラ

①

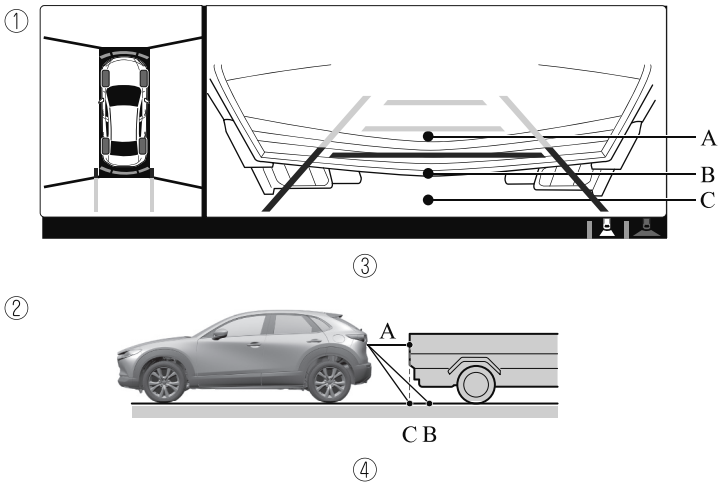


②



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

リアカメラ



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)
3. 画面上の距離感 A>B>C
4. 実際の距離 B>C=A

▼ こんなときは

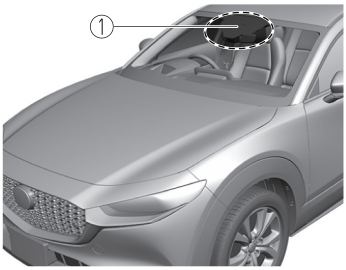
センターディスプレイの表示	原因	処置方法
“カメラ映像信号がありません”と表示される。	制御ユニットの故障が考えられます。	マツダ販売店で点検を受けてください。
画面が真っ暗で何も映らない。	カメラなどの故障が考えられます。	

フォワードセンシングカメラ (FSC) について

▼ フォワードセンシングカメラ (FSC) について

この車両にはフォワードセンシングカメラ (FSC) が装備されています。フォワードセンシングカメラ (FSC) は次のシステムが共用しています。

・ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
・アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)
・車線逸脱警報システム
・交通標識認識システム (TSR)
・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
・ドライバー・モニタリング
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
・レーンキープ・アシスト・システム (LAS)
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
・AT 誤発進抑制制御 [前進時]
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS)



1. フォワードセンシングカメラ (FSC)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、夜間走行時に前方の状況を判断したり、車線表示を検知したりしています。フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。

⚠ 警告

サスペンションを改造しない。
車高や車の傾きが変わると前方車や障害物を正しく検知できないため、システムが正常に作動しなくなったり、誤って作動したり、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

正しい作動のため、次のことをお守りください。

- フォワードセンシングカメラ (FSC) を取りはずさないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) のカバーをはずさないでください。
- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを貼らないでください。フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズの前方にさまたげとなるものがあると、透明なステッカーでも誤作動の原因となります。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスは、汚れたり曇ったりしないように常にきれいな状態にしてください。曇ったときは、曇り取りスイッチを押してガラスの曇りを取ってください。
- フロントガラスの手入れをするときは、ガラスクリーナーなどが、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズに付着しないようにしてください。また、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズには触れないでください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 前方のフロントガラス内側の清掃はマツダ販売店にご相談ください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。また、分解などもしないでください。故障、誤動作の原因になります。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体周辺の修理を行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。
- ルームミラー周辺の修理を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- カメラのレンズの手入れは、マツダ販売店にご相談ください。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。万一、衝撃が加わった場合は、次のシステムの使用を中止しマツダ販売店にご相談ください。
  - ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
  - アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)
  - 車線逸脱警報システム
  - 交通標識認識システム (TSR)
  - ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
  - ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
  - ドライバー・モニタリング
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
  - レーンキープ・アシスト・システム (LAS)
  - クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
  - AT 誤発進抑制制御 [前進時]
  - スマート・ブレーキ・サポート (SBS)
- フォワードセンシングカメラ (FSC) の向きは厳密に調整されていますので、フォワードセンシングカメラ (FSC) の取り付け位置を変更したり、取りはずしたりしないでください。故障、誤動作の原因になります。
- 4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、フォワードセンシングカメラ (FSC) が正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、ガラスの汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合など、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは前方車を正しく判断できず、正しい制御ができないおそれがあります。常に前方を注意して運転してください。

知識

- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、次のすべての条件を満たしたときに歩行者を認識します。
  - 歩行者が身長約 1 m～2 m のとき
  - 頭部、両肩、足などの輪郭が判別できるとき
- 次のようなときはフォワードセンシングカメラ (FSC) が歩行者と認識できない場合があります。
  - 複数人で歩いているとき、集団でいるとき
  - 別の障害物の近くにいるとき
  - 歩行者がしゃがんでいる、横たわっている、前かがみになっているとき
  - 歩行者が急に目の前に飛び出してきたとき
  - 歩行者が傘をさしている、大きな荷物を持っているなど、何かを持っているとき
  - 夜間などに暗い場所にいる、背景と近い色の服を着ているなど背景に溶け込んでいるとき
- 次のような場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が正確に対象物を検知できず、各システムが正常に作動しない場合があります。
  - 前方車が車高の低い車両のとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 次のような場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できないことがあります。
  - 雨、霧、雪など天候が悪いとき

知識

・ウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき
・フロントガラスに氷、曇り、雪、霜、雨滴、汚れ、ビニールなどの異物が付着しているとき
・荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
・模様のない壁の横を走行しているとき (フェンスや縦じま模様の壁を含む)
・前方車のテールランプ (尾灯/制動灯など) が消灯しているとき
・前方車がヘッドランプの照射範囲外にいるとき
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂を走行しているとき
・トンネルの出入り口を走行しているとき
・ルーフレールなどを装着してフォワードセンシングカメラ (FSC) を覆うような長尺物をのせたとき
・前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
・偏摩耗の著しいタイヤを装着して走行しているとき
・下り坂や凸凹な道路を走行しているとき
・路面に水たまりがあるとき
・夜間や夕方、朝方、トンネルや屋内の駐車場など周囲が暗いとき
・ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているときなどヘッドランプの明るさが十分でないとき
・対象物がフォワードセンシングカメラ (FSC) の死角にいるとき
・対象物が横から飛び出したり、目の前に割り込んだりしたとき
・自車が車線変更をして対象物に接近したとき
・対象物との距離が極端に近い状態で走行しているとき
・タイヤチェーン、応急用スペアタイヤを使用しているとき
・他の車をけん引しているとき
・重い荷物の積載などにより車が傾いているとき
・前方に強い光を受けたとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)

知識

・車両前方にたくさんの光を発するものがあるとき
・前方車にテールランプ (尾灯/制動灯など) が装備されていないとき
・キャリアカーなど、特殊な形状をした車両
・フォワードセンシングカメラ (FSC) は、逆光や霧などで正常に作動できない場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告表示/警告灯を点灯させますが、故障ではありません。
  ・ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯
  ・アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯
・フォワードセンシングカメラ (FSC) は、高温で正常に機能できない場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告表示/警告灯を点灯させますが、故障ではありません。エアコンを作動させるなどしてフォワードセンシングカメラ (FSC) 周辺の温度を下げてください。
  ・ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯
  ・アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯
・フォワードセンシングカメラ (FSC) が、ガラスの汚れや曇りを検知した場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告表示/警告灯を点灯させますが、故障ではありません。ガラスの汚れを取り除く、または、曇り取りスイッチを押してガラスの曇りを取ってください。
  ・ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯
  ・アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯
  ・i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯
・飛び石などでフロントガラスに傷などが認められるときは、フロントガラスを必ず交換してください。交換する際は、マツダ販売店にご相談ください。

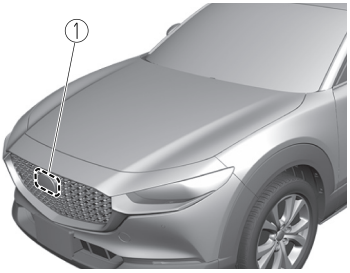
フロントレーダーセンサーについて

▼ フロントレーダーセンサーについて

この車両にはフロントレーダーセンサーが装備されています。
レーダーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

・ディスタンス & スピード・アラート (DSA)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

フロントレーダーセンサー は、レーダーセンサー から送信される電波が前方車や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。
フロントレーダーセンサ はフロントのエンブレムの裏側に設置されています。



1. フロントレーダーセンサー

マルチインフォメーションディスプレイに“安全運転支援システム一時的に作動しません周囲の安全を確認して走行してください前方のレーダーが汚れています”が表示されたときは、フロントレーダー センサー付近を清掃してください。

⚠ 注意

各システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- フロントレーダーセンサー付近のラジエーターグリル、およびエンブレム表面にステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けたり、ラジエーターグリルおよびエンブレムをフロントレーダーセンサー用の正規品以外の物に取り替えたりしないでください。
- フロントレーダーセンサーは、センサー前面の汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合などは、検出に時間がかかったり、状況によっては検知できなかったりする場合があります。このようなときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがありますので、センサーはいつもきれいにしておいてください。
- グリルガードなどを取り付けないでください。
- 接触事故などでフロント部分を破損したときは、フロントレーダーセンサーの位置がずれることがあります。ただちにシステムの使用を中止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。
- 駐車スペースなどから車両を出すときに、他の車両や障害物をフロントバンパーで押さないでください。フロントレーダーセンサーに荷重が加わり、位置がずれる可能性があります。
- フロントレーダーセンサーを取りはずしたり、分解、改造したりしないでください。
- フロントレーダーセンサー付近を修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。
- サスペンションを改造しないでください。サスペンションの改造をすると車の傾きが変わり、前方車や障害物を正しく検知できないことがあります。

知識

・次のようなときは、フロントレーダーセンサーが前方車や障害物を正確に検知できないことがあります。
  ・前方車が空荷のトレーラーや荷台を幌で囲った車両、樹脂製リアゲートの車両、丸い形状の車両など後面が電波を反射しにくい車両のとき
  ・前方車が車高の低い車両など電波を反射する面積が小さい車両のとき
  ・前方車が水、雪、砂などをまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき
  ・荷室や後席へ重い荷物をのせたとき
  ・フロントのエンブレムの表面に氷や雪、汚れなどが付着しているとき
  ・雨、雪、砂嵐など天候が悪いとき
  ・強力な電波を発生させる施設や物体などの近くを走行しているとき
・次のような場合は、レーダーが隣の車線の車両や周辺の障害物を検知したり、前方車や障害物を検知できなかったりすることがあります。
  ・カーブの始まりやカーブの終わり
  ・カーブが連続する道路
  ・工事中や車線規制で車線幅の狭い道路
  ・前方車がフロントレーダーセンサーの死角にいるとき
  ・前方車が事故や故障で不安定な走行をしているとき
  ・上り坂、下り坂が繰り返される道路
  ・悪路、未舗装の道路を走行しているとき
  ・前方車との車間距離が極端に短いとき
  ・割り込みなどで急接近したとき
・システムが正常に作動しなくなるおそれがあるため、4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。 (応急用スペアタイヤも含む)
・バッテリーが弱ってきた場合は、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

・交通量が少なく、フロントレーダーセンサーが検知する前方車が少ない道路を走行すると、ディスプレイに“安全運転支援システム一時的に作動しません周囲の安全を確認して走行してください前方のレーダーが汚れています”が一時的に表示されることがありますが異常ではありません。
・フロントレーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。フロントレーダーセンサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、製品を分解および改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。

フロントサイドレーダーセンサーについて*

▼ フロントサイドレーダーセンサーについて

この車両にはフロントサイドレーダーセンサーが装備されています。フロントサイドレーダーセンサーは次のシステムに使用しています。

・前側方接近車両検知 (FCTA)

フロントサイドレーダーセンサーは、フロントサイドレーダーセンサーから送信される電波が前方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。



1. フロントサイドレーダーセンサー

フロントサイドレーダーセンサーの正しい作動のため、フロントサイドレーダーセンサー付近のフロントバンパー表面は、いつもきれいにしておいてください。またステッカーなども貼り付けないでください。
→7-33 ページ「外装の手入れ」

⚠ 注意

フロントバンパーに強い衝撃が加わったときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちにシステムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

・フロントサイドレーダーセンサーの検知性能には限界があります。次のような場合は検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
  ・フロントサイドレーダーセンサー付近のフロントバンパーが変形したとき
  ・フロントバンパーのフロントサイドレーダーセンサー付近に氷、雪や泥が付着しているとき
  ・雨、雪、霧などの悪天候のとき
・次のような対象物は、フロントサイドレーダーセンサーが検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  ・小型の二輪車、自転車、歩行者、動物、ショッピングカート、道路上および道路端の静止物体
  ・レーダーが反射しにくい形状の車両 (車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど)
・フロントサイドレーダーセンサーが接近車両を正しく検知するために、車両搭載状態でフロントサイドレーダーセンサーの向きを車両ごとに調整して出荷しています。フロントサイドレーダーセンサーの向きが何らかの原因でずれた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
・フロントサイドレーダーセンサーの修理、交換およびフロントサイドレーダーセンサー付近のバンパー修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。
・フロントサイドレーダーセンサーは、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

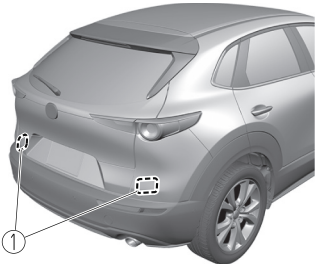
リアサイドレーダーセンサーについて

▼ リアサイドレーダーセンサーについて

この車両にはリアサイドレーダーセンサーが装備されています。リアサイドレーダーセンサーは次のシステムが共用しています。

・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC)

リアサイドレーダーセンサーは、リアサイドレーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。



1. リアサイドレーダーセンサー

リアサイドレーダーセンサーの正しい作動のため、リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパー表面は、いつもきれいにしておいてください。またステッカーなども貼り付けないでください。
→7-33 ページ「外装の手入れ」

⚠ 注意

リアバンパーに強い衝撃が加わったときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちにシステムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

・リアサイドレーダーセンサーの検知性能には限界があります。次のような場合は検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
  ・リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーが変形したとき
  ・リアバンパーのリアサイドレーダーセンサー付近に氷、雪や泥が付着しているとき
  ・雨、雪、霧などの悪天候のとき
・次のような対象物は、リアサイドレーダーセンサーが検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  ・小型の二輪車、自転車、歩行者、動物、ショッピングカート、道路上および道路端の静止物体
  ・レーダーが反射しにくい形状の車両(車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど)
・リアサイドレーダーセンサーが接近車両を正しく検知するために、車両搭載状態でリアサイドレーダーセンサーの向きを車両ごとに調整して出荷しています。リアサイドレーダーセンサーの向きが何らかの原因でずれた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
・リアサイドレーダーセンサーの修理、交換およびリアサイドレーダーセンサー付近のバンパー修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。
・リアサイドレーダーセンサーは、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

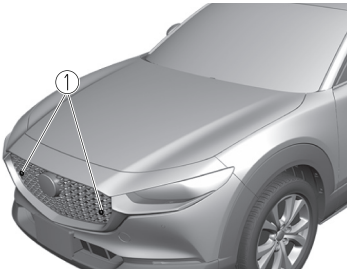
フロント超音波センサーについて*

▼ フロント超音波センサーについて

この車両にはフロント超音波センサーが装備されています。フロント超音波センサーは次のシステムが使用しています。

・AT 誤発進抑制制御 [前進時]

フロント超音波センサーは、フロント超音波センサーから送信される超音波が前方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。



1. フロント超音波センサー

フロント超音波センサーは、フロントバンパーに設置されています。

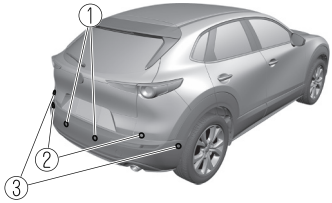
リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーについて

▼ リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーについて

この車両にはリア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーが装備されています。リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーは次のシステムが共用しています。

・AT 誤発進抑制制御 [後退時]
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時] (SBS-R)
・スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC)

リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーは、リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーから送信される超音波が後方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。



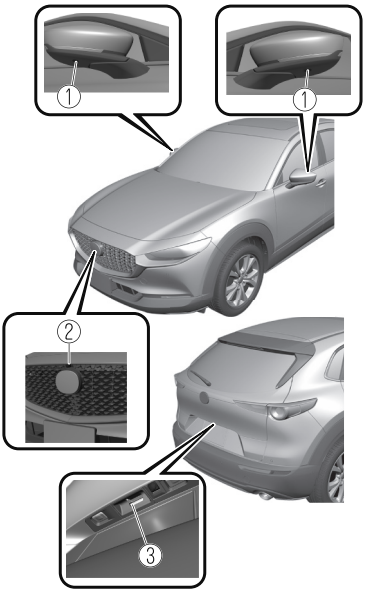
1. リア超音波センサー
2. リアコーナー超音波センサー
3. リアサイド超音波センサー

リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサーは、リアバンパーに設置されています。

フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ*

▼ フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ

この車両にはフロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラが装備されています。各カメラは 360°ビュー・モニターで使用しています。
フロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラは、車両周辺の映像を撮影します。
各カメラは、次の位置に設置されています。

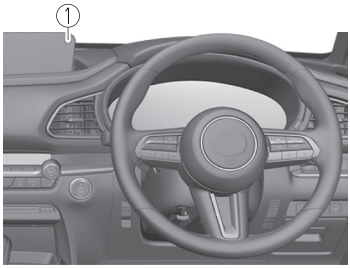


1. サイドカメラ
2. フロントカメラ
3. リアカメラ

ドライバー・モニタリングカメラ*

▼ ドライバー・モニタリングカメラ

ドライバー・モニタリングカメラは、顔の各部位の変化を検出し、運転者の疲労や眠気を推定しています。



1. ドライバー・モニタリングカメラ

知識

・次の場合、ドライバー・モニタリングまたは早期の衝突警報が正常に作動しないときがあります。
  ・ドライバー・モニタリングカメラを覆い隠したとき
  ・ハンドルを覆うような姿勢で運転しているとき
  ・メガネ、サングラスを着用しているとき
  ・帽子、前髪などで目の一部が隠れたり、マスクなどで顔の一部が隠れたりしているとき
  ・光環境条件が大きく変化したとき (西日などによる逆光、側光、順光および対向車のヘッドランプなど)
  ・顔を (大きく) 横に傾けた姿勢で運転しているとき
  ・運転者が大きく動いているとき
  ・頻繁に顔の向きや視線を正面方向 (進行方向) 以外に向けているとき
  ・視線が動いているとき、動き終わった直後
  ・視線と顔の向きが大きく異なっているとき
  ・顔を大きく傾けて運転しているとき

クルーズコントロールとは

▼ クルーズコントロールとは

アクセルペダルを踏まなくても設定した速度で定速走行ができるシステムです。
高速道路、加速/減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

⚠ 警告

次のような場所では使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路 (道路状況に合わせた走行はできません)
- 急な下り坂 (エンジンブレーキが十分に効かず、セット速度を超えることがあります)
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります)

カスタマイズ設定で車間制御を無効にすると、クルーズコントロールに切り替わります。このとき、MRCC スイッチはクルーズコントロールスイッチとして機能します。

知識

車間制御を無効にした状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON したとき、車間制御は有効になります。

▼ 表示

クルーズスタンバイ表示 (白)

クルーズコントロールシステムが作動したときに表示 (白) が表示されます。



クルーズセット表示 (緑)

設定速度を設定したときに表示 (緑) が表示されます。



▼ 設定するとき

1. クルーズコントロールスイッチを押すと速度の設定ができる状態になります。同時にメーター内のクルーズスタンバイ表示 (白) が表示されます。
2. アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
3. RES スイッチを押し上げる (SET+) または、押し下げる (SET-) と定速走行を始めます。同時にメーター内のクルーズセット表示 (緑) が表示されます。クルーズセット表示 (緑) が表示されたら、すぐにスイッチから手を離します。

⚠ 警告

クルーズコントロールを使用しないときは、必ず OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと、誤ってクルーズコントロールを作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

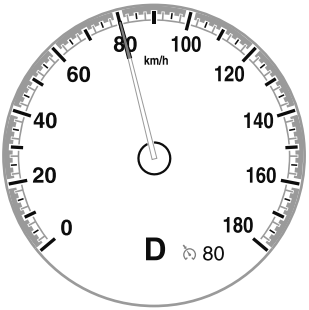
・次のときは、クルーズコントロールの速度設定ができません。
  ・いずれかのドアが開いているとき
  ・運転席シートベルトがはずれているとき
  ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
  ・**(オートマチック車)**
  セレクトレバーが P または N レンジのとき
  ・**(マニュアル車)**
  チェンジレバーがニュートラル位置のとき
  ・パーキングブレーキをかけているとき

知識

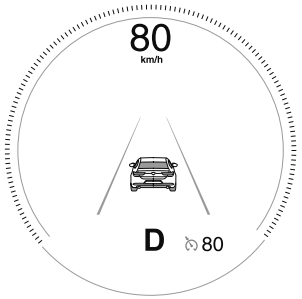
・急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
・車速が 25 km/h～30 km/h の間で設定すると、設定速度は 30 km/h になります。

クルーズコントロールの設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 画面)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



▼ 設定速度を上げるとき

スイッチで加速するとき

RES スイッチを押し上げたまま (SET+)、希望の設定速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。
また、スイッチを長押しすると、設定速度が 10 km/h ずつ上がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏み、希望の設定速度になったところで RES スイッチを押し上げ (SET+) または、押し下げ (SET-)ます。

▼ 設定速度を下げるとき

RES スイッチを押し下げて (SET-)、希望の設定速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。
また、スイッチを長押しすると、設定速度が 10 km/h ずつ下がります。

▼ 解除するとき

クルーズコントロールが作動中にクルーズコントロールスイッチ押すと、クルーズコントロールが解除され、クルーズセット表示 (緑) とクルーズスタンバイ表示 (白) が非表示になります。
次のようなときは、クルーズコントロールが一時的に解除され、クルーズセット表示 (緑) が非表示になり、クルーズスタンバイ表示 (白) が表示されます。車速が 30 km/h 以上であれば、RES スイッチを押すと、一時的に解除された前の設定速度でクルーズコントロールが作動します。設定速度が表示されていない場合は、RES スイッチを押してもクルーズコントロールは作動しません。

・CANCEL スイッチを押したとき
・ブレーキペダルを踏んだとき
・**(マニュアル車)**
クラッチペダルを踏んだとき

知識

・次のような状態になった場合も、クルーズコントロールシステムが一時的に解除されます。クルーズコントロールシステムが解除されている間は、速度を再設定することができません。

・ブレーキペダルを踏んだとき
・DSC が作動したとき
・システムに異常が発見されたとき
・いずれかのドアを開けたとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・エンストしたとき
・**(マニュアル車)**
チェンジレバーがニュートラルまたは R にしたとき
・**(オートマチック車)**
セレクトレバーを P、N または R レンジにしたとき

・車速が 20 km/h 未満になると、クルーズコントロールが解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。クルーズコントロールを設定し直してください。
・**(オートマチック車)**
クルーズコントロールを使用して走行しているときは、マニュアルモード (セレクトレバーを D から M レンジに操作) にしてもクルーズコントロールは解除されません。そのため、低速ギヤにシフトダウンしてもエンジンブレーキが効きません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。

ガソリンパティキュレートフィルターとは (SKYACTIV-X 2.0)

▼ ガソリンパティキュレートフィルターとは

ガソリンパティキュレートフィルターはガソリンエンジンの排気ガスに含まれる PM (Particulate Matter:粒子状物質) のほとんどを捕集し、除去するものです。
ガソリンパティキュレートフィルターで捕集された PM は、エンジンを暖機した状態で走行中や減速の度に自然に除去されていきます。
システムの故障状態をメーター内のマルチインフォメーションディスプレイでお知らせします。
→8-29 ページ「ガソリンパティキュレートフィルター警告表示/警告灯」

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは (SKYACTIV-D 1.8)

▼ ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) はディーゼルエンジンの排気ガスに含まれる PM (Particulate Matter:粒子状物質) のほとんどを捕集し、除去するものです。
通常走行中は DPF で捕集された PM は自動で除去されますが、次のようなときは PM が自動で除去されません。

・車速約 15 km/h 以下で走り続けているとき
・10 分以下の短時間走行の繰り返しやエンジンが暖機できないような走行を繰り返したとき
・長時間アイドリング状態のとき

知識

走行中に自動で PM を除去しているとき、エンジン音や排気ガスの臭いが変化することがあります。

システムの故障状態をメーター内のディスプレイでお知らせします。
→8-29 ページ「DPF 警告表示/警告灯」

バックガイドモニターとは*

▼ バックガイドモニターとは

バックガイドモニターは、車両後方の映像上に映し出したガイド線で、車の後退を補助するシステムです。

⚠ 警告

必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。
バックガイドモニターはあくまでも車の後退操作を行なうための補助装置です。画面に映し出されている映像は実際の状況とは異なることがあります。バックガイドモニターを過信して後退すると、障害物に接触するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 次のような状況では危険ですので、バックガイドモニターを使用しないでください。
  - 凍結した滑りやすい路面や雪道
  - タイヤチェーンまたは応急用タイヤを使用しているとき
  - リアゲートが完全に閉まっていないとき
  - 坂道などの平坦でない道路
- ディスプレイが冷えていると、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなったりして、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は防水構造となっていますので、分解、改造、取りはずしをしないでください。
- カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤、有機溶剤、ワックス、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。
- カメラのカバーを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カバーまたはレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。

知識

- カメラのレンズに水滴や雪、泥などが付いているときは、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 車両後部を接触したときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化を与えるとバックガイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの電圧が低いときや、アイドリングストップが再始動するときに画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
- ディスプレイに「映像信号を受信できません。」と表示されたときは、カメラなどの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

バックガイドモニターのカメラ取り付け位置

バックガイドモニターのカメラはリアバンパーに設置されています。



1. カメラ

バックガイドモニター表示位置

センターディスプレイに表示します。

知識

モニターの明るさは自動で調整されます。

バックガイドモニターに切り替えるには

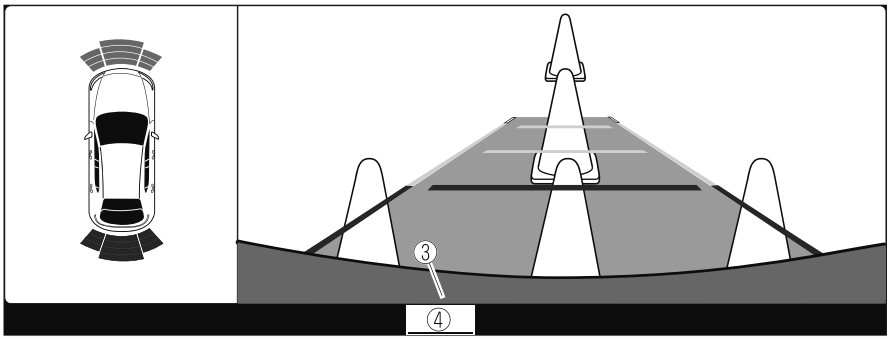
電源ポジションが ON のとき､チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にするとバックガイドモニターに切り替わります。

画面に映し出される範囲

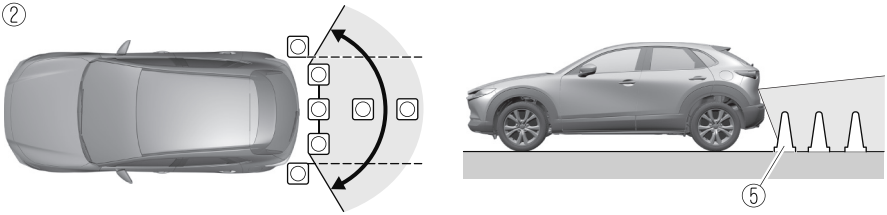
車両後方の映像を映し出して駐車または停車時に障害物や車間距離を確認するときの補助としてご使用ください。

車両後部に設置されたカメラから、車両後方の映像を表示します。

①



②

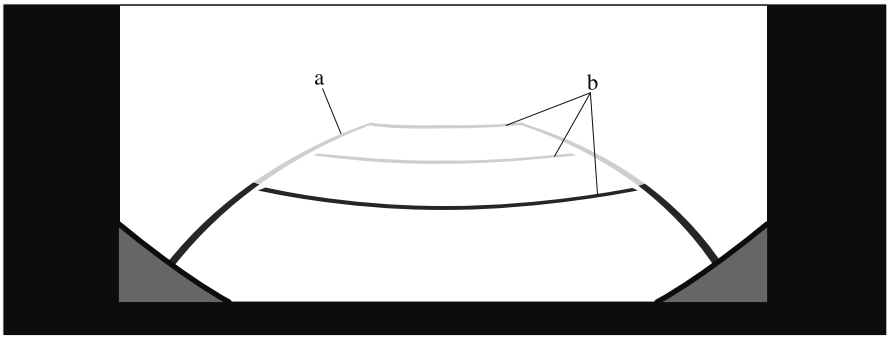


1. (画面の状況)
2. (実際の状況)
3. バンパー
4. “周囲の安全を確認してください”
5. 対象物

知識

・自車の状況や路面状況により、映し出される範囲は異なります。
・カメラが映す範囲には限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
・バックガイドモニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
・バックガイドモニターは鏡面画像になっています。
・装備によってはカメラに写り込む場合があります。カメラの視野に影響をおよぼすもの (視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできたものなど)は取り付けないでください。
・次のような状況では、画面が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  ・夜間など暗いところ
  ・レンズ付近の温度が高い/低いとき
  ・雨天時など、カメラに水滴が付いたときや湿度が高いとき
  ・カメラ付近に泥などの異物が付いたとき
  ・太陽やヘッドランプなどの光がカメラのレンズに直接あたったとき
  ・周囲が車両のライト、蛍光灯の光または、LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
  ・極小の黒い点または極小の白い点が画面に含まれているとき (点がちらつくことがあります)

画面の見方



a) 車幅延長線 (黄色)
車幅の延長の目安を示すライン
b) 距離目安線
車両後方の距離 (バンパー後端から) を示すライン

・赤色のラインは約 0.5 m 先を示します。
・黄色のラインは約 1 m 先と約 2 m 先を示します。

⚠ 注意

バックガイドモニターを使って駐車する方法は、駐車時の道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況にあわせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐車スペースに車両が駐車できるかを確認してください。

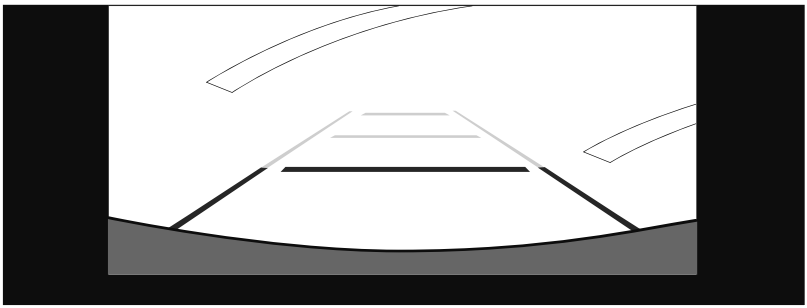
知識

次に示す状況は、ハンドルを右側にまわして後退し、駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは、左右が逆になります。

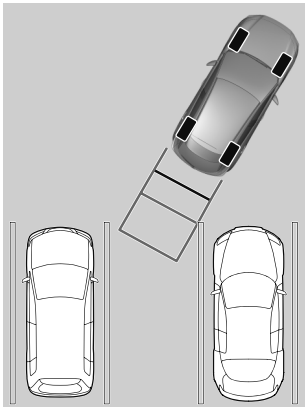
1. チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にし、バックガイドモニターを表示します。
2. 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

3. 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。

①



②

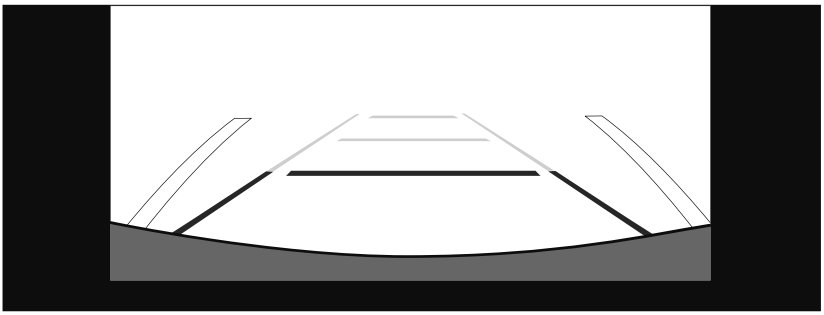


1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

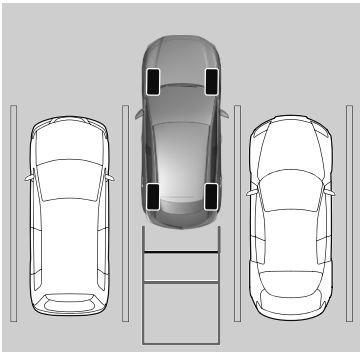
4. 車幅延長線と駐車スペースが平行になるようにハンドルを操作します。

5. 平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。

①



②



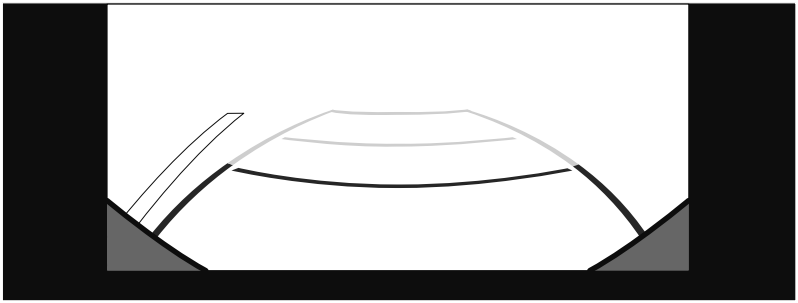
1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

知識

・駐車スペースに区画線がある場合は、区画線と車幅延長線が平行になったら、ハンドルを直進状態にしてください。
・駐車するときは、次のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
　・画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

知識

・駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

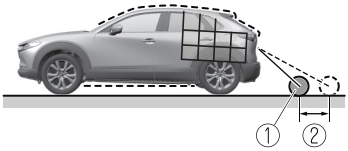


実際の画面と路面の誤差

実際の路面と画面上の路面とでは距離に誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような、誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

人や荷物の重みで車が傾いているとき

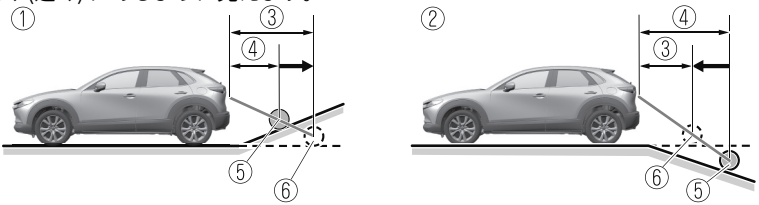
車両が傾いて後部が下がっているときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠くにあるように見えます。



1. 障害物
2. 誤差

車両後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

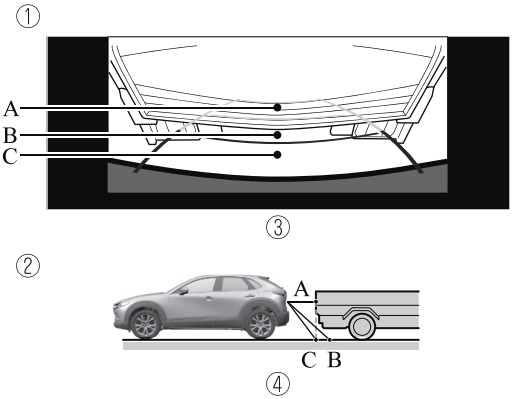
車両後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。



1. 実際よりも遠くに見える
2. 実際よりも近くに見える
3. 画面で見える車体から障害物までの距離
4. 車体から障害物までの実際の距離
5. 実際の障害物
6. 画面上での障害物

車両後方に立体物があるとき

距離目安線は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)
3. 画面上の距離感 A>B>C
4. 実際の距離 B>C=A

駐車支援システムとは

▼ パーキングセンサーとは

パーキングセンサーは、車庫入れや縦列駐車などの低速走行時に、車両周辺の障害物を超音波センサーで検出し、おおよその距離をブザーおよび検知表示により運転者に知らせます。

⚠ 警告

必ず前方/後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。
パーキングセンサーはあくまでも前進および後退するときの補助装置です。また、センサーの検出範囲は限られていますので、システムを過信して前進/後退すると、障害物に接触するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- センサーの検出範囲内にアクセサリー用品などを取り付けないでください。システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 障害物の種類や周囲の条件によっては、センサーが障害物を検出できる距離が短くなったり、障害物を検出できなかったりする場合があります。必ず前方/後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

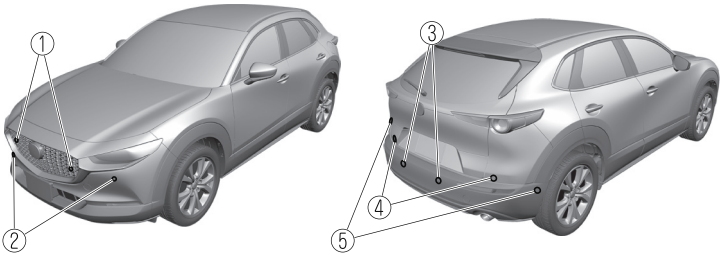
・電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、パーキングセンサーが ON の状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたとき、パーキングセンサーは ON の状態のままです。
・次のようなときは、システムが正常に作動しない場合があります。

・センサー部に氷、雪、泥などが付着したとき (取り除けば正常に復帰します。)
・センサー部が凍結したとき (溶ければ正常に復帰します。)
・センサーを手でふさいだとき
・センサー付近に強い衝撃が加わったとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・凹凸道、坂道、砂利道、草むら、グレーチングなどを走行しているとき
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近づいたとき
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に取り付けたとき
・背の高い縁石、直角の縁石、急な坂道に向かって進んだとき
・障害物がセンサーに近づきすぎているとき
・凹凸のある壁、階段に向かって進んだとき
・複数の障害物があるとき
・天井の低い場所を走行しているとき

知識

・次のような障害物は、パーキングセンサーが検出しない、もしくは検出しにくいことがあります。
  ・針金、ロープ、ポールなどの細いもの
  ・綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
  ・鋭角的な形を持つもの
  ・背が高く上部が張り出しているもの
  ・背の低いもの
・バンパーの真下付近は感知しません。センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
・接触事故などでバンパーへ衝撃が加わったときは、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。センサーの位置がずれると障害物を正常に検出できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・パーキングセンサー OFF スイッチを ON にしても表示灯が点灯しない場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
・システムの異常を示すディスプレイ表示がされた場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
・低温時やセンサー部に泥や氷、雪などが付着した場合にも、メーターやセンターディスプレイに表示されるがあります。センサー部に付着した異物を取り除いてください。

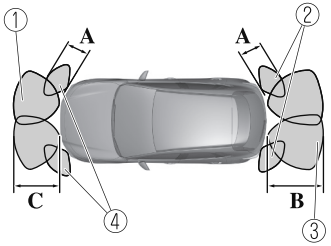
センサーの取り付け位置



1. フロントセンサー*
2. フロントコーナーセンサー*
3. リアセンサー
4. リアコーナーセンサー
5. リアサイドセンサー

センサーの検出可能範囲

センサーは、次に示す範囲の障害物を検出します。

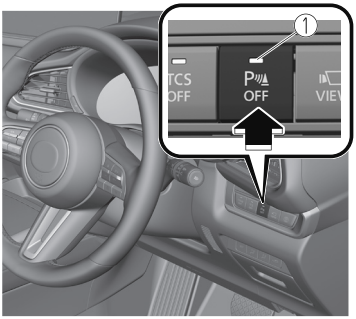


1. フロントセンサー検知範囲
2. リアコーナー/リアサイドセンサー検知範囲
3. リアセンサー検知範囲
4. フロントコーナーセンサー検知範囲

A:約 55 cm
B:約 150 cm
C:約 100 cm

パーキングセンサー OFF スイッチ

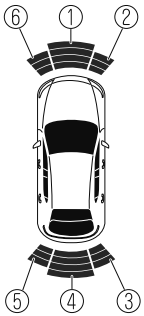
スイッチを押すとパーキングセンサーが停止され、表示灯が点灯します。
もう一度押すとパーキングセンサーが作動可能な状態になり、表示灯が消灯します。



1. 表示灯

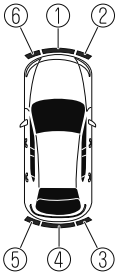
検知表示

360° ビュー･モニター非装備車



1. フロントセンサー
2. 右フロントコーナーセンサー
3. 右リアコーナーセンサー/右リアサイドセンサー
4. リアセンサー
5. 左リアコーナーセンサー/左リアサイドセンサー
6. 左フロントコーナーセンサー

360° ビュー･モニター装備車

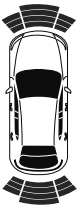
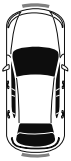
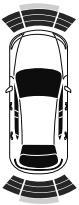
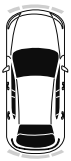
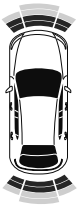
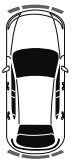


1. フロントセンサー
2. 右フロントコーナーセンサー
3. 右リアコーナーセンサー/右リアサイドセンサー
4. リアセンサー
5. 左リアコーナーセンサー/左リアサイドセンサー
6. 左フロントコーナーセンサー

知識

検知表示の表示/非表示やブザーの音量を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
(360°ビュー・モニター装備車)
検知表示を「表示」に設定しているときは、360°ビュー・モニターを表示していない状態でも、フロントセンサーまたはフロントコーナーセンサーが障害物を検知すると、360°ビュー・モニターの表示に自動で切り替わります。障害物を検知しなくなったときは､障害物を検知 する前の表示に切り替わります。
ただし、360°ビュー・モニターを表示しているときは、障害物の検知有無に関わらず、360°ビュー・モニターを表示し続けます。

距離表示の見方

表示			車両と障害物の距離	
360°ビュー･モニター非装備車		360°ビュー･モニター装備車	フロントセンサー/フロントコーナーセンサー	リアセンサー/リアコーナーセンサー/リアサイドセンサー
		緑 	フロントセンサー: 約 100～60 cm	リアセンサー: 約 150～60 cm
		黄 	フロントセンサー: 約 60～45 cm フロントコーナーセンサー: 約 55～38 cm	リアセンサー: 約 60～45 cm リアコーナーセンサー/リアサイドセンサー: 約 55～38 cm
		橙 	フロントセンサー: 約 45～35 cm フロントコーナーセンサー: 約 38～25 cm	リアセンサー: 約 45～35 cm リアコーナーセンサー/リアサイドセンサー: 約 38～25 cm

表示			車両と障害物の距離	
360°ビュー･モニター非装備車		360°ビュー･モニター装備車	フロントセンサー/フロントコーナーセンサー	リアセンサー/リアコーナーセンサー/リアサイドセンサー
		赤 	フロントセンサー: 約 35 cm 以内 フロントコーナーセンサー: 約 25 cm 以内	リアセンサー: 約 35 cm 以内 リアコーナーセンサー/リアサイドセンサー: 約 25 cm 以内

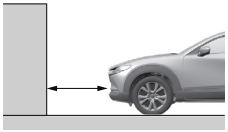
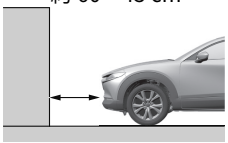
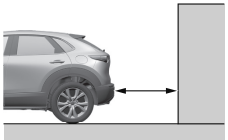
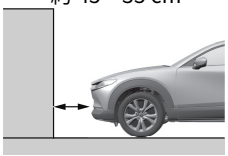
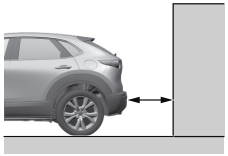
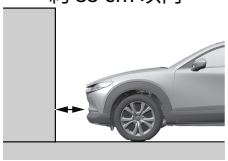
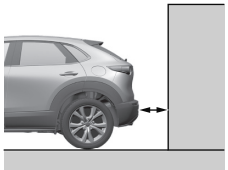
こんなときは

異常が発生した場合は､次の表示により異常が発生したことをお知らせします。

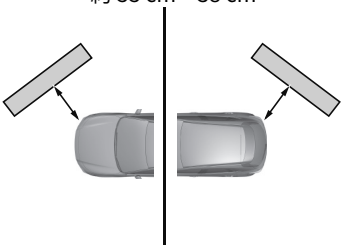
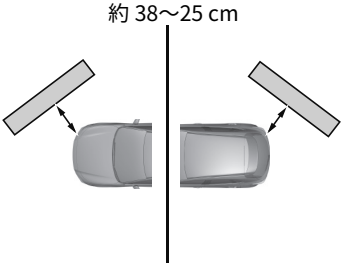
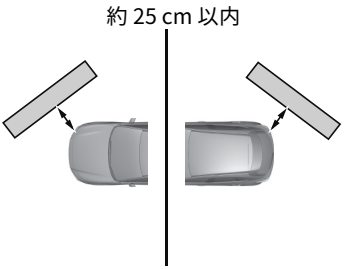
	検知表示		解決方法
	360°ビュー･モニター非装備車	360°ビュー･モニター装備車	
システム異常			マツダ販売店で点検を受けてください。

ブザー

障害物との距離に応じた鳴りかたで、障害物とのおよその距離を運転者に知らせます。複数箇所の障害物を検知した場合は、最も近い障害物との距離に応じて吹鳴します。
システム作動中は、ブザーが次のように作動します。
フロントセンサー*、リアセンサー

検知距離	車両と障害物の距離		ブザーの鳴りかた
	フロントセンサー	リアセンサー	
一番遠い距離	約 100 cm～60 cm 	約 150 cm～60 cm 	遅い継続音
遠い距離	約 60～45 cm 	約 60～45 cm 	継続音
中距離	約 45～35 cm 	約 45～35 cm 	早い継続音
近い距離	約 35 cm 以内 	約 35 cm 以内 	連続音

フロントコーナーセンサー*、リアコーナーセンサー、リアサイドセンサー

検知距離	車両と障害物の距離	ブザーの鳴りかた
遠い距離	約 55 cm～38 cm 	継続音
中距離	約 38～25 cm 	早い継続音
近い距離	約 25 cm 以内 	連続音

知識

・最も近いエリアを除き、6 秒以上同じエリアで障害物を検知し続けている場合は、吹鳴のみを停止します。(検知表示は表示します) 近い側へエリアが変わった場合は、吹鳴を再開します。(遠い側へエリアが変わった場合は、吹鳴は停止したままです)
・ブザー音量を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」

こんなときは

次のようなとき、表示のしかたで異常を知らせます。

表示	確認すること
システム故障やセンサー故障がディスプレイに表示されます。	システムの異常が考えられます。早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
センサーの汚れがディスプレイに表示されます。	センサー部に異物が付着していないか確認してください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
特定の検知表示が表示し続ける。	検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認をしてください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

MEMO

6 快適装備の使いかた

ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

空調.....6-2
エアコンの上手な使いかた 6-2
吹き出し口..... 6-3
フルオートエアコン.....6-5

マツダコネクト.....6-9
マツダコネクトとは?..... 6-9
マツダコネクトの基本操作 6-13

室内装備.....6-26
サンバイザー.....6-26
室内照明.....6-27
電源ソケット.....6-29
アジャスター機能付カップホルダー..... 6-30
ボトルホルダー..... 6-31
アシストグリップ.....6-32
リアコートフック..... 6-32
収納..... 6-33

エアコンの上手な使いかた

▼ エアコンを使用する前に

外気取り入れ口について

フロントガラスとボンネットの間にある外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いておきましょう。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。

暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。冷媒の仕様はエンジンルームに貼られたラベルに記載してあります。

▼ エアコンを使用するときは

使用について

エアコンは、エンジンをかけた状態で使用してください。

知識

・エアコンの操作により、アイドリングストップしないことや、アイドリングストップ中にエンジンが自動で再始動することがあります。
→5-9 ページ「i-stop について」
・アイドリングストップ中は、吹き出し風量がやや減少する場合があります。
・アイドリングストップ中は、快適な温度を保持するため、インストルメントパネル中央付近からエアコン装置 (モーターなど) の作動音が聞こえることがあります。

外気導入と内気循環について

外気導入は、換気したいときやガラスの曇りを取るときに使用してください。内気循環は、トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど、外気を遮断したいときに使用してください。

炎天下に駐車した後は

炎天下に駐車した後は、室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

▼ エアコンを使用した後は

長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときでも、内部のオイル循環のため、1 か月に 1 回程度エアコンを作動させてください。

エアフィルターについて

花粉やほこりなどの集じん機能を持った、エアフィルターを装備しています。快適にお使いいただくために、エアフィルターを定期的に交換してください。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

知識

エアフィルターの交換について

・エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
・大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

吹き出し口

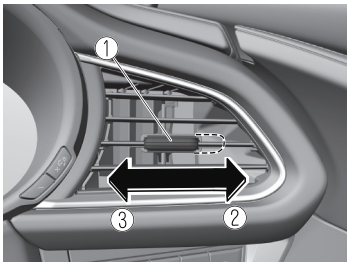
▼ 吹き出し口の調節

知識

ノブを操作することにより､吹き出し口の全開と全閉を切り替えることができます。

運転席側吹き出し口

吹き出し口の開閉

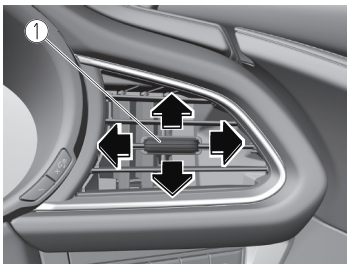


1. ノブ
2. 全閉
3. 全開

知識

図はメータ右側の吹き出し口を示しています。メータ左側の吹き出し口の操作方向は左右対称になります。

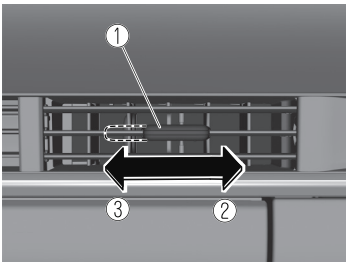
風向きの調節



1. ノブ

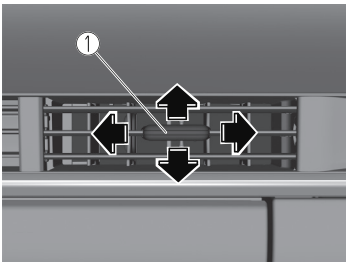
助手席側吹き出し口

吹き出し口の開閉



1. ノブ
2. 全開
3. 全閉

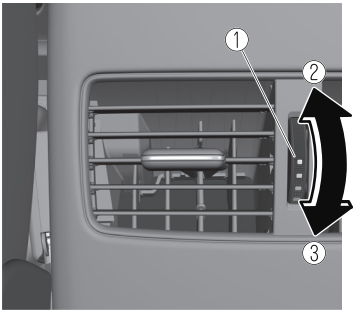
風向きの調節



1. ノブ

リア吹き出し口

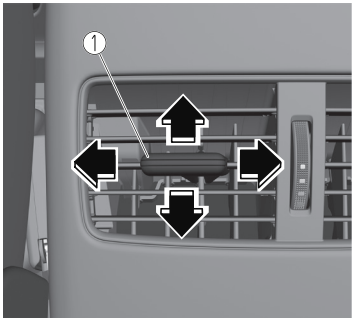
吹き出し口の開閉



1. ダイヤル
2. 全開

3. 全閉

風向きの調節

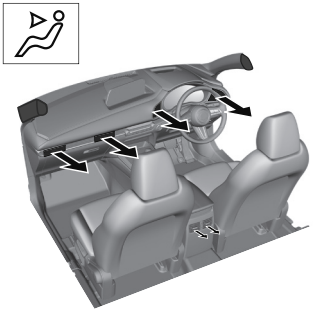


1. ノブ

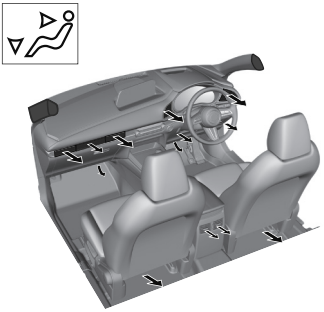
▼ 吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

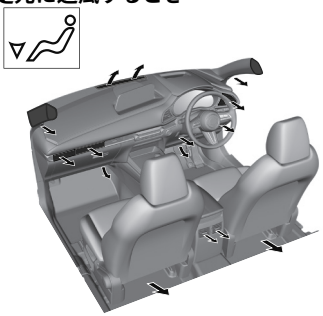
上半身に送風するとき



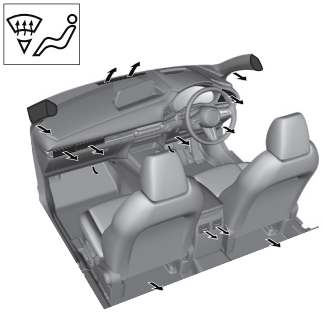
上半身、足元に送風するとき



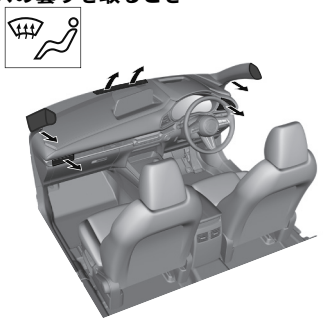
主に足元に送風するとき



足元への送風とガラスの曇りを取るとき



ガラスの曇りを取るとき

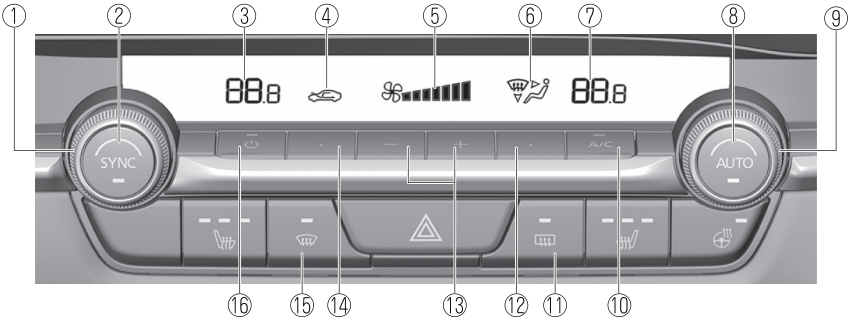


知識

吹き出し口の開閉状態により、風が出る位置や風量が変化する場合があります。

フルオートエアコン

▼ フルオートエアコン



1. 助手席側温度設定ダイヤル
2. SYNC (連動作動) スイッチ
3. 助手席側設定温度表示
4. 内外気切り替え表示
5. 風量表示
6. 吹き出し口切り替え表示
7. 運転席側設定温度表示
8. AUTO スイッチ
9. 運転席側温度設定ダイヤル
10. エアコンスイッチ
11. リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ
12. 吹き出し口切り替えスイッチ
13. ファンスイッチ
14. 内外気切り替えスイッチ
15. 曇り取りスイッチ
16. 電源スイッチ

▼ 各スイッチの使いかた

AUTO スイッチ

スイッチを押すと設定温度にあわせて、次の機能が自動制御されます。

・吹き出し風の温度調節
・吹き出し風量調節
・吹き出し口の切り替え
・内気循環/外気導入の切り替え
・エアコン (冷房・除湿機能) の作動/停止

知識

表示灯について

・点灯―オート作動時。
・消灯―オート作動中に吹き出し口切り替えスイッチ、ファンスイッチ、曇り取りスイッチのいずれかのスイッチを操作したとき。
操作した箇所以外は自動で作動しています。

電源スイッチ

スイッチを押すことによりエアコンが ON/OFF します。

温度設定ダイヤル

ダイヤルをまわして設定温度を調節します。
Lo (18.0) から Hi (32.0) の間で 0.5 ずつ変化します。

知識

Lo (18.0) に設定すると最大冷房、Hi (32.0) に設定すると最大暖房に固定されます。

・SYNC スイッチが ON のとき
運転席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。
・SYNC スイッチが OFF のとき
運転席側温度設定ダイヤルまたは助手席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。

知識

・SYNC スイッチが ON のときでも、助手席側温度設定ダイヤルをまわすと独立モードになり (SYNC スイッチ表示灯消灯)、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
・SYNC スイッチを OFF にすると独立モードになり、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。

ファンスイッチ

風量を 7 段階に調節できます。

吹き出し口切り替えスイッチ

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→6-4 ページ「吹き出し口の選択」

知識

吹き出し口を に設定するには、曇り取りスイッチを押してください。

エアコンスイッチ

スイッチを押すごとにエアコン (冷房・除湿機能) の作動と停止が切り替わります。
エアコン作動中は表示灯が点灯します。

知識

・エアコンが作動しているときは、ガラスの曇りが取れやすく、停止すると曇りやすくなります。
・外気温が 0 ℃近くまで下がると、システム保護のためエアコンが作動しない場合があります。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

知識

寒いときや湿度が高いときは、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

・内気循環 ( )
トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
・外気導入 ( )
外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

SYNC (連動作動) スイッチ

独立モードと連動モードの切り替えができます。

・独立モード (表示灯消灯)
運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
・連動モード (表示灯点灯)
運転席側と助手席側の設定温度が連動した設定になります。

知識

独立モードから連動モードに切り替えると、助手席側の設定温度は運転席側の設定温度に切り替わります。

曇り取りスイッチ

フロントガラス、フロント窓ガラスの曇りを取りたいときに使用します。
→6-7 ページ「ガラスの曇りを取るとき」

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーの曇りを取りたいときに使用します。
→5-60 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」

▼ 通常の使いかた

1. AUTO スイッチを押します。吹き出し口、内外気切り替え、吹き出し風量が自動的に調整されます。
2. 温度設定ダイヤルを操作して希望温度にあわせます。
   運転席と助手席の設定温度を独立して調節するときは、SYNC スイッチを押す、または助手席側温度設定ダイヤルをまわして独立モードにします。

知識

- 推奨設定温度は 25.0 ℃です。その後、お好みで調節してください。
- 設定温度を極端に低く (高く) しても、希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。

3. 作動を停止したいときは、電源スイッチを押します。

▼ ガラスの曇りを取るとき

曇り取りスイッチを押します。
自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロント窓ガラスに送風されます。吹き出し風量も多くなります。

⚠ 警告

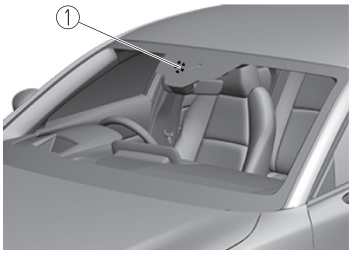
ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 次の操作をすると、ガラスが曇りやすくなるため、注意して使用してください。
  - 内気循環に切り替える。
  - エアコンの作動を停止する。
- 次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。
  - ファンスイッチを操作して、風量を増す。
  - 温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

▼ 日射センサーについて

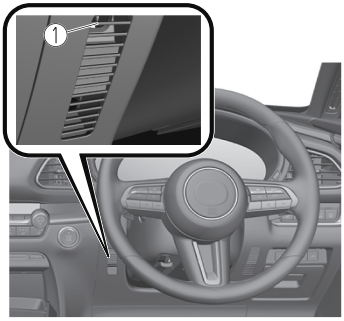
日射センサーをふさがないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。



1. 日射センサー

▼ 室内温度センサーについて

室内温度センサーをふさがないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

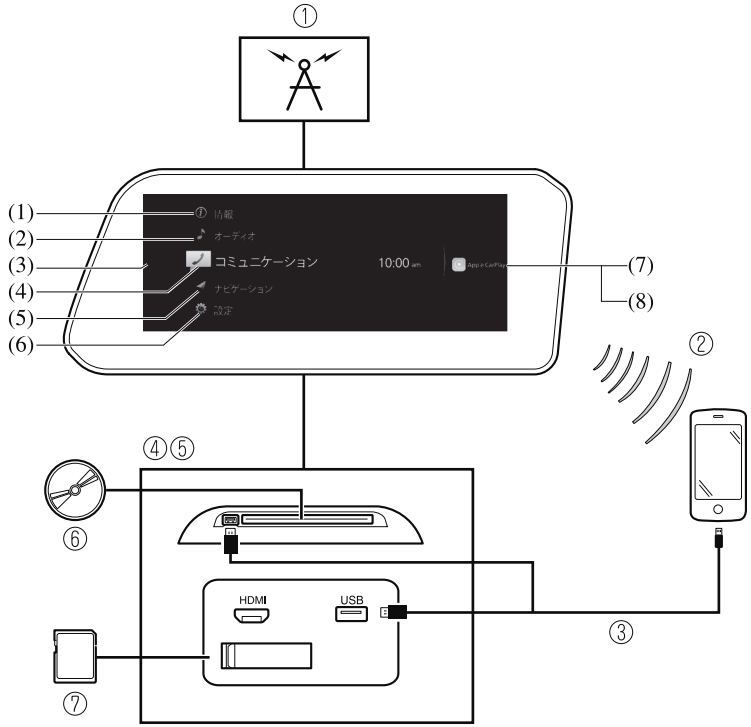


1. 室内温度センサー

マツダコネクトとは?

▼ マツダコネクトとは?

本書では、マツダコネクトの一部取り扱い情報のみ記載しています。詳細は、マツダサイトから、ウェブ取扱説明書をご確認ください。



1. ラジオ/テレビ
2. Bluetooth®オーディオ/Bluetooth®ハンズフリー/SMS (Short Message Service)
3. USB オーディオ/USB ビデオ
4. USB ポート*1/SD カードスロット*2/HDMI ポート
5. CD/DVD プレイヤー*
6. CD/DVD*
7. SD カード (ナビゲーションシステム)*

*1 USB ポートの位置は仕様により異なります。

*2 SD カードスロットは、ナビゲーションシステム用です。ナビゲーションシステム用の SD カード (マツダ純正品) を差し込んで使用します。

No.	メニュー	内容
(1)	情報	**i-DM:** i-DM のスコアや運転操作傾向が確認できます。 **燃費モニター:** 走行中の燃費推移や効果の確認ができます。 **車両ステータスモニター:** 車両ステータス情報が確認できます。 **取扱説明書:** 取扱説明書を表示します。
(2)	オーディオ	交通情報 FM AM Bluetooth USB1 Audio/USB2 Audio USB1 Video/USB2 Video Disc*/CD*/DVD* メモリーオーディオ* TV* HDMI
(3)	通知一覧	車両からのおしらせを表示します。
(4)	コミュニケーション	スマートフォンなどの携帯機器とマツダコネクトを Bluetooth®で接続することで、ハンズフリー通話やショートメッセージ機能をご利用いただけます。
(5)	ナビゲーション	ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれている場合に、ナビゲーションシステムが使用できます (ナビゲーションシステム装備車)。 ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。コンパスは、車両停車時、または低速走行時には、正しい方位を示さない場合があります。 ナビゲーションシステムの操作については、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

No.	メニュー	内容
(6)	設定	マツダコネクトの画面/サウンド設定や車両機能の設定を変更できます。 **画面表示:** ディスプレイの明るさや表示内容の設定をします。 **サウンド:** オーディオや警報音などの設定をします。 **安全装備:** i-ACTIVSENSE の設定をします。 **車両装備:** ライトやドアロックなど車両装備の設定をします。 **通信:** Bluetooth などの設定をします。 **システム:** 言語や操作などの一般的な設定をします。
(7)	Apple CarPlay	Apple CarPlay に対応した iPhone を USB スロットに接続することにより、Apple CarPlay を利用することができます。
(8)	Android Auto	Android Auto™に対応した Android™スマートフォンを USB スロットに接続することにより、Android Auto™を利用することができます。

⚠ 警告

オーディオは、車を止めてから操作する。
走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

USB/HDMI 端子に接続したコードが、チェンジレバー/セレクトレバーに絡まないようにする。
運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転中にポータブルオーディオ機器などを調節しない。
走行中に調節すると前方不注意で重大な事故につながるおそれがあります。ポータブルオーディオ機器などの調節は必ず車両を停止した状態で行なってください。

⚠ 注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

知識

・エンジンを止めたままで、マツダコネクトを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
・車内、または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがありますが故障ではありません。

マツダコネクトの基本操作

▼ マツダコネクトの基本操作

知識

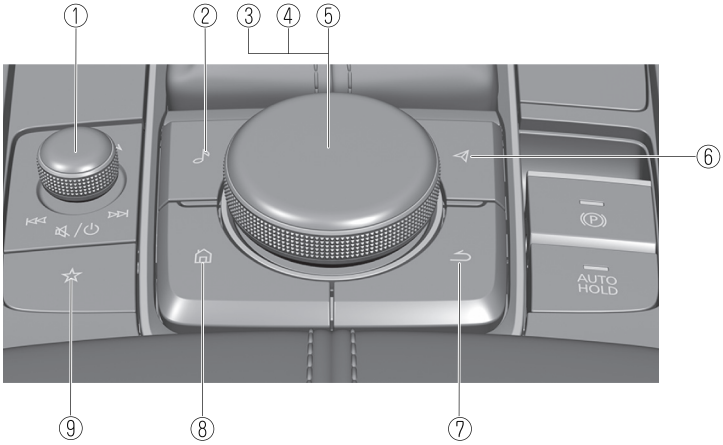
本書に記載されている機能の説明、画面やボタンの文字および形状などは、実際と異なる場合があります。
また、これらのコンテンツは、今後のソフトアップデートに応じて、予告なしに順次変更される可能性があります。

▼ コマンダースイッチによる操作

各画面へのスイッチ操作と、コマンダー操作ができます。
コマンダースイッチに包み込むように持つと各画面へのスイッチに指がかかります。
手元を見なくても、各画面に切り替えることができます。

知識

安全のため、走行中は一部の操作をすることができません。



スイッチの形状は仕様により異なります。

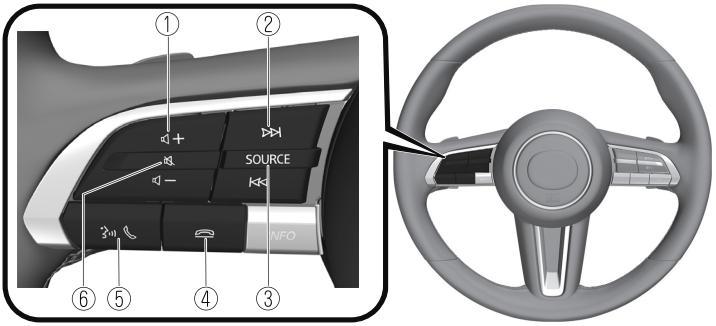
No.	アイテム	説明
1		**<u>音量ノブ:</u>** **音量調節** 音量ノブをまわして音量を調節します。 音声ガイダンスされているときに音量調節すると、音声ガイダンスの音量変更となります。 ハンズフリーで通話しているときに音量調節すると、通話音量の変更になります。 音量ノブを押すと消音できます。もう一度音量ノブを押すと、消音が解除されます。 **電源 OFF/ON** 長押しすると、マツダコネクトの電源が OFF になり、画面が消えます。 もう一度長押しすると、マツダコネクトの電源が ON になります。 **知識** Apple CarPlay、USB オーディオ、Bluetooth®オーディオなど一時停止が可能なオーディオソースを再生中に音量ノブを押して消音すると、音楽は一時停止します。もう一度音量ノブを押すと消音が解除され、同時に一時停止も解除されます。 **選局** **(FM/AM ラジオ)** FM/AM ラジオを聞いているときに音量ノブを左右にスライドさせて、お気に入りに登録している放送局を呼び出すことができます。放送局は、音量ノブをスライドさせるたびに切り替わります。 また、ピッと音がするまで長押しすると自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。 **(テレビ)*** テレビを視聴しているときに音量ノブを左右にスライドさせて、チャンネルリスト順に放送局を呼び出すことができます。放送局は、音量ノブをスライドさせるたびに切り替わります。 **頭出し** オーディオやビデオを再生中にボタンを操作すると、曲やビデオファイルの頭出しをすることができます。 音量ノブを右にスライドさせると次の曲の頭に進み、左にスライドさせると前の曲の頭に戻ります (曲順は選択しているファイルリスト順です)。

No.	アイテム	説明
2		**オーディオボタン:** 最後に再生されたオーディオソース画面が表示されます。 **(Apple CarPlay/Android Auto™音楽再生中)** Apple CarPlay/Android Auto™の再生画面を表示します。
3		**コマンダーノブ (選択):** コマンダーノブをまわす、または、スライドさせて使いたい機能を選択します。
4		**コマンダーノブ (決定):** コマンダーノブを押して使いたい機能を決定します。
5		**タッチパッド (選択):** 文字入力画面とナビゲーションシステムの地図上の移動、拡大、縮小に使用できます。
6		**マップボタン:** ナビゲーション画面を表示します (ナビゲーションシステム装備車)。 ナビゲーションシステムを機能させるには、ナビゲーションシステム用 SD カードが必要となります。 ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。 ナビゲーションシステムの操作については、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。 **(Apple CarPlay/Android Auto™ルート案内中)** Apple CarPlay/Android Auto™のマップ画面を表示します。
7		**バックボタン:** 前の画面に戻ります。
8		**ホームボタン:** ホーム画面を表示します。 **(Apple CarPlay/Android Auto™表示中)** Apple CarPlay/Android Auto™のホーム画面を表示します。 **(Apple CarPlay/Android Auto™接続中)** マツダコネクトの画面を表示しているときに長押しすると、Apple CarPlay または Android Auto™の画面に切り替わります。また Apple CarPlay または Android Auto™の画面を表示しているときに長押しすると、マツダコネクトの画面に切り替わります。

No.	アイテム	説明
9	☆	**お気に入りボタン:** お気に入り画面を表示します。 長押しすると、そのとき画面に表示している連絡先や放送局、ナビゲーションの地点などをお気に入りに登録できます。

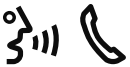
▼ オーディオリモートコントロールスイッチによる操作

ハンドルの左側にあります。手元でオーディオの操作ができます。



スイッチの形状は仕様により異なります。

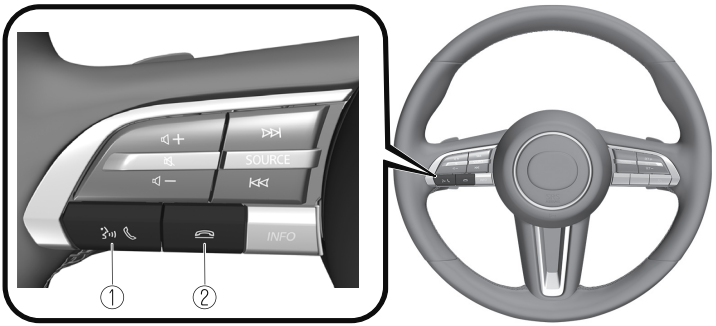
No.	アイテム	説明
1	🔊+ 🔊−	**音量調節ボタン:** +、-ボタンを操作して、音量を調節します。 音声ガイダンスされているときに音量調節すると、音声ガイダンスの音量変更となります。 ハンズフリーで通話しているときに音量調節すると、通話音量の変更になります。

No.	アイテム	説明
2		**<u>選局ボタン:</u>** **選局** **(FM/AM ラジオ)** FM/AM ラジオを聞いているときにボタンを押して、お気に入りに登録している放送局を呼び出すことができます。放送局は、ボタンを押すたびに切り替わります。 また、ピッと音がするまで長押しすると自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。 **(テレビ)*** テレビを視聴しているときにボタンを押して、チャンネルリスト順に放送局を呼び出すことができます。放送局は、ボタンを押すたび切り替わります。 **頭出し** オーディオやビデオを再生中にボタンを操作すると、曲やビデオファイルの頭出しをすることができます。 を押すと次の曲の頭に進み、を押すと前の曲の頭に戻ります (曲順は選択しているファイルリスト順です)。
3	**SOURCE**	**<u>ソースボタン:</u>** ボタンを押すごとにオーディオのソースを切り替えることができます。 また、長押しすると再生中のオーディオが OFF になり、オーディオソースの選択画面を表示します。 **(Apple CarPlay/Android Auto™再生時)** ボタンを長押しすると再生中のオーディオが OFF になります。
4		**<u>ハングアップボタン*1：</u>** **(通話中)** ボタンを押すと、通話を終了します。 **(電話を着信中)** ボタンを押すと、応答保留になります。
5		**<u>トーク/ピックアップボタン*1：</u>** **(電話を着信中)** ボタンを押すと、電話に応答します。

No.	アイテム	説明
6		**ミュートボタン:** ボタンを押すと消音します。 もう一度押すと、消音が解除されます。 **知識** Apple CarPlay、USB オーディオ、Bluetooth®オーディオなど一時停止が可能なオーディオソースを再生中にミュートボタンを押して消音すると、音楽は一時停止します。もう一度ミュートボタンを押すと消音が解除され、同時に一時停止も解除されます。

*1　トーク/ピックアップボタンとハングアップボタンは音声認識の操作でも使用します。
→6-18 ページ 「音声認識機能による操作」

▼ 音声認識機能による操作



スイッチの形状は仕様により異なります。

No.	アイテム	説明
1		**トーク/ピックアップボタン：** ボタンを押すと音声認識のトップ画面が表示され、音声認識が起動します。 **(音声ガイダンスが流れているとき)** ボタンを押すと、音声ガイダンスをスキップできます。
2		**ハングアップボタン:** ボタンを押すと、音声認識が終了します。

音声認識の起動

オーディオリモートコントロールスイッチのトーク/ピックアップボタンを押すと、音声認識のトップ画面が表示されます。

知識

Apple CarPlay または Android Auto™を接続中は、マツダコネクトの音声認識は起動せず、Siri または Android Auto™の音声認識が起動します。

常に使用できるコマンド

「ヘルプ」 - 使用可能な音声コマンドを確認できます。
「戻る」 - 前の画面に戻ります。電話番号、または住所入力画面で発話したときは、直前に入力した内容を削除します。
「キャンセル」 - 音声認識が終了します。

マツダコネクトの操作方法を知りたいとき

「操作ガイド」 - 操作ガイドの画面が表示されます。

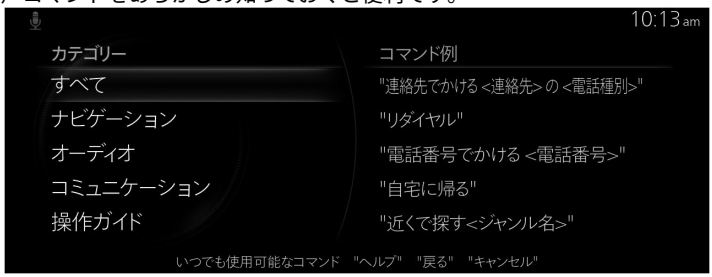
音声認識を終了する

次の操作のいずれかを行ないます:

・ハングアップボタンを押す。
・トーク/ピックアップボタンを長押しする。
・発話:「キャンセル」

音声認識機能の便利な使いかた

音声認識のトップ画面では、それぞれのカテゴリーにおいて有効な音声コマンドの例がディスプレイに表示されます。
使用できる音声コマンドをあらかじめ知っておくと便利です。



知識

・本書に記載しているコマンドは、使用可能なコマンドの一例です。仕様により使用できないコマンドもあります。

知識

・機器の接続状況や使用状況によっては、使用できないコマンドがあります。
・バージインの設定が ON のときは、音声ガイダンスが流れている間でも音声コマンドを発話して操作することができます。バージイン設定については、マツダコネクト取扱書の「システム」を参照ください。
→マツダコネクト取扱書 「システム」
・ナビゲーション画面で使用できる音声コマンドの詳細は、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

音声認識を失敗しないようにするために、次のポイントに注意してください:

・Bluetooth®で接続されている電話があるときに、電話関連のコマンドが利用可能になります。音声認識で電話を操作する前に電話を Bluetooth®に接続してください。
・少し大きめの声で発話すると認識されやすくなりますが、過度に大声を出す必要はありません。同乗者に話しかけるよりも少し大きめの声が目安です。
・必要以上にゆっくりしゃべらず、通常話す時の速さで発話してください。
・機器側の電話帳にふりがな情報が未登録の場合、音声認識で電話帳を呼びだすことができません。
・機器側の電話帳の人物を音声認識で呼びだす場合、登録されている名前が長いほど認識率は向上します (「はは」、「いえ」、「つま」 などのように短い場合、認識に失敗するときがあります)。
・単語や数字の間で区切らないように発音してください。
・指定された音声コマンド以外は、認識することができません。指定された音声コマンドを発話してください。
・マイクの方に向いたり近づいたりする必要はありません。安全運転中の姿勢のまま音声コマンドを発話してください。
・Bluetooth®ハンズフリーを使用するときは、窓とサンルーフを閉めてください。窓またはサンルーフが開いていると、車外の雑音やエアコンの気流の乱れにより、音声が正しく認識されないことがあります。
・エアコンの風がマイクに当たっていないことを確認してください。
・音声ガイダンス中に音声コマンドを発話するときは、少し大きめの声で発話してください。ただし過度に大声を出す必要はありません。
・ガイダンス音量を大音量に設定すると、音声が正しく認識されないことがあります。その場合は、バージインの設定を OFF にしてください。

音声認識機能に対応しているコマンドの一例

{}内には、指定する名前や数字が入ります。

共通

・戻る
・ヘルプ (画面ごとのヘルプガイダンスを聞くことができます。)
・{行番号} (画面の何番目かを選択できます。)
・次のページ
・前のページ
・キャンセル

メニュー

・すべて
・ナビゲーション
・オーディオ
・コミュニケーション
・操作ガイド (取扱説明書の音声認識ページが表示できます。)

設定

・音声認識設定画面
・操作ガイド (取扱説明書の音声認識ページが表示できます。)
・ディスプレイ OFF

音楽

・アーティストで再生 (“アーティストで再生 {アーティスト名}” も利用できます。)
・アルバムで再生 (“アルバムで再生 {アルバム名}” も利用できます。)
・プレイリストで再生 (“プレイリストで再生 {プレイリスト名}” も利用できます。)
・曲で再生 (“曲で再生 {曲名}” も利用できます。)
・オーディオブックで再生 (“オーディオブックで再生 {オーディオブック名}” も利用できます。)
・ポッドキャストで再生 (“ポッドキャストで再生 {ポッドキャスト名}” も利用できます。)

ラジオ

・{AM 放送局名}
・{FM 放送局名}

ソース

・オーディオ切替え (“オーディオ切替え USB”*1 や“USB”*1 も利用できます。)
・オーディオ OFF (“オーディオ切替え オーディオ OFF” も利用できます。)

電話

・電話番号でかける (“電話番号でかける {電話番号}” も利用できます。)
・電話履歴
・連絡先でかける (“連絡先でかける {連絡先}”や“連絡先でかける {連絡先}の{番号種別}” も利用できます。)
・リダイヤル

1 : “USB”以外にも次のオーディオソース名が利用できます: Bluetooth/交通情報/AM*/FM/Disc*/USB1 Audio/USB2 Audio/USB1 Video/USB2 Video/メモリーオーディオ*/TV/HDMI

▼ マツダコネクトをご使用の前に

Gracenote® データベース

音楽 CD を再生した場合、車両に収録されているデータベースの中からアルバム名やアーティスト名、ジャンル、タイトル、アルバムアートを検索し、各情報がデータベースに収録されていると、各情報を自動で付与します (MP3/WMA/AAC CD や USB オーディオ、Bluetooth®オーディオを再生した場合はアルバムアートのみ)。本機に収録されているデータベース情報は、Gracenote®音楽認識サービスのデータベース情報を使用しています。

テレビ

⚠ 注意

- 本機は、ARIB (電波産業会) 規格に基いた商品仕様になっております。将来規格変更があった場合は、商品仕様を変更する場合があります。
- 各社の商標および製品商標に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。
- 本機に搭載されているソフトウェア、またはその一部につき、改変、翻訳、翻案、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行ったりそれに関与してはいけません。
- 本機を、法令により許されている場合を除き、日本国外に持ち出してはいけません。

コンテンツ権利保護専用方式について

本機は、コンテンツ権利保護専用方式 (ソフトウェア方式) を採用しています。そのため、B-CAS カードは不要です。
→マツダコネクト取扱書 「TV」

Apple CarPlay

⚠ 注意

- 適用法によって認められる最大の範囲で Apple Carplay (以下「アプリケーション」) 及びその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証を伴わない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客様の責任の下で使用されるものとします。
  アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害等について、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
  なお、当該損害等には以下のものを含みます。
  - 逸失利益
  - データの破損または損失
  - 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失等
- Apple CarPlay を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Apple CarPlay を使用してください。

📖 知識

・Apple CarPlay は Apple 社によって提供されています。使用するには Apple iOS 利用規約および Apple CarPlay 利用規約に同意していることを条件としています。
・Apple CarPlay 使用中は、場所や速度などの車両データが iPhone に転送されます。詳しくは Apple プライバシーポリシーを参照ください。

Android Auto™

⚠ 注意

- 適用法によって認められる最大の範囲で Android Auto™ (以下「アプリケーション」) 及びその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証を伴わない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客様の責任の下で使用されるものとします。
  アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
  適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害等について、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
  なお、当該損害等には以下のものを含みます。
  - 逸失利益
  - データの破損または損失
  - 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失等
- Android Auto™を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Android Auto™を使用してください。

知識

・Android Auto™は Google 社によって提供されています。使用するには Android Auto™利用規約に同意していることを条件としています。
・Android Auto™使用中は、場所や速度などの車両データが Android™スマートフォンに転送されます。詳しくは Google プライバシーポリシーを参照ください。

商標について

・ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「Dolby」およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
・iPhone, iPod touch, iPod nano, Siri and Apple Music are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
・The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.
・Apple CarPlay is trademarks of Apple Inc.
・iOS is a trademark or registered trademark of Cisco in the U.S. and other countries and is used under license.
・“Made for iPhone” and “Made for iPod” mean that an accessory has been designed to connect specifically to iPhone or iPod, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards.
Please note that the use of this accessory with iPhone or iPod may affect wireless performance.

Made for
iPhone 7 Plus
iPhone 7
iPhone SE
iPhone 6s Plus
iPhone 6s

iPhone 6 Plus
iPhone 6
iPhone 5s
iPhone 5c
iPhone 5
iPhone 4s
iPod touch (6th generation)
iPod touch (5th generation)
iPod nano (7th generation)

Made for iPhone | iPod

・Google, Android, Android Auto and other related marks are trademarks of Google LLC.
・AUDIOPILOT は、ボーズコーポレーションの登録商標です。
・Centerpoint は、ボーズコーポレーションの登録商標です。
・Windows Media and Microsoft are registered trademarks of Microsoft Corporation U.S. in the United States and other countries.
本製品は、Microsoft Corporation と複数のサードパーティの一定の知的財産権によって保護されています。
本製品以外での前述の技術の利用もしくは配布は、Microsoft もしくは権限を有する Microsoft の子会社とサードパーティによるライセンスがない限り禁止されています。
・Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック(株)はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

Bluetooth®

・SDHC Logo is a trademark of SD-3C, LLC.

SDHC™

・HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。

・Gracenote 及び Gracenote ロゴとロゴタイプは、米国およびその他の国における Gracenote Inc.の登録商標または商標です。



オーディオアンプのライセンスについて (ボーズオーディオ付車は除く)

License for CMSIS-RTOS RTX Implementation

Copyright (c) 1999-2009 KEIL, 2009-2015 ARM Germany GmbH, 2013-2016 ARM Ltd All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

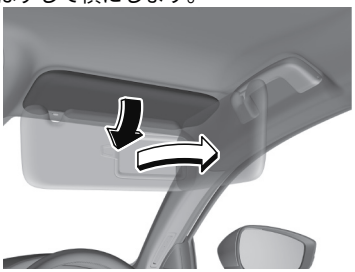
- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of ARM nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

サンバイザー

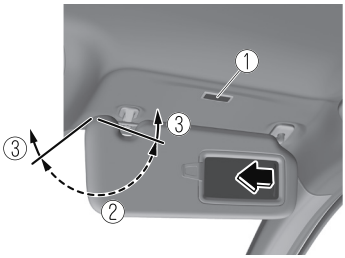
▼ サンバイザー

前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。



▼ バニティミラー (化粧鏡)

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。
ランプ装備車はフタを開けるとランプが点灯します。
サンバイザーの傾きが点灯範囲内のときのみランプが点灯します。



1. バニティミラーランプ
2. 点灯範囲
3. 消灯範囲

知識

バッテリーあがりを防止するため、電源ポジションが OFF でバニティミラーランプが点灯したままのときは自動的に消灯します。
バニティミラーランプは、次の操作により、再度点灯することができます。

・いずれかのドアを開閉する。
・いずれかのドアを解錠する。

知識

・電源ポジションを ACC または ON にする。
・ルームランプまたはフロントマップランプを点灯させる。

室内照明

▼ 室内照明

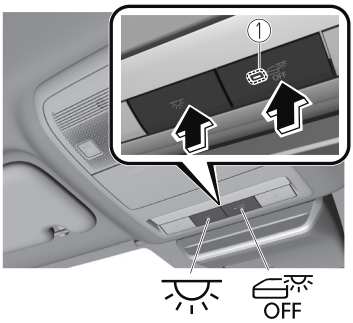
知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ルームランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

フロント

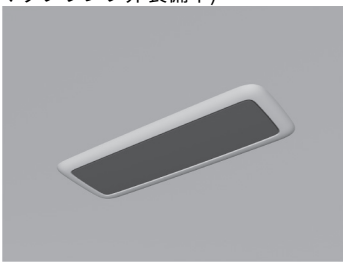


1. 表示灯

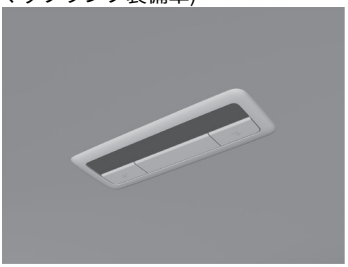
スイッチ	ルームランプ
ON/OFF	常時点灯/常時消灯
OFF DOOR OFF	ドア連動の ON/OFF を切り替えます。ドア連動 OFF の場合は、スイッチ内の表示灯が点灯します。 **ドア連動 ON(スイッチ内の表示灯消灯)** ・いずれかのドアを開けるとランプが点灯します。 ・イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。

リア

(リアマップランプ非装備車)



(リアマップランプ装備車)



知識

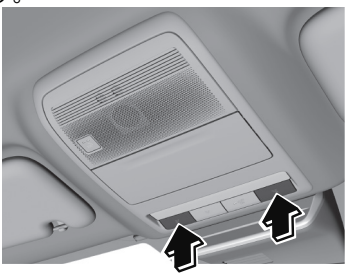
フロントルームランプのスイッチの操作に連動してリアルームランプも点灯/消灯します。

マップランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

フロント

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

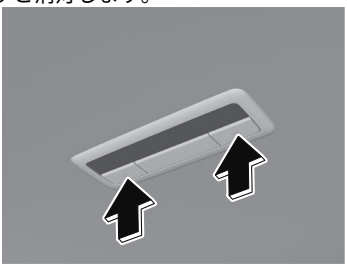


知識

・次のときはスイッチを押しても消灯しません。
  ・ルームランプの ON/OFF スイッチ()を操作して、ランプを点灯させているとき。
  ・ドアの開閉に連動して、ランプが点灯しているとき。
  ・イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

リア*

ルームランプの ON/OFF スイッチ()がOFF のとき、スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



知識

・リアマップランプが消灯しているときは、ルームランプのスイッチの操作に連動して点灯/消灯します。
・次のときはスイッチを押しても消灯しません。
  ・ルームランプの ON/OFF スイッチ()を操作して、ランプを点灯させているとき。
  ・ドアの開閉に連動して、ランプが点灯しているとき。
  ・イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

ラゲッジルームランプ

リアゲートを開けるとラゲッジルームランプが点灯し、閉めると消灯します。



知識

エンジンが停止しているときに、リアゲートを長時間開けたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

▼ イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチが DOOR 連動 ON の位置で、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。

・電源ポジションが OFF で、運転席ドアを解錠したとき。
・すべてのドアが閉まっている状態で、電源ポジションを OFF にしたとき。

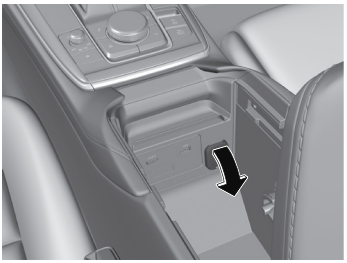
知識

・点灯時間は操作によって異なります。
・バッテリーあがりを防止するため、電源ポジションが OFF で室内照明が点灯したままのときは、一定時間経過後に自動的に消灯します。
・イルミネーテッドエントリーシステムの作動時間を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「設定」
・ルームランプの ON/OFF スイッチを操作してルームランプを点灯させているときは、イルミネーテッドエントリーシステムは連動しません。

電源ソケット

▼ 電源ソケット

電源ポジションが ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力 120W (DC12V―10A) 以下の電気製品を使用してください。



⚠ 注意

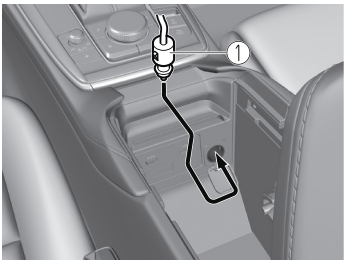
- 使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障につながるおそれがあります。
- 電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。
- 消費電力が 120W (DC12V―10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。
- 電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。
- 電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器をはずし、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットからはずした後、電源ポジションを OFF にしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。

知識

・エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
・シガーライターを差し込まないでください。

接続のしかた

1. フタを開けます。
2. コード先端のプラグを電源ソケットに接続します。



1. プラグ

アジャスター機能付カップホルダー

▼ アジャスター機能付カップホルダー

⚠ 注意

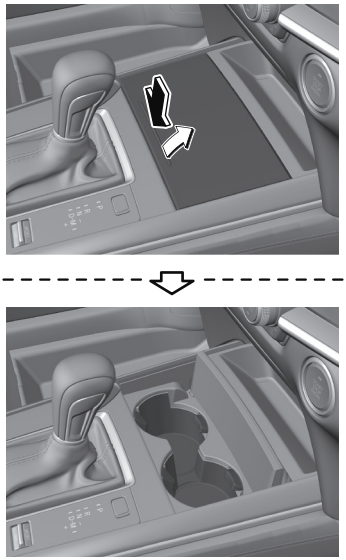
走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。

フロント

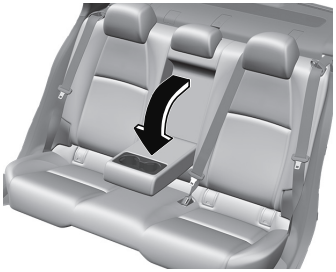
A タイプ



B タイプ



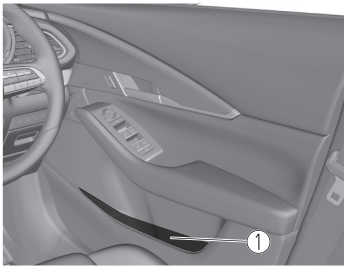
リア



ボトルホルダー

▼ ボトルホルダー

ペットボトルなどを置くことができます。



1. ボトルホルダー

⚠ 注意

フタのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。

アシストグリップ

▼ アシストグリップ

⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しない。
アシストグリップに過度の負荷がかかると破損し、けがをするおそれがあります。

アシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



リアコートフック

▼ リアコートフック

コートやジャケットなどをかけることができます。



収納

▼ 収納

⚠ 警告

荷物を積むときは確実に固定する。
荷物を確実に固定しないと、走行中や急ブレーキ時などに荷物が移動したりくずれたりして、けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行中は、グローブボックスなどのフタを必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物でけがをするおそれがあります。
- フタのついていない収納スペースに物を入れるときは、収納のしかたに注意してください。収納の状態により、急ブレーキや急旋回時、急加速時などに内部の物が飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こしたりすることがあります。

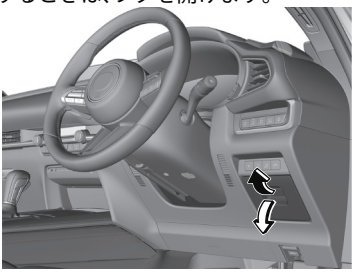
▼ オーバーヘッドコンソール

メガネやサングラスなどを入れることができます。



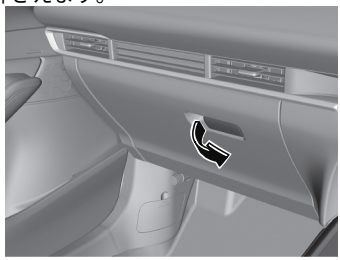
▼ コインボックス

使用するときは、フタを開けます。



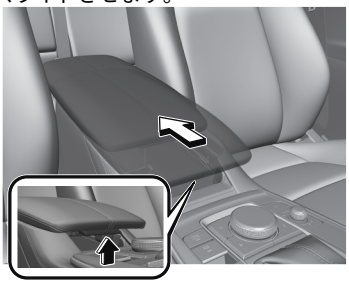
▼ グローブボックス

開けるときは、ノブを手前に引きます。
閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

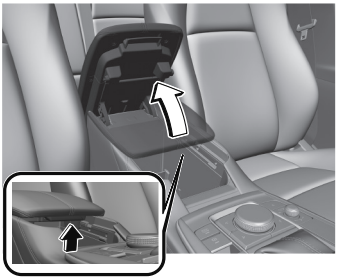


▼ 大型コンソールボックス

スライドさせるときは、ノブを押して、フタを後ろへスライドさせます。



開けるときは、ノブを押して、フタをいちばん後ろまでスライドさせてから上に引き上げます



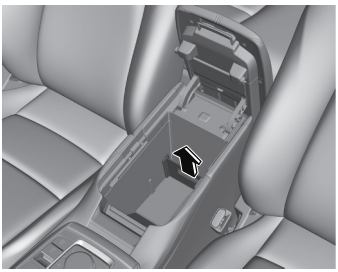
⚠ 注意

フタを使用するときは、フタの動く部品周辺に手や指を置かないでください。手や指などをはさんで、けがをするおそれがあります。

知識

フタの開閉は、スライドの 1 段階目と 2 段階目で可能ですが、リアシートの背もたれを倒している場合は、スライドの 2 段階目ではフタとリアシート(ヘッドレスト)が接触し、フタの開閉はできません。

仕切り板

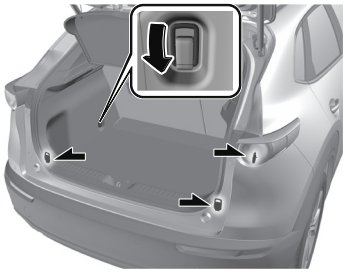


仕切り板を使用することで、小物などを置くことができます。

▼ ラゲッジルーム

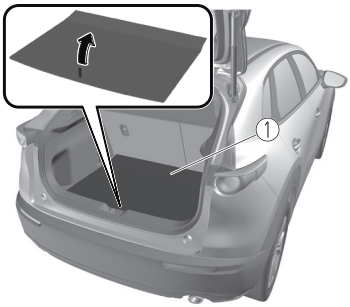
ラゲッジフック

ロープやネットで荷物を固定するときに使用します。
フックの引っ張り荷重は 20 kg です。ロープを掛けて強く引っ張らないでください。



サブトランクボックス

サブトランクボックスはラゲッジマットの下にあります。
小物などを収納することができます。
ラゲッジマットを開きます。



1. ラゲッジマット

7 お手入れのしかた

手入れの方法、真冬の取り扱いなど

車と上手につきあうために..... 7-2
必ず守る.....7-2
お車に触れるときはけがに注意する.....7-3

点検、整備..... 7-4
点検整備について..... 7-4
定期点検.....7-5
ボンネット..... 7-5
日常点検.....7-7
エンジンオイルの点検、補充 7-15
ウォッシャー液の補充..... 7-16
ワイパーブレードの交換.....7-17
バッテリーの点検..... 7-20
キーの電池を交換するときは 7-21
タイヤの点検.....7-22

ヒューズ切れ、電球切れのとき 7-25
ヒューズの受け持つ装置.....7-25
ランプ類、電気装置が作動しないとき.....7-31

車の手入れ.....7-33
外装の手入れ.....7-33
内装の手入れ.....7-35

季節の準備.....7-37
冬に備えて..... 7-37
夏に備えて..... 7-38

環境保護のために.....7-39
環境保護のために..... 7-39

必ず守る

▼ 違法改造はしない

車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジンの改造や配線などをしたりしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。

▼ ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを取りはずしたり、位置を変えたりしないでください。ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

▼ タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

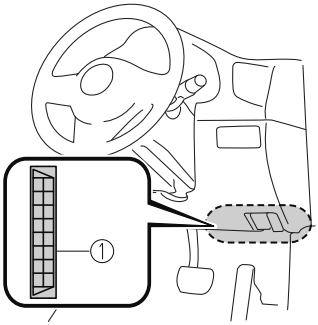
タイヤ、ホイール、ホイールナットはマツダが推奨するサイズを使用してください。推奨以外のサイズを使用すると走行に悪影響を及ぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、違法改造になることがあります。詳しくは車両スペックのページをご確認ください。

▼ 部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響がでるおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。
また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ったりすると、ブレーキ、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 故障診断コネクターに点検整備用の故障診断機以外を接続しない

故障診断コネクターは、専用の機器を接続することで故障などを自己診断するためのコネクターです。
故障診断コネクターには、点検整備用の故障診断機以外を接続しないでください。故障診断機以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬ故障につながるおそれがあります。



1. 故障診断コネクター

お車に触れるときはけがに注意する

▼ 手入れをするとき

日常点検やタイヤ交換などの作業、洗車など手入れをするときは、けがをしないように注意してください。

▼ 見えにくい箇所へ触れるとき

手にけがをするおそれがありますので、軍手など厚手の手袋を使用して点検や作業などを行なってください。

点検整備について

▼ 点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
使用済みバッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なう。
車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。
手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。
- エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながったりなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

無料点検について
新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000 km)、6 か月 (または走行距離 5,000 km) は無料で点検が受けられます。

定期点検

▼ 定期点検

1 年点検、2 年点検はマツダ販売店で受けてください。

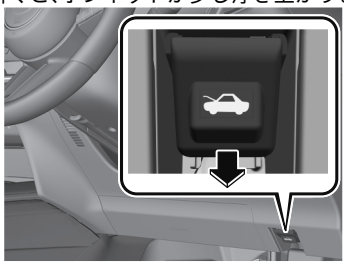
知識

・**点検結果について**
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。
・**シビアコンディションについて**
一般的な使用よりも厳しい使われかたをした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。
詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

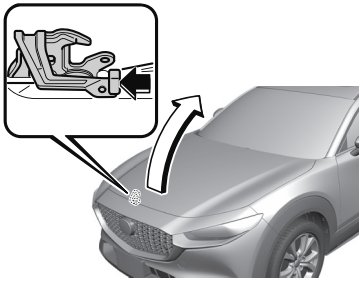
ボンネット

▼ ボンネットの開けかた

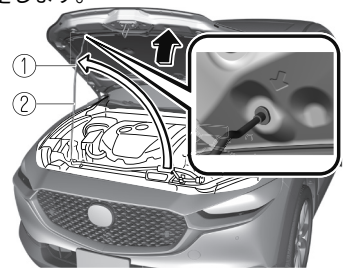
1. 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを矢印の方向に倒したままボンネットを持ち上げます。



3. パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。



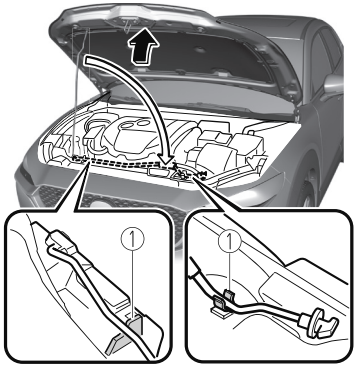
1. パッド部
2. ステー

▼ ボンネットの閉めかた

⚠ 注意

(SKYACTIV-X 2.0)
エンジンカバーを開けたまま、ボンネットを閉めないでください。エンジンカバーが落下して、けがをするおそれがあります。
エンジンカバーの開閉については、「点検項目と点検箇所」を参照してください。
→7-8 ページ 「点検項目と点検箇所」

1. エンジンルームに工具などが残されていないことを確認します。
2. ボンネットを手で支えてステーをはずし、パッド部を持って、クリップに固定します。



1. クリップ

3. ボンネットをゆっくりおろし、約 20 cm の高さから静かに落として閉めます。

⚠ 警告

ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さえつけないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。
- エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れると、エンジンを損傷したり、火災につながったりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

日常点検

▼ 日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

知識

点検結果について
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

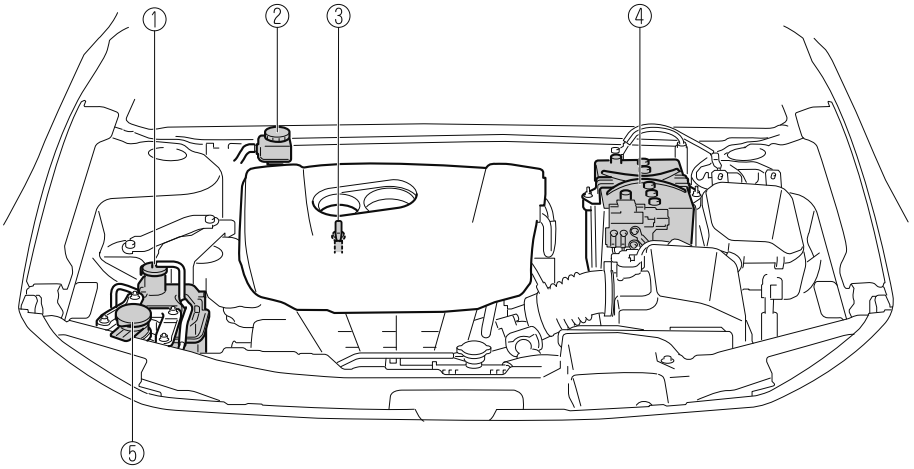
▼ 点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。
点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

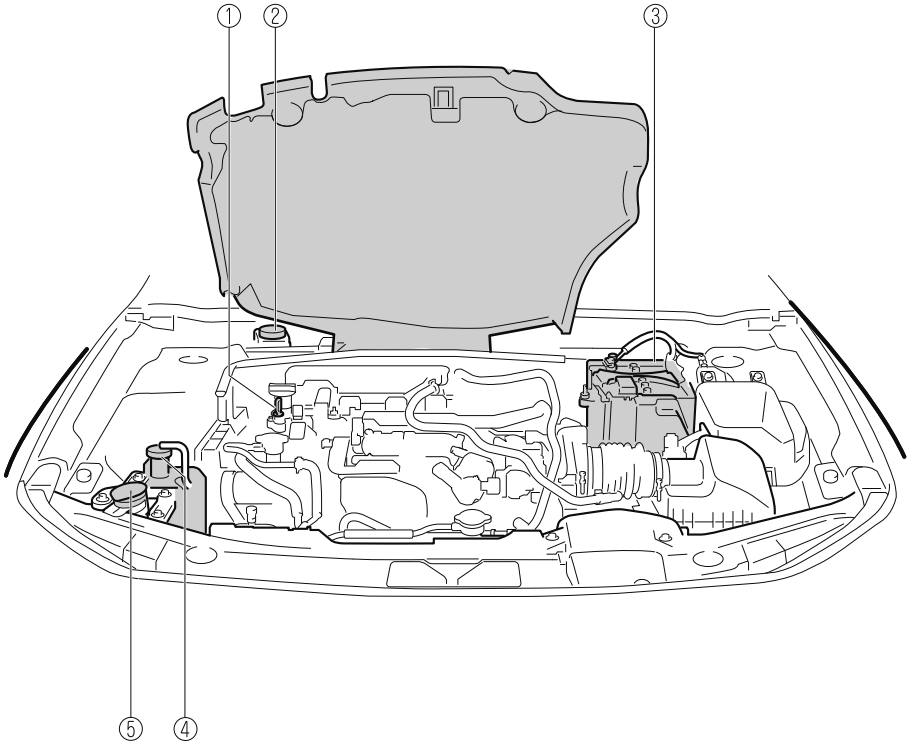
エンジンルームをのぞいて

SKYACTIV-G 2.0



1. 冷却水の量
2. ブレーキ液の量
3. エンジンオイルの量
4. バッテリー液の量
5. ウォッシャー液の量

SKYACTIV-X 2.0

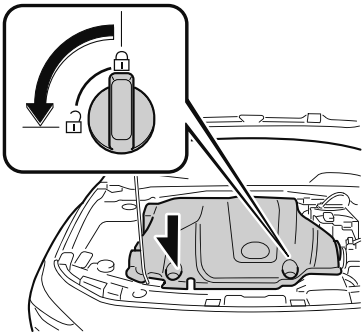


1. エンジンオイルの量
2. ブレーキ液の量
3. バッテリー液の量
4. 冷却水の量
5. ウォッシャー液の量

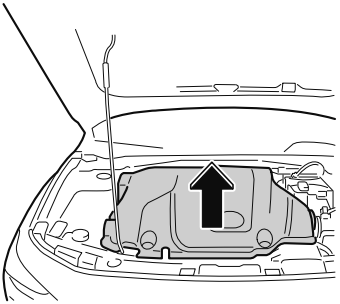
エンジンオイルの点検、補充をするときは、次の手順でエンジンカバーを開閉してください。

(エンジンカバーを開けるとき)

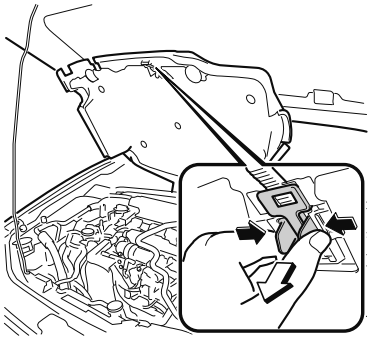
1. エンジンカバーのノブをまわして、ロックを解除します。



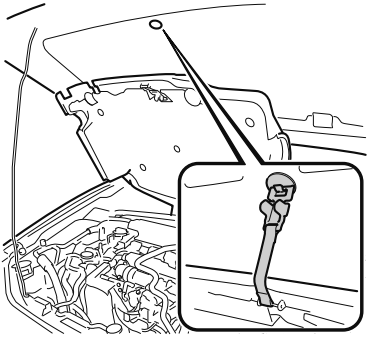
2. エンジンカバーを持ち上げます。



3. ストラップのツマミを指ではさみ、ホルダーから取りはずします。

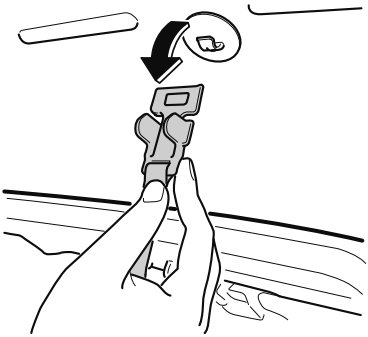


4. ストラップをボンネットのフックに引っ掛け、カバーを固定します。

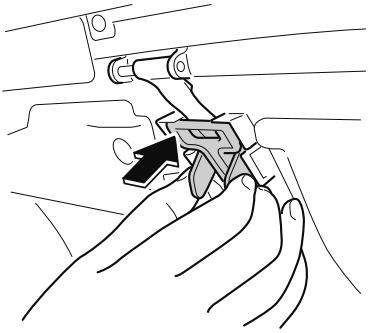


(エンジンカバーを閉めるとき)

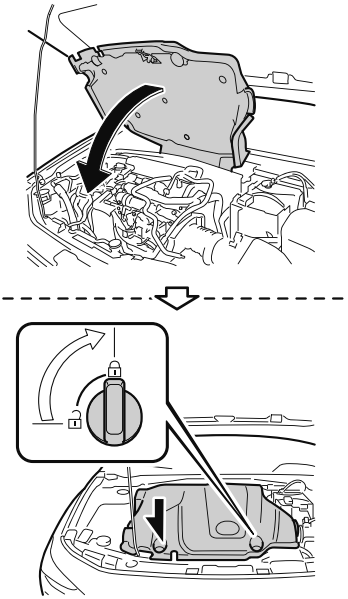
1. ストラップをボンネットのフックから取りはずします。



2. ストラップのツマミを指ではさみ、カチッと音がするまでホルダーに押し込みます。

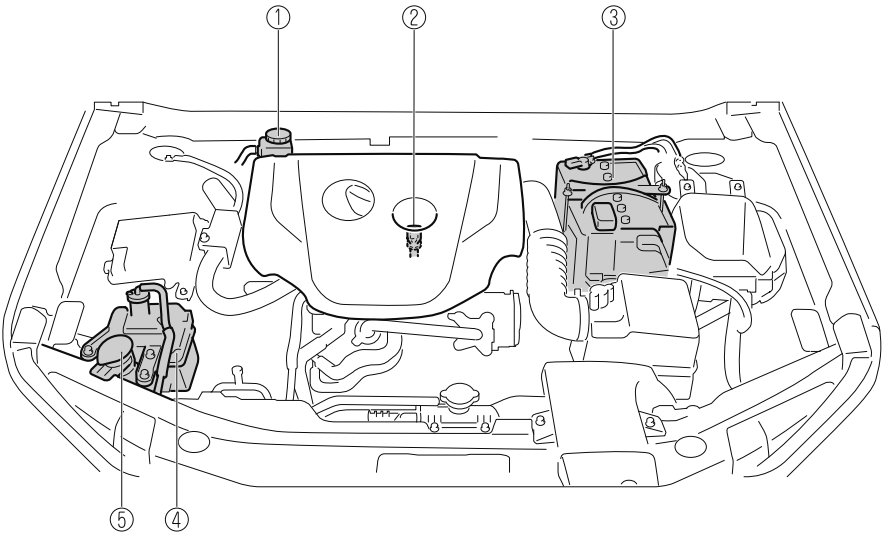


3. エンジンカバーを閉め、ノブをまわしてカバーをロックします。



4. エンジンカバーが確実に閉まっていることを確認してください。

SKYACTIV-D 1.8



1. ブレーキ液の量

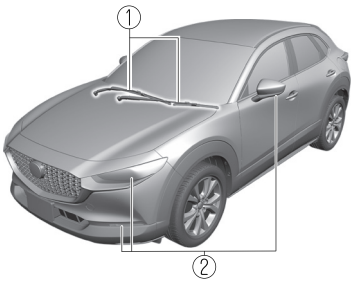
2. エンジンオイルの量
3. バッテリー液の量
4. 冷却水の量
5. ウォッシャー液の量

⚠ 注意

エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながったりなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

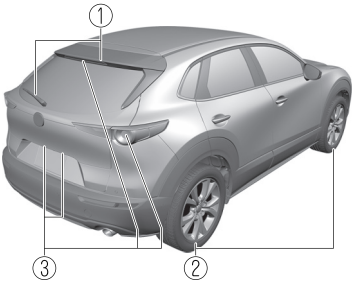
全体を見まわして

フロント



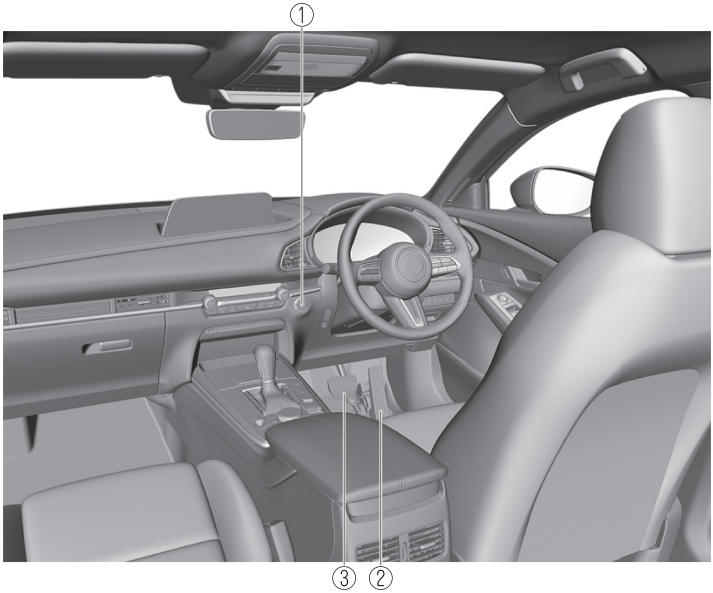
1. ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーの払拭状態
2. 灯火装置の点灯、方向指示灯の点滅具合および汚れ、損傷

リア



1. ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーの払拭状態
2. タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常摩耗、溝の深さなど
3. 灯火装置の点灯、方向指示灯の点滅具合および汚れ、損傷

運転席に座って



1. エンジンのかかり具合、異音
2. エンジンの低速および加速の状態
3. ブレーキペダルの踏みしろ(踏み込んだときのフロアマットとのすき間)、ブレーキの効き

エンジンオイルの点検、補充

▼ エンジンオイルの点検、補充

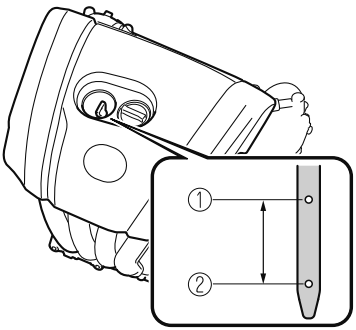
オイルレベルゲージでエンジンオイルの量を点検してください。
不足しているときは上限から下限の間になるよう補充してください。
オイル交換後は、記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯が通常より早めに点灯することがあります。
→マツダコネクト取扱書「車両ステータスモニター」

知識

- エンジンオイルレベル警告表示/警告灯が点灯している場合は、エンジンオイルを 1 L 補充してください。
  必要に応じてマツダ販売店にご相談ください。
  →8-32 ページ「エンジンオイルレベル警告表示/警告灯」
- **(SKYACTIV-D 1.8)**
  メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、“エンジンオイル量が規定値を超えています点検を受けてください”と表示されているときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

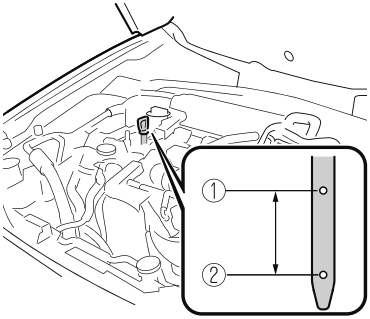
点検の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

SKYACTIV-G 2.0



1. 上限
2. 下限

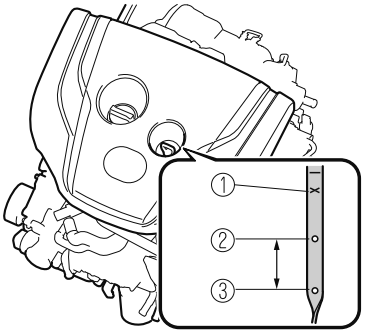
SKYACTIV-X 2.0



1. 上限
2. 下限

エンジンオイルの点検、補充をするときは、エンジンカバーの開閉が必要です。
→7-8 ページ「点検項目と点検箇所」

SKYACTIV-D 1.8



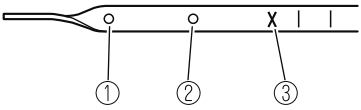
1. X マーク
2. 上限
3. 下限

注意

指定のエンジンオイルを使用してください。
指定以外のオイルを使用した場合、DPF 内にオイル中の灰分が堆積し、燃費の悪化や DPF の交換が必要になることがあります。
→10-4 ページ「エンジンオイル」

知識

・エンジンオイルの量を点検するときは、オイルレベルゲージをひねらずまっすぐに抜いてください。
また、オイルレベルゲージを差すときは、必ずオイルレベルゲージの×マークを車両前方に向けてひねらずまっすぐ差し込んでください。
・エンジンオイルがレベルゲージの×の位置を超えている場合はオイル交換をしてください。
・DPF に堆積した PM (Particulate Matter: 粒子状物質) が自動で除去されるとき、エンジンオイルに燃料が混ざり、油量が増えることがありますが異常ではありません。

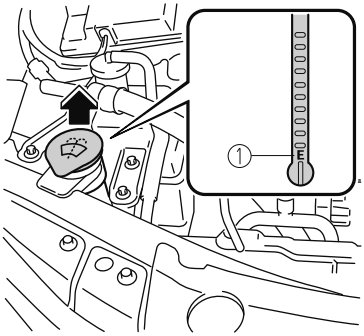


1. 下限
2. 上限
3. X マーク

ウォッシャー液の補充

▼ ウォッシャー液の補充

補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。



1. E (下限)

注意

エンジンがかかっているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。

知識

ウォッシャータンクについて
ウォッシャータンクは、フロントワイパー用、リアワイパー用、ヘッドランプウォッシャー用で兼用しています。

ワイパーブレードの交換

▼ ワイパーブレード

⚠ 注意

- 自動洗車機でワックスが塗布されると、ワイパーが作動することがあります。
- ワイパーブレードの損傷を防ぐため、ワイパーブレードの上またはその付近でガソリン、灯油、シンナーまたはその他の溶剤を使用しないでください。
- 電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。けがやワイパーの故障につながるおそれがあるため、手や指を挟まないように注意してください。洗車や整備を行なうときは、ワイパーレバーが OFF の位置になっていることを確認してください。
  - フロントガラスのレインセンサー上部に触れたとき
  - フロントガラスのレインセンサー上部を布などで拭いたとき
  - フロントガラスが手またはその他の物でたたかれたとき
  - レインセンサーが車両の中から手またはその他の物でたたかれたとき
- ワイパーを立てるときは、ワイパーをサービスポジションに動かす必要があります。正しい手順で行なってください。手順については 7-17 ページをお読みください。
  正しい手順で行なわないと、ワイパーブレード、ワイパーアーム、またはボンネットに傷がつくおそれがあります。

フロントガラスまたはブレードは異物または汚染物質により、ワイパーの効力を低減するおそれがあります。 共通の原因は、昆虫、樹液、市販の車用洗剤などです。

▼ フロントワイパーブレードの交換をするときは

ワイパーブレードが摩耗したりき裂が生じたりすると、ワイパーのふき取りが悪くなるおそれがあります。
ワイパーブレードを交換してください。

⚠ 注意

- マツダ純正品のワイパーブレードに交換してください。マツダ純正品以外のワイパーブレードに交換すると、ふき取り性能が低下するおそれがあります。
- ワイパーアームやその他の部品を破損するおそれがあるため、手でワイパーアームを掃除しないようにしてください。
- ワイパーゴムを交換するときは、必要以上にワイパーゴムを曲げないでください。ワイパーブレード内にある金属部分が変形し、ワイパーのふき取りが悪くなるおそれがあります。
- ワイパーアームを立てるときに、ワイパーブレードの先端を持たないでください。ワイパーブレードの先端を持つと、部品が変形してふき取り性能が低下するおそれがあります。
- 立てたワイパーを勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。
- ワイパーブレード、ワイパーアーム、またはボンネットに傷がつくおそれがあるため、正しい手順で交換を行なってください。
  ワイパーを立てるときは、ワイパーをサービスポジションに動かす必要があります。
  ワイパーをおろすときは、電源ポジションを ON にしてワイパーを操作する前に、ワイパーブレードがサービスポジションにあることを確認してください。

知識

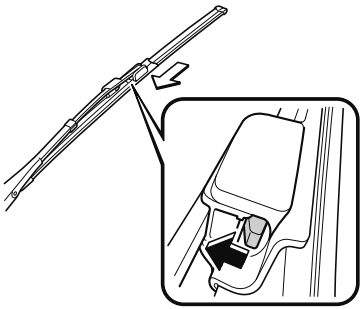
ワイパーブレードはお客様自身で交換できますが、ワイパーアームを交換することはできません。
ワイパーアームを交換するときはマツダ販売店にご相談ください。

次の手順でワイパーブレードの交換をしてください。

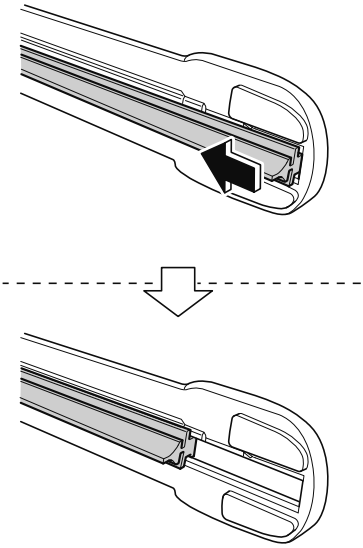
1. 次の手順で、ワイパーをサービスポジションまで動かします。
   a) 電源ポジションを ON にします。
   b) 電源ポジションを OFF にします。

c) 電源ポジションを OFF にしてから 30 秒以内に、ワイパースイッチを MIST の位置まで 2 回押し上げます。
手順が完了するとワイパーが作動し、サービスポジションで止まります。

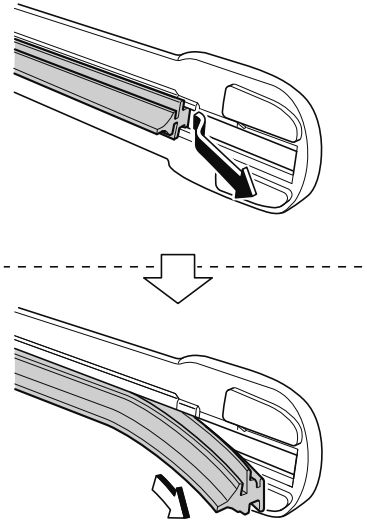
2. ワイパーアームを立てます。
3. ワイパーアームのタブを押しながらブレード部品を矢印の方向にスライドさせ、ワイパーアームからブレード部品を取りはずします。



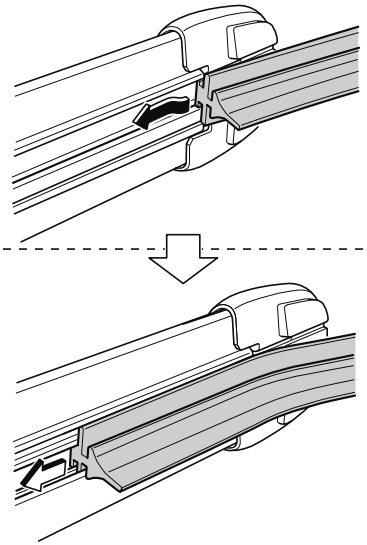
4. ブレードゴムを矢印の方向に引っ張り、ブレードホルダーの溝が確認できる位置までブレードゴムをスライドさせます。



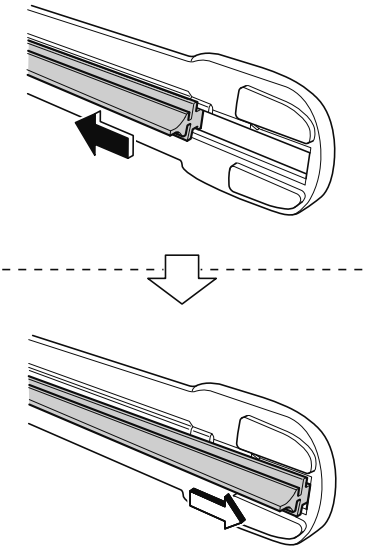
5. ブレードホルダーの溝から、ブレードゴムの先端を矢印の方向に引き、ブレードホルダーからブレードゴムを取りはずします。



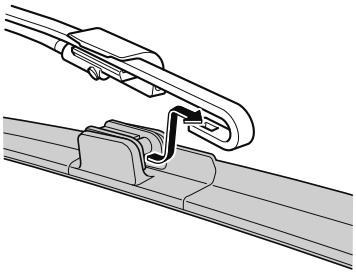
6. ブレードホルダーの溝から、新しいブレードゴムの先端を挿入し、ブレードホルダーの端にあたるまで、ブレードゴムをスライドさせます。



7. ブレードゴムを矢印の方向へ引っ張り、ブレードホルダーの溝が確認できる位置までブレードゴムをスライドさせた後、ブレードゴムの先端を逆方向にスライドさせます。



8. ブレードホルダーにブレードゴムが正しく取り付けられているか確認します。
9. ブレード部品をスライドさせてワイパーアームに取り付けます。



10. ワイパーアームをゆっくりとフロントガラスにおろします。

⚠ 注意

ワイパーアームはゆっくりおろしてください。ワイパーアームがフロントガラスに強くあたると、フロントガラスが破損するおそれがあります。

11. 次の手順で、ワイパーを初期位置まで動かします。
    a) ワイパーがフロントガラスの上におろされていることを確認します。
    b) 電源ポジションを ON にします。
    c) ワイパースイッチを MIST の位置まで 1 回押し上げます。
    手順が完了するとワイパーが作動し、初期位置で止まります。

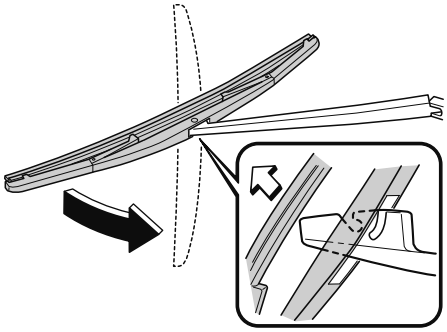
▼ リアワイパーブレードの交換をするときは

ワイパーブレードが摩耗したりき裂が生じたりすると、ワイパーのふき取りが悪くなるおそれがあります。
ワイパーブレードを交換してください。

⚠ 注意

ワイパーアームやその他の部品を破損するおそれがあるため、手でワイパーアームを動かさないようにしてください。

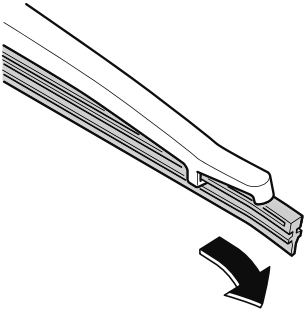
次の手順でワイパーブレードの交換をしてください。
1. ワイパーアームを立てて、ワイパーブレードのロックがはずれるまで右に回し、ワイパーブレードを取りはずします。



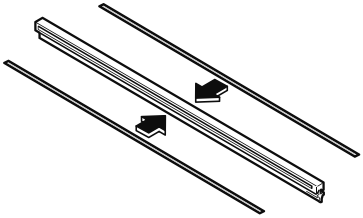
⚠ 注意

ワイパーアームはゆっくりおろしてください。ワイパーアームがリアガラスに強くあたると、リアガラスが破損するおそれがあります。

2. ブレードゴムを下に引っ張り、ブレードホルダーからはずします。



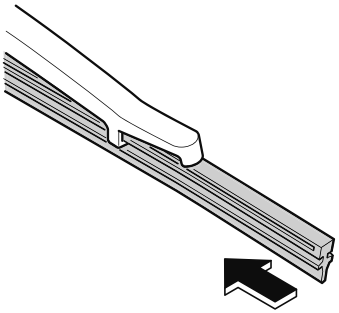
3. ブレード部品からブレードラバーを取りはずし、新しいブレードに取り付けます。



⚠ 注意

ブレード部品を曲げたり廃棄したりしないでください。再度使用する必要があります。

4. 慎重に新品のブレードラバーを取り付けてください。はずした手順と逆の手順でブレード部品を取り付けます。



バッテリーの点検

▼ バッテリーの点検

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。
バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。
→8-17 ページ「バッテリーあがりについて」

- 点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。
- 交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

キーの電池を交換するときは

▼ キーの電池を交換するときは

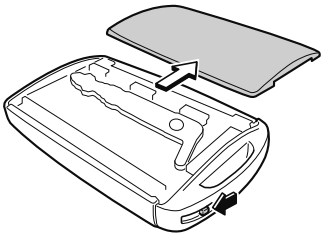
次のようなときは、電池残量が少なくなっていることが考えられます。

・メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示された
・キーの作動表示灯が点灯しない
・どのスイッチを押しても作動しない
・作動範囲が狭く不安定になる

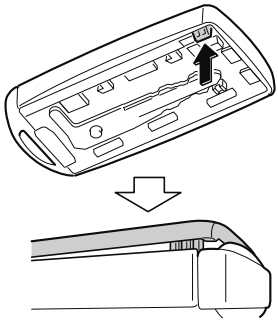
電池交換の作業を誤るとキーが傷つくおそれがあるため、マツダ販売店での電池交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

電池の規格: リチウム電池 CR2032

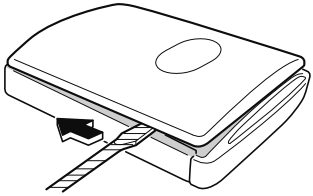
1. ノブを矢印方向に押しながら、下側カバーを取りはずします。



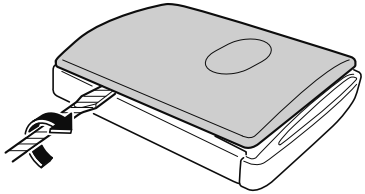
2. ツメを押し込んで、上側カバーのロックを解除します。



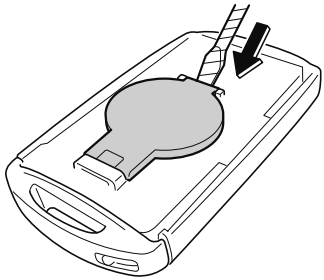
3. 保護テープを巻いたマイナスドライバーをすき間に差し込み、マイナスドライバーを矢印方向にスライドさせます。



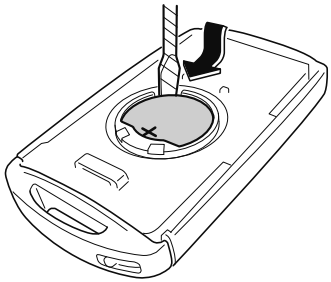
4. マイナスドライバーを矢印方向にまわして、上側カバーを取りはずします。



5. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、キャップを取りはずします。

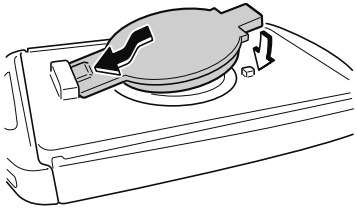


6. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、電池を取りはずします。

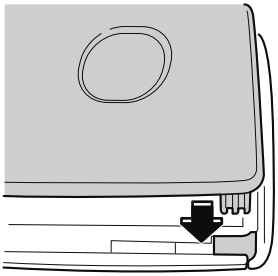


7. 電池の+側が上になるように、キーに新しい電池をはめ込みます。

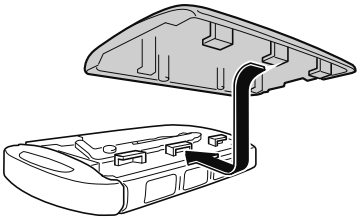
8. キャップを取り付けます。



9. 上側カバーを取り付けます。



10. キーのスロットに下側カバーのツメを差し込むように、下側カバーを取り付けます。



タイヤの点検

▼ タイヤの点検

タイヤの点検は法律で義務付けられています。点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

知識

タイヤの劣化について
タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後 5〜7 年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

空気圧の点検

タイヤ間で空気圧の差が出ないように、空気圧計を使用して点検してください。必要に応じて規定値に調整してください。

⚠ 警告

タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。
タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤの偏摩耗の原因となります。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する。
タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

き裂、損傷の点検

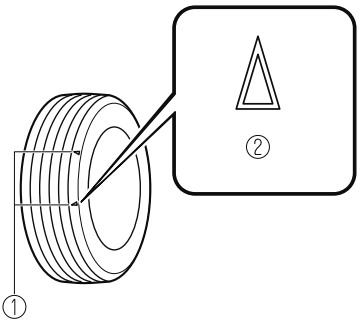
⚠ 警告

異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になったりするおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

- 走行中にハンドルがとられる
- 異常な振動を感じる
- パンクやバースト (破裂) する
- 車の性能 (燃費・走行安定性・制動距離など) が十分に発揮できない
- 部品に悪影響を与える

溝の深さ、異常摩耗の点検

摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。



1. 摩耗限界表示
2. 摩耗限界表示の位置を示すマークの例です

⚠ 警告

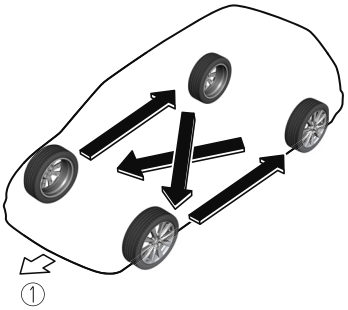
タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しない。
そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

知識

摩耗限界表示について
摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6 mm だけ浅くなっています。

▼ タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000 km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。
タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。



1. 前

⚠ 警告

タイヤを交換するときは指定されたサイズや種類のタイヤを装着する。
指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

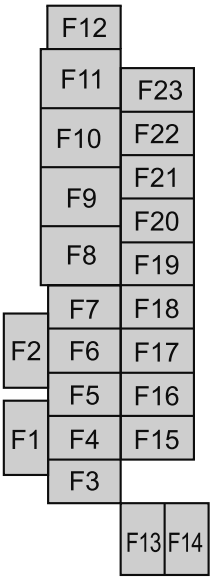
- タイヤの位置交換を行なう前にタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
→7-22 ページ「タイヤの点検」
- タイヤの位置交換を行なった後はタイヤの空気圧を規定値に調整してください。
→10-9 ページ「タイヤ空気圧」

知識

・お客様のお車にはスペアタイヤが標準で搭載されていないため、お客様自身ではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

ヒューズの受け持つ装置

▼ 室内ヒューズボックス



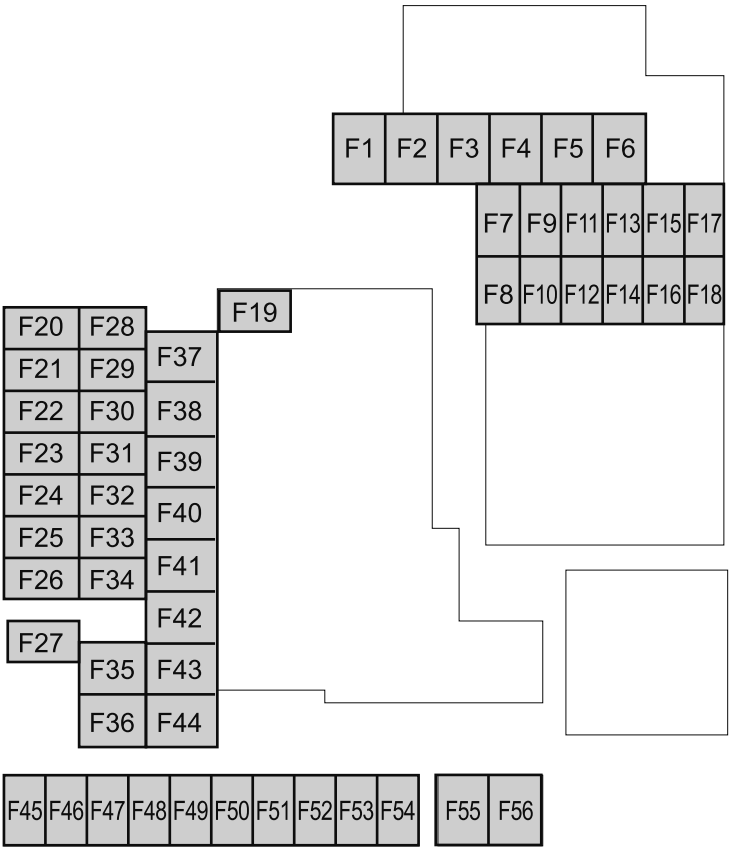
位置	容量	保護装置
F1	—	—
F2	—	—
F3	—	—
F4	15 A	運転席パワードアロック
F5	15 A	助手席パワードアロック
F6	—	—
F7	25 A	パワーリアゲート*
F8	—	—
F9	30 A	運転席パワーウインドー
F10	30 A	助手席パワーウインドー

*グレード/仕様別装備

位置	容量	保護装置
F11	30 A	運転席パワーシート*
F12	—	—
F13	15 A	オーディオ
F14	—	—
F15	15 A	リアゲートロック
F16	15 A	イルミネーション
F17	10 A	制動灯
F18	10 A	後退灯
F19	10 A	後面方向指示灯
F20	10 A	尾灯
F21	10 A	尾灯
F22	7.5 A	電動ステアリングロック
F23	—	—

 *グレード/仕様別装備

▼ エンジンルーム内ヒューズボックス



位置	容量	保護装置
F1	—	—
F2	20 A	ウインドーワイパーデアイサー*
F3	30 A	エンジンコントロールシステム*
	30 A	インジェクター*
F4	20 A	デュアル S-VT*

*グレード/仕様別装備

位置	容量	保護装置
F5	40 A	エンジンコントロールシステム
F6	20 A	デュアル S-VT*
F7	15 A	フューエルウォーマー*
	20 A	フューエルポンプ*
F8	15 A	エンジンコントロールシステム
F9	15 A	トランスミッションコントロールシステム*
F10	15 A	エンジンコントロールシステム
F11	7.5 A	空調
F12	15 A	エンジンコントロールシステム
F13	15 A	NOx センサー*
F14	20 A	シートヒーター*
F15	20 A	ヘッドランプウォッシャー*
F16	15 A	各種電源
F17	—	—
F18	15 A	電源ソケット
F19	60 A	電動パワーステアリング
F20	15 A	ヘッドランプ左 1
F21	15 A	ヘッドランプ右 1
F22	15 A	キーレスシステム
F23	30 A	ABS･DSC システム
F24	15 A	ヘッドランプ左 2
F25	15 A	ヘッドランプ右 2

 *グレード/仕様別装備

位置	容量	保護装置
F26	7.5 A	故障診断装置
F27	25 A	各種電源
F28	25 A	各種電源
F29	15 A	ウォッシャー
F30	—	—
F31	15 A	ホーン
F32	15 A	ヘッドランプ
F33	—	—
F34	—	—
F35	50 A	ABS･DSC システム
F36	—	—
F37	40 A	リアウインドーデフォッガー (曇り取り)
F38	50 A	各種電源
F39	—	—
F40	40 A	空調
F41	—	—
F42	20 A	フロントワイパー/ウォッシャー
F43	30 A	クーリングファン*
F44	30 A	スターター
F45	10 A	エンジンコントロールシステム
F46	15 A	オーディオ
F47	15 A	各種電源

*グレード/仕様別装備

位置	容量	保護装置
F48	7.5 A	エアバッグシステム
F49	15 A	メーター
F50	15 A	ルームランプ
F51	25 A	オーディオ
F52	10 A	サンルーフ*
F53	15 A	エンジンコントロールシステム
F54	15 A	i-ACTIVSENSE
F55	50 A	各種電源*
F56	—	—

 *グレード/仕様別装備

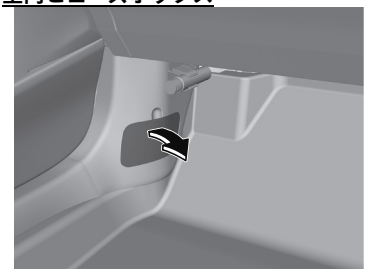
ランプ類、電気装置が作動しないとき

▼ ランプ類、電気装置が作動しないとき

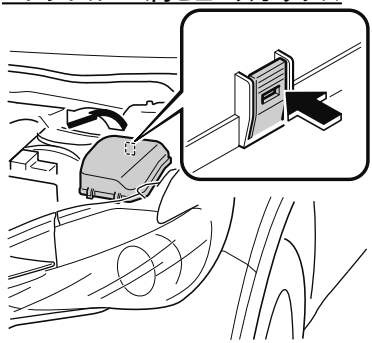
ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

▼ ヒューズの交換

1. 電源ポジションを OFF にします。
2. ヒューズボックスのカバーを開きます。ヒューズボックスは助手席左下と、エンジンルーム内にあります。
   室内ヒューズボックス



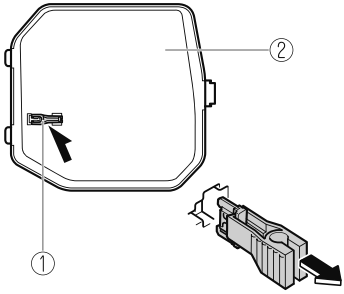
エンジンルーム内ヒューズボックス



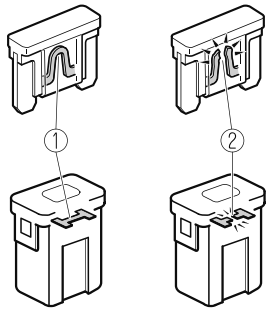
知識

各ヒューズはグレードや仕様によりない場合があります。

3. ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。
   →7-25 ページ「ヒューズの受け持つ装置」
4. ヒューズを抜き取ります。



   1. ヒューズはずし具
   2. エンジンルーム内ヒューズボックスカバー
5. ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。



   1. 切れていない場合
   2. 切れている場合
6. ヒューズボックスのカバーをもとの通り取り付けます。

⚠ 警告

規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しない。
配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

⚠ 注意

必ずマツダ純正品または同等品を使用してください。

知識

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 電球(バルブ)の交換

電球はすべて LED タイプのため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

知識

・**ランプの曇りについて**
ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

外装の手入れ

▼ 外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。

・保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
・走行後は、車体に付いたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
・飛び石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
・洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
・ヘッドランプ、制動灯などのプラスチックを使用しているランプ類は、コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用しないでください。
・次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。

・海岸地帯を走行したとき。
・凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
・ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
・鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
・コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
・泥、ほこりが著しく付いたとき。
・雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。

▼ 洗車するとき

水洗いするとき

1. 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
3. はん点が残らないように水をふき取ってください。

⚠ 注意

- ワイパーを立てるときは、ワイパーをサービスポジションに動かす必要があります。正しい手順で行なってください。手順については 7-17 ページをお読みください。
  正しい手順で行なわないと、ワイパーブレード、ワイパーアーム、またはボンネットに傷がつくおそれがあります。
  ワイパーをおろすときはワイパーアームに手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーブレードやワイパーアームが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。
- ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。
- フューエルリッドが閉まっていることを確認し、ドアを施錠してください。水圧などでフューエルリッドが勢いよく開き、車体に傷がついたり、フューエルリッドが損傷したりするおそれがあります。
- エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。
- 洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、万一の場合、車体がへこむことがあります。

自動洗車機を使用するとき

- ドアミラーを格納してください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化が早まったりすることがあります。
- スポイラー装備車は、洗車機によってはスポイラーが引っかかり洗車できない場合や損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

高圧洗車機を使用するとき

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入ったりするおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30 cm 以上)。また、同じ場所を連続して洗浄しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行なってください。

▼ ワックスをかけるときは

・ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
・直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

ワックスの使用について

・コンパウンド (みがき紛) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
・ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

▼ ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーに付いた油膜を取るときは純正ガラスクリーナーを使用してください。
ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。

⚠ 注意

熱線を損傷するおそれがあるため、熱線に沿ってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

▼ フロントガラスの油膜を取るときは

フロントガラスに油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。
純正ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

▼ アルミホイールの手入れ

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く水洗いしてください。
汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

⚠ 注意

中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。
変色･シミの原因となります。

知識

アルミホイールを洗うときは

・アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
・自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。

▼ 外装樹脂部品の手入れ

・バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗装はがれなどの原因となります。すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
・コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
・電動またはエア工具を使用してコンパウンド (みがき粉) がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗装の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
・プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けたりして、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ

▼ 内装の手入れ

⚠ 警告

室内に水をかけない。
オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

知識

・シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
・硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

次のような場合は、すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
そのままにしておくと変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になったり、汚れが落ちにくくなったりします。

・飲み物や芳香剤などをこぼしたとき
・油脂類が付着したとき
・汚れがあるとき

▼ シートベルトの手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

⚠ 警告

シートベルトにほつれ、すり傷などの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。
有機溶剤を使用したり、染色、漂白したりするとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

汚れがあるときはこまめにふき取ってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなったりすることがあります。

▼ ビニールの手入れ

ブラシや掃除機を使用してビニールのほこりや汚れを落としてください。
革･ビニール用クリーナーを使用してビニールの汚れを落としてください。

▼ 布張り部分の手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

▼ 革張り部分の手入れ

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除きます。
2. 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
4. 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

知識

・天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷がわかる場合があります。
・品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
・次のような場合は、早めに手入れを行なってください。
そのまま放置しておくと早く摩耗したり、カビやシミなどの原因になったりします。
  ・砂、ほこりなどが付いたとき
  ・ハンドクリームなどの油分が付いたとき
  ・化粧品、整髪料などのアルコール類が付いたとき
・革張り部分がぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。
・直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。
・ビニール製品を長時間、革張り部分の上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

▼ 樹脂部品の手入れ

注意

つや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になります。

▼ インストルメントパネル上面 (ソフトパッド部) の手入れ

ソフトパッド部の表皮には非常にやわらかい素材を使用しています。乾いた布などで強くこすると白いすり傷となる場合があります。
1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

▼ アクティブ・ドライビング・ディスプレイの手入れ

防塵シートはコーティングされています。お手入れをするときは、硬い布、表面が粗い布、洗剤などは使用しないでください。
→5-34 ページ「アクティブ・ドライビング・ディスプレイ」
また、薬剤などがアクティブ・ドライビング・ディスプレイに付着した場合は、すぐにふき取ってください。防塵シートが破損したり、表面のコーティングが傷ついたりするおそれがあります。メガネふきのようなきめの細かい、やわらかい布をお使いください。

知識

防塵シートは、エアーを吹きつけて清掃することをおすすめします。

▼ パネルの手入れ

パネルが汚れたときは、きれいな水にひたして固くしぼったやわらかい布などで軽くふき取ってください。
特に汚れが気になるときは、次の方法で手入れを行なってください。
1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

光沢のあるパネル、メッキ部分などの金属部分がある場合は、傷がつきやすいので、特に注意して手入れを行なってください。

冬に備えて

▼ エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
→10-4 ページ「エンジンオイル」

▼ バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。
バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。
点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

▼ 冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。
冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	凍結温度
30%	−16℃
50%	−37℃

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 を使用する場合

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 は濃度調整済みの冷却水です。
薄めずそのままご使用ください。
冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
サービスマニュアル記載の正しい手順で交換しないとエンジンに不具合が起こる可能性があります。
マツダ販売店にご相談ください。

▼ ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。
→7-16 ページ「ウォッシャー液の補充」

▼ 寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。
寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムで覆ってあります。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

▼ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

⚠ 警告

タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用する。
指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみて手順を理解しておきましょう。
→7-37 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

▼ タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンは AWD 車も前輪に取り付けます。
タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って正しく取り付けてください。
タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。
路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板 (停止表示灯) を使用してください。

⚠ 注意

- 標準タイヤのみタイヤチェーンを装着できます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、チェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- 純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。また、AWD 車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h 以下で走行してください。30 km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

タイヤチェーンについて

・お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
・タイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

夏に備えて

▼ オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。
点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

▼ エアコンのチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

▼ 炎天下に駐車した後は

炎天下に駐車した後は室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

環境保護のために

▼ 廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンの冷媒にはオゾン層を破壊しないエアコンガスを使用していますが、エアコンガスには地球を温暖化する働きがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店か専門の修理業者に依頼してください。

MEMO

8 トラブルが起きたら

車が故障したとき、事故にあったときの処置

マツダエマージェンシーコール 8-2
マツダエマージェンシーコール*..... 8-2

故障したとき.....8-3
路上で動けなくなったとき 8-3
スタックしたとき..... 8-4
踏切内で動けなくなったとき 8-4
パンクやバースト (破裂) したとき.....8-5

緊急用具の取り扱い..... 8-6
発炎筒..... 8-6
工具、ジャッキの格納場所.....8-6
ジャッキの取り扱い.....8-7

パンクしたとき.....8-11
タイヤパンク応急修理キット 8-11

バッテリーがあがったとき..... 8-17
バッテリーあがりについて 8-17

エンジンが始動しないとき..... 8-20
燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 1.8).....8-20

オーバーヒートしたとき..... 8-21
オーバーヒートについて.....8-21

キーが作動しないとき..... 8-22
キー一時停止機能..... 8-22

けん引について.....8-23
けん引してもらうとき..... 8-23
故障車をけん引するとき.....8-24

警告灯/表示灯、警報チャイム.....8-26
警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは.....8-26
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは..... 8-34
チャイムがなったときは.....8-38

リアゲート.....8-42
リアゲートが開けられなくなったとき..... 8-42

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....8-43
アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき.....8-43

フロントワイパーが高速作動するとき.....8-44
フロントワイパーが高速作動するとき.....8-44

万一事故が起きたとき..... 8-45
万一事故が起きたときは.....8-45

*グレード/仕様別装備

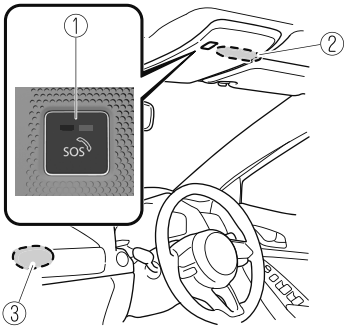
マツダエマージェンシーコール*

▼ マツダエマージェンシーコール

⚠ 警告

コネクティッドサービス使用時、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方はアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

エアバッグが展開される衝突事故などを車両が検知した場合や、マツダエマージェンシーコールスイッチを押した場合に、緊急通知オペレーターに車両の位置情報と緊急信号が送信され、オペレーターを通じて緊急車両の手配などを行なうことができます。
また、交通事故発生時、車両データの活用によりお客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行なう D-Call Net®にも対応しています。



1. マツダエマージェンシーコールスイッチ
2. マイク、スピーカー
3. アンテナ

詳しくは
コネクティッドサービス取扱説明書
をご確認ください。
(URL)
https://www.mazda.co.jp/carlife/manual/

路上で動けなくなったとき

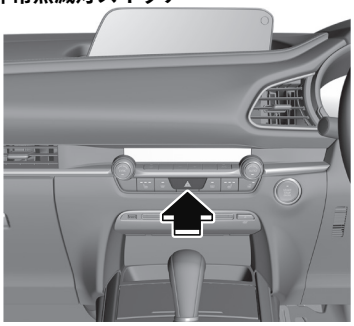
▼ 路上で動けなくなったとき

一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー/セレクトレバーを N の位置に入れ、安全な場所まで押し出します。

⚠ 警告

万一、事故や故障などで車から燃料が漏れている場合は、すぐにエンジンを止める。
爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

1. 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。
   非常点滅灯スイッチ



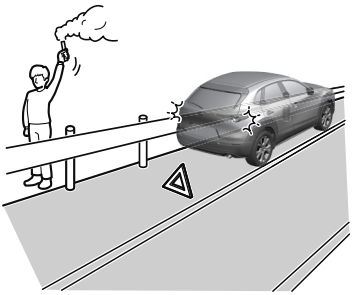
   非常点滅灯



2. 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。
   →8-6 ページ「発炎筒について」

   ・高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板 (停止表示灯) を置くことが法律で義務付けられています。

   ・停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。



3. 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。
4. 安全を確保した後、救援を求めます。
   故障の修理などお困りの際はマツダ販売店に連絡してください。

知識

停止表示板 (停止表示灯) について
停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

スタックしたとき

▼ スタックしたとき

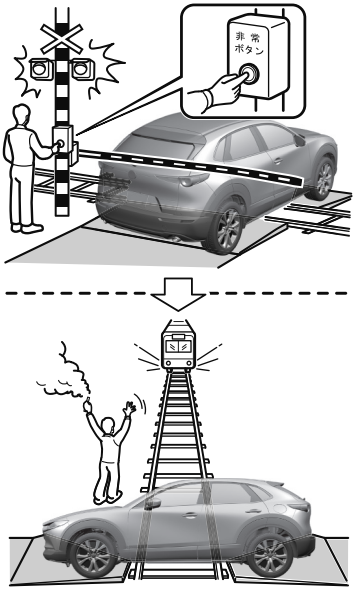
ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んだりして動けなくなることをスタックといいます。

- **(オフロード・トラクション・アシスト装備車)**
  オフロード・トラクション・アシストを作動させることにより、スタックを脱出できる場合があります。
  →5-75 ページ「オフロード・トラクション・アシストとは」
  オフロード・トラクション・アシストを作動させてスタックを脱出した場合は、すみやかにオフロード・トラクション・アシストを停止してください。
- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを D または R の位置に入れて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー/セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させたりしないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

踏切内で動けなくなったとき

▼ 脱輪などで動けなくなったとき

1. 踏切の非常ボタンを押します。緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
   →8-6 ページ「発炎筒について」
2. 付近の人に救援を求めます。



▼ エンストで動けなくなったとき

1. エンジンをかけ直します。
2. エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
   緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
   →8-6 ページ「発炎筒について」
3. 付近の人に救援を求めます。
   チェンジレバー/セレクトレバーを N の位置に入れ、安全な場所まで押し出します。

知識

緊急避難について
スターターを使って、車を緊急避難させることはできません。

パンクやバースト (破裂) したとき

▼ パンクやバースト (破裂) してもあわてない

走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。
次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

・ハンドルがとられるとき。
・異常な振動があるとき。
・車両が異常に傾いたとき。

発炎筒

▼ 発炎筒

⚠ 警告

油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。
火災につながるおそれがあります。

使用するときは筒先を顔や体に向けたり近づけたりしない。
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

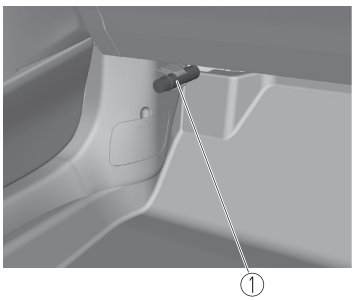
お子さまにはさわらせない。
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

トンネル内では発炎筒を使用しない。
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

▼ 発炎筒について

事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

・使用方法
・使用上の注意事項
・発炎時間
・有効期限



1. 発炎筒

工具、ジャッキの格納場所

▼ 工具、ジャッキの格納場所

⚠ 警告

車に搭載されているジャッキを使用する。
車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。
車に搭載されている以外のジャッキを使用すると、車体が損傷するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

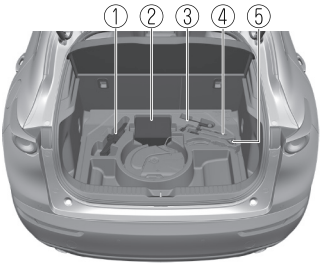
- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。
- 工具、ジャッキを使用した後は走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。

知識

スペアタイヤはお客様のお車に標準で搭載されておりません。スペアタイヤの取り扱いについては、マツダ販売店にご相談ください。

工具、ジャッキは図の位置に格納されています。

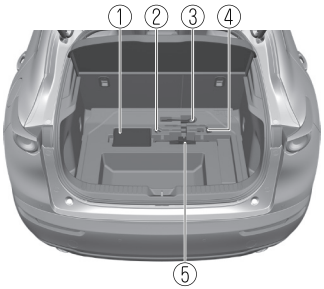
A タイプ



1. ジャッキ
2. タイヤパンク応急修理キット
3. けん引フック

4. ホイールレンチ
5. ジャッキレバー

B タイプ



1. タイヤパンク応急修理キット
2. ジャッキレバー
3. けん引フック
4. ホイールレンチ
5. ジャッキ

ジャッキの取り扱い

▼ ジャッキアップする前に

1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い、安全に作業ができる場所に移動します。
2. チェンジレバーを 1 または R の位置 (マニュアル車)/セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車)に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
→8-3 ページ「路上で動けなくなったとき」
5. 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→8-6 ページ「工具、ジャッキの格納場所」
6. 輪止めを用意します。

知識

輪止めについて
輪止めはお客様のお車に標準で搭載されておりません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

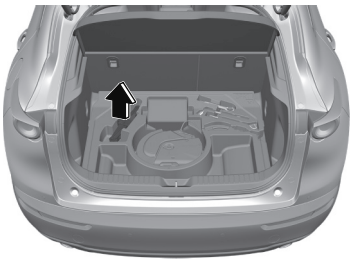
▼ ジャッキを取り出すとき

1. ラゲッジマットを取りはずします。

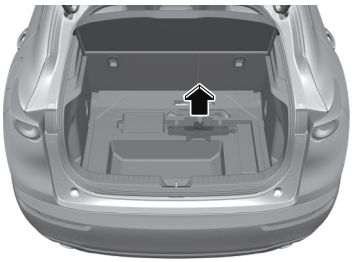


2. ジャッキを取り出します。

A タイプ



B タイプ



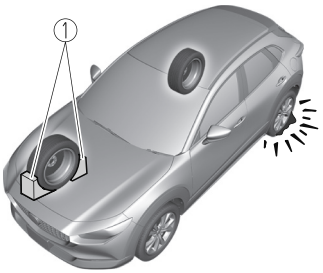
▼ ジャッキアップするとき

⚠ 警告

ジャッキアップするときはチェンジレバーを 1 または R の位置 (マニュアル車)/セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車) に入れ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをする。
パーキングブレーキをかけて輪止めをしないと、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

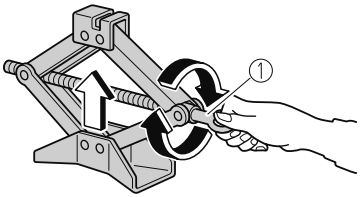
車に搭載されているジャッキを使用する。
車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。
車に搭載されている以外のジャッキを使用すると、車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1. ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
   - 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後
   - 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後



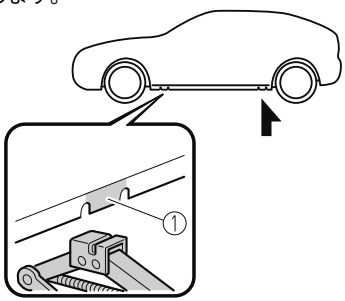
1. 輪止め

2. ジャッキを地面に置きます。
3. ソケットを手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。



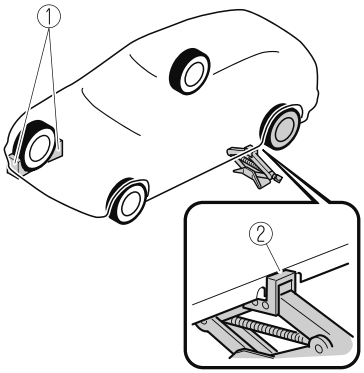
1. ソケット

4. ジャッキをジャッキアップ指定位置 (目印となる膨らみの間) の中央に直角にセットします。



1. ジャッキアップ指定位置

5. ジャッキを徐々に上げて、ジャッキアップ指定位置 (目印となる膨らみの間) の中央にジャッキがはまっていることを確認します。



1. 輪止め
2. ジャッキアップ指定位置

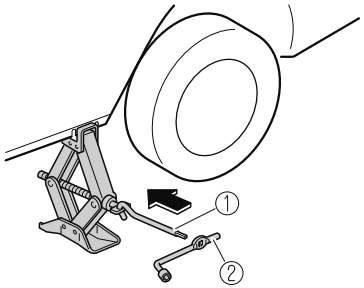
⚠ 警告

ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れたりしない。
車体が変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

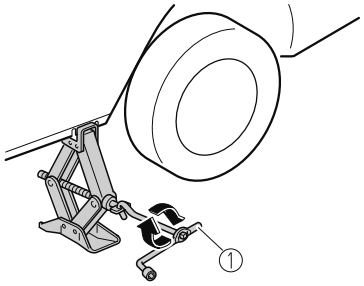
ジャッキ使用時は、溝部ではなく、ジャッキのヘッド部がボディー内側に先にあたります。

6. ジャッキにジャッキレバーをかけ、ジャッキレバーにホイールレンチを組み付けます。



1. ジャッキレバー
2. ホイールレンチ

7. タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。



1. ホイールレンチ

⚠ 警告

必要以上にジャッキアップしない。
車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけない。
ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキアップした車の下には絶対に入らない。
万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

人を乗せたままジャッキアップしないでください。

▼ ジャッキを格納するとき

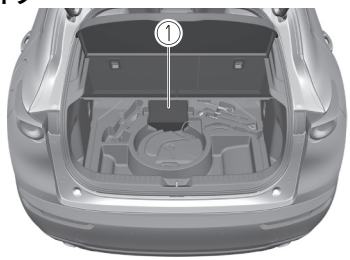
ジャッキを取り出すときと逆の手順で格納します。

タイヤパンク応急修理キット

▼ タイヤパンク応急修理キット

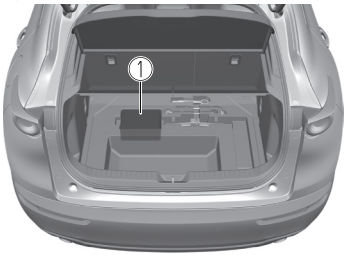
本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤに刺さった釘やネジなどを抜かず、応急修理してください。
タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。

A タイプ



1. タイヤパンク応急修理キット

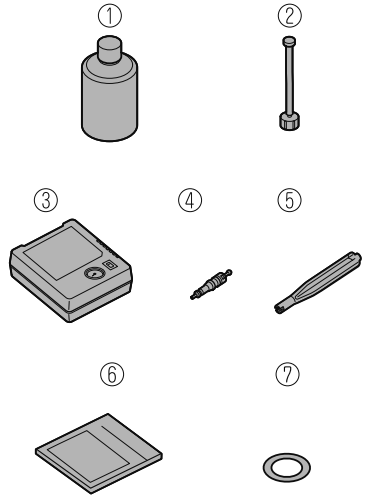
B タイプ



1. タイヤパンク応急修理キット

▼ タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。



1. 修理剤
2. 注入ホース
3. エアコンプレッサー
4. 予備バルブコア
5. コアまわし
6. 取扱説明書
7. 速度制限シール

⚠ 警告

万一誤飲したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。
修理剤を誤飲すると健康に害があります。

修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したりしたときは、すぐに多量の水で洗浄する。
それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

お子さまには修理剤をさわらせない。
誤って使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

天然ゴムに対するアレルギーを有する人は修理剤に触れない。
アレルギー症状を発症する可能性があります。

知識

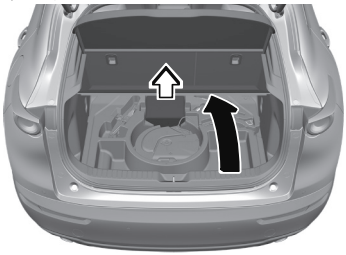
修理剤の使用について

- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店またはJAF などに連絡してください。
  - 修理剤の有効期限が切れているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
  - 約 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - 接地部以外が損傷を受けたとき
  - パンクしたまま走行し、タイヤ側面が損傷しているとき
  - タイヤがホイールからはずれているとき
  - ホイールやバルブが破損しているとき
  - タイヤが 2 本以上パンクしているとき

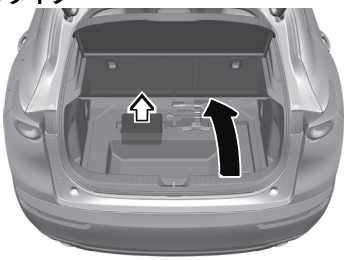
▼ タイヤパンク応急修理キットの使いかた

1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い安全に作業できる場所に移動します。
2. チェンジレバーを 1 または R の位置 (マニュアル車)/セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車)に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
5. 人や荷物を降ろしラゲッジマットを開けて、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

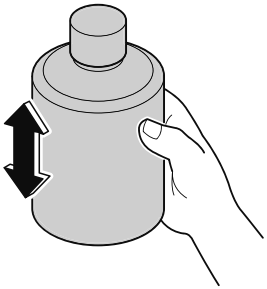
A タイプ



B タイプ



6. 修理剤のボトルをよく振ります。



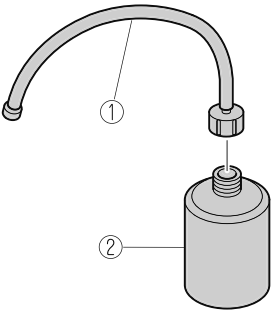
⚠ 警告

注入ホースをねじ込む前にボトルを振る。
注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散り、衣服などに付着すると取れないおそれがあります。

知識

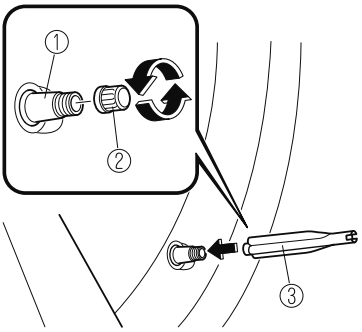
修理剤の性質について
0°C 以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。

7. ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶたが破れます。



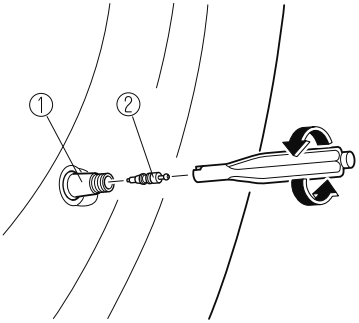
1. 注入ホース
2. ボトル

8. パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜きます。



1. バルブ
2. キャップ
3. コアまわし

9. コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取りはずします。



1. バルブ
2. バルブコア

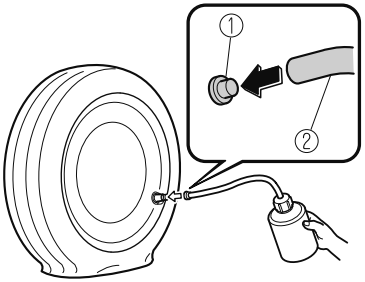
注意

バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

知識

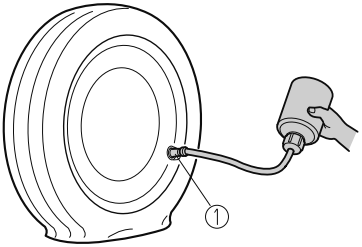
バルブコアは汚れないように保管してください。

10. 注入ホースの栓をはずし、注入ホースをバルブに差し込みます。



1. 栓
2. 注入ホース

11. ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤をすべてタイヤの中に注入します。



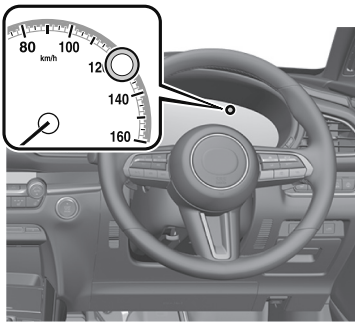
1. バルブ

12. 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブコアを取り付けます。

知識

修理剤の回収について
注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または修理の際に使用済み修理剤の回収に使用しますので、ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。

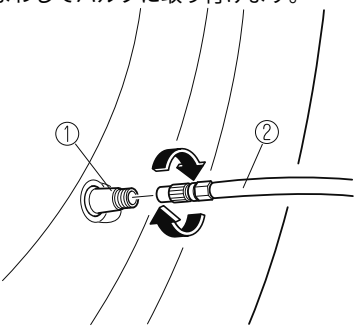
13. 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。



警告

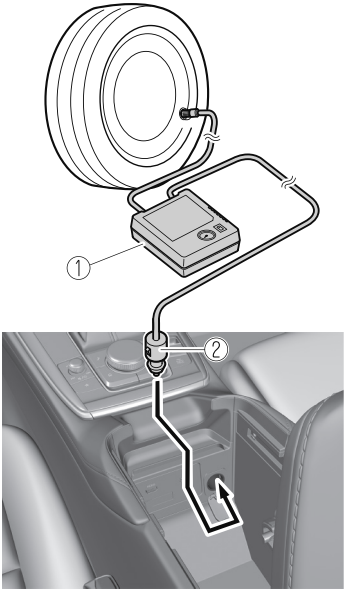
ハンドルのパッド部に速度制限シールを貼らない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

14. エアコンプレッサーのホースの口金を右にまわしてバルブに取り付けます。



1. バルブ
2. ホース

15. エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションをACC にします。
→6-29 ページ「電源ソケット」



1. コンプレッサー
2. プラグ

⚠ 注意

電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。エアコンプレッサーの ON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。

16. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。

知識

空気圧の調整について

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼り付けられているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10 分以上連続して作動させないでください。
- タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10 分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。

17. 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしエアコンプレッサーのホースの口金を左にまわしてバルブから抜きます。
18. バルブキャップを取り付けます。
19. 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、ただちに走行を始めます。

⚠ 注意

80 km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80 km/h を超えた速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

20. 10 分間もしくは 5 km 程度走行後に手順 14 の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧を確認します。適正空気圧より低下していたら、手順 15 の作業から再度行ないます。

⚠ 警告

空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm^2) 以下に低下していたら、運転を中止してマツダ販売店または JAF などに連絡する。
本修理キットによる応急修理はできません。

手順 14〜20 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止する。
マツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠ 注意

タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。

21. 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理・再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

応急修理をしたタイヤとホイールは

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、できるだけ早く新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理・再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

▼ タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

・修理剤の有効期限の確認
・コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤の有効期限について
修理剤には有効期限があります。有効期限が切れたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限が切れる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

バッテリーあがりについて

▼ バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

・スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
・ホーンの音が小さい、または鳴らない。
・ランプ類がいつもより極端に暗い。

⚠ 警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

必ず保護メガネを着用する。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、バッテリー液をこぼさない。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

絶対に火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディーに触れないように十分注意してください。

換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわない。また、充電中はバッテリーに近づかない。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検する。
バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

▼ 処置方法

押しがけによる始動はできません。
別売りのブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。
自車と同じ 12V バッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

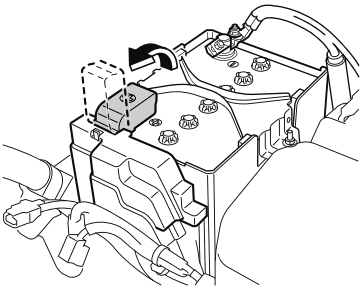
⚠ 注意

ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

知識

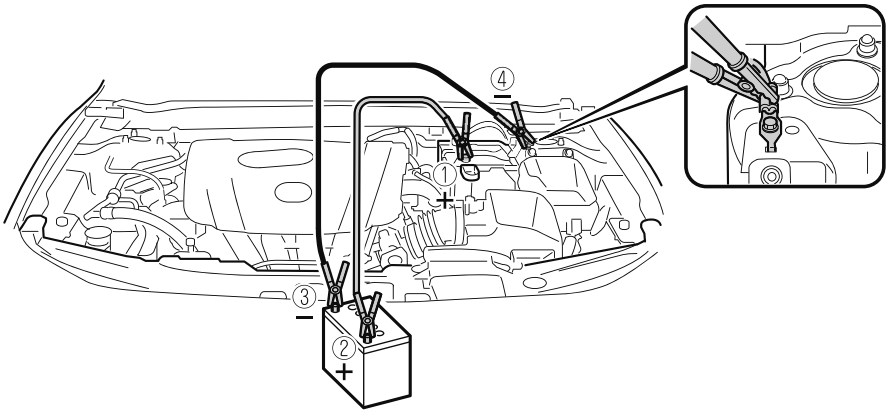
M ハイブリッド車は救援車として使用しないでください。

1. 自車のバッテリーと救援車のバッテリーがいちばん近い位置になるように、車を移動させます。
2. ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認します。
3. バッテリーキャップを取りはずします。



4. 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
   ブースターケーブルはエンジンの振動などではずれないよう確実に接続してください。

   ・**1 本目**
   ①自車のバッテリーの+端子
   ②救援車のバッテリーの+端子
   ・**2 本目**
   ③救援車のバッテリーの-端子
   ④図で表示の箇所 (バッテリーの-端子に接続しない)



5. 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。
6. 自車のエンジンをかけます。約 3 分間エンジンを回転させて、応急的に自車のバッテリーを充電します。
7. ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。

8. バッテリーキャップを取り付けます。
9. 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 1.8)

▼ 燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 1.8)

⚠ 注意

連続して 10 秒以上エンジン始動の操作をしないでください。 スターターを損傷するおそれがあります。
エンジンが始動しない場合、20 秒待ってから再度エンジン始動を試みてください。

燃料切れを起こした場合、少なくとも 10 L の燃料を補給してからエンジンを始動してください。燃料切れが起きると燃料系統に空気が入り、エンジン始動に時間がかかることがあります。燃料を補給した後でエンジンが始動しない場合、エンジン始動を数回試みてください。それでも始動しないときはマツダ販売店へ連絡してください。

オーバーヒートについて

▼ オーバーヒートについて

次のようなときは、オーバーヒートです。

・高水温警告表示が表示され、エンジンの出力が急に低下したとき。
・エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠ 警告

エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。
エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。



エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けない。
エンジンが熱いときにラジエーターキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。
特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

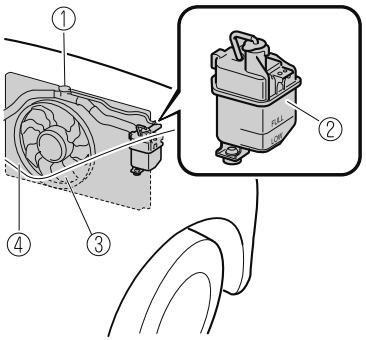
▼ 処置方法

1. 安全な場所に車を止めます。
2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。
   エンジンルームから蒸気が出ているときは
   エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。
   エンジンルームから蒸気が出ていないときは
   エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。
   クーリングファンが作動していることを確認し、高水温警告表示 が消灯したらエンジンを止めます。

⚠ 注意

クーリングファンが作動していないときは、クーリングファンの故障が考えられます。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。冷却水量が不足しているときは①ラジエーター②リザーバータンクの順に冷却水を補充してください。
   冷却水がない場合は一時的に水を補充してください。
   補充後はキャップを確実に取り付けてください。



1. ラジエーターキャップ
2. リザーバータンク
3. クーリングファン
4. ラジエーター

4. 早めに最寄りのマツダ販売店で点検を受けてください。

キー一時停止機能

▼ キー一時停止機能

キーが車内にあるとき、車内に置いてあるキーの機能が、盗難防止のために一時停止する場合があります。
この場合は、車内から一時停止したキーのアンロックスイッチを押すと復帰します。

けん引してもらうとき

▼ けん引してもらうとき

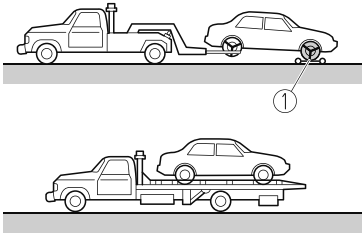
けん引はできるだけマツダ販売店または JAF などに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠ 警告

長い下り坂を走行するときは、レッカー車でけん引する。
ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

⚠ 注意

- オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度 30 km/h 以下、走行距離は 30 km 以内にしてください。
- AWD 車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地状態で搬送してください。駆動装置の故障時は、トレーラーなどに搭載して搬送してください。前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出したりなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキ (EPB) が解除できないときのけん引は、図のように前後輪をすべて持ち上げた状態で搬送してください。車輪を持ち上げないでけん引すると、ブレーキシステムが破損するおそれがあります。



⚠ 注意

1. けん引用補助台車

- 金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端に付いているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

やむをえずロープでけん引してもらうときは、けん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

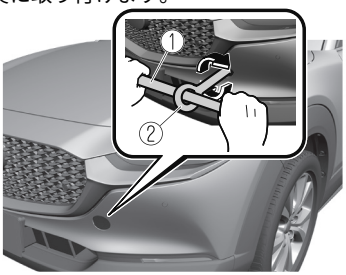
1. けん引フック、ホイールレンチ、ジャッキレバーをラゲッジルームから取り出します。→8-6 ページ「工具、ジャッキの格納場所」
2. ジャッキレバーまたはマイナスドライバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。



⚠ 注意

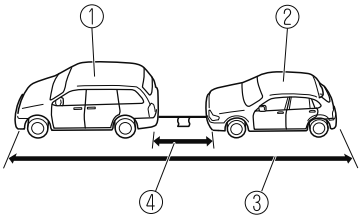
カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。

3. ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。



1. ホイールレンチ
2. けん引フック

4. けん引ロープをフックにかけます。
5. ロープは 5 m 以内にして、中央に 0.3 m 平方 (0.3 m×0.3 m) 以上の白い布を必ず付けてください。



1. けん引車
2. 自車
3. 25 m 以内
4. 5 m 以内

6. けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーを N に入れます。エンジンがかからないときは、電源ポジションを ON にします。

⚠ 警告

やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。
エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりするなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

7. パーキングブレーキを解除します。
→5-63 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB)」
8. けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

故障車をけん引するとき

▼ 故障車をけん引するとき

一般路上でやむをえず故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。

⚠ 注意

- けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。
  - 自車の重量より重い車はけん引しないでください。
  - 急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。
  - けん引フック以外にロープをかけないでください。
- 金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端に付いているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

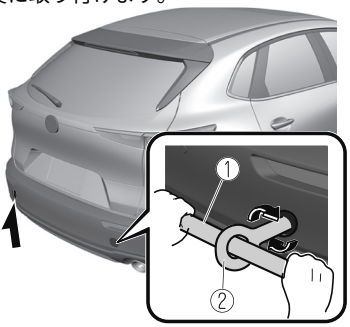
1. けん引フック、ホイールレンチ、ジャッキレバーをラゲッジルームから取り出します。
→8-6 ページ「工具、ジャッキの格納場所」
2. ジャッキレバーまたはマイナスドライバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。



⚠ 注意

カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。

3. ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。



1. ホイールレンチ
2. けん引フック

警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは

▼ 警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは

警告灯/表示灯が点灯、点滅した場合は、それぞれの方法で対処してください。警告灯/表示灯が消灯しない場合、または再度点灯、点滅する場合はマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

警告灯/表示灯が点灯、点滅した場合は、ただちに安全な場所に停車し適切な処置を行なう。
警告灯/表示灯の点灯、点滅を無視して運転を続けると、エンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

センターディスプレイやメーター内のマルチインフォメーションディスプレイで詳細を確認できる警告があります。

センターディスプレイで確認する

1. ホーム画面の“情報”を選択します。
2. “車両ステータスモニター”を選択します。
3. 確認したい警告を選択すると、警告の詳細が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイで確認する

1. ステアリングスイッチの INFO スイッチを押すと、メッセージ表示画面が表示されます。

▼ ブレーキ警告表示/警告灯



次のようなときは点灯し続けます。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

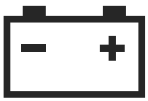
・ブレーキ液が不足しているとき。
・ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。
(M ハイブリッド車)
エンジンを始動させたとき、ブレーキ警告表示/表示灯が表示/点灯することがあります。その場合、安全な場所に停車し、ブレーキペダルから足を放してください。それでもブレーキ警告表示/表示灯が消えない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 充電警告表示/警告灯



エンジン回転中、充電装置に異常があると表示/点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

充電警告表示/警告灯が表示/点灯したまま走行しない。
エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ オイル警告表示/警告灯



エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下したときに表示/点灯します。

⚠ 注意

オイル警告表示/警告灯が表示/点灯したまま走行しないでください。エンジンオイルの量が不足している状態で走行すると、エンジン破損につながるおそれがあります。

走行中に、オイル警告表示/警告灯が表示/点灯したときは次の手順でエンジンオイルを確認してください。

1. 安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。
2. エンジンオイルがオイルパンに流れるのを、5 分間待ってください。
3. エンジンオイルの量を確認してください。→7-15 ページ「エンジンオイルの点検、補充」

エンジンオイルの量を点検し、不足しているときは補充してください。

エンジンオイルの量が不足していないのに表示/点灯するときや、補充しても消えないときは、マツダ販売店に連絡してください。

▼ 高水温警告表示



エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに表示します。

“エンジン水温が高くなっていますゆっくり走行してください”と表示されるとき

エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。必要に応じて安全な場所に停車し、エンジンを冷ましてください。

“エンジン水温が高くなっています安全な場所に停車してください”と表示されるとき

オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。
→8-21 ページ「処置方法」

⚠ 注意

高水温警告表示が表示したまま走行しないでください。エンジンが冷却されない状態で走行すると、エンジン破損につながるおそれがあります。

▼ 電動パワーステアリング警告表示



エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると表示/点灯します。
表示したときは安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
しばらく経ってエンジンを再始動したときに表示/点灯が消えた場合は問題ありません。
エンジンを再始動した後でも表示/点灯するときは、マツダ販売店に連絡してください。

知識

- 警告表示/警告灯が表示/点灯されたときは電動パワーステアリングは正常に作動しません。この場合、ハンドル操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。
- 停車中または低速走行時にハンドル操作を繰り返すと、システム保護のためハンドル操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ハンドル操作をしないでください。しばらくするともとにもどります。

▼ ABS 警告表示/警告灯



システムに異常があるときは点灯し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

ABS 警告灯が点灯しているとき、ABS は作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。

▼ マスター警告表示



システムに異常があると表示します。
センターディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイで表示理由を確認してください。
→8-26 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

▼ ブレーキコントロールシステム警告表示/警告灯



システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯



パーキングブレーキをかけているときに点灯し、解除すると消灯します。

点灯するとき

電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを解除しても点灯し続けるときは、システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。

表示/点滅するとき

システムに異常があるときに表示/点滅します。
電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを操作しても表示/点滅し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。

▼ ブレーキ･オーバーライド警告表示



アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んでいるときに表示されます。
周囲の安全を確認し、アクセルペダルを放して、ブレーキペダルのみを踏んでください。

▼ エンジン警告表示/警告灯



⚠ 警告

エンジン警告表示/警告灯が表示/点灯/点滅しているときにバッテリーケーブルをはずさない。
バッテリーケーブルを再接続するときにエンジンが損傷し、火災につながるおそれがあります。

エンジン回転中、エンジンに異常があると表示/点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。
エンジン警告表示/警告灯は次の異常が発生したときに、表示/点灯します。

- エンジンコントロールシステムに異常があるとき
- エミッションコントロールシステムに異常があるとき

・**(SKYACTIV-D 1.8 以外)**

・燃料残量が異常に少ないとき

エンジン警告表示/警告灯が表示/点灯/点滅し続けるときは 高速走行をせず、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

▼ i-stop 警告表示/警告灯 (橙)



システムに異常があるときは表示/点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ ガソリンパティキュレートフィルター警告表示/警告灯 (SKYACTIV-X 2.0)



“フィルター内にススが多く堆積しています警告灯が消えるまで走行してください”が表示される/点灯するとき

ガソリンパティキュレートフィルターで捕集した PM (Particulate Matter:粒子状物質) が規定量以上になると表示/点灯します。
PM を除去するために、エンジンが暖機された状態で警告灯が消えるまで走行してください。

“フィルター内のススの堆積量が異常です点検を受けてください” が表示される/点滅するとき

システムに異常があると表示/点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

ガソリンパティキュレートフィルター警告灯が点灯したまま走行を続けると、さらに PM が堆積し、ガソリンパティキュレートフィルター警告灯が点滅に変わることがあります。この場合はただちにマツダ販売店で点検を受けてください。点検を受けずにそのまま走行を続けると、エンジンの不調につながるおそれがあります。

▼ ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) 警告表示/警告灯 (SKYACTIV-D 1.8)



“フィルター内にススが多く堆積しています警告灯が消えるまで走行してください”が表示される/点灯するとき

PM (Particulate Matter:粒子状物質)の除去が自動で行なわれず、DPF で捕集した PM が規定量以上になると表示/点灯します。
PM を除去するために、完全暖機 (水温 80°C 以上) のときに、アクセルペダルを踏み 15 km/h 以上でおよそ 15 分から 20 分走行してください。

“フィルター内のススの堆積量が異常です点検を受けてください” が表示される/点滅するとき

システムに異常があると表示/点滅します。マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

DPF 警告灯が点灯したまま走行を続けると、さらに PM が堆積し、DPF 警告灯が点滅に変わることがあります。この場合はただちにマツダ販売店で点検を受けてください。点検を受けずにそのまま走行を続けると、エンジンの不調につながるおそれがあります。

知識

・DPF 警告灯が点滅しているときは、DPF を保護するために、エンジン出力は制限されます。
・走行中に自動で PM を除去しているとき、エンジン音や排気ガスの臭いが変化することがあります。

▼ オートマチックトランスミッション警告表示*

AT

システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 注意

オートマチックトランスミッション警告表示/警告灯が表示/点灯したまま走行しないでください。オートマチックトランスミッション警告表示/警告灯が表示/点灯したまま走行を続けると、トランスミッションが破損するおそれがあります。すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

▼ AWD 警告表示/警告灯*

AWD

“AWD システムが異常です 2WD で走行しています点検を受けてください”と表示される/点灯するとき

次のようなときに表示/点灯します。システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。

・AWD システムに異常があるとき

“AWD システム高負荷警告灯が消灯するまでゆっくり走行してください 2WD で走行しています”と表示される/点滅するとき

次のようなときに表示/点滅します。安全な場所に停車し、消灯したことを確認して発進してください。表示/点滅し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。

・ディファレンシャルオイルの温度が異常に高くなったとき
・ぬかるみから脱出しようとする場合など前後輪のタイヤに大きな回転差が生じたとき

“4 輪のタイヤサイズが一致しません 2WD で走行しています”と表示される/点灯するとき

次のようなときに表示/点灯します。すべてのタイヤサイズまたは、空気圧を点検してください。表示/警告灯が消えない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

・いずれかのタイヤサイズが異なるとき
・いずれかのタイヤ空気圧が異なるとき

▼ TCS/DSC 作動表示/表示灯



次のようなときは DSC、TCS、またはヒル・ローンチ・アシスト (HLA) の異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
・走行中に点灯したとき

▼ エアバッグ/フロントシートベルトプリテンショナー警告表示/警告灯



次のようなときはシステムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

・電源ポジションを ON にしても点灯しないとき
・表示/点灯/点滅し続けるとき

⚠ 警告

エアバッグ/フロントシートベルトプリテンショナー警告表示/警告灯が表示/点灯/点滅したまま走行しない。
衝突したときにエアバッグまたはシートベルトプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ KEY 警告表示/警告灯 (赤)



“キーレスシステムが異常です点検を受けてください”と表示された/点灯するとき

システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

同時にプッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅している場合は、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

“キーが見つかりません”と表示された/点灯するとき

次の場合に表示/点灯します。キーを作動範囲に入れてください。

・キーが作動範囲内にないときや車内でも感知しにくい場所に置いているとき
・電源ポジションを OFF にせずに、キーを車外に持ち出した後、すべてのドアを閉めたとき

▼ セキュリティ表示灯



運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合はエンジンを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。エンジンを停止すると、再度エンジンを始動できない場合があります。

エンジンが始動できないときは一度、電源ポジションを OFF にもどし、キーを作動範囲内の別の場所に置いて、再度エンジンを始動してください。
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯/点滅したままなど)、もう一度電源ポジションを OFF にもどし、しばらく待って再度エンジンを始動してください。

3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

イモビライザーシステムを修理するときはキーのコードを再登録する必要があります。お手持ちのすべてのキーを、マツダ販売店に持参してください。

▼ ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯 (橙)*



システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯 (橙)*



システムに異常があると表示/点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ i-ACTIVSENSE 警告表示/警告灯



i-ACTIVSENSE 関連システムに異常があると表示/点灯します。
異常の内容をマルチインフォメーションディスプレイ/センターディスプレイで確認してください。
→8-26 ページ「警告灯/表示灯が点灯、点滅したときは」

▼ エクステリアランプ警告表示/警告灯



エクステリアランプ (番号灯は含まない) に異常があると表示/点灯します。

⚠ 注意

エクステリアランプ に異常がある状態で走行しないでください。視界不良やブレーキ、方向指示器の合図ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ランプが点灯しない状態で走行すると、整備不良により法規に抵触するおそれがあります。

エクステリアランプ警告表示/警告灯が表示/点灯した場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

▼ 燃料残量警告表示/警告灯



電源ポジションが ON のとき、燃料タンク内の燃料残量が約 9 L、または走行可能距離が 50 km 以下になると表示/点灯します。表示/点灯したまま走行を続けて燃料残量が空に近づくと警告灯が点滅します。

知識

走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動するため、表示/点灯タイミングが変わる場合があります。

処置方法

燃料残量警告表示/警告灯が点灯した時点で、すみやかに燃料を補給してください。

▼ エンジンオイルレベル警告表示/警告灯



エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの下限付近になっているときに点灯します。

⚠ 注意

エンジンオイルレベル警告表示/警告灯が表示/点灯したまま使用を続けないでください。エンジンオイルの量が不足している状態で使用を続けると、エンジン破損につながるおそれがあります。

処置方法

エンジンオイルを 1 L 補給してください。
→7-15 ページ「エンジンオイルの点検、補充」

▼ シートベルト警告灯 (フロントシート)



点灯するとき

電源ポジションが ON のとき、運転席/助手席シートベルトを着用していないと点灯します。

点滅するとき

運転席/助手席シートベルトを着用しないまま約 20 km/h 以上になるとしばらくの間点滅します。

処置方法

シートベルトを着用してください。

▼ シートベルト警告灯 (リアシート) (赤)



電源ポジションが ON のとき、シートベルトを着用していないとしばらくの間点灯し、その後消灯します。また、着用していたシートベルトをはずすとしばらくの間点灯し、その後消灯します。

処置方法

シートベルトを着用してください。

▼ ウォッシャー液残量警告表示*

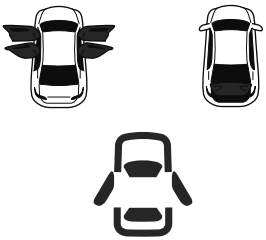


電源ポジションが ON のとき、ウォッシャー液が少なくなると表示/点灯します。

処置方法

ウォッシャー液を補充してください。

▼ 半ドア警告表示/リアゲート開警告表示/半ドア警告灯



いずれかのドア/リアゲートが確実に閉まっていないときに表示/点灯します。

処置方法

ドア/リアゲートを確実に閉めてください。

▼ KEY 表示灯 (緑) (点滅)



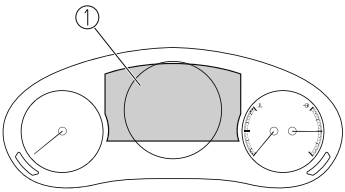
“キーの電池残量が少なくなっています電池を交換してください”と表示された/点滅するとき

キーの電池残量が少ないときに電源ポジションを OFF にすると、表示/点滅します。
キーの電池を交換してください。
→7-21 ページ「キーの電池を交換するときは」

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは

▼ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは

車両からお知らせがある場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。それぞれの内容を確認して処置してください。



1. マルチインフォメーションディスプレイ

警告灯/表示灯が同時に点灯/点滅したとき、またはシンボルが表示されたときは、警告灯/表示灯、またはシンボルの内容を確認してください。

表示*1*2	内容	処置方法
ブレーキペダルを踏んでください停止保持を継続できません	オートホールド機能による停車保持中にブレーキ関連システムが故障したときに表示	ブレーキペダルを踏んでください。 オートホールド機能の使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。
急勾配です停止保持のためブレーキを踏み続けてください	急勾配などでオートホールド機能による停車保持ができない可能性があるときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態にして足を放さないでください。
EPB を解除するにはブレーキペダルを踏みスイッチを操作してください	ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキ (EPB)スイッチを操作したときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態で電動パーキングブレーキ (EPB)スイッチを操作してください。
解除するにはブレーキペダルを踏みスイッチを操作してください	オートホールド機能による停車保持中にブレーキペダルを踏まずに解除操作をしたときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態でオートホールド機能を解除してください。
MRCC の作動を停止しました周囲の安全を確認して走行してください	運転者の操作以外で、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))が停止したときに表示	システムに異常が発生しています。 マツダ販売店で点検を受けてください。

表示*1*2	内容	処置方法
CTS の作動を停止しました周囲の安全を確認して走行してください	運転者の操作以外でクルージング&トラフィック･サポート (CTS)が停止したときに表示	システムに異常が発生しています。 マツダ販売店で点検を受けてください。
ディスタンス&スピード・アラートが作動を停止しました周囲の安全を確認して走行してください	運転者の操作以外で、ディスタンス&スピード･アラートが停止したときに表示	システムに異常が発生しています。 マツダ販売店で点検を受けてください。
クルーズコントロール作動を停止しました周囲の安全を確認して走行してください	運転者の操作以外で、クルーズコントロールが停止したときに表示	システムに異常が発生しています。 マツダ販売店で点検を受けてください。
自動ブレーキ作動停止保持のためブレーキペダルを踏んでください	スマート･ブレーキ･サポート(SBS)制御によるブレーキ作動後に、スマート･ブレーキ･サポート(SBS)停車制御が解除されたときに表示	ブレーキペダルを踏んでください。
キーでスタートボタンに触れてください	キーの電池残量が少ないときやキーが破損しているときに、エンジン始動操作をすると表示	キーの裏面でプッシュボタンスタートに触れた状態でエンジンを始動させてください。 →5-7 ページ「キーが電池切れしたときのエンジン始動」
始動時はブレーキを踏んでください	ブレーキペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押したときに表示	エンジンをかける時は、ブレーキペダルを踏んだ状態でプッシュボタンスタートを押してください。
始動時はクラッチを踏んでください	クラッチペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押したときに表示	エンジンをかける時は、クラッチペダルを踏んだ状態でプッシュボタンスタートを押してください。
ハンドルを左右に動かしながらスタートボタンを押してください	ハンドルロックが作動中しているときにハンドルを操作すると表示	ハンドルを左右に動かしながらプッシュボタンスタートを押してハンドルロックを解除してください。
セレクトレバーの位置を確認してください	前進中にセレクトレバーが P または R の位置になったときに表示	セレクトレバーの位置を確認してください。

表示*1*2	内容	処置方法
ドアを閉めてシートベルトを装着してください	オートホールド機能による停車保持中に運転席シートベルトはずした、または運転席ドアを開けたときに表示	運転席シートベルトを装着し、運転席ドアを閉めてください。
ワイパースイッチを操作する前に必ずワイパーを倒してください	ワイパーアームがサービスポジションにある状態で電源ポジションを ON にすると表示	ワイパーアームを初期位置に戻してください。
ワイパーの可動範囲が狭くなっています異物を取り除いてください	フロントガラスに雪やゴミなどでワイパの動作範囲が狭くなったときに表示	フロントガラスの雪やゴミを取り除いてください。
電源ポジションがOFF になっていません	電源ポジションが ACC のときに運転席ドアを開けると表示	電源ポジションを OFF にしてから運転席ドアを開けてください。
セレクトレバーが P に入っていません	セレクトレバーが P 以外の位置でプッシュボタンスタートを押して電源ポジションが ACC になると表示	セレクトレバーを P の位置にしてから電源ポジションを OFF にしてください。
AT 内部の温度が高くなっていますゆっくり走行してください	オートマチックトランスミッション内部の温度が高くなると表示	オートマチックトランスミッションに負荷をかけずにゆっくり走行してください。
AT 内部の温度が高くなっています安全な場所に停車してください	オートマチックトランスミッション内部の温度が異常に高くなると表示	安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。
電力消費が一定量を超過しましたエンジンを始動すると充電します	バッテリーの充電量が低くなると表示	バッテリーを充電させるため、エンジンをかけて、5 分以上エンジンを回転させてください。
エンジン浄化中です暖機のためにエンジン回転数を高くしています浄化が終われば自動で通常に戻ります	エンジン内部を浄化するため、エンジン回転数を上げているときに表示	エンジン内部の浄化中は、セレクトレバーが P または N の位置/チェンジレバーが N の位置のときにエンジン回転数が高くなります。エンジン回転数が高いときはエンジンを停止しないでください。エンジン内部の浄化が完了すると、エンジン回転数は通常の回転数になります。

表示*1*2	内容	処置方法
車から離れるときはセレクトレバーを P レンジに入れてください	M ハイブリッド車でセレクトレバーが P 以外の位置のときに運転席ドアを開けると表示	セレクトレバーを P の位置にしてから運転席ドアを開けてください。車から離れるときは電源ポジションを OFF にしてください。

*1　警告が発生したときに、自動で画面表示されます。
*2　1 つの画面に 4 行が表示されます。メッセージ全体を 1 つの画面に表示できない場合は、別の画面に切り替わります。

チャイムがなったときは

▼ ランプ消し忘れ防止チャイム

エクステリアランプが点灯しているときに、電源ポジションを OFF にして運転席ドアを開けるとチャイムが鳴ります。
ヘッドランプスイッチを操作して、エクステリアランプを消してください。

知識

ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更することができます。
→マツダコネクト取扱書 「車両装備」

▼ シートベルト着用忘れチャイム

運転席/助手席

シートベルトを着用していない状態で、車速が約 20 km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴り続けます。

後席

電源ポジションが ON のとき、装着していたシートベルトをはずすとチャイムが鳴ります。

シートベルトを着用してください。

▼ 電源オフ忘れ警告チャイム

電源ポジションが ACC のときに、運転席ドアを開けると車内のチャイムが鳴り続けます。
電源ポジションを OFF にしてください。

▼ キー車外持ち出し警報チャイム

アドバンストキーレス機能装備車

電源ポジションが ON または ACC の状態でキーを車外に持ち出すと、すべてのドアを閉めたときに車外のチャイムが 6 回鳴り、車内のチャイムが 1 回鳴ります。

アドバンストキーレス機能非装備車

電源ポジションが ON または ACC の状態でキーを車外に持ち出すと、すべてのドアを閉めたときに車内のチャイムが 1 回鳴ります。

キーを携帯したまま車外に出ていないかを確認、または電源ポジションを OFF にしてください。

▼ キー車内閉じ込み警報チャイム

電源ポジションが OFF でキーを車内に置いた状態のときに、ロック操作された運転席ドアと運転席以外の全ドアが閉まるとチャイムが鳴ります。
キーが車内に置いたままになっていないかを確認してください。

▼ ラゲッジルーム内キー閉じ込み警報チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)

電源ポジションが OFF でドアが施錠された状態で、キーをラゲッジルーム内に置いたままリアゲートを閉めると、チャイムが鳴ります。
ラゲッジルーム内にキーを置いてないかを確認してください。

▼ タッチセンサー不作動警告チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)

次の条件がすべてそろった場合に、チャイムが鳴ります。

・電源ポジションが OFF のとき
・全ドアが閉まっていないとき
・5 秒以内に 3 回ロック操作をしたとき

電源ポジションとドアの開閉状態を確認して、再度ロック操作をしてください。

▼ リアゲートロックスイッチ不作動警告チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)

次のいずれかの状態のときに、キーを携帯してリアゲートのロックスイッチを押すと、チャイムが鳴ります。

・電源ポジションが OFF 以外
・いずれかのドアが開いている
・リアゲートが自動作動中*

上記の状態になっていないことを確認して、再度ロックスイッチを押してください。

▼ パワーリアゲート警告チャイム

システムの異常や使用上の注意が必要なときに、警告チャイムでお知らせします。

警告チャイムの種類	お知らせ内容
パワーリアゲートを操作したときに、チャイムが 3 回鳴る	リアゲートに物が挟まっている事をお知らせしています。物が挟まっていないか確認して下さい。 物が何も挟まっていないのに鳴る場合はシステムの異常をお知らせしています。マツダ販売店で点検を受けて下さい。
走行中にチャイムが鳴り続ける	パワーリアゲートを開いたままで走行しています。パワーリアゲートが完全に閉じてから走行してください。

▼ 電動ハンドルロック警告チャイム

ハンドルがロックされた状態で、プッシュボタンスタートを押すとチャイムが鳴ります。
ハンドルロックを解除してください。

▼ ブレーキシステム警告チャイム (M ハイブリッド車)

ブレーキシステムに異常が発生し、ブレーキが意図通りに効かないおそれがある場合にチャイムが鳴ります。
周囲の安全を確認しながら減速し安全な場所に停車してください。
停車後にマツダ販売店に連絡してください。

▼ ブレーキ･オーバーライド警告チャイム

走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むとチャイムが鳴ります。
ブレーキペダルのみを踏んでください。

▼ 電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム

次のときにチャイムが鳴ります。

- パーキングブレーキをかけたまま走行しているとき
- 走行中に電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き、パーキングブレーキをかける操作をしたとき
- パーキングブレーキが自動解除できない状態で、車を発進させようとしたとき

パーキングブレーキの状態を確認してください。

▼ オートホールド警告チャイム

オートホールド機能に異常が発生しているときに、オートホールド機能を使用する、またはオートホールドスイッチを操作すると、約 5 秒間チャイムが鳴ります。
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されるのと同時にチャイムが鳴るときは、オートホールド機能の使用を中止し、マツダ販売店に連絡してください。

▼ 車両異常警告チャイム

次の異常が発生したとき、チャイムが鳴ります。

- オートマチックトランスミッション異常
- オートマチックトランスミッション内部の温度上昇
- M ハイブリッド異常
- ブレーキ液量低下
- エンジンオイルレベルセンサ異常
- 電動パーキングブレーキ (EPB) 異常
- エンジン油圧低下
- エンジン水温上昇
- エンジンシステム異常

センターディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイで警告表示内容を確認してください。

▼ シフトポジション警告チャイム (オートマチック車)

セレクトレバーが P 以外の位置でプッシュボタンスタートを押して電源ポジションが ACC になるとチャイムが鳴ります。
セレクトレバーの位置を確認してください。

▼ セレクトレバー戻し忘れ警告チャイム (M ハイブリッド車)

エンジンがかかっている時にセレクトレバーが P または N 以外の状態で運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り続けます。
セレクトレバーを P または N の位置する、または運転席ドアを閉めてください。

▼ i-stop 警告チャイム

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴ります。
運転席ドアを閉めてください。

▼ 燃料残量警告チャイム

燃料が少なくなり警告灯が点滅するのと同時にチャイムが鳴ります。
すみやかに燃料を補給してください。

▼ リバースポジション警告チャイム (オートマチック車)

電源ポジションが ON のとき、セレクトレバーを R の位置にするとチャイムが鳴ります。
セレクトレバーを R の位置以外にすると鳴り止みます。

▼ ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告チャイム

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯している側に方向指示器のレバーを操作するとチャイムが鳴ります。

車両後方の安全を確認してください。

▼ 前側方接近車両検知 (FCTA) 警報チャイム*

自車前方の左右から接近してくる車両と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴ります。

車両前方の安全を確認してください。

▼ 後側方接近車両検知 (RCTA) 警報チャイム

自車後方の左右から車両が接近している場合にチャイムが鳴ります。

車両後方の安全を確認してください。

▼ 車線逸脱警告チャイム

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときにチャイムが鳴ります。
車線から逸脱していないかを確認してください。

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール(MRCC) 警告チャイム (マニュアル車)*

使用上の注意が必要なときに、警告チャイムでお知らせします。

警告チャイムの種類	お知らせ内容
MRCC 作動中に、チャイムが 1 回鳴るとき	車速が 25 km/h 以下になるなどで、MRCC が解除されています。
MRCC 作動中に、チャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。

▼ マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))警告チャイム (オートマチック車)*

システムの異常や使用上の注意が必要なときに、警告チャイムでお知らせします。

警告チャイムの種類	お知らせ内容
MRCC 作動中に、チャイムが 1 回鳴るとき	システムに異常が発見されたなどで、MRCC (全車速追従機能付) が解除されています。マツダ販売店で点検を受けてください。
MRCC 作動中に、チャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。

▼ 速度超過警告チャイム

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ/マルチインフォメーションディスプレイに表示されている最高速度標識より自車の速度が超えるとディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に点滅し、同時にチャイムが鳴り続けます。
周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をして、法定速度内に減速してください。

▼ 衝突警報/接近警告チャイム

前方車や後方の障害物と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴ります。
前方車や後方の障害物に近づきすぎていないかを確認してください。必要に応じて、周囲の状況を確認しながらブレーキペダルを踏むなどの回避操作をしてください。

▼ AT 誤発進警告チャイム*

障害物と衝突する危険があり、アクセルペダルを踏み込んでいる間のみ鳴ります。
アクセルペダルを踏み間違えていないかを確認してください。

▼ 半ドア警告チャイム

半ドア状態で走行すると、チャイムが鳴ります。
ドア/リアゲートを閉めてから走行してください。

▼ バッテリー充電量低下チャイム

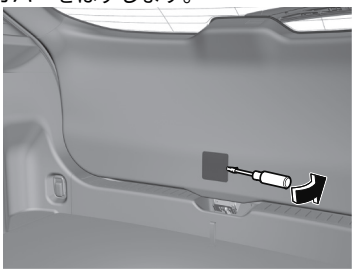
バッテリーの充電量が低くなるとチャイムが鳴ります。
バッテリーを充電させるため、エンジンをかけて、5 分以上エンジンを回転させてください。

リアゲートが開けられなくなったとき

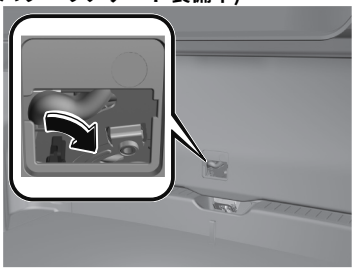
▼ リアゲートが開けられなくなったとき

バッテリーがあがると、リアゲートの解錠ができず開けられなくなります。
この場合は、バッテリーあがりの対処をすることでリアゲートの解錠ができるようになります。
→8-17 ページ「処置方法」
バッテリーあがりの対処をしてもリアゲートの解錠ができない場合は、電気系統の故障が考えられます。
この場合は、応急処置として次の手順でリアゲートを開けることができます。

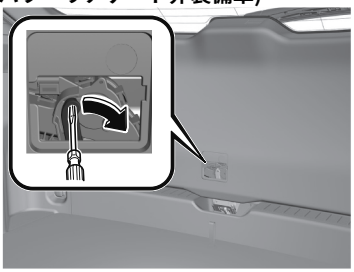
1. リアシートを倒します。
   →2-10 ページ「荷室を作るとき」
2. カバーをはずします。



3. レバーを右側に動かして解錠します。
   (パワーリアゲート装備車)



(パワーリアゲート非装備車)



応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき

▼ アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないときは電源ポジションを OFF にして、再度エンジンを始動させてください。エンジンを始動させても作動しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

フロントワイパーが高速作動するとき

▼ フロントワイパーが高速作動するとき

ワイパーの制御に異常があると、フロントワイパーが高速作動する場合があります。ワイパースイッチの操作にかかわらずフロントワイパーが高速作動するときはマツダ販売店で点検を受けてください。

万一事故が起きたときは

▼ 事故が起きたときの処置方法

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所 (路肩、空き地など) に車を移動させ、エンジンを止めます。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡

知識

事故が起きたら
軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

MEMO

9 カスタマーインフォメーション

車に関する情報について

カスタマーインフォメーション 9-2
お車の点検について.....9-2
携帯電話の使用について.....9-2
EDR (イベントデータレコーダー)について.....9-3
車両データの記録について .....
..... 9-3

お車の点検について

▼ 床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する

安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。
異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。
そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

・普段と違う音や臭い、振動がするとき。
・ハンドル操作に異常を感じるとき。
・ブレーキ液が不足しているとき。
・車の下に油のあとが残っているとき。

携帯電話の使用について

▼ 運転中は携帯電話を使用しない

運転しながらハンズフリー以外の携帯電話やスマートフォンを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

EDR (イベントデータレコーダー) について

▼ EDR (イベントデータレコーダー) について

本車両は、SRS エアバッグ制御のためのコンピューターを搭載しています。
そのコンピューターは、SRS エアバッグシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、データを記録・蓄積する EDR を装備しています。

記録するデータ

EDR は次のような情報を記録します。

- 車速
- 運転席乗員のシートベルト装着有無
- 助手席乗員のシートベルト装着有無
- エアバッグ作動に関する情報 (加速度波形など)
- エアバッグシステムの故障診断情報

知識

EDR は会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

マツダおよびマツダの委託先は、EDR に記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両データの記録について

▼ 車両データの記録について

本車両は、車両の制御や操作、その他の走行環境に関する主要なデータを記録するコンピューターを装備しています。

記録されるデータ

- エンジン回転数や車速など、車両の状態
- アクセル/ブレーキなどの運転状態・車両走行時の環境情報
- 各車載コンピューターの故障診断情報
- その他、各車載コンピューターの制御に関する情報

知識

記録されるデータの項目は、車両のグレードやオプション装備の種類により異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

マツダおよびマツダの委託先は、コンピューターに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意 (リース車は貸借主の同意) がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

MEMO

10 車両スペック

車両スペック..... 10-2
車両スペック..... 10-2
各部の点検値、交換時期..... 10-11

車両スペック

▼ バッテリー

項目		サービスデータ
型式*1	SKYACTIV-G 2.0	Q-85*2
	SKYACTIV-X 2.0	55D23L、60Ah (20 時間率)
	SKYACTIV-D 1.8	S-95*2

*1 車両に取り付けられたバッテリーを確認の上、同等以上の性能のバッテリーを使用してください。ただし、同一型式の中でも性能が異なる場合がありますので、交換する際はマツダ販売店にご相談ください。
*2 Q-85、S-95 はアイドリングストップ車用です。アイドリングストップシステムを正しく作動させるために、Q-85、S-95 を使用してください。
マツダ純正バッテリーの使用を推奨します。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

▼ スパークプラグ (SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-X 2.0)

項目			サービスデータ
型式	SKYACTIV-G 2.0	NGK	ILKAR7L11*1
		DENSO	ZC20HPR11*1
	SKYACTIV-X 2.0	NGK	ILZKAR8N6S*2

*1 SKYACTIV-G の最適な性能を発揮するためのスパークプラグです。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
*2 SKYACTIV-X 2.0 は高圧縮比エンジンのため、ピストンとプラグが近接しています。正しい手順で交換しない場合や純正品以外のプラグを使用した場合、エンジンが破損するおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

イリジウムプラグを使用しておりますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

▼ 燃料

使用燃料については、3-23 ページ「給油するとき」もあわせてお読みください。

項目		サービスデータ
使用燃料	SKYACTIV-G 2.0	無鉛レギュラーガソリン
	SKYACTIV-X 2.0	無鉛プレミアム (無鉛ハイオク) ガソリン
	SKYACTIV-D 1.8	低硫黄軽油
タンク容量 (参考値)	2WD 車	51 L
	AWD 車	48 L

▼ ディーゼル車の使用燃料について

ディーゼル車の使用燃料 (軽油) は、外気温が低くなると凍結し、燃料パイプが詰まってエンジンの始動ができなくなるなど故障の原因になります。
寒冷地域に移動するときは、現地に着くまでに燃料の残量が 1/2 以下になるようにしておき、到着後はできるだけ早く寒冷地用の燃料を補給してください。

知識

フェリーを利用して寒冷地域に移動するときは、到着後すぐに寒冷地用の燃料を補給できるよう、乗船前の燃料の残量を 1/2 以下にしておいてください。

軽油の種類	使用限界の目安温度*1
JIS 特 1 号	+5°C
JIS1 号	−2.5°C
JIS2 号	−7.5°C
JIS3 号	−20°C
JIS 特 3 号	−30°C

*1　使用条件や環境により多少異なります。

▼ フューエルフィルター (SKYACTIV-D 1.8)

項目	サービスデータ
交換時期	60,000 km 走行ごと

▼ エンジンオイル

オイル量の確認は、必ずレベルゲージで行なってください。
交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。
寒冷地では、エンジンオイルが劣化しやすいので、早めにオイルを交換してください。

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">サービスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">交換時期</td><td colspan="2" rowspan="2">SKYACTIV-G 2.0、
SKYACTIV-X 2.0</td><td>標準</td><td>15,000 km
または 1 年ごと</td></tr>
<tr><td>シビアコンディション*1</td><td>7,500 km
または 6 か月ごと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">SKYACTIV-D 1.8</td><td>標準</td><td>10,000 km
または 1 年ごと</td></tr>
<tr><td>シビアコンディション*1</td><td>5,000 km
または 6 か月ごと</td></tr>
<tr><td rowspan="8">オイルグレード</td><td rowspan="2">SKYACTIV-G 2.0</td><td>純正モーターオイルゴールデン ECO SN*3</td><td colspan="2">API SN/ILSAC GF-5、
SAE 0W-20</td></tr>
<tr><td>純正モーターオイルゴールデン SN</td><td colspan="2">API SN/ILSAC GF-5、
SAE 5W-30</td></tr>
<tr><td rowspan="3">SKYACTIV-X 2.0</td><td>純正モーターオイルゴールデン ECO 7*4</td><td colspan="2">SAE 0W-20</td></tr>
<tr><td>純正モーターオイルゴールデン ECO SN</td><td colspan="2">API SN/ILSAC GF-5、
SAE 0W-20</td></tr>
<tr><td>純正モーターオイルゴールデンターボ</td><td colspan="2">SAE 5W-30</td></tr>
<tr><td rowspan="3">SKYACTIV-D 1.8*2</td><td rowspan="2">純正ディーゼルオイルエクストラ
SKYACTIV-D*5</td><td colspan="2">SAE 0W-20</td></tr>
<tr><td colspan="2">SAE 0W-30</td></tr>
<tr><td>純正ディーゼルオイルエクストラ DL-1</td><td colspan="2">JASO DL-1、SAE 5W-30</td></tr>
</table>

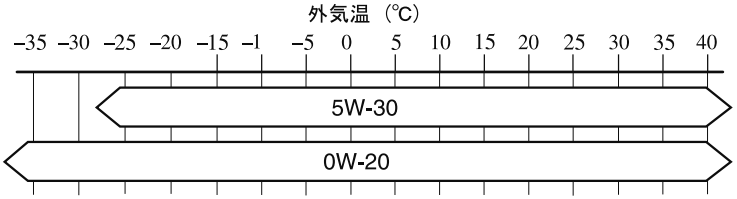
項目			サービスデータ
交換量(参考値)	SKYACTIV-G 2.0	オイルのみ	4.0 L
		オイルとオイルフィルター	4.2 L
	SKYACTIV-X 2.0	オイルのみ	4.4 L
		オイルとオイルフィルター	4.6 L
	SKYACTIV-D 1.8	オイルのみ	4.7 L
		オイルとオイルフィルター	5.1 L

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。
*2 表に記載されたエンジンオイルを使用してください。表に記載されていないエンジンオイルを使用すると、ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) の劣化が早くなります。
*3 純正モーターオイルゴールデン ECO SN は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-G 2.0 には、純正モーターオイルゴールデン ECO SN の使用を推奨します。
*4 純正モーターオイルゴールデン ECO 7 は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-X 2.0 には、純正モーターオイルゴールデン ECO 7 の使用を推奨します。
*5 純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D (0W-20) は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-D 1.8 には、純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D (0W-20) の使用を推奨します。

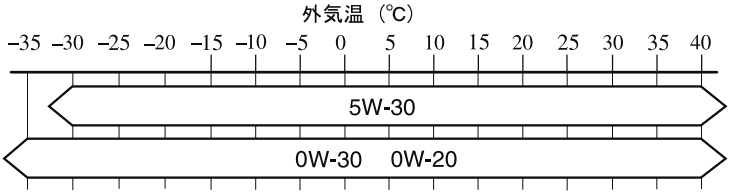
使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表に基づき使用してください。

SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-X 2.0



SKYACTIV-D 1.8



▼ エンジンオイルフィルター

項目		サービスデータ	
交換時期	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-X 2.0	標準	15,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション*1	7,500 km または 6 か月ごと
	SKYACTIV-D 1.8	標準	10,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション*1	5,000 km または 6 か月ごと

*1　シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

▼ 冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目				サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント			2 年ごと (初回は 3 年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1			100,000 km 走行または 4 年ごと (初回は 180,000 km 走行または 9 年)
推奨液				純正ロングライフクーラント、純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 2.0	マニュアルトランスミッション		6.2 L
		オートマチックトランスミッション		6.4 L
	SKYACTIV-X 2.0	エンジン	マニュアルトランスミッション	6.9 L
			オートマチックトランスミッション	7.0 L
		水冷式インタークーラー		1.6 L
	SKYACTIV-D 1.8	エンジン		7.0 L
		水冷式インタークーラー		1.6 L

*1　ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

▼ マニュアルトランスミッションオイル

項目			サービスデータ
推奨オイル			マツダロングライフギヤオイル G7
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 2.0		1.70 L
	SKYACTIV-X 2.0	2WD	1.65 L
		AWD	1.70 L

▼ オートマチックトランスミッションフルード

項目		サービスデータ
推奨フルード	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-D 1.8	純正 ATF FZ
	SKYACTIV-X 2.0	純正 ATF A7
容量 (参考値)		7.6 L

▼ ディファレンシャルオイル (AWD 車)

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	無交換
	シビアコンディション*1	60,000 km 走行ごと
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1	
容量 (参考値)	0.35 L	

*1　シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

▼ トランスファーオイル (AWD 車)

項目	サービスデータ
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1
容量 (参考値)	0.35 L

▼ ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2 年ごと (初回は 3 年)
推奨液	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)、 純正ブレーキフルード B7 (DOT-3)

▼ ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

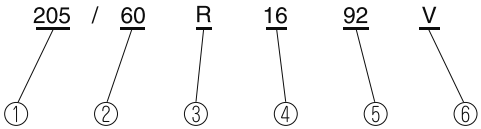
項目		サービスデータ
タンク容量 (参考値)	2WD 車	2.2 L
	AWD 車	4.2 L

▼ 電球 (バルブ) について

この車両に装備されている電球は、すべて LED タイプです。
LED タイプの電球は交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

▼ タイヤ/ホイールサイズ

タイヤサイズ表示 (一例) の見方



1. タイヤ幅の呼称 (mm)
2. 偏平率 (%)
3. ラジアル構造
4. リム径の呼称 (インチ)
5. ロードインデックス (LI)
6. 速度記号

速度記号の見方

次の速度記号情報で、車両の適切なタイヤを選んでください。

速度記号	最高速度
L	120 km/h まで
N	140 km/h まで

速度記号	最高速度
Q	160 km/h まで
R	170 km/h まで
S	180 km/h まで
T	190 km/h まで
U	200 km/h まで
H	210 km/h まで
V	240 km/h まで
W	270 km/h まで

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル直径
215/65R16 98H	16×6-1/2J	45.0 mm	114.3 mm
215/55R18 95H	18×7J		

▼ タイヤ空気圧

標準タイヤ

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
→7-22 ページ「タイヤの点検」

タイヤサイズ	タイヤ空気圧	
	前輪	後輪
215/65R16 98H	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)
215/55R18 95H	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)

▼ ホイールナットの締め付けトルク

タイヤを取り付けるときは、次のトルクでホイールナットを締め付けてください。
108 N·m～147 N·m (12 kgf·m～14 kgf·m)

▼ ヒューズ

→7-25 ページ「室内ヒューズボックス」
→7-27 ページ「エンジンルーム内ヒューズボックス」

▼ ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

各部の点検値、交換時期

▼ ブレーキペダル

項目		サービスデータ
遊び	SKYACTIV-G 2.0 SKYACTIV-D 1.8	5 mm 以下
	SKYACTIV-X 2.0	3 mm 以下
フロアマットとのすき間 (踏力 147 N {15 kgf})	SKYACTIV-G 2.0 SKYACTIV-D 1.8	62.3 mm 以上
	SKYACTIV-X 2.0	65.6 mm 以上

▼ クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び (クラッチ油圧が立ち上がるまでのストローク)	10 mm 以下
フロアマットとのすき間 (クラッチが切れたとき)	48.5 mm 以上

▼ 補機ベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度を超えているものは交換)

▼ エアクリーナーエレメント

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	50,000 km 走行ごと
	シビアコンディション*1	25,000 km 走行ごと

*1　シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

MEMO

11 さくいん

A

AAS モード.....5-43
ABS (アンチロックブレーキシステム).....5-72
AT 誤発進警告チャイム..... 8-41
AT 誤発進抑制制御 [後退時]..... 5-153
AT 誤発進抑制制御 [前進時]..... 5-149

D

DPF (ディーゼルパティキュレートフィルター)..... 5-196
DSC (ダイナミックスタビリティコントロール)..... 5-74
TCS/DSC 作動表示灯.....5-75

I

i-ACTIVSENSE..... 5-80
AT 誤発進抑制制御 [後退時].....5-153
AT 誤発進抑制制御 [前進時].....5-149
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....5-85
クルージング&トラフィック･サポート (CTS)..... 5-125
後側方接近車両検知 (RCTA)..... 5-106
交通標識認識システム (TSR).....5-94
360°ビュー･モニター.....5-155
車線逸脱警報システム..... 5-87
スマート･ブレーキ･サポート (SBS).. 5-141
スマート･ブレーキ･サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC).....5-146
スマート･ブレーキ･サポート[後進時] (SBS-R)..... 5-143
前側方接近車両検知 (FCTA)..... 5-104
ディスタンス & スピード･アラート...5-100
ドライバー･アテンション･アラート (DAA).....5-101
ドライバー･モニタリング.....5-102
ドライバー･モニタリングカメラ..... 5-191
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)..... 5-84
フォワードセンシングカメラ (FSC)...5-183
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ 5-191
フロントサイドレーダーセンサー.....5-188
フロント超音波センサー.....5-190
フロントレーダーセンサー.....5-186
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)..... 5-90
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC).....5-109
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))..... 5-116
リアサイドレーダーセンサー..... 5-189
リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサー..... 5-190
レーンキープ･アシスト･システム (LAS)..... 5-138
i-ACTIVSENSE スイッチ.....5-83
i-ACTIV AWD.....5-79
i-stop 警告チャイム.....8-40
i-stop (アイストップ)..... 5-9
i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑)... 5-12
i-stop OFF スイッチ..... 5-13
発進補助装置.....5-13

M

M ハイブリッド..... 5-36

S

SRS エアバッグシステム..... 2-30
エアバッグの注意点..... 2-31

T

TCS (トラクションコントロールシステム)..... 5-73
TCS OFF スイッチ..... 5-73
TCS OFF 表示灯.....5-73
TCS/DSC 作動表示灯.....5-73

あ

アイドリングストップ.....5-9
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ... 5-34
アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき..... 8-43
アクティブセーフティ技術..... 5-80
アシストグリップ..... 6-32
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).... 5-85
アドバンストキー
エンジンをかけるとき..... 5-5
アルミホイール
手入れ.....7-34
アンチロックブレーキシステム (ABS).....5-72

い

イグニッション (エンジン)
スイッチ....5-4
イモビライザーシステム....3-33
イルミネーテッドエントリーシステム....6-29
インテリアライト (室内照明)....6-27
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)....5-32
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) ランプ....5-32
インナーミラー (ルームミラー)....3-27

う

ウインカー (方向指示器)
レバー....5-55
ウインドー
曇ったとき (フルオートエアコン)....6-7
手入れ....7-34
パワーウインドー....3-29
リアウインドーデフォッガー (曇り取り)
スイッチ....5-60
ウインドーワイパーデアイサー....5-61
ウォッシャー
ウォッシャー液の補充....7-16
タンク容量....10-8
冬に備えて (濃度の調節)....7-37
フロント....5-58
リア....5-59

え

エアクリーナーエレメント
交換時期....10-11
エアコン (空調)....6-2
上手な使いかた....6-2
吹き出し口 (空調)....6-3
フルオートエアコン....6-5
エアバッグシステム....2-30
エアバッグの注意点....2-31
エマージェンシーシグナルシステム (ESS)....5-70
エンジン
かけかた....5-5
きるとき....5-8
始動しないとき....8-20
スイッチ....5-4
エンジンオイル
交換時期、オイルグレード、交換量....10-4
点検....7-15
フィルター....10-6
冬に備えて....7-37
エンジンフード (ボンネット)
開けかた....7-5
閉めかた....7-6
エンスト
故障したとき....8-4
エンスト (故障したとき)....8-4

お

オートホールド....5-66
オートホールド警告チャイム....8-39
オートマチックトランスミッション
AAS モード....5-43
運転するときに....5-48
キックダウン....5-42
クリープ現象....5-42
シフトロック装置....5-44
セレクトレバー....5-43
ダイレクトモード....5-48
駐車するとき....5-48
マニュアルモード....5-44
オートマチックトランスミッションフルード
推奨フルード、容量....10-7
オーバーヒートしたとき....8-21
オーバーヘッドコンソール....6-33
大型コンソールボックス....6-33
お子さまの安全
お子さま専用シート選択の目安....2-25
お子さま専用シートについて....2-22
お子さま専用シートの種類....2-23
チャイルドシートを固定するとき....2-28
チャイルドプルーフ....3-14
ロアアンカレッジ....2-28
オフロード・トラクション・アシスト....5-75
オフロード・トラクション・アシストスイッチ....5-76
オフロード・トラクション・アシスト表示灯....5-76

か

カップホルダー....6-30
カミング・ホーム・ライト....5-53
カメラ、センサー....5-80
ガソリンパティキュレートフィルター....5-195
ガソリン (燃料)
使用燃料、容量....10-3
燃料補給口....3-23
ガラス

曇ったとき (フルオートエアコン).....6-7
手入れ.....7-34
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....5-60

き

キー.....3-2
キーの電池交換.....7-21
作動しないとき.....8-22
キー車外持ち出し警告チャイム.....8-38
キー車内閉じ込み警告チャイム.....8-38
キー (アドバンストキーレス機能装備車)
作動範囲.....3-6
ドアの施錠/解錠.....3-9
キー (アドバンストキーレス機能非装備車)
作動範囲.....3-5
ドアの施錠/解錠.....3-11
キックダウン.....5-42
ギア・シフト・インジケーター (GSI).....5-40

く

空気圧 (タイヤ).....10-9
空調 (エアコン).....6-2
吹き出し口 (空調).....6-3
フルオートエアコン.....6-5
曇り取り (デフォッガー) スイッチ.....5-60
クラクション (ホーン).....5-62
クラッチスタート.....5-5
クラッチペダル
点検基準値.....10-11
クリープ現象.....5-42
クルージング&トラフィック・サポート (CTS).....5-125
クルーズコントロール.....5-192
グローブボックス.....6-33

け

警報・リスク回避支援表示.....5-82
警告灯
i-stop 警告灯.....5-12
警告灯が点灯、点滅したときは.....8-26
化粧鏡 (バニティミラー).....6-26
けん引について.....8-23

こ

コインボックス.....6-33
交換
タイヤの位置交換 (タイヤローテーション).....7-23
電球 (バルブ) 交換.....7-32
電池交換 (キー).....7-21
ヒューズの交換.....7-31
工具.....8-6
後側方接近車両検知 (RCTA).....5-106
後側方接近車両検知 (RCTA) 警報チャイム.....8-40
交通標識認識システム (TSR).....5-94
コンソールボックス.....6-33

さ

サイドミラー (ドアミラー).....3-26
サブトランクボックス.....6-34
サンバイザー.....6-26
360°ビュー・モニター.....5-155
サイドビュー.....5-169
使用するとき.....5-161
トップビュー/フロントビュー.....5-164
トップビュー/リアビュー.....5-171
トップビュー/リアワイドビュー.....5-176
フロントワイドビュー.....5-167
サンルーフ.....3-31

し

シート
フロントシート.....2-3
ヘッドレスト.....2-12
シートヒーター.....2-14
シートベルト
ELR (緊急時固定) 機構.....2-18
警告システム.....2-20
シートベルトについて.....2-17
種類.....2-18
高さ調節.....2-20
手入れ.....7-35
シートベルト表示灯 (リアシート) (緑).....2-20
プリテンショナー機構.....2-21
ロードリミッター機構.....2-21
シートベルト着用忘れチャイム.....8-38
室内照明.....6-27
イルミネーテッドエントリーシステム.....6-29
マップランプ.....6-27
ラゲッジルームランプ.....6-27
ルームランプ.....6-27
室内灯 (ルームランプ)

スイッチ.....6-27
シフトポジション警告チャイム.....8-39
車線逸脱警告チャイム.....8-40
車線逸脱警報システム.....5-87
車幅灯 (スモールランプ)
スイッチ.....5-51
車両異常警告チャイム.....8-39
収納.....6-33
オーバーヘッドコンソール.....6-33
大型コンソールボックス.....6-33
グローブボックス.....6-33
コインボックス.....6-33
コンソールボックス.....6-33
サブトランクボックス.....6-34
ラゲッジルーム.....6-34
衝突警報/接近警告チャイム.....8-41
ジャッキ.....8-7

す

スイッチ
i-stop OFF スイッチ.....5-13
TCS OFF スイッチ.....5-73
i-stop OFF スイッチ.....5-13
オフロード･トラクション･アシストスイッチ.....5-76
ドライブセレクションスイッチ.....5-77
非常点滅灯スイッチ.....5-62
フロントウォッシャースイッチ.....5-58
フロントワイパースイッチ.....5-57
ヘッドランプウォッシャースイッチ.....5-60
ヘッドランプスイッチ.....5-51
リアウォッシャースイッチ.....5-59
リアフォグランプスイッチ.....5-55
リアワイパースイッチ.....5-59
ルームランプスイッチ.....6-27
スタックしたとき.....8-4
ステアリングヒーター.....2-15
ステアリング (ハンドル)
ロックされたとき.....5-4
スノータイヤ.....7-37
スパークプラグ.....10-2
スマート･ブレーキ･サポート (SBS).....5-141
スマート･ブレーキ･サポート[後進時左右接近物] (SBS-RC).....5-146
スマート･ブレーキ･サポート[後進時] (SBS-R).....5-143
スモールランプ (車幅灯)
スイッチ.....5-51
スリーフラッシュターンシグナル.....5-56

せ

セレクトレバー.....5-43
セレクトレバー戻し忘れ警告チャイム.....8-39
洗車.....7-33
前照灯 (ヘッドランプ)
スイッチ.....5-51
前側方接近車両検知 (FCTA).....5-104
前側方接近車両検知 (FCTA) 警報チャイム.....8-40

そ

速度超過警告チャイム.....8-41

た

ターンシグナル (方向指示器)
レバー.....5-55
タイヤ
空気圧.....10-9
サイズ.....10-8
チェーン.....7-37
点検.....7-22
パンク応急修理キット.....8-11
冬に備えて.....7-37
ローテーション (位置交換).....7-23
タッチセンサー不作動警告チャイム.....8-38
ダイナミックスタビリティコントロール (DSC).....5-74
TCS/DSC 作動表示灯.....5-75
ダイレクトモード.....5-48
脱輪などで動けなくなったとき.....8-4

ち

チェーン (タイヤチェーン).....7-37
チャイムがなったときは
AT 誤発進警告チャイム.....8-41
i-stop 警告チャイム.....8-40
オートホールド警告チャイム.....8-39
キー車外持ち出し警告チャイム.....8-38
キー車内閉じ込み警告チャイム.....8-38
後側方接近車両検知 (RCTA) 警報チャイム.....8-40
シートベルト着用忘れチャイム.....8-38
シフトポジション警告チャイム.....8-39
車線逸脱警告チャイム.....8-40
車両異常警告チャイム.....8-39
衝突警報/接近警告チャイム.....8-41

セレクトレバー戻し忘れ警告チャイム 8-39
前側方接近車両検知 (FCTA) 警報チャイム 8-40
速度超過警告チャイム..... 8-41
タッチセンサー不作動警告チャイム... 8-38
電源オフ忘れ警告チャイム..... 8-38
電動ハンドルロック警告チャイム.....8-39
電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム..... 8-39
燃料残量警告チャイム..... 8-40
半ドア警告チャイム..... 8-41
バッテリー充電量低下チャイム..... 8-41
パワーリアゲートチャイム..... 8-38
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 警告チャイム.....8-40
ブレーキ・オーバーライド警告チャイム 8-39
ブレーキシステム警告チャイム..... 8-39
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))警告チャイム..... 8-40
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警告チャイム.....8-40
ラゲッジルーム内キー閉じ込み警告チャイム..... 8-38
ランプ消し忘れ防止チャイム.....8-38
リアゲートロックスイッチ不作動警告チャイム..... 8-38
リバースポジション警告チャイム.....8-40
チャイルドシート.....2-22
お子さま専用シート選択の目安.....2-25
お子さま専用シートの種類.....2-23
チャイルドシートを固定するとき.....2-28
ロアアンカレッジ.....2-28
チャイルドプルーフ..... 3-14
駐車支援システム
パーキングセンサー.....5-205
駐車するとき
オートマチック車..... 5-48
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)
操作方法.....5-63

て

テールランプ (尾灯)
スイッチ.....5-51
定期点検..... 7-5
手入れ
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 7-36
アルミホイール..... 7-34
インストルメントパネル上面..... 7-36
革張り部分..... 7-35
外装..... 7-33
外装樹脂部品.....7-34
ガラス.....7-34
シートベルト.....7-35
樹脂部品..... 7-36
洗車..... 7-33
ソフトパッド部..... 7-36
内装..... 7-35
布張り部分..... 7-35
パネル.....7-36
ビニール..... 7-35
フロントガラスの油膜を取るときは... 7-34
ミラー.....7-34
ワックスがけ.....7-34
点検整備について.....7-4
デイタイムランニングランプ..... 5-54
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF)..... 5-196
ディーゼル (燃料)
使用燃料、容量.....10-3
ディスタンス & スピード・アラート.....5-100
ディファレンシャルオイル
推奨オイル、容量..... 10-7
電球
電球 (バルブ) 交換.....7-32
電源オフ忘れ警告チャイム.....8-38
電源ソケット..... 6-29
電源ポジション..... 5-4
電動スライドガラスサンルーフ..... 3-31
電動ハンドルロック警告チャイム.....8-39
電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム 8-39

と

盗難防止システム
イモビライザーシステム.....3-33
トノカバー.....3-22
トラクションコントロールシステム (TCS)..... 5-73
TCS/DSC 作動表示灯.....5-73
トランスファーオイル
推奨オイル、容量..... 10-7
トランスミッション
マニュアル.....5-40
ドア
チャイルドプルーフ..... 3-14
ドアミラー..... 3-26

ドアミラー.....3-26
曇り取り.....5-61
ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....5-101
ドライバー・モニタリング.....5-102
ドライバー・モニタリングカメラ.....5-191
ドライビングポジションメモリー機能.....2-7
ドライブセレクション.....5-77

な

夏に備えて.....7-38
ナンバープレートランプ (番号灯)
スイッチ.....5-51

に

荷室を作るとき.....2-10
日常点検.....7-7

ね

燃料
給油するとき.....3-23
使用燃料、容量.....10-3
燃料切れしたとき.....8-20
燃料残量警告チャイム.....8-40

は

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC).....5-84
ハイビーム (ヘッドランプ上向き)
切り替え.....5-53
ハザードランプ (非常点滅灯)
スイッチ.....5-62
発炎筒.....8-6
発進補助装置.....5-13
半ドア警告チャイム.....8-41
バックガイドモニター.....5-197
バックミラー (ルームミラー).....3-27
バッテリー
あがったとき.....8-17
型式、容量.....10-2
点検.....7-20
冬に備えて.....7-37
バッテリー充電量低下チャイム.....8-41
バニティミラー (化粧鏡).....6-26
バルブ (電球)
電球 (バルブ) 交換.....7-32
番号灯 (ナンバープレートランプ)
スイッチ.....5-51
パーキングブレーキ
操作方法.....5-63
パッシング合図.....5-53
パワーウインドー.....3-29
パワーリアゲート.....3-17
パワーリアゲートチャイム.....8-38

ひ

非常点滅灯
スイッチ.....5-62
ヒューズ.....7-25
エンジンルーム内ヒューズボックス.....7-27
室内ヒューズボックス.....7-25
ヒューズ点検、交換.....7-31
表示
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....5-34
アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき.....8-43
メーター.....5-15
表示灯
i-stop 表示灯.....5-12
TCS OFF 表示灯.....5-73
TCS/DSC 作動表示灯.....5-73
オフロード・トラクション・アシスト表示灯.....5-76
表示灯が点灯、点滅したときは.....8-26
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA).....5-70
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) (坂道発進補助機能).....5-70
尾灯 (テールランプ)
スイッチ.....5-51

ふ

フォグランプ
リア.....5-55
フォワードセンシングカメラ (FSC).....5-183
吹き出し口 (空調).....6-3
踏切内で動けなくなったとき.....8-4
冬に備えて.....7-37
冬用タイヤ (スノータイヤ).....7-37
フロントウォッシャー.....5-58
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ.....5-191
フロントサイドレーダーセンサー.....5-188
フロントシート.....2-3
フロント超音波センサー.....5-190
フロントレーダーセンサー.....5-186

フロントワイパー.....5-57
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM).....5-90
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 警告チャイム.....8-40
ブレーキ
　ブレーキ・オーバーライド・システム... 5-65
ブレーキ・オーバーライド・システム..... 5-65
ブレーキ・オーバーライド警告チャイム.... 8-39
ブレーキ液 (フルード)
　交換時期、推奨液..... 10-8
ブレーキシステム警告チャイム..... 8-39
ブレーキペダル
　点検基準値..... 10-11
プリクラッシュセーフティ技術.....5-80

へ

ヘッドランプウォッシャー.....5-60
ヘッドランプ (前照灯)
　切り替え.....5-53
　スイッチ.....5-51
　デイタイムランニングランプ.....5-54
　パッシング合図.....5-53
　レベリング..... 5-54
ヘッドレスト..... 2-12

ほ

ホーン..... 5-62
ホイール
　サイズ.....10-8
　手入れ.....7-34
方向指示器
　レバー.....5-55
補機ベルト
　点検基準値..... 10-11
ボトルホルダー..... 6-31
ボンネット.....7-5

ま

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)..... 5-109
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))警告チャイム.....8-40
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))..... 5-116
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警告チャイム..... 8-40
マツダコネクト..... 6-9
　マツダコネクトの基本操作..... 6-13
　マツダコネクトをご使用の前に..... 6-21
マップランプ..... 6-27
マニュアルトランスミッション..... 5-40
　ギア・シフト・インジケーター (GSI)..... 5-40
マニュアルトランスミッションオイル..... 10-7
　推奨オイル、容量..... 10-7
マニュアルモード..... 5-44

み

ミラー
　手入れ.....7-34
　ドアミラー..... 3-26
　バニティミラー..... 6-26
　ルームミラー.....3-27

め

メーター..... 5-15
　i-ACTIVSENSE 表示.....5-22
　インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....5-32
　オドメーター.....5-19
　回生ブレーキ充電表示..... 5-22
　外気温表示..... 5-21
　警告灯が点灯、点滅したときは.....8-26
　警告表示/警告灯.....5-24
　瞬間燃費表示.....5-22
　水温計.....5-19
　スピードメーター..... 5-15
　走行可能距離表示..... 5-21
　タコメーター.....5-15
　トリップメーター..... 5-19
　燃料計.....5-20
　パネルライトコントロール.....5-20
　表示灯が点灯、点滅したときは.....8-26
　表示/表示灯.....5-26
　平均燃費表示.....5-22
　マルチインフォメーションディスプレイ 5-17
　メッセージ表示..... 5-23

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)
　スイッチ.....5-51
ラゲッジルーム.....6-34

ラゲッジルーム内キー閉じ込み警告チャイム 8-38
ラゲッジルームランプ..... 6-27
ランプ
カミング・ホーム・ライト..... 5-53
スイッチ..... 5-51
点灯しないとき..... 7-31
電球 (バルブ) 交換..... 7-32
リービング・ホーム・ライト..... 5-54
レベリング..... 5-54
ランプ消し忘れ防止チャイム..... 8-38

り

リービング・ホーム・ライト..... 5-54
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ..... 5-60
リアウォッシャー..... 5-59
リアゲート
開けかた..... 3-15
開けられなくなったとき..... 8-42
閉めかた..... 3-15
パワーリアゲート..... 3-17
リアゲートロックスイッチ不作動警告チャイム..... 8-38
リアコートフック..... 6-32
リアサイドレーダーセンサー..... 5-189
リアワイパー..... 5-59
リア/リアコーナー/リアサイド超音波センサー 5-190
リバースポジション警告チャイム..... 8-40

る

ルームミラー..... 3-27
ルームランプ
スイッチ..... 6-27

れ

レーンキープ・アシスト・システム (LAS).. 5-138
冷却水
交換時期、推奨液、容量..... 10-6
冬に備えて (濃度の調節)..... 7-37

ろ

路上で動けなくなったとき..... 8-3

わ

ワイパー
寒冷地用ワイパーブレード..... 7-37
フロント..... 5-57
リア..... 5-59
リアワイパーブレードの交換..... 7-19
ワイパーブレードの交換..... 7-17
ワックスがけ..... 7-34